日医発第 475 号（健Ⅱ）
令和６年６月５日

都道府県医師会、郡市区医師会
感染症危機管理担当理事　殿

日本医師会感染症危機管理対策室長
釜 萢　敏

HPV ワクチンに係る自治体向け説明会について

今般、厚生労働省において標記の説明会が開催されました。

ヒトパピローマウイルス感染症の定期接種については、積極的勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方に対して接種対象年齢を超えて行う接種（キャッチアップ接種）の実施期間が来年３月 31 日までとなっており、接種を完了するためには半年程度要しますが、種々の接種促進の取り組みがなされたものの、接種数は十分な水準となっておらず、厚生労働省では周知広報活動について、自治体に対して強化を促すとともに、本年夏までの間に重点的に取り組むこととしております。

キャッチアップ接種を含む定期接種対象者・保護者へのアンケート調査では、対象者の約半数がキャッチアップ接種について知らないと回答しており、HPV ワクチンに関係する情報源としてはテレビが多かったとしております。

また、市区町村を対象としたアンケート調査では、キャッチアップ接種について、令和５年度として 12 月末時点に接種券又は個別案内を対象者へ発送した自治体は全体の 70%弱、令和４、５年度いずれも、未接種者への再勧奨を行っていないと回答した自治体は全体の 80%強を占めたとしております。

加えて、個別勧奨又は HP 掲載以外の情報提供について、取り組んでいると回答した市区町村は限定的であった一方で、大学生相当以上の女性において、HPV ワクチンの接種を考え始めたきっかけの大多数は自治体から接種の案内が届いたことであったとしております。

日本医師会では、子宮頸がんと HPV ワクチンについて解説する動画を作成し YouTube へ一般公開しており、本自治体説明会でも活用の呼びかけがなされました。

なお、本動画については、より多くの方にご覧頂くため、動画データ（MP4 ファイル）を本会より希望者に提供しております（日本医師会広報課 kouhou@po.med.or.jp まで件名に「動画『HPV ワクチン 2』希望」と明記のうえ、メールにてお申し込み願います）。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、自治体への働きかけ、会員や接種対象者への情報提供、啓発活動等の接種促進に向けた協力方ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

（参考）

- 日本医師会 YouTube 動画「教えて！日医君！～ HPV ワクチン～」：
  https://www.youtube.com/watch?v=uTh-ZEwrxcE&t=0s
- 日本医師会 YouTube 動画「教えて！日医君！HPV ワクチン２～知っていますか？若い世代に増えている子宮頸がん～」：
  https://www.youtube.com/watch?v=5mKSQLO98TQ
- 令和６年５月 30 日　HPV ワクチンに係る自治体向け説明会　資料：
  https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_40465.html
- 令和６年５月 22 日厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会　資料：
  https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_40341.html
- リーフレットを掲載している厚生労働省ホームページ「HPV ワクチンに関する情報提供資材」：
  https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html
- その他の広報資材を掲載している厚生労働省ホームページ「HPV ワクチンに関する広報について」：
  https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/kouhou.html：
- HPV ワクチンのキャッチアップ接種に係る周知等について：令和６年２月７日付日医発第 1996 号（健Ⅱ）

資料

厚生労働省
ひと、くらし、みらいのために
Ministry of Health, Labour and Welfare

HPVワクチンに係る自治体説明会

厚生労働省 健康・生活衛生局
感染症対策部 予防接種課

令和６年５月30日

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

全体の内容

テーマ	内容
【１】経緯、接種の現状及びワクチンに係る知見	（１）HPVワクチンに係る経緯
	（２）HPVワクチンの接種実績等
	（３）HPVワクチンの接種に係る調査の結果
	（４）ワクチンに係る知見
【２】取組の状況	（１）国における周知広報の状況
	（２）自治体における事例
	（３）自治体における診療体制等の状況
【３】ワクチン評価小委員会における議論の状況	（１）男性に対するHPVワクチンの接種に関する議論の状況

【１】経緯及び接種の現状

（１）HPVワクチンに係る経緯

（２）HPVワクチンの接種実績等

（３）HPVワクチンの接種に係る調査の結果

（４）ワクチンに係る知見

【２】取組の状況

（１）国における周知広報の状況

（２）自治体における事例

（３）自治体における診療体制等の状況

【３】ワクチン評価小委における議論の状況

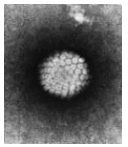
（１）男性に対するHPVワクチンの接種に関する議論の状況

HPVワクチンに関するこれまでの経緯

【子宮頸がんについて 】

○ 日本で年間約1.1万人が罹患、約2,900人が死亡。また、25～40歳までの女性でがん死亡の第2位。

○ ほとんどの子宮頸がんはＨＰＶ（ヒトパピローマウイルス）への感染が原因。



ヒトパピローマウイルス

【 ＨＰＶワクチンについて 】

○ ＨＰＶワクチンは、ＨＰＶへの感染を防ぐことで、子宮頸がんの罹患を予防。

○ ２価、４価ＨＰＶワクチンは、子宮頸がんの原因の50～70%を占める２つのタイプ（HPV16型と18型）のウイルスの感染を防ぐ。

○ ９価HPVワクチンは、子宮頸がんの原因の80～90%を占める7つのタイプ（HPV16,18,31,33,45,52,58型）のウイルスの感染を防ぐ。

○ 小学校６年～高校１年相当の女子に対し定期接種が行われている（標準的な接種期間：中学校１年(13歳になる学年)の女子）。

※ 子宮頸がんの予防に当たっては、併せてがん検診が重要。

【海外の状況 】○ 世界保健機関（WHO）が接種を推奨。

○ 米、英、独、仏等の先進各国において公的接種として位置づけられている。

平成22年11月26日～ 平成25年３月31日	平成22、23年度補正予算により、子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業（基金）を実施
平成25年４月１日	予防接種法の一部を改正する法律が施行され、ＨＰＶワクチンの定期接種を開始
⇒ 以降、疼痛又は運動障害を中心とした多様な症状が報告され、マスコミ等で多く報道された	
平成25年６月14日	厚生労働省の審議会※で、**「ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきではない」**とされ、**積極的勧奨差し控え**（厚生労働省健康局長通知） ※ 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会と薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会の合同開催
⇒ 以降、①HPVワクチンのリスク（安全性）とベネフィット（有効性）を整理 ②HPVワクチン接種後に生じた症状に苦しんでいる方に寄り添った支援をどう進めていくのか ③HPVワクチンの安全性・有効性等に関する情報提供をどう進めていくのか　審議会において検討	
令和４年４月１日	審議会の結論をふまえ、**積極的勧奨の再開及び接種の機会を逃した方に対するキャッチアップ接種を開始**
令和５年４月１日	**9価HPVワクチンを定期接種に用いるワクチンとして位置づけ**

厚生科学審議会副反応検討部会・安全対策調査会合同会議（令和３年10月１日、11月12日開催）
HPVワクチンの積極的勧奨の取扱いに関する議論と結論

第47回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会
2022年 (令和4) 1月27日
資料1

１．HPVワクチンの安全性・有効性に関する最新のエビデンスについて

○　安全性・有効性に関する近年の主要なエビデンスが示され、現在のエビデンスによれば、ワクチンの安全性についての特段の懸念は認められない。今後も、合同会議において新たなエビデンスを収集しつつ、安全性の評価を行っていく。

２．HPVワクチン接種後に生じた症状に苦しんでいる方に寄り添った支援について

○　協力医療機関において必要な診療を提供するための体制が維持されている一方で、近年、ワクチン接種後に生じた症状で受診する患者がいない医療機関も多い。これまでも実施してきた協力医療機関向けの研修会について、ニーズ等を踏まえ内容の充実を行っていく。また、協力医療機関同士の相談体制の構築、協力医療機関と都道府県等が必要な情報を共有できるような連携の強化を行っていく。併せて、協力医療機関の診療実態を把握するための調査を継続的に実施していく。

○　地域の医療機関がワクチン接種後に生じた症状への適切な対応や協力医療機関等への紹介を円滑に実施できるよう、また、学校医に他の医療機関や都道府県等と必要な連携を取っていただけるよう、地域の医療機関に必要な情報の周知を行っていく。

○　地域における相談支援体制について衛生部局と教育部局との連携が重要であり、関係機関との一層の連携を図っていく。

３．HPVワクチンに関する情報提供について

○　接種対象者等が情報に接する機会を確保し、接種について検討・判断できるよう、自治体からの情報提供資材（リーフレット等）の個別送付が広がった結果、国民の理解が進み、接種者数が増えてきている。

○　最新のエビデンス等を踏まえてリーフレットを改訂する。

積極的勧奨を差し控えている状態を終了させることが妥当との結論

厚生労働省として、来年度からの積極的な勧奨の再開を決定
（令和３年11月26日に健康局長通知＊を発出）

＊通知の概要
- 個別勧奨を、基本的に令和４年４月から順次実施すること。（準備が整った場合には今年度中に実施可）
- 積極的勧奨差し控えの間に接種の機会を逃した方への接種機会の提供について、審議会で検討すること。

HPVワクチンのキャッチアップ接種の対象者、期間、周知・勧奨の取扱いについて

第２８回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会
2021(令和3)年12月23日
資料4(改)

対象者	H9年度生まれ～H19年度生まれの**11学年**（令和６年度時点）
期間	**３年間（令和４年４月～令和７年３月）**
周知・勧奨	対象者が接種について検討・判断できるよう、**ワクチンの有効性・安全性について丁寧な情報提供を実施。情報提供資材等を個別送付するなど対象者への確実な周知**に努める。

対象者 ⇒ 11学年

	H9生	H10生	H11生	H12生	H13生	H14生	H15生	H16生	H17生	H18生	H19生	H20生	H21生
推定接種率※	78.8%	78.7%	68.9%	14.3%	1.6%	0.4%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%			
H22	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
H23	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳					
H24	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳					
H25	16歳	15歳	14歳	**13歳**	12歳	11歳	10歳	9歳					
H26	17歳	16歳	15歳	14歳	**13歳**	12歳	11歳	10歳					
H27	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	**13歳**	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳
H28	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	**13歳**	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳
H29	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	**13歳**	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳
H30	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	**13歳**	12歳	11歳	10歳	9歳
R1	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	**13歳**	12歳	11歳	10歳
R2	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	**13歳**	12歳	11歳
R3	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳
R4	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	**13歳**
R5	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳
R6	27歳	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳

緊急促進事業

定期接種

積極的勧奨差し控え

キャッチアップ接種

○歳 緊急促進事業の接種対象者。12歳は例外として対象とされた場合

○歳 定期接種の接種対象者。13歳は標準的接種期間にある者

※ 年齢については、**各年度生まれ**の者が**当該年度内**に達する年齢を記載（例:13歳→中１）

期間 ⇒３年間

※接種機会の確保の観点から、キャッチアップ接種の期間中に定期接種の対象から新たに外れる世代についても、順次キャッチアップ接種の対象者としている

検討の軸②キャッチアップ接種の期間に関する考え方、主なご意見、事務局案について

第２８回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会
2021(令和3)年12月23日
資料4(改)

考え方（11月15日分科会資料より）

○　接種機会を確保する観点から、一定期間、キャッチアップ接種を実施することが重要。

○　また、キャッチアップ接種の期間を過度に短く設定した場合、短期間に接種が集中することにより、医療機関・自治体の業務や、接種を希望してから実際に接種できるまでの待ち時間等に影響を与える可能性がある。

○　一方で、キャッチアップ接種の期間を過度に長く設定した場合、早期に接種を行う必要がないという誤ったメッセージにつながる可能性がある。この場合、特に年齢が高い世代においては、接種のタイミングが遅れることによりワクチンの有効性がより低くなる可能性がある。

11月15日分科会における主なご意見

○　自治体の準備や医療機関における接種体制等から逆算して、期間を設定することが重要ではないか。

○　自治体の準備や接種対象者の接種機会の確保の観点から、１年間では短すぎるのではないか、３年間程度が妥当なのではないか。

事務局案

接種対象者の接種機会の確保の観点や、自治体の準備、医療機関における接種体制等の観点を踏まえ、**キャッチアップ接種の期間は３年間**とすることとしてはどうか。

HPVワクチンの接種状況の推移①

市区町村が実施した定期予防接種（HPVワクチン）の接種者数の推移は以下の通り。
令和３年度以降の全体の接種者数は、平成25年度のワクチン導入時点の接種者数を超え、増加する傾向にある。

年度		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３	R4（※）
１回目	接種者数	98,656	3,895	2,711	1,834	3,347	6,810	17,297	83,735	198,474	540,681
２回目	接種者数	66,568	4,172	2,669	1,805	2,666	5,746	13,571	61,266	182,463	476,322
３回目	接種者数	87,233	6,238	2,805	1,782	1,847	4,184	9,701	37,556	139,014	336,762

出典：地域保健・健康増進事業報告（地域保健編）市区町村編「定期の予防接種被接種者数」

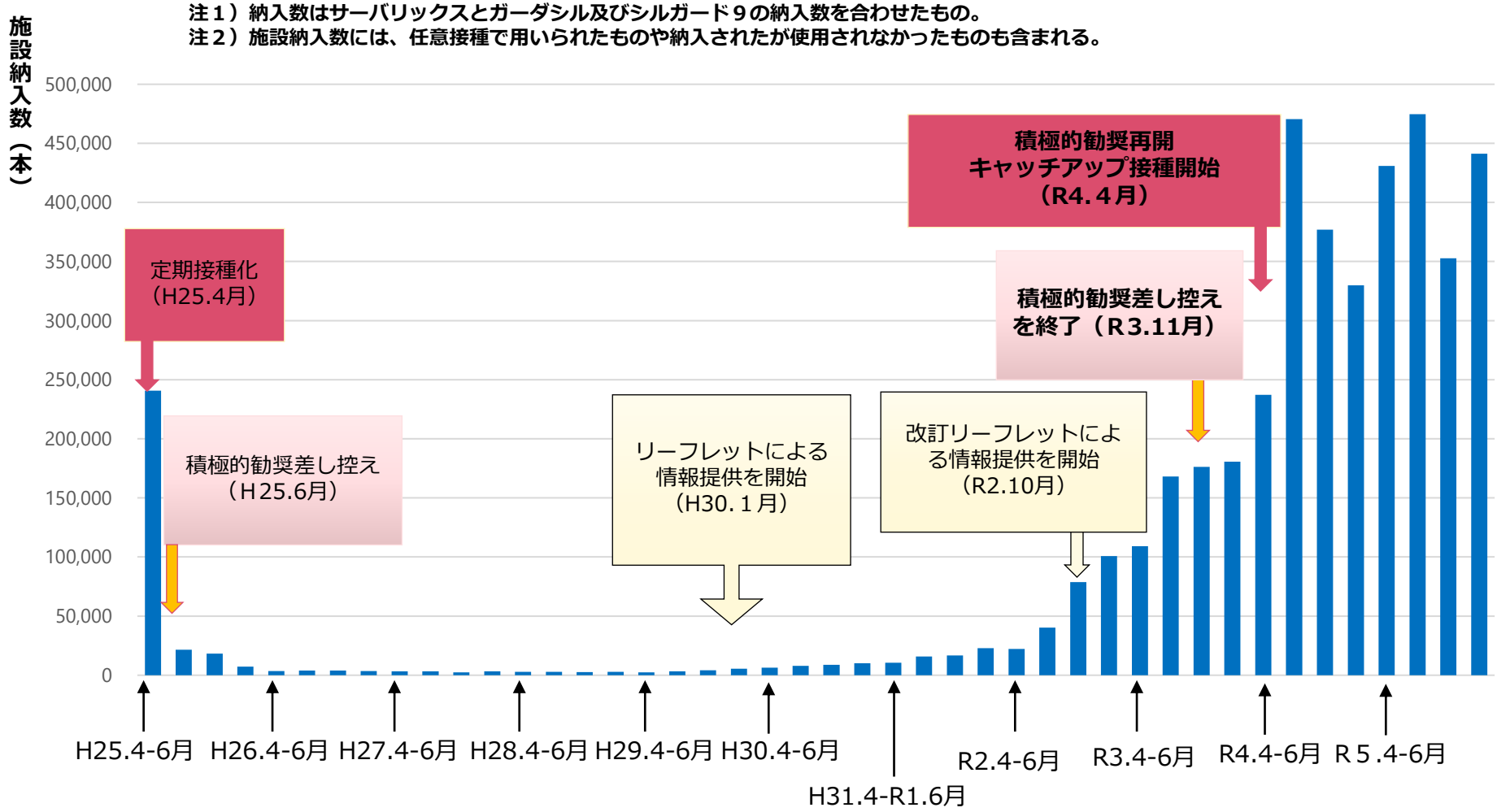
※：令和４年４月１日から、積極的勧奨再開及びキャッチアップ接種を開始しており、
令和４年度の実施者数にはキャッチアップ接種により接種した者の数を含んでいる。

HPVワクチンの接種状況の推移②

第101回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、
令和６年度第１回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会
2024(令和６)年４月15日
資料3(改)

定期接種化（平成25年４月）から令和６年３月までの医療施設へのワクチン納入数の推移

注１）納入数はサーバリックスとガーダシル及びシルガード９の納入数を合わせたもの。
注２）施設納入数には、任意接種で用いられたものや納入されたが使用されなかったものも含まれる。



HPVワクチンの年齢別累積初回接種率

第100回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会・令和５年度第15回薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会、資料3-2 （一部改変）

2022年度接種実績を踏まえた生まれ年度ごとの累積初回接種率（%）を推計して算出すると以下の通り。

2002年度生まれの累積初回接種率

・定期接種の累積初回接種率
　＝ 2014年度の初回接種率＋2015年度の初回接種率＋2016年度の初回接種率
　　＋2017年度の初回接種率＋2018年度の初回接種率

・キャッチアップ接種も含んだ累積初回接種率
　＝ 2014年度の初回接種率＋2015年度の初回接種率＋2016年度の初回接種率
　　＋2017年度の初回接種率＋2018年度の初回接種率 ＋ 2022年度の初回接種率

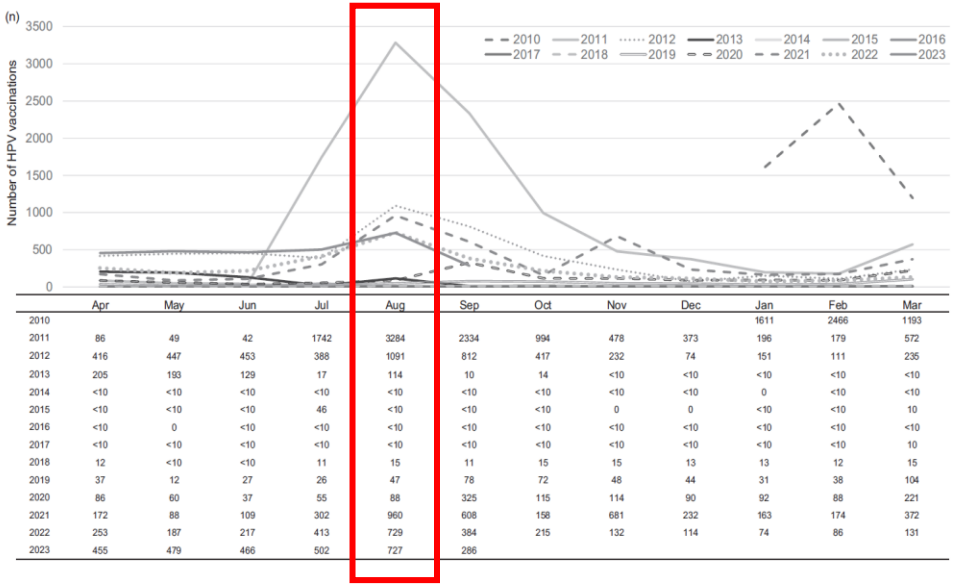
緊急促進事業
定期接種対象
標準的接種期間
キャッチアップ

生まれ年度	2022年度内に達する年齢	～2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	累積接種率
1994	28	53.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53.4
1995	27	74.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	74.4
1996	26	78.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	78.2
1997	25	78,5	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.3	81.8
1998	24	77.7	0.7	0.05	0	0	0	0	0	0	0	2.2	80.8
1999	23	65.9	2.3	0.1	0.04	0	0	0	0	0	0	3.4	71.8
2000	22	1.2	12.3	0.2	0.2	0.1	0	0	0	0	0	6	20.0
2001	21	0	0.9	0.3	0.1	0.1	0.2	0	0	0	0	7.5	9.1
2002	20	0	0	0.04	0.2	0.03	0.1	0.5	0	0	0	8.5	9.3
2003	19	0	0	0	0.03	0.1	0.1	0.3	1.2	0	0	9.0	10.8
2004	18	0	0	0	0	0.02	0.1	0.1	0.7	9.2	0	8.0	18.2
2005	17	0	0	0	0	0	0.03	0.3	0.4	2.8	20.3	7.9	31.6
2006	16	0	0	0	0	0	0	0.1	0.7	1.2	7.0	16.2	25.2
2007	15	0	0	0	0	0	0	0	0.2	2.0	4.5	10	16.7
2008	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0.6	4.6	7.7	12.9
2009	13	0	0	0	0	0	0	0	0		1.8	6.3	8.1
2010	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.8	2.8

「HPV ワクチンの接種状況に関する検討」大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学 上田 豊先生の発表資料より作成

HPVワクチンの累積初回接種率に関する研究報告（日本）

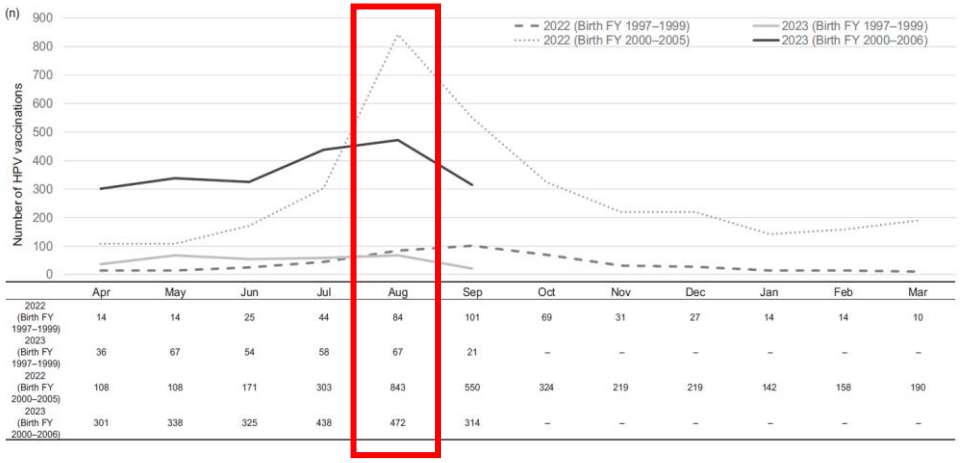
- ○ 厚労科研（上田班）により、日本人女性の初回HPVワクチン接種を受けた月次人数を出生年度ごとに分析した結果を報告するもの。
- ○ **2010年度から2023年度まで、従来の定期接種、キャッチアップ接種ともに、月間の初回HPVワクチン接種数は8月が最多であった。**2 回目のワクチン接種のピークは、ワクチン接種年度が終了する 3 月であった。
- ○ キャッチアップ接種プログラムでは、2022年8月にワクチン接種回数が増加したが、翌年には減少した。



	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar
2010										1611	2466	1193
2011	86	49	42	1742	3284	2334	994	478	373	196	179	572
2012	416	447	453	388	1091	812	417	232	74	151	111	235
2013	205	193	129	17	114	10	14	<10	<10	<10	<10	<10
2014	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	0	<10	<10
2015	<10	<10	<10	46	<10	<10	<10	0	0	<10	<10	10
2016	<10	0	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10
2017	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	<10	10
2018	12	<10	<10	11	15	11	15	15	13	13	12	15
2019	37	12	27	26	47	78	72	48	44	31	38	104
2020	86	60	37	55	88	325	115	114	90	92	88	221
2021	172	88	109	302	960	608	158	681	232	163	174	372
2022	253	187	217	413	729	384	215	132	114	74	86	131
2023	455	479	466	502	727	286						

FIGURE 1 Monthly number of initial vaccinations by routine HPV vaccinations from FY 2010 to FY 2023.

従来の定期接種



	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar
2022 (Birth FY 1997–1999)	14	14	25	44	84	101	69	31	27	14	14	10
2023 (Birth FY 1997–1999)	36	67	54	58	67	21	–	–	–	–	–	–
2022 (Birth FY 2000–2005)	108	108	171	303	843	550	324	219	219	142	158	190
2023 (Birth FY 2000–2006)	301	338	325	438	472	314	–	–	–	–	–	–

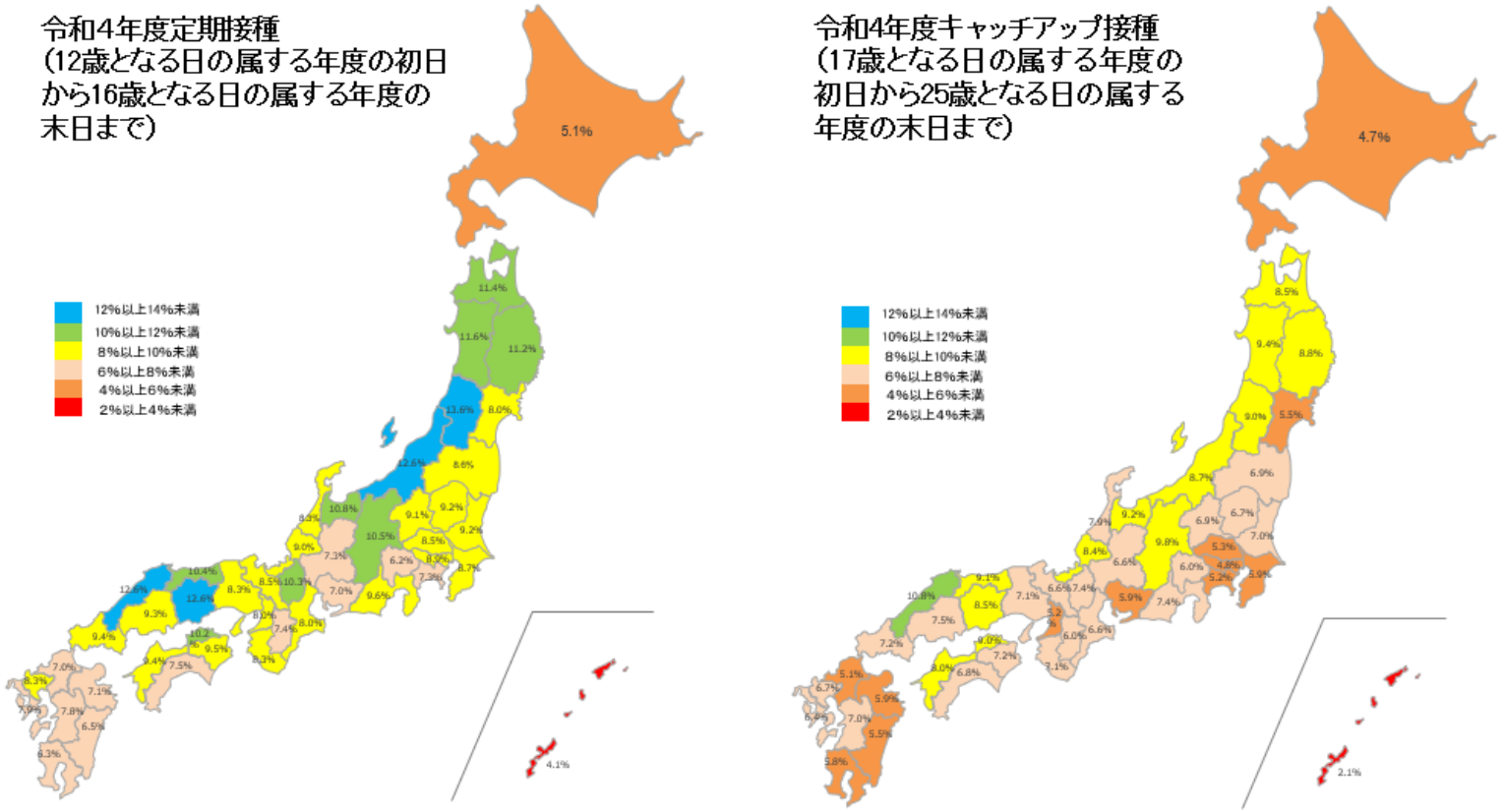
FIGURE 3 Monthly number of initial HPV vaccinations by catch-up vaccination in FY 2022–2023 is determined by generation.

キャッチアップ接種

出典：Yagi A, Ueda Y, et al. Cancer Science. 2022 doi: 10.1111/cas.16167

令和４年度都道府県別の初回接種の実施状況

令和４年度に実施された初回接種の実施回数を当該年度の女子の人口で除して求めた接種率は、都道府県ごとにばらつきがある。



【留意事項】

・分子は、令和４年度地域保健・健康増進事業報告都道府県別・年齢別　接種回数（表番号67）

・分母は、総務省統計局が公表している令和４年度人口推計・年齢・男女別の総人口推計を基に、小学６年人口＝11歳人口×1/2＋12歳人口×1/2のように学年ごとの人口を算出した上で、小学６年から25歳になる年までを合算した。

・本資料における「接種率」は、令和４年度中に実施された接種状況のみを表しており、政令で定める接種可能年齢を通じた累積の接種率ではないため、本資料における「接種率」に基づいて最終的な接種の進捗を評価することはできない。

【１】経緯及び接種の現状

（１）HPVワクチンに係る経緯

（２）HPVワクチンの接種実績等

（３）HPVワクチンの接種に係る調査の結果

（４）ワクチンに係る知見

【２】取組の状況

（１）国における周知広報の状況

（２）自治体における事例

（３）自治体における診療体制等の状況

【３】ワクチン評価小委における議論の状況

（１）男性に対するHPVワクチンの接種に関する議論の状況

HPVワクチンに関する調査　実施の背景および目的

調査実施の背景

- 令和４年度からHPVワクチン定期接種の積極的勧奨を再開し、各自治体から予診票の個別送付等が実施されている。また、積極的勧奨差し控え期間中に接種の機会を逃した方に対しては、令和６年度末まで、接種の機会を提供している（キャッチアップ接種）。
- 接種対象者本人やその保護者の理解のもとHPVワクチンの接種を検討・判断できるよう広報活動を展開していくにあたり、接種対象者本人やその保護者における、HPVワクチンおよび子宮頸がんに対する理解やワクチン接種に対する考え方等について、現状を把握する必要がある。
- さらに、予防接種の実施主体である自治体とも連携して情報提供するにあたり、各自治体の状況や、担当者が抱えている問題意識等について把握することが重要である。

調査実施の目的

- 現状を把握し、今後の広報活動について検討するため、以下の３調査を実施。
  - 調査１「HPVワクチンに関するアンケート調査」（接種対象者及び保護者向け調査）
  - 調査２「HPVワクチンに関するインタビュー調査」（接種対象者及び保護者向け調査）
  - 調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」（自治体向け調査）

HPVワクチンに関する調査　３調査の概要

接種対象者/保護者向け調査

■調査１「HPVワクチンに関するアンケート調査」

【目的】接種対象者と保護者における、HPVワクチンや子宮頸がんに対する認知・認識、および接種に対する考え方等を把握する。
【方法】オンラインアンケート調査
【対象】調査会社に登録している一般国民のうち以下に該当する方　計8,800人
・1997年度～2011年度生まれの女性*1　6,000人　*1：2023年度に小学校6年～26歳になった女性
・2005年度～2011年度生まれの娘*2がいる母親　2,800人　*2：2023年度に小学校6年～高校3年相当になった娘
【調査期間】2024年2月29日～3月4日
【調査項目】HPVワクチンおよび子宮頸がんに対する認知・認識、HPVワクチンの接種について参考にしている情報源、など

■調査２「HPVワクチンに関するインタビュー調査」

【目的】納得・安心して接種を判断できるような情報提供のあり方について検討するための示唆を得る。
【方法】オンラインインタビュー調査（60分～90分 × 16件）
【対象】調査会社に登録している一般国民のうち以下に該当する方　計24人
・2005年度～2011年度生まれの女性*3とその母親（親子ペアインタビュー× 8件）　*3：2023年度に小学校6年～高校3年相当になった女性
・1997年度～2004年度生まれの女性*4（個別インタビュー× 8件）　*4：2023年度に19歳～26歳になった女性
【調査期間】2024年2月22日～2月27日
【調査項目】HPVワクチンについて知ったきっかけ、HPVワクチンに関する情報収集方法、望ましいHPVワクチンの情報の受け取り方、など

自治体向け調査

■調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」

【目的】HPVワクチンについて、自治体における情報提供の実施状況、および自治体担当者が抱えている問題意識について把握する。
【方法】オンラインアンケート調査
【対象】全1,741市区町村（回収率100%）
【調査期間】2023年12月18日～12月27日（2023年12月末時点の状況を回答）
【調査項目】個別案内の送付計画および実績、再勧奨について、リーフレットの活用状況、情報提供の取組、担当者が感じている課題

HPVワクチンに関する調査　調査結果の概要（調査１：アンケート調査）①

■子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識

- **子宮頸がんについての認知・認識**
  - [子宮頸がんという病気]について：接種対象者本人の94.4%、母親の99.5%が、「知っている」「少し知っている」または「聞いたことがある」と回答した。
  - [子宮頸がんは深刻な病気だと思う]：対象者本人の80.1%、母親の87.5%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答した。
  - [HPVは、性交渉の経験のある女性であれば、誰でも一生に一度は感染する可能性がある]：「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の58.9%、母親の62.6%であった。
- **HPVワクチンについての認知**
  - [HPVワクチン]について：対象者本人の36.1%、母親の14.4%が「知らない（聞いたことがない）」と回答した。
  - [HPVワクチンの接種方法・必要な手続き]：対象者本人の52.3%、母親の25.1%が「知らない（聞いたことがない）」と回答した。
  - [政府が、HPVワクチンの接種を積極的にお勧めしていること（積極的勧奨）]：対象者本人の44.0%、母親の15.6%が「知らない（聞いたことがない）」と回答した。
- **キャッチアップ接種についての認知**
  - [政府が、1997～2006年度生まれの女性に対しても、HPVワクチンを公費で接種できる機会を提供していること]：対象者本人(高校2年相当～1997年度生まれの女性)の48.5%、母親(高校2～3年相当の娘の母親)の19.0%が「知らない(聞いたことがない)」と回答した。
- **HPVワクチンに対する認識**
  - [HPVワクチンは、子宮頸がんを予防するのに有効である]：「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の59.8%、母親の59.8%であった。
  - [公費で接種できるHPVワクチンで、子宮頸がんの原因となるHPVの90%までが予防できる]：「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の41.4%、母親の47.1%であった。
  - [HPVワクチンは重要である]：「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の58.1%、母親の54.5%であった。
  - [HPVワクチンは安全である]：「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したのは、対象者本人の27.5%、母親の24.9%であった。また、対象者本人の55.8%、母親の55.1% は「どちらともいえない」と回答した。
  - [HPVワクチンは有効である]：対象者本人の52.0%、母親の53.5%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答したが、対象者本人の41.4%、母親の40.9%は「どちらともいえない」と回答した。
  - [HPVワクチンのリスクについて十分な情報がなく、接種する/させるかどうか決められない]：対象者本人の51.2%、母親の53.9%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答した。
  - [接種することで以前報道で見たような健康被害が起きるのではないかと思っている]：対象者本人の48.5%、母親の56.0%が「非常にそう思う」または「そう思う」と回答した。

HPVワクチンに関する調査　調査結果の概要（調査１：アンケート調査）②

■HPVワクチンの接種について

- **HPVワクチンの接種経験**
  - [あなたは/あなたの娘はHPVワクチンを接種したことがありますか]の質問に対し、接種したことがある（「決められた回数の接種が完了している」「現在、接種を受けている途中」「過去に接種したことがあるが、途中でやめた」）と回答したのは、全体の35.5%であった。
  - 接種した理由として回答が多かったのは、「HPVワクチンは有効だと思っているから」（接種対象者本人36.9%、母親65.7%）、「子宮頸がんは危険だと思ったから」（対象者本人35.4%、母親56.8%）。これらに次いで多かったのは、対象者本人では「母親にHPVワクチンの接種を勧められたから」（34.0%）、母親では「HPVワクチンを公費（無料）で接種できたから」（30.9%）。続いて、「HPVワクチンの接種の案内が送られてきたから」（対象者本人20.4%、母親26.6%）であった。
- **HPVワクチン接種に対する考え方**
  - 前問で「決められた回数の接種が完了している」以外の回答をした人に、[今後、HPVワクチンを接種したい/させたいと思いますか]と尋ねたところ、対象者本人の43.7%、母親の35.1%が「わからない」と回答した。接種対象者の25.4%、母親の29.3%は「強く接種したい/させたい」または「接種したい/させたい」と回答し、対象者本人の31.0%、母親の35.6%は「あまり接種したくない/させたくない」または「強く接種したくない/させたくない」と回答した。
  - 「あまり接種したくない/させたくない」「強く接種したくない/させたくない」と回答した人のうち、その理由として回答が多かったのは、「接種の決断を下すのに十分な情報を得られていないから」（対象者本人29.8%、母親45.0%）、「HPVワクチンは安全ではないと思うから」（対象者本人23.0%、母親41.3%）、「友人・知人（の娘）たちも、HPVワクチンを接種していないから」（対象者本人15.7%、母親15.6%）であった。

■接種案内との接触

- [自治体から送られてきた、HPVワクチン接種の案内を見たことがありますか]の質問に対し、「はい」と回答したのは、対象者本人が57.8%、母親は81.3%であった。

HPVワクチンに関する調査　調査結果の概要（調査１：アンケート調査）③

■**情報源について**

- **一般的な健康についての情報源**
  - 回答が多かったのは、対象者本人・母親ともに「日本国内のTV」(対象者本人50.6%、母親68.0%）、「インターネット(ニュース系ウェブサイト) 」（対象者本人35.9%、母親52.4%）。
  - これらに次いで、対象者本人で多かった回答は、「家族からの情報」（28.8%）、「学校での授業や講演」（23.0%）、「SNS（X・旧Twitter）」（22.3%）であった。
  - 母親で多かった回答は、「友人・知人からの情報」（28.3%）、「インターネット(Google・Yahoo!などの検索エンジン)」（26.4%）、「医師からの情報」（20.3%）であった。
- **HPVワクチンについて見聞きした情報源**
  - 最も回答が多かったのは、対象者本人・母親ともに「日本国内のTV」(対象者本人29.5%、母親56.4%）。
  - 次いで、対象者本人で多かった回答は、「どこからも情報を得ていない」（28.6%）、「家族からの情報」（21.5%）、「学校での授業や講演」（13.9%）、「インターネット(ニュース系ウェブサイト) 」（12.4%）、「友人・知人からの情報」（9.2%）であった。
  - 母親で多かった回答は、「インターネット(ニュース系ウェブサイト) 」（27.5%）、「自治体の広報紙／誌」（20.5%）、「友人・知人からの情報」（18.5%）、「医師からの情報」（14.4%）、「インターネット(Google・Yahoo!などの検索エンジン)」（11.9%）であった。
- **HPVワクチンの情報を得る場合に信頼できると思う情報源**
  - 最も回答が多かったのは、対象者本人・母親ともに「日本国内のTV」(対象者本人27.6%、母親26.3%）。
  - 次いで、対象者本人で多かった回答は、「特にない」（15.5%）、「医師からの情報」（15.3%）、「家族からの情報」（7.9%）であった。
  - 母親で多かった回答は、「医師からの情報」（21.8%）、「特にない」（13.4%）、「新聞」（5.6%）であった。

HPVワクチンに関する調査　調査結果の概要（調査２：インタビュー調査）①

■HPVワクチンについて知ったきっかけとその印象

- 世代によって、認知のきっかけやHPVワクチンに対する印象が異なっている。
  - **小6～高3相当の女性**：学校の授業や講演がきっかけで認知しており、ニュートラルな情報として受け取っていることが多い。
  - **小6～高3相当の女性の母親**：HPVワクチンの定期接種が始まったニュース、または接種後の症状に関するニュースがきっかけで知った人が多い。接種後の症状についてのイメージが強く、ネガティブな印象が残っている人がほとんど。
  - **大学生相当以上の女性**：HPVワクチンの定期接種が始まった頃に自治体から届いた案内を見て認知している。その後、接種後の症状に関する報道について親から聞いたり、積極的勧奨の差し控えについて知ったりしたことで、ネガティブな印象を持った人が多い。

■HPVワクチンを接種した理由

- 母親や医療従事者、友人など、周囲の人との会話が影響していた。なお、母親や大学生相当以上の女性においては、接種について考え始めたきっかけの大多数は 「自治体から接種の案内が届いたこと」であった。
  - **小6～高3相当の女性**：母親の勧めのほか、周囲に接種した友人が増えたことやその友人たちとの会話、学校の授業で医療従事者から直接話を聞いたことなど、周囲の環境や会話による影響が大きい。
  - **小6～高3相当の女性の母親**：自身や周囲の人ががんになって予防の必要性を感じたり、周囲のママ友達との会話などが影響している。その他には、娘からの申し出がきっかけで接種させることを決めた、という人もみられた。
  - **大学生相当以上の女性**：定期接種の開始直後に接種した人は「（案内が届いたから）受けるのが当たり前」という考え方で接種していたが、キャッチアップ接種として受けた人は、接種の案内を読んだりインターネット検索等で収集した情報をもとに接種を判断している。さらに、公費で接種できる期限への意識や、親や医療従事者との会話も、接種を決断する後押しになっていた。

■HPVワクチンの接種を迷っている理由

- 低年齢層を中心に、母親の反対意見を受け入れて接種をためらっている。母親においては、接種後の症状に関する報道等のイメージが強く残っており、それによる不安な気持ちと、子宮頸がん予防の必要性との間で葛藤している傾向がみられた。
  - **小6～高3相当の女性**：「接種するもしないも母親の意見次第」と考えている人もいる一方、身近に子宮頸がんで亡くなった人がいて本人は接種したい考えを持っているが、母親の反対意見を受け入れて接種をためらっている人もみられた。
  - **小6～高3相当の女性の母親**：接種後の症状に関する報道等による不安な気持ちが強い一方、子宮頸がん予防の必要性も感じており、その間で葛藤している。その他、娘が注射を嫌がっているが、公費で受けられるうちに接種させたいと考えている人もみられた。
  - **大学生相当以上の女性**：定期接種の対象年齢だった時に、接種後の症状に関する報道について親から聞いたり自分でも見たりして接種を見送っており、その頃に持ったネガティブなイメージが接種を迷っている理由につながっている。それに加えて、多忙で接種に行く時間が取れずにタイミングを逃してしまったという人もみられた。

HPVワクチンに関する調査　調査結果の概要（調査２：インタビュー調査）②

■普段の情報接触

- 接種対象者本人・母親いずれもインターネットが中心。特にSNSやネットニュース、キーワード検索などが活用されている。
  - **SNS**：中学生～大学生のほとんどが利用している。Instagram、TikTok、YouTube、X（旧Twitter）など、一人で複数の媒体を利用している。キーワード検索をすることもあるが、流れてくる情報を受動的に収集する傾向が強い。
  - **テレビ**：親が見ていれば見るという子どももいる一方、大学生相当以上の女性については、テレビを見なかったり所持していない人も多い。
  - **新聞・雑誌**：現在は読んでいない、という人がほとんどであった。

■HPVワクチンに関する情報収集方法

- 対象者層によって情報収集方法は異なるが、自発的に調べる人は限定的であった。
  - **小6～高3相当の女性**：自発的に調べる人は少ない。特に低年齢層では、母親からの情報がすべてという人も多かった。
  - **小6～高3相当の女性の母親**：公的機関からの案内を読んで、それ以上は調べない人が多い。
  - **大学生相当以上の女性**：周囲の接種した人との会話や、インターネット検索で情報を得る人が多かった。特に、規定回数の接種を完了した人においては、公的機関の情報や医師からの情報も調べるなどの傾向がみられた。

■HPVワクチンについて知りたかったこと

- 規定回数の接種を完了した人からは「どれくらい痛いのかは事前に知りたかった」という意見が複数挙げられた。一方、接種を迷っている人からは「どれくらいの人が接種しているのか」「接種したあとの経過」「接種によりどれくらい子宮頸がんのリスクを減らせるか」などが挙げられた。
- 母親からは「どの学年でどれくらいの人が接種しているか」「接種について周りの人はどう考えているか」 のほか、「娘が対象年齢になる前に知っていれば心の準備ができていたかもしれない」 「子宮頸がんやワクチンの専門知識がないので、学校などで医師から説明してほしい」といった意見が挙げられた。

■望ましいHPVワクチンの情報の受け取り方

- 対象者層を問わず「紙で受け取りたい」と考える人が大多数であった。主な理由として「紙だと時間がある時に読むことができる」「自宅に届けられたら大事なものだと思って読む」などが挙げられた。
- また、インターネットは自発的に検索する必要があることから「自分から調べようとは思わない。情報が一つにまとまったリーフレット形式で提供されたほうがいい」といった意見も多くみられた。
- 接種の案内については、母親からは「自治体から送られてきたら必ず見て保管もする」「最初の案内は捨てたが、何回も来るのでそれだけ大事なことなのかと思って読んだ」という声があった一方、対象者本人では「またHPVか、と思ってポイッと捨ててしまった」という人もいた。

HPVワクチンに関する調査　調査結果の概要（調査３：自治体向け調査）

■個別の情報提供について

＜個別案内の送付計画および実績＞

- 定期接種については、中学校1年に対し、8割以上の自治体が送付を計画。小学校6年への送付を計画していた自治体は半数未満であった。また、令和5年12月末時点で9割以上の自治体が送付を完了していた。発送開始は令和5年4月上旬が最も多く、完了は同月下旬が最も多かった。
- キャッチアップ接種については、高校2年相当の方に対し、約7割の自治体が送付を計画していた。その他の学年については6割未満であった。また、令和5年12月末時点で案内を送付した自治体は全体の7割弱。発送開始は令和5年4月上旬が最も多く、完了は同月下旬が最も多かった。
- 定期接種・キャッチアップ接種いずれも、接種券/個別案内に同封した資料としては厚生労働省のリーフレットが最も多かった。

＜再勧奨について＞

- 令和5年度・4年度いずれも、未接種者への再勧奨を行っていないと回答した自治体が全体の8割前後を占めた。

■リーフレットの活用状況

- 厚労省が作成したリーフレットを、自治体HPで掲載している市区町村は全体の半数程度であった。
- いずれのリーフレットも載せていない、と回答した市区町村が一定数あった。

■自治体独自の情報提供の取組

- 個別勧奨またはHP掲載以外の情報提供について、取り組んでいると回答した市区町村は、全体の3割程度。
- そのうち、取組として最も多かったのは自治体広報紙/誌での発信。次いで、市区町村の公式媒体（SNS、情報アプリ等）での発信、学校でのリーフレット配布と続いた。
- その他、検診または健診での情報提供、地域の病院や産婦人科医との連携、地元放送局でのTVCM等での発信などが挙げられた。

■担当者が感じている課題

- 保護者世代を中心とする副反応・健康被害に対する不安感や、接種者数の伸び悩み、対象者への効果的な情報の届け方等、様々な課題が挙げられた。

HPVワクチンに関する調査
調査結果から示唆される課題と、必要と考えられる対応（案）

	示唆される課題	必要と考えられる対応（案）
接種対象者／保護者	■**接種対象者や保護者における認知向上の必要性** **（HPVワクチンや制度に対する認知向上の必要性）** • 接種対象者本人の約4割が、HPVワクチンについて「知らない」と回答した。 • 「キャッチアップ接種」という制度については、対象者本人の約半数が「知らない」と回答した。 **（保護者への情報提供の必要性）** • 対象者本人では2割以上の人が、健康に関する情報・HPVワクチンに関する情報をそれぞれ家族から得ていると回答した。 • 接種したことがある人の3割以上が「母親に接種を勧められたから」接種したと回答した。 ■**接種につながる情報提供の必要性** • 規定回数の接種を完了した人においては、受動的な情報収集に加え、公的機関の情報や医師からの情報も調べていた傾向がみられている。 • また、公費で接種できる期限への意識や、保護者や医療従事者との会話、講演会で医療従事者から直接話を聞いたこと等が、予防の必要性の意識や納得感につながり、接種を決断する後押しになっていた。	■ キャッチアップ接種の対象者を中心に、HPVワクチンを含む子宮頸がん予防の重要性について認知を上げるため、国において、SNS等を通じた有効性、安全性を含めた積極的な情報発信を行っていく。 ■ 公費で接種できる期限を含め、国において、接種プログラムに関する情報提供を行っていく。なお、キャッチアップ接種については、2025年3月末の終了等を踏まえた広報資材を厚労省HP等で提供している。 ■ 信頼性の高い情報提供を広く行っていくため、国において、ブロック拠点病院事業を通して実施してきた、医療機関や医療従事者からの情報提供（教育現場との連携を含む）をさらに促していくとともに、自治体においてもこうした取組を積極的に活用してはどうか。
自治体	■**自治体からのさらなる情報提供の必要性** • 保護者や大学生相当以上の女性において、HPVワクチンの接種を考え始めたきっかけの大多数は「自治体から接種の案内が届いたこと」であった。 • 特に保護者からは、公的機関からの案内に対する信頼度が高い。 • 未接種者への再勧奨を行っていない自治体が一定数あったほか、リーフレットの活用状況にもばらつきがみられた。 • 個別勧奨またはHP掲載以外の情報提供について、取り組んでいると回答した市区町村は限定的であった。 • 接種対象者世代への効果的な情報の届け方に苦慮している等の課題が挙げられている。	■ 未接種者への再勧奨を含めた情報提供の取組を促していくことに加え、国で作成した広報資材や、自治体における取組の好事例を他の自治体にも広く提供し、自治体における効果的な周知広報に活用いただく。

【１】経緯及び接種の現状

（１）HPVワクチンに係る経緯

（２）HPVワクチンの接種実績等

（３）HPVワクチンの接種に係る調査の結果

（４）ワクチンに係る知見

【２】取組の状況

（１）国における周知広報の状況

（２）自治体における事例

（３）自治体における診療体制等の状況

【３】ワクチン評価小委における議論の状況

（１）男性に対するHPVワクチンの接種に関する議論の状況

子宮頸がんとCIN3に対する２価HPVワクチンの有効性（英国）

○ 英国では、2008年の２価HPVワクチンの導入から10年以上が経過している。２価ワクチンの有効性を調査するため、大規模ながん登録データを使用し、ワクチン接種群（12-13歳の定期接種群、14-16歳及び16-18歳の２つのキャッチアップ接種群の３群：合計1370万人年）と参照群（ワクチン導入前の４つの非接種群）で子宮頸がん及びCIN3病変の発生率の比較を行った。

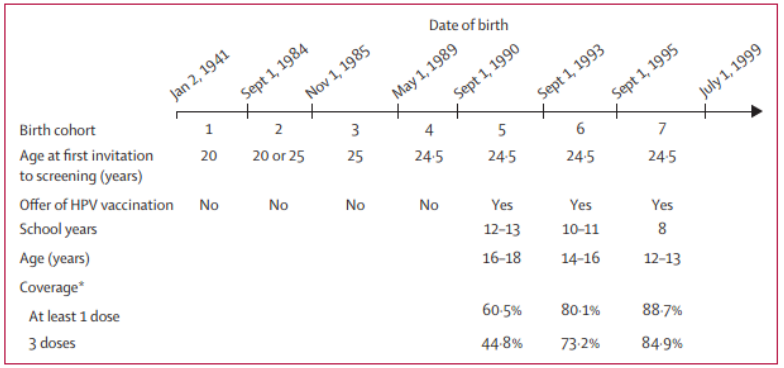
○ 接種時の年齢毎の子宮頸がん発生率の減少率は、16-18歳接種群で34%（95%CI: 25-41%）、14-16歳接種群で62%（95%CI: 52–71%）、12-13歳接種群で87%（95%CI: 72-94%）であった。CIN3発生率の減少率は、16-18歳接種群で39%（95%CI: 36-41%）、14-16歳接種群で75%（95%CI: 72–77%）、12-13歳接種群で97%（95%CI: 96-98%）であった。

○ 英国では、 2019 年6月末の時点で、ワクチンの接種によって、448例の子宮頸がん及び17,235例のCIN3の発生が減少したと推定された。

○ **HPVワクチン接種プログラムの導入は、英国の子宮頸がん発生の減少に大きく寄与した。**

※CIN：子宮頸部異形成　軽度（CIN1）、中等度（CIN2）、高度（CIN3）に分類

出生コホートの分類（１～７群）の概要



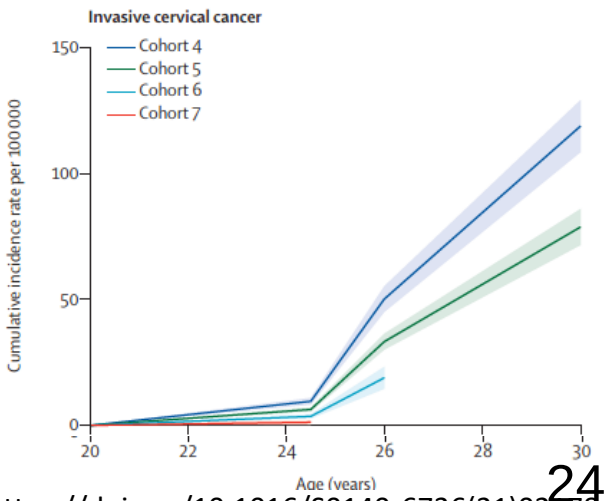
Birth cohort	1	2	3	4	5	6	7
Age at first invitation to screening (years)	20	20 or 25	25	24·5	24·5	24·5	24·5
Offer of HPV vaccination	No	No	No	No	Yes	Yes	Yes
School years					12–13	10–11	8
Age (years)					16–18	14–16	12–13
Coverage*							
At least 1 dose					60·5%	80·1%	88·7%
3 doses					44·8%	73·2%	84·9%

*Vaccine coverages include (when data are available) mop-up vaccinations (ie, when females are vaccinated in a later year than the one in which they were first offered vaccination).

各出生コホートにおける子宮頸がんの発生率比

Unvaccinated cohorts	子宮頸がん	CIN3
Cohort 1: invited from age 20·0 years and no vaccine	0·99 (0·89–1·10)	0·97 (0·94–1·01)
Cohort 2: invited from age 20·0 years or 25 years and no vaccine	1·08 (0·96–1·22)	1·03 (0·99–1·06)
Cohort 3: invited from age 25·0 years and no vaccine	1·04 (0·93–1·15)	1·01 (0·98–1·05)
Cohort 4: invited from age 24·5 years and no vaccine (reference category)	1·00	1·00
Vaccinated cohorts		
Cohort 5: invited from age 24·5 years and offered vaccine in school years 12–13	0·66 (0·59–0·75)	0·61 (0·59–0·64)
Cohort 6: invited from age 24·5 years and offered vaccine in school years 10–11	0·38 (0·29–0·48)	0·25 (0·23–0·28)
Cohort 7: not invited before age 24·5 years and offered vaccine in school year 8	0·13 (0·06–0·28)	0·03 (0·02–0·04)

子宮頸がんの累積発生率



出典：Milena Falcaro, et al. Lancet November 3, 2021 https://doi.org/10.1016/S0140-6736(21)02178-4.

10歳から30歳までの女性のHPVワクチン接種と浸潤性子宮頸がん発症のリスクについての検討（スウェーデン）

第69回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和３年度第18回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）
2021(令和３)年10月１日
資料１－２

○　４価HPVワクチンの接種による浸潤性の子宮頸がん発症予防の有効性を調べるために、スウェーデンの10歳から30歳の女性（約167万人）に関する2006年から2017年のデータを用いて調査を行った。

○　子宮頸がんの累積発生率は接種群（約52.8万人）で10万人あたり47例であったのに対し、非接種群（約114.5万人）では10万人あたり94例であった。

○　非接種群と比較して、接種群の年齢調整による子宮頸がんの罹患率比は0.51（95%CI: 0.32-0.82）、他の因子も調整した罹患率比は0.37（95%CI: 0.21-0.57）であった。

○　**16歳以下で接種した群において、非接種群と比較した接種群の罹患率比（多因子調整後）は0.12（95%CI: 0.00-0.34）、19歳以下で接種した群では0.36（95%CI: 0.18-0.61）であった。**

Table 2. HPV Vaccination and Invasive Cervical Cancer.

HPV Vaccination Status	No. of Cases of Cervical Cancer	Crude Incidence Rate per 100,000 Person-Yr (95% CI)	Age-Adjusted Incidence Rate Ratio (95% CI)	Adjusted Incidence Rate Ratio (95% CI)*
Unvaccinated	538	5.27 (4.84–5.73)	Reference	Reference
Vaccinated	19	0.73 (0.47–1.14)	0.51 (0.32–0.82)	0.37 (0.21–0.57)
Status according to age cutoff of 17 yr				
Vaccinated before age 17 yr	2	0.10 (0.02–0.39)	0.19 (0.05–0.75)	0.12 (0.00–0.34)
Vaccinated at age 17–30 yr	17	3.02 (1.88–4.86)	0.64 (0.39–1.04)	0.47 (0.27–0.75)
Status according to age cutoff of 20 yr				
Vaccinated before age 20 yr	12	0.49 (0.28–5.73)	0.52 (0.29–0.94)	0.36 (0.18–0.61)
Vaccinated at age 20–30 yr	7	5.16 (2.46–10.83)	0.50 (0.24–1.06)	0.38 (0.12–0.72)

* The adjusted incidence rate ratios were adjusted for age as a spline term with 3 degrees of freedom, county of residence, calendar year, mother's country of birth, highest parental education level, highest annual household income level, previous diagnosis in mother of CIN3+, and previous diagnosis in mother of cancers other than cervical cancer. The 95% confidence intervals were bias-corrected percentile confidence intervals that were estimated with the use of bootstrapping with a resampling frequency of 2000 times.

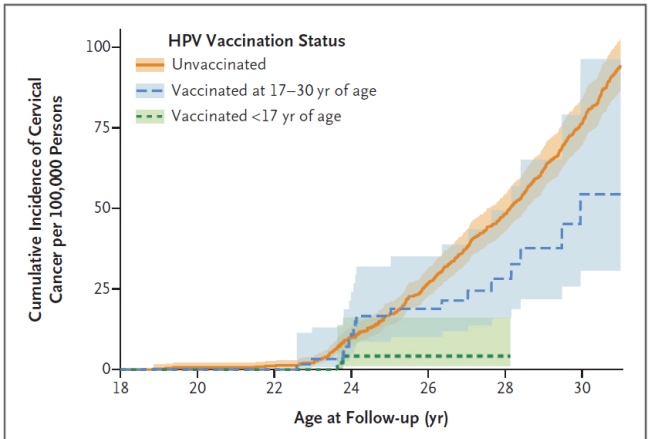


Figure 2. Cumulative Incidence of Invasive Cervical Cancer According to HPV Vaccination Status.

Age at follow-up is truncated in the graph because no cases of cervical cancer were observed in girls younger than 18 years of age.

出典：Jiayao Lei, Alexander Ploner, et al. N Engl J Med 2020, 383; 14: 1340-1348.

子宮頸がんに対するHPVワクチンの効果についてのコホート研究（デンマーク）

第69回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和３年度第18回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）
2021(令和３)年10月１日
資料１－２

○　HPVワクチンの子宮頸がんに対する有効性を調査するため、デンマークにおいて、2006年12月から2019年12月までの間に在住した17歳から30歳までの女性を対象として、ワクチンの接種及び子宮頸がんの発症について、国のレジストリに登録された情報を抽出し、ワクチン接種の有無における子宮頸がんの罹患率比を算出したコホート研究。

○　対象となった867,689名の女性のうち、314,852名（36.3%）が17歳になる前に初回のHPVワクチンを接種しており、観察期間中、17-19歳での初回接種は20,063名（2.3%）、20-30歳での初回接種は167,607名（19.3%）であった。

○　接種群における子宮頸がんの罹患率比は接種時の年齢が16歳以下で0.14（95%CI: 0.04-0.53）、17-19歳で0.32（95%CI: 0.08-1.28）であった。一方で、20歳以上では1.19（95%CI: 0.80-1.79）であった。

○　**19歳以下のHPVワクチン接種では子宮頸がんの予防に対する高い効果が認められたが、16歳以下の接種でより高い有効性が認められ、若年での接種の重要性が示された。**

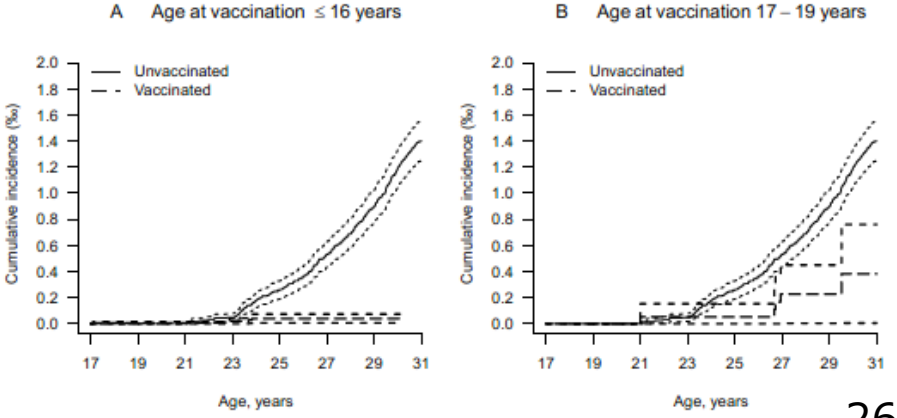
HPVV接種の有無で比較した子宮頸がんの罹患率比

Vaccination status	Person-years	Events	Age-adjusted IRR (95% CI)	Adjusted[a] IRR (95% CI)	Adjusted[b] IRR (95% CI)
Unvaccinated	2,884,778	325	1	1	1
Vaccinated, age ≤16 y	1,643,967	6	0.13 (0.04–0.40)	0.13 (0.04–0.41)	0.14 (0.04–0.53)
Vaccinated, age 17–19 y	174,679	5	0.29 (0.08–1.01)	0.31 (0.09–1.07)	0.32 (0.08–1.28)
Vaccinated, age 20–30 y	841,231	168	1.15 (0.88–1.50)	1.14 (0.87–1.49)	1.19 (0.80–1.79)

[a] Adjusted for attained age and maximum educational level of own, mother or father

[b] Adjusted for attained age, maximum educational level of own, mother or father, calendar year and ethnicity

子宮頸がんの累積発生率



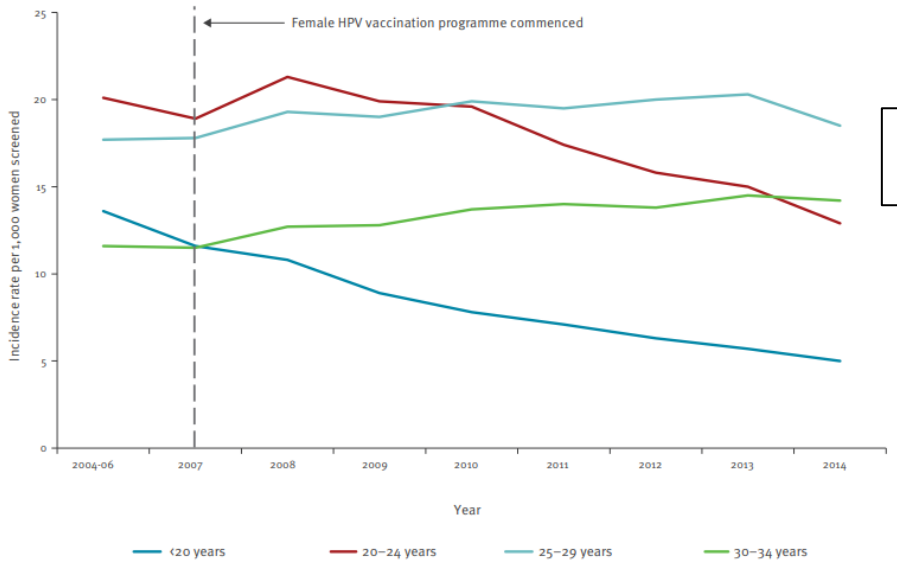
出典：Susanne K. Kjaer, Christian Dehlendorff, et al. Journal of the National Cancer Institute 2021.

HPVワクチン導入10年後における、ワクチンの効果に関するレビュー（オーストラリア）

- ○ 2007年にHPVワクチン接種を導入したオーストラリアにおいて、ワクチン接種導入10年後における、男女のHPV感染率、女性の性器疣贅や子宮頸部病変の発生状況の変化を評価するため、文献レビューを実施した。
- ○ 4価ワクチン関連のHPV感染率は、女性で28.7％から2.3％に、男性で18％から7％に減少した。
- ○ 女性の性器疣贅の発生率は、ワクチン導入後明らかに減少していた。
- ○ 女性の子宮頸部高度病変検出率は、若年齢層ほど低減効果が大きく、20歳未満では2007年から2014年で半減していた（11.6→5.0／1,000）。20～29歳でも2011年から2014年にかけて低下傾向が認められた。
- ○ **HPVワクチン接種導入により、子宮頸部病変を含むHPV関連疾患を低減させる効果が示された。**

FIGURE

Trends in high-grade cervical abnormalities in women by age group before and after commencement of the female HPV vaccination programme, Australia, 2004–2014



HPV: human papillomavirus.

Source: Australian Institute of Health and Welfare, 2016. Cervical screening in Australia 2013 to 2014 [25].

豪国健康福祉当局で公表されている、子宮頸部高度病変の経時的推移

出典：Cyra Patel, et al. Euro Surveill. Oct;23(41), 2018 doi: 10.2807/1560-7917.ES.2018.23.41.1700737.

HPVワクチンの子宮頸部異形成再発予防効果に関する システマティックレビューとメタアナリシス

- ○ 子宮頸部異形成（CIN）に対して局所手術を受けた患者において、HPVワクチンのCIN再発リスク低減効果を評価するためにシステマティックレビューを行い、22論文についてメタアナリシスを行った。
- ○ HPVワクチン接種群では、非接種群と比較して、CIN2以上の病変の再発率が低かった。（RR: 0.43, 95%CI: 0.30-0.60）HPV16/18関連のCIN2以上に限定すれば、ワクチン接種群での再発率はさらに低かった。（RR: 0.26, 95%CI: 0.16-0.43）
- ○ **HPVワクチン接種は、HPV感染と関連した子宮頸部異形成の再発リスクを低減させる可能性が示唆された。**

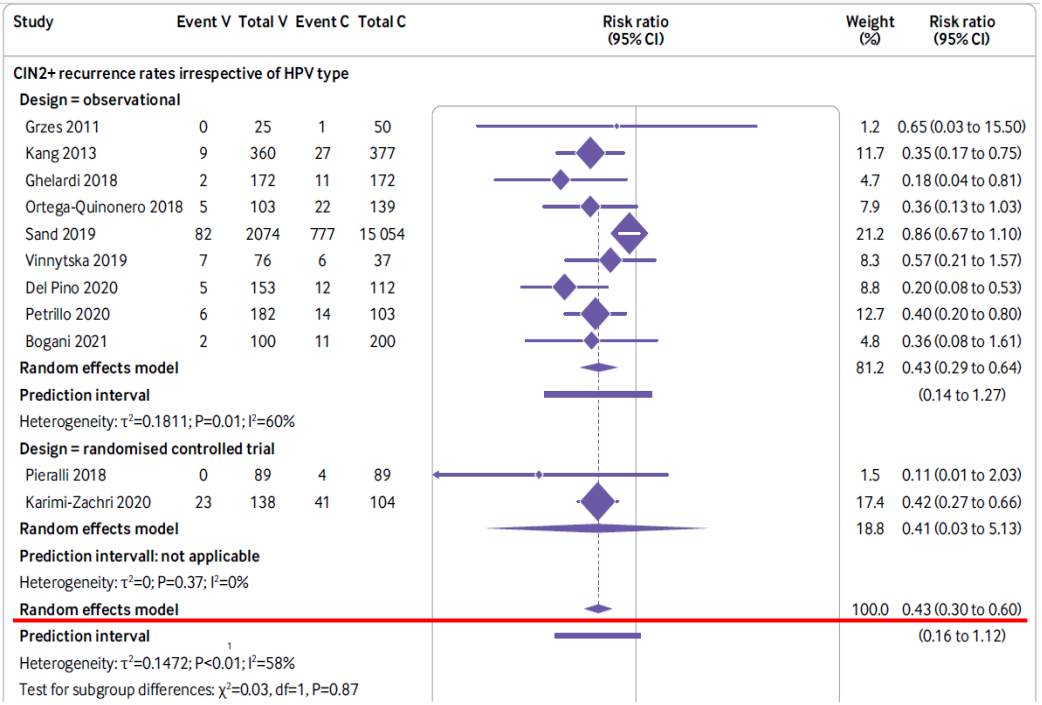


Fig 2 | Forest plots assessing risk of recurrence of cervical intraepithelial neoplasia grade 2 or higher (CIN2+) between human papillomavirus (HPV) vaccinated (V) and non-vaccinated control (C) groups after local conservative treatment for cervical intraepithelial neoplasia, irrespective of HPV type (top) and related to HPV subtypes HPV16 and HPV18 (bottom) (randomised controlled trials and observational studies)

出典：Konstantinos AK, et al. BMJ June 14, 2022 doi: 10.1136/bmj-2022-070135

HPVワクチンに係る副反応検討部会における検討状況（積極的勧奨再開の前後）

積極的勧奨再開後の2022（令和４）年４月以降も、継続的に副反応検討部会（※）において医療機関等からの副反応疑い報告の状況等を踏まえて評価を継続し、現時点では重大な懸念は認められないと判断されている。

※薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会との合同開催

積極的勧奨再開前の2022（令和４）年３月以前の報告状況

	接種可能のべ人数	製造販売業者からの報告		医療機関からの報告			
		報告数	報告頻度(%)	報告数	報告頻度(%)	うち重篤	報告頻度(%)
サーバリックス（２価）	7,030,055	951	0.0135	1,607	0.0229	555	0.0079
ガーダシル（４価）	2,894,844	257	0.0089	616	0.0213	220	0.0076
シルガード（９価）	73,648	22	0.0299	4	0.0054	1	0.0014
合計	9,998,547	1,230		2,227		776	

※各製剤の販売開始から2022（令和4）年3月31日時点での数値
※いずれの値も、各審議会において公表された資料をもとに算出

積極的勧奨再開後の2022（令和４）年４月以後の報告状況

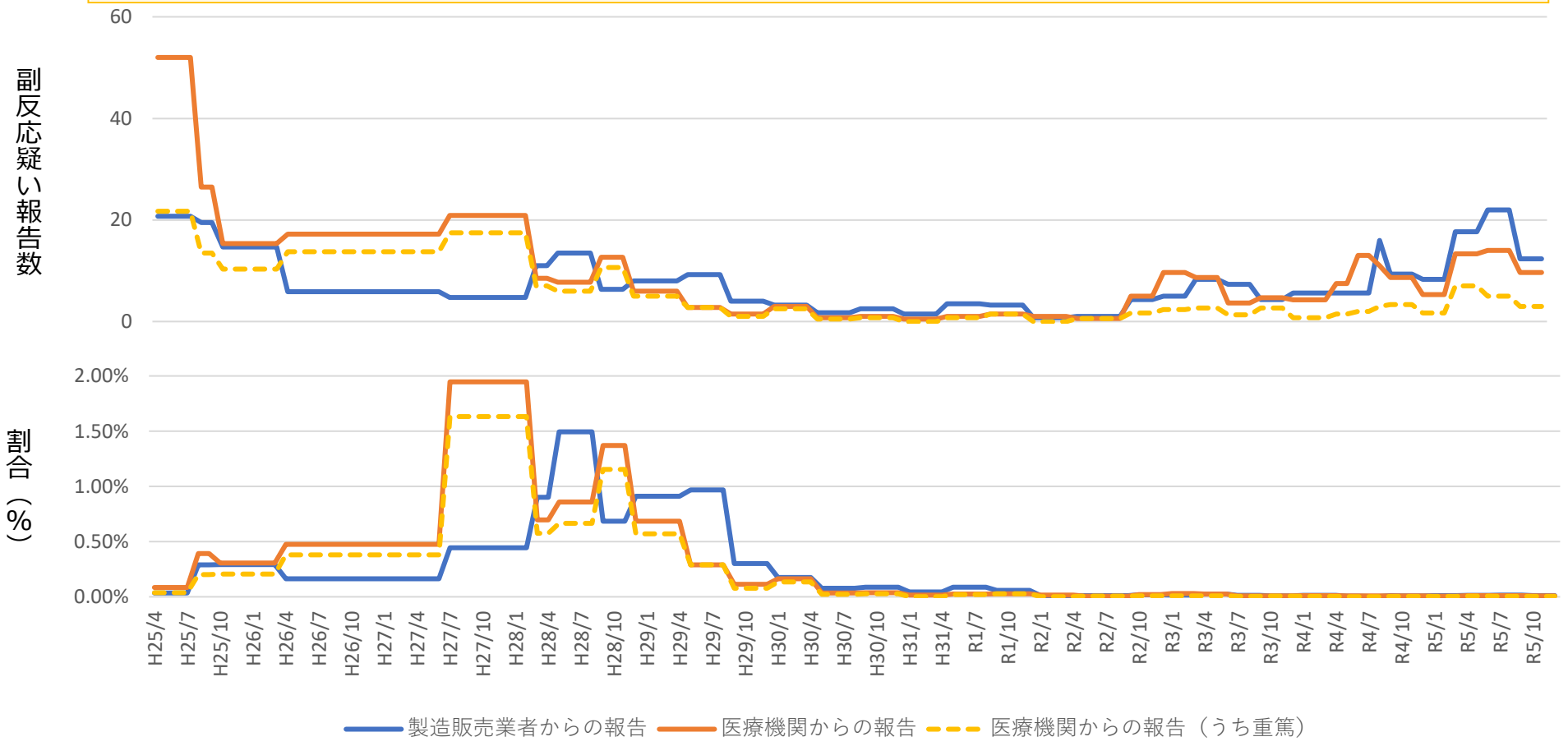
	接種可能のべ人数	製造販売業者からの報告		医療機関からの報告			
		報告数	報告頻度(%)	報告数	報告頻度(%)	うち重篤	報告頻度(%)
サーバリックス（２価）	36,369	9	0.0247	1	0.0027	0	0
ガーダシル（４価）	1,602,384	169	0.0105	124	0.0077	37	0.0023
シルガード（９価）	1,193,069	144	0.0121	89	0.0075	35	0.0029
合計	2,831,822	322		214		72	

※2022（令和4）年4月1日から2023（令和5）年12月31日時点での数値
※いずれの値も、各審議会において公表された資料をもとに算出

HPVワクチンの副反応疑い報告報告の推移

第101回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、
令和６年度第１回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会
2024(令和６)年４月15日
資料3(改)

定期接種化（平成25年４月）から令和５年12月までの副反応疑い報告の推移



（注）製造販売業者からの報告には、医療機関から報告された症例と重複している症例が含まれている可能性があり、重複症例は、医療機関報告として計上している。

厚生労働省予防接種課調べ

HPVワクチン接種後に症状を呈した患者のサーベイランス調査

ＨＰＶワクチンの積極的勧奨が再開となった2022年４月以降、ワクチン接種後の体調不良を主訴として協力医療機関を受診した患者を調査したところ、積極的勧奨再開前の2022年3月時点と比べて、ワクチン接種数の増加にあわせて新規患者数の増加は認めたが、全体を通して、新規・継続受診者数のいずれにも顕著な変化は認められていなかった。

・速報値（2024年1月9日時点）　・調査対象施設：71施設

（人）	回答施設数	ワクチン納入数（*1）	合計受診患者数（新規＋継続）	新規受診患者数	継続受診患者数（*2）	ワクチン接種から			
						1週間以内に発症した患者（*3）	1週間以降、1ケ月以内に発症した患者数（*3）	1ケ月以降に発症した患者（*3）	発症時期不明
2022年3月分	**63**	**99,003**	**47**	**5**	**42**	**1**	**2**	**1**	**1**
2022年度									
4月分	62	65,466	33	6	27	3	1	2	0
5月分	67	72,324	35	6	29	2	0	3	1
6月分	66	121,807	43	9	34	1	3	5	0
7月分	65	140,073	46	14	32	8	2	3	1
8月分	66	193,107	47	15	32	9	2	3	1
9月分	69	159,885	55	16	39	7	2	6	1
10月分	65	155,356	49	17	32	7	7	3	0
11月分	70	125,470	60	17	43	7	6	4	0
12月分	68	113,542	52	9	43	5	2	2	0
1月分	62	99,641	43	12	20	6	2	4	0
2月分	65	109,865	43	6	37	3	1	1	0
3月分	60	216,905	51	10	41	9	0	1	0
2023年度									
4月分	63	197,007	24	4	20	2	1	1	0
5月分	65	90,551	30	5	25	5	0	0	0
6月分	59	143,330	47	16	31	8	3	1	4
7月分	62	143,566	33	8	25	6	2	0	0
8月分	61	210,165	53	13	40	7	3	3	0
9月分	57	120,944	55	20	35	12	7	1	0
10月分	60	124,802	43	6	37	2	2	2	0
11月分	59	120,015	50	17	33	13	3	1	0

※1　9価ワクチンを含む　　※2　1ケ月内の複数回受診は1人とカウント　　※3　新規患者のみ対象

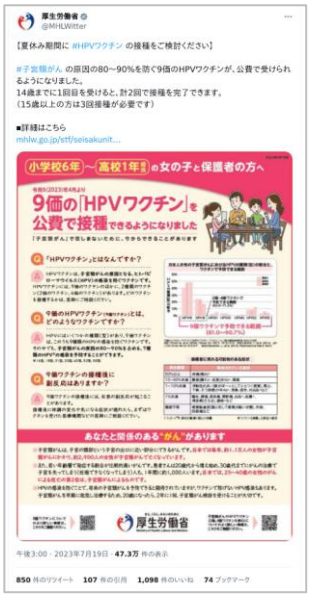
令和５年度厚生労働行政推進調査事業費補助金　新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
研究代表者：岡部信彦「HPVワクチンの安全性に関する研究」より作成

【１】経緯及び接種の現状
　（１）HPVワクチンに係る経緯
　（２）HPVワクチンの接種実績等
　（３）HPVワクチンの接種に係る調査の結果
　（４）ワクチンに係る知見
【２】取組の状況
　（１）国における周知広報の状況
　（２）自治体における事例
　（３）自治体における診療体制等の状況
【３】ワクチン評価小委における議論の状況
　（１）男性に対するHPVワクチンの接種に関する議論の状況

接種対象者や保護者に向けた広報について

厚生労働省SNS（X、Facebook）を通じた情報発信のほか、中高生向け新聞への広告掲載、キャッチアップ接種対象者に向けたインターネット広告の発信等を実施。また、政府広報とも連携し、動画などを作成した。

【厚生労働省SNSでの発信】



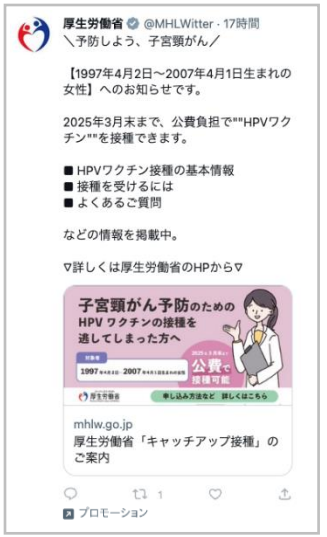


【中高生向け新聞への広告掲載】



【インターネット広告の配信】







【政府広報との連携】

- 政府広報オンライン　記事の作成、掲載
- SmartNewsアプリでのバナー配信
- 政府広報Instagramでの動画投稿
- 政府インターネットテレビ　動画掲載

厚生労働省ホームページでの情報提供

接種対象者や保護者、自治体、医療従事者等へ、厚生労働省ホームページやQ&Aを通じて情報提供を行っており、内容は随時更新している。


厚生労働省

ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん（子宮けいがん）とHPVワクチン～

一般の方向け基本情報

病気について

ヒトパピローマウイルス感染症とは

【小学校６年～高校１年相当の女の子と保護者の方へ】

<まずはこちら>

小学校６年～高校１年相当 女の子と保護者の方へ大切なお知らせ（概要版）

<もっと詳しく情報を知りたい方へ>

小学校６年～高校１年相当 女の子と保護者の方へ大切なお知らせ（詳細版）

リーフレット（概要版）［PDF形式：3,438KB］

リーフレット（詳細版）［PDF形式：4,049KB］

※HPVワクチンは、平成25（2013）年６月から、積極的な勧奨を一時的に差し控えていましたが、令和３（2021）年11月に、専門家の評価により「HPVワクチンの積極的勧奨を差し控えている状態を終了させることが妥当」とされ、令和４（2022）年４月から、他の定期接種と同様に、個別の勧奨を行っています。

【平成９年度生まれ～平成19年度生まれ（※）までの女性へ】

HPV「キャッチアップ接種」2025年３月まで

平成９年度～平成19年度生まれ（※）まで（誕生日が1997年４月２日～2008年４月１日）の女性の中に、通常のHPVワクチンの定期接種の対象年齢の間に接種を逃した方がいらっしゃいます。
まだ接種を受けていない方に、あらためて、HPVワクチンの接種の機会をご提供しています。
詳しくは、「ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの接種を逃した方へ」のページをご覧ください。

（※）令和６年４月からは、平成19年度生まれ（誕生日が2007年４月２日～2008年４月１日）の女性もキャッチアップ接種の対象になります。

すべてのリーフレットは、「情報提供資材」のページからご覧いただけます。


ワクチン接種の効果

HPVの中には子宮頸がんをおこしやすい種類（型）のものがあり、HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。
現在、日本国内で使用できるワクチンは、防ぐことができるHPVの種類によって、２価ワクチン（サーバリックス）、４価ワクチン（ガーダシル）、９価ワクチン（シルガード９）の３種類（※）あります。

（※）令和５（2023）年４月から、シルガード９も定期接種の対象として、公費で受けられるようになりました。シルガード９についての詳細は、「９価HPVワクチン（シルガード９）について」をご覧ください。

サーバリックスおよびガーダシルは、子宮頸がんをおこしやすい種類であるHPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます。
シルガード９は、HPV16型と18型に加え、31型、33型、45型、52型、58型の感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の80～90%を防ぎます。

<日本人女性の子宮頸がんにおけるHPVの種類（型）の割合と、ワクチンで予防できる範囲>

HPVワクチンを導入することにより、子宮頸がんの前がん病変を予防する効果が示されています。また、接種が進んでいる一部の国では、子宮頸がんそのものを予防する効果があることもわかってきています。

標準的なワクチン接種スケジュール

一定の間隔をあけて、同じワクチンを合計２回または３回接種します。接種するワクチンや年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります。どのワクチンを接種するかは、接種する医療機関に相談してください。
３種類いずれも、１年以内に規定回数の接種を終えることが望ましいとされています。

シルガード9
1回目の接種を15歳になるまでに受ける場合
1回目の接種を15歳になってから受ける場合
ガーダシル
サーバリックス

定期の予防接種は、各市町村が主体となって実施しています。お住まいの市町村における接種方法（いつ・どこで・どのように受けられるかなど）については、市町村の予防接種担当課にお問い合わせください。

HPVワクチンの接種を受けた方へ

HPVワクチンの接種を受けた後は、体調に変化がないか十分に注意してください。
詳しくは、「HPVワクチンを受けたお子様と保護者の方へ」をご覧ください。


よくあるご質問

Q＆A
HPVワクチンに関するQ＆A

９価HPVワクチンについて
９価HPVワクチン（シルガード９）について

キャッチアップ接種について
HPVワクチンの接種を逃した方へ～キャッチアップ接種のご案内～

HPVワクチンに関する相談先一覧

HPVワクチンに関してのご相談は以下をご参照ください。

■接種後に、健康に異常があるとき
まずは、接種を受けた医師・かかりつけの医師にご相談ください。
各都道府県において、「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関」を選定しています。
協力医療機関の受診については、接種を受けた医師またはかかりつけの医師にご相談ください。

■不安や疑問があるとき、困ったことがあるとき
各都道府県において、衛生部局と被害部局の１箇所ずつ「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に症状が生じた方に対する相談窓口」を設置しています。

■HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談
「感染症・予防接種相談窓口」では、HPVワクチンを含む、予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談にお答えします。
※令和６年４月１日から電話番号が変わりました。
電話番号：03-5656-8246
受付時間：平日９時～17時（土曜、日曜、祝日、年末年始は除く）

※行政に関するご意見・ご質問は受け付けておりません。
※本相談窓口は、厚生労働省が業務委託している外部の民間事業者により運営されています。

■予防接種による健康被害救済に関する相談
お住まいの市区町村の予防接種担当部門にご相談ください。
HPVワクチンを含むワクチン全体の健康被害救済制度については、「予防接種健康被害救済制度」のページをご覧ください。

医療機関、自治体向けの情報

医療従事者の方へ

■HPVワクチンに関して情報をまとめたリーフレットがあります。
詳しくは、「医療従事者の方向けのリーフレット」やその参考資料をご覧ください。

■HPVワクチン接種後に生じた症状について、患者により自宅な地域で適切な診療を提供するため、各都道府県において、「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関」を選定しています。

■各都道府県において、被接種者が接種後に生じた症状で困ったときの相談窓口（ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に症状が生じた方に対する相談窓口）を設置しています。

情報提供資材

HPVワクチンに関するすべてのリーフレットをご覧いただけます。

通知・事務連絡

自治体向け説明会

自治体向け説明会（令和４年３月11日）
自治体向け説明会（資料３）（令和４年11月22日）
自治体向け説明会（資料３）（令和４年12月16日）
自治体向け説明会（資料３）（令和５年３月９日）
自治体向け説明会（令和５年８月１日）
自治体向け説明会（資料２ P15～P42）（令和６年２月７日）

その他

広報

広報について

HPVワクチンに関する広報資材などをまとめています。
※情報提供資材（リーフレット）については、「情報提供資材」のページをご覧ください。

URL：https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html

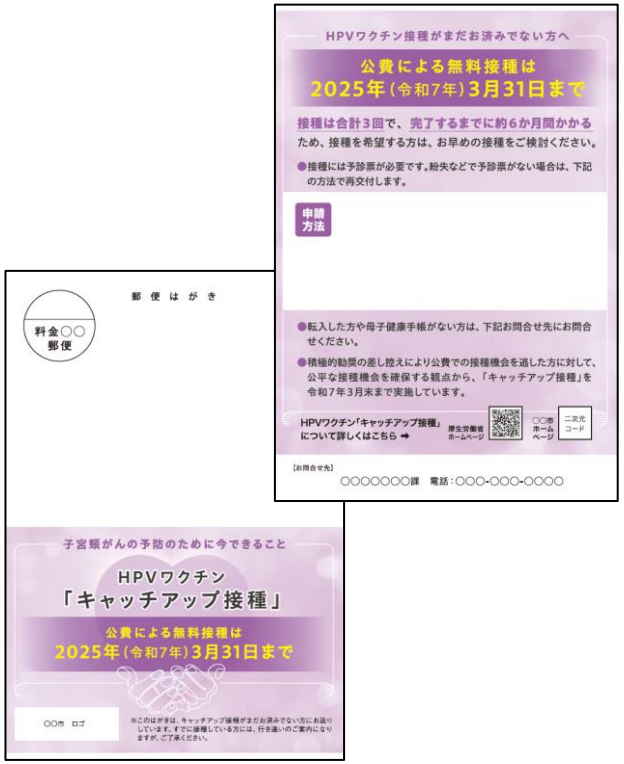
キャッチアップ接種について自治体等で活用いただける広報・情報提供資材

接種対象者や保護者等へ向けた適切な情報提供を継続するとともに、令和６年度末にキャッチアップ接種が終了するため、その周知や再勧奨の際に自治体等で活用いただける資材を作成している。

【リーフレットの改訂】



【再勧奨用はがきテンプレートの作成】



【チラシの作成】
（ポスターとしても使用可）



【キャッチアップ接種のロゴ】



リーフレットURL：https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000918718.pdf

その他広報資材（ロゴ、チラシなど）URL：
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/kouhou.html

教育現場への周知（文科省通知）

厚生労働省から文部科学省に依頼し、ブロック拠点病院事業への協力依頼に関する事務連絡を都道府県担当課等宛に発出した。

事　務　連　絡
令和５年９月８日

各都道府県・指定都市教育委員会学校保健担当課
各都道府県私立学校主管部課
各国公立大学法人担当課
附属学校を置く各国公立大学法人附属学校事務主管課
独立行政法人国立高等専門学校機構担当課
大学を設置する各地方公共団体担当課　御中
高等専門学校を設置する各都道府県・指定都市教育委員会担当課
各文部科学大臣所轄学校法人担当課
構造改革特別区域法第12条第１項の認定を
受けた各地方公共団体の学校設置会社担当課
大学を設置する各学校設置会社担当課

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

令和５年度「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための地域ブロック拠点病院整備事業」に基づく啓発活動への協力について

厚生労働省においては、令和４年度より、ＨＰＶ（ヒトパピローマウイルス感染症）ワクチンの積極的勧奨を再開するとともに、ＨＰＶワクチンの定期接種に関する相談支援体制・医療体制等を更に強化する観点から、「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための地域ブロック拠点病院整備事業」を実施しており、今年度の事業の実施に当たっては、ＨＰＶワクチンに関する正しい知識等の普及啓発に取り組むこととしているところです。

このたび、別添のとおり、厚生労働省から本事業に基づく啓発活動への協力について依頼がありましたのでお知らせします。

ついては、教職員がＨＰＶワクチンに関する正しい知識や情報を得ることができるよう、必要に応じて、教職員に対し情報提供資材の配布や講習会の周知など、本事業に基づく啓発活動に御協力いただきますようお願いします。

都道府県・指定都市教育委員会におかれては域内の市区町村教育委員会に対して、都道府県私立学校主管部課におかれては所轄の学校法人に対して、構造改革特別区域法（平成14年法律第189号）第12条第１項の認定を受けた地方公共団体の学校設置会社担当課におかれては所轄の学校設置会社に対して周知されるようお願いします。

＜本件連絡先＞
文部科学省初等中等教育局
健康教育・食育課　保健指導係
ＴＥＬ：03-5253-4111（内線 2918）

別添

令和５年９月６日
感発 0906 第６号

文部科学省初等中等教育局長 殿

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部長
（公印省略）

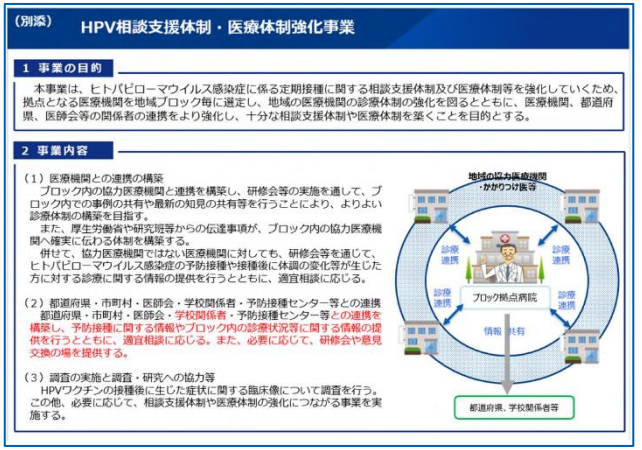
令和５年度「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための地域ブロック拠点病院整備事業」の実施に当たっての協力について（依頼）

予防接種行政につきまして、平素より格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

HPV（ヒトパピローマウイルス感染症）ワクチンについては、令和４年度より積極的勧奨を再開したところです。厚生労働省においては、HPV ワクチンの定期接種に関する相談支援体制・医療体制等を更に強化する観点から、令和４年度より「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための地域ブロック拠点病院整備事業」（以下「拠点病院整備事業」という。）を実施しています。

今年度の拠点病院整備事業の実施に当たっては、予防接種法（昭和23年法律第68号）第23条において、国が予防接種に関する啓発及び知識の普及を図るものとされていることも踏まえ、HPV ワクチンに関する正しい知識等の普及啓発に取り組むこととしています。具体的には、地域ブロック（全国10か所）ごとに設置した拠点病院や、各都道府県の協力医療機関等において、HPV ワクチンに係る情報提供資材の作成・配布、市民・医療従事者・学校関係者等を対象とした講習会の開催等を予定しています。

つきましては、貴職におかれましても、この趣旨を御了知の上、啓発活動に特段の御高配を賜るとともに、教育委員会等の関係団体に対して、拠点病院整備事業に基づく啓発活動への協力について周知いただくよう御協力方お願いいたします。


（別添）HPV相談支援体制・医療体制強化事業

1 事業の目的

本事業は、ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種に関する相談支援体制及び医療体制等を強化していくため、拠点となる医療機関を地域ブロック毎に選定し、地域の医療機関の診療体制の強化を図るとともに、医療機関、都道府県、医師会等の関係者の連携をより強化し、十分な相談支援体制や医療体制を築くことを目的とする。

2 事業内容

（1）医療機関との連携の構築
ブロック内の協力医療機関と連携を構築し、研修会等の実施を通して、ブロック内での事例の共有や最新の知見の共有等を行うことにより、よりよい診療体制の構築を目指す。
また、厚生労働省や研究班等からの伝達事項が、ブロック内の協力医療機関へ確実に伝わる体制を構築する。
併せて、協力医療機関ではない医療機関に対しても、研修会等を通じて、ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種や接種後に体調の変化等が生じた方に対する診療に関する情報の提供を行うとともに、適宜相談に応じる。

（2）都道府県・市町村・医師会・学校関係者・予防接種センター等との連携
都道府県・市町村・医師会・学校関係者・予防接種センター等との連携を構築し、予防接種に関する情報やブロック内の診療状況等に関する情報の提供を行うとともに、適宜相談に応じる。また、必要に応じて、研修会や意見交換の場を提供する。

（3）調査の実施と調査・研究への協力等
HPVワクチンの接種後に生じた症状に関する臨床像について調査を行う。
この他、必要に応じて、相談支援体制や医療体制の強化につながる事業を実施する。

保険者（職域における接種対象者）への周知

キャッチアップ接種の対象年齢が平成９年度生まれ～平成19年度生まれの女性であることから、基礎教育を終了しているような職域における接種対象者に届くよう、厚生労働省保険局保険課から保険者宛にリーフレット等の周知依頼をしている。

事　務　連　絡
令和６年２月15日

全国健康保険協会
健康保険組合
国家公務員共済組合
地方公務員共済組合
日本私立学校振興・共済事業団
国民健康保険組合
全国土木建築国民健康保険組合
　御中

厚生労働省保険局保険課

ＨＰＶワクチンのキャッチアップ接種に係る周知等について

公的医療保険制度について、平素より格段の御協力、御尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

ＨＰＶワクチンのキャッチアップ接種に係る周知等について、厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課より、別添のとおり事務連絡が発出されておりますので、御了知いただくとともに、別紙のリーフレットやチラシを活用し、加入者へ周知いただくようお願い申し上げます。

○ キャッチアップ接種（対象者向け）



○ キャッチアップ接種（一般向け）



○ ９価ワクチン



○ ワクチン接種と検診



自治体における代表的な事例

接種対象者への個別通知、一般の方が目にする場所等への広告掲載に加えて、平日の日中には接種できない等の接種対象者の特性を踏まえ、医療機関の診療時間の延長、医療機関以外の接種の場の確保等、柔軟な接種機会の提供に取組んでいた。

個別通知

- 中学１年（標準的な接種期間に該当する者）、キャッチアップ接種対象者等に予診票を個別送付
- 小学６年の女子でワクチンを接種していない者とその保護者にリーフレットと予診票を同封したお知らせを送付
- 個別送付時期を例年より早める、送付回数を例年より多くする

インターネット（SNS含む）を用いた周知

- 自治体独自に普及啓発動画、リーフレットを作成しSNS等で発信

より柔軟な接種機会の提供

- ワクチン接種実施医療機関の診療時間の延長
- 大学、ショッピングモールにおける接種を実施・検討
- 住民票がある自治体との契約に基づいて、住民票がない場合でも接種後の償還払いに対応

その他

- 公共交通機関を活用し、車体広告、車内へのポスター掲示
- 接種対象者（主に高校生）から周知方法やリーフレットの内容について意見交換の場を設ける
- 都道府県主催の会議を開催

宮崎市：接種率向上のため、啓発・接種機会提供の取組を強化

接種機会提供の取組みを強化（夜間接種、大学キャンパス内での臨時接種会場設置）。各中学校での出前講座の実施。
市と県産婦人科医会、県立看護大がコラボして解説動画を作成している。

周知広報の取組

各中学校での出前講座

・各公立・私立中学校で産婦人科医による出前講座を実施。生徒だけでなく、参観日等とセットで実施し保護者にも働きかけ。



解説動画の作成

・県医師会、産婦人科医会、県立看護大学がコラボして、ワクチンに関する解説動画を作成し、市公式YouTubeチャンネルで公開





その他

・テレビCMやWeb広告の配信。

勧奨リーフレットの美容室、商業施設、金融機関等への配布。

二十歳の集い（成人式）での啓発等。

子宮頸がんワクチン接種拡大事業

より柔軟な接種機会の提供

・医療機関と連携し、平日夜間（17時～最大20時）等の接種、かかりつけ医を持っていない、移動手段がないことが多い大学生向けにキャンパス内（市内２大学）での接種機会を提供





・住民票がある自治体との契約に基づいて、住民票がない場合でも接種後の償還払いに対応



青森県：県が司令塔となり、市町村の取組を促すとともに取組状況を共有

HPVワクチン接種の推進を図るため、県が司令塔の役割を果たすとともに、県内自治体の好事例の紹介や、市町村の接種率を公表することで、県を挙げた取組を推進している。

普及啓発動画（30秒）の作成



・テレビCM（3社）

・インターネット広報（Yahoo! 、 LINE 、 Google 、 YouTube 、 X 、 TikTok 、 Instagram）

公共交通機関を活用



バス車体やフリーペーパー、ポスター掲示

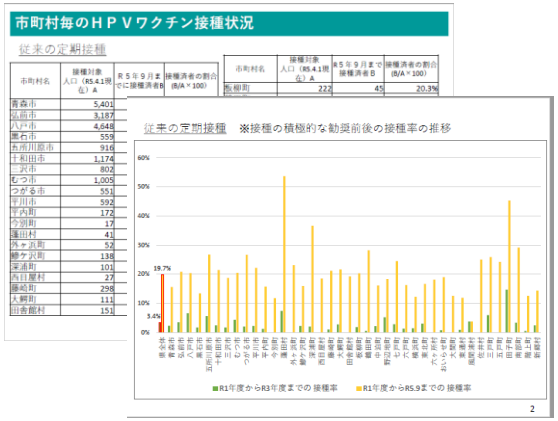
・バスの車体広告

・バス車内へのポスター掲示

・鉄道会社駅構内及び電車車内へのポスター掲示

・地元フリーペーパーComeへの広告掲載

市町村ごとの取組、接種率の公表



各市町村における周知の取組

【市町村の取組】

・二種混合集団予防接種（小６）の事後指導の際に接種勧奨

・小、中学校の思春期健康教室における周知

・大学へのリーフレット送付

・転入者に対して個別に案内　　等

群馬県：高校生の意見の取組への反映や、より接種を受けやすい環境を確保

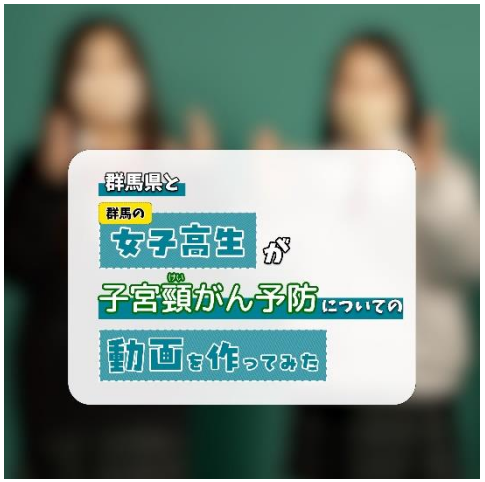
接種対象者である高校生からの政策提言を受け、SNSでの発信など若者世代の目にとまりやすい周知を展開するとともに、平日の昼間以外にも接種できるような接種機会の確保に向けた環境整備をしている。

接種対象者（高校生）からの政策提言

・県独自の「高校生リバースメンター」事業（高校生が知事の相談役になる）として、高校生が子宮頸がん対策について提言し、一部を事業化、中高生世代を対象にHPVワクチンを周知

提案１：子宮頸がん予防普及啓発動画

・TikTok動画の作成



提案２：メッセージステッカー付き生理用品の配布

・生理用品での普及啓発



より柔軟な接種機会の提供

・住民票がある自治体との契約に基づいて、住民票がない場合でも接種後の償還払いに対応

・医療機関に協力をよびかけ、夕方や土日にも接種可能とするため、診療時間を延長

・ショッピングモールにおける接種の検討

正しい情報の普及啓発

・ロゴ・キャッチコピーの作成

・相談体制の充実（LINE、メール）

・正しい情報発信のための動画制作

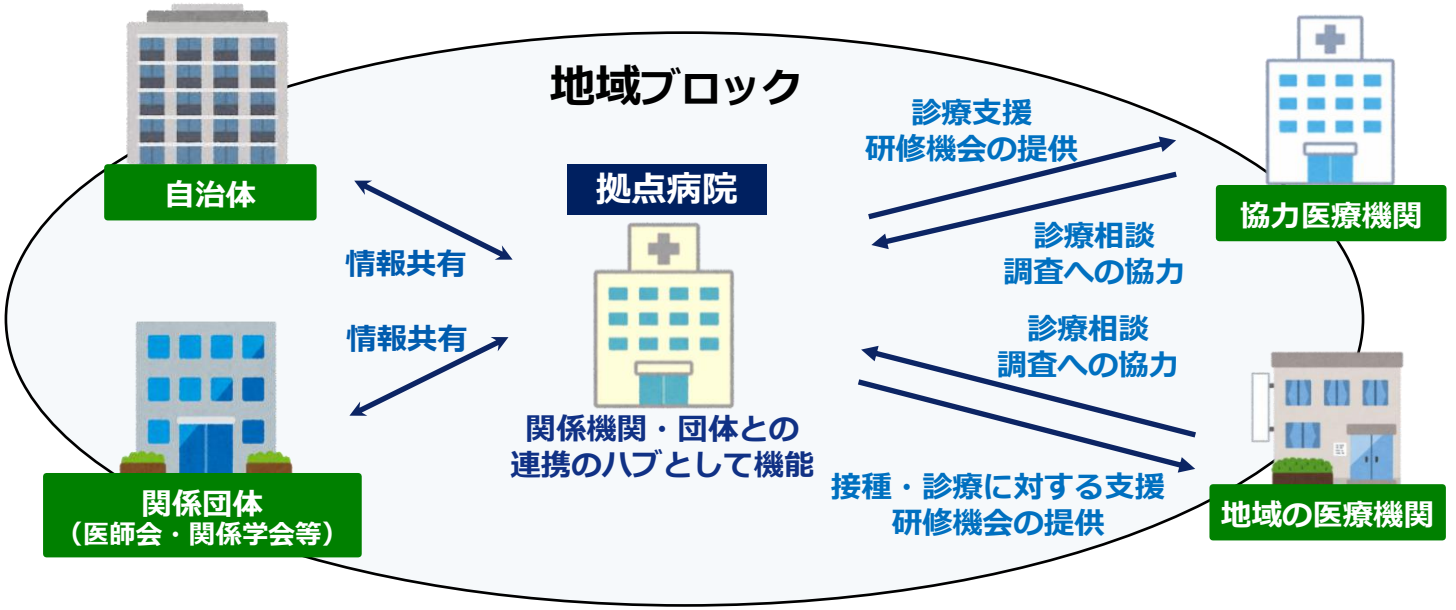
HPV感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための地域ブロック拠点病院整備事業（概要）

目的：ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症の予防接種を進めるにあたって、協力医療機関の中から、地域ブロック別に拠点病院を設け、HPV感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制の強化を図る。

事業内容

日本全国を10ブロックに分け、地域ブロック別に拠点病院（１～２医療機関）を選定する。拠点病院は、医療機関・自治体・関係団体等との連携のハブとして、下記のような役割を担う。

- 協力医療機関や地域の医療機関との連携を構築し、研修会等の実施を通して、協力医療機関の診療支援・地域の医療機関に対する情報提供を行い、よりよい診療体制の構築に寄与する。
- 都道府県・市町村・医師会・学校関係者・予防接種センター等との連携を構築し、情報共有を行う。



地域ブロック内での事例や知見の共有等を通して、協力医療機関の相談支援・医療体制を強化する。

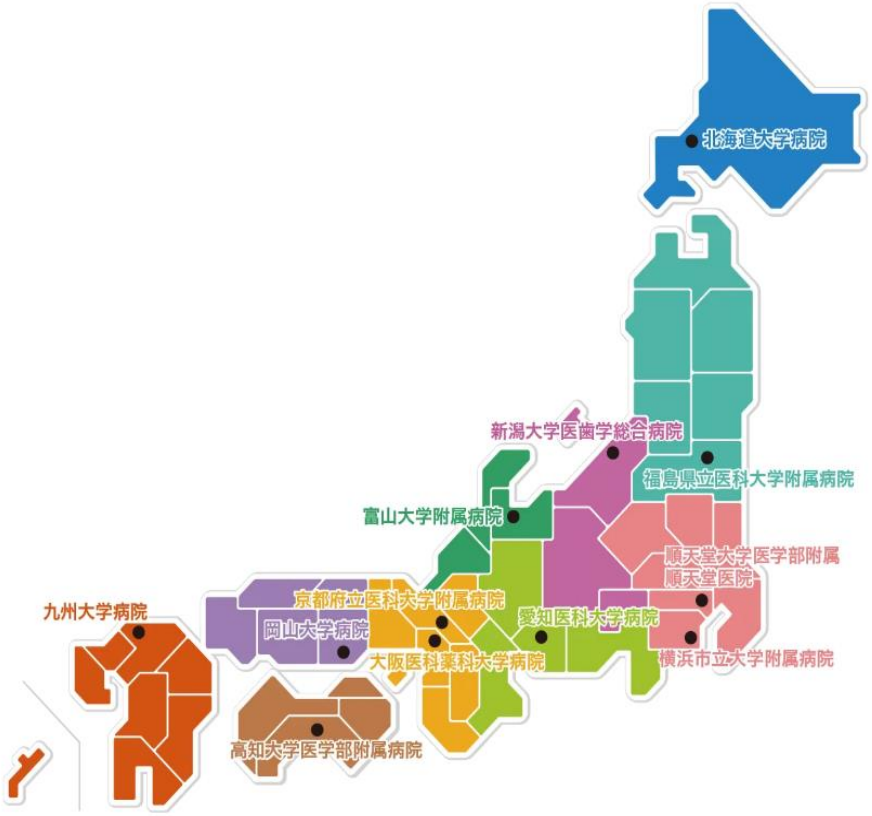
HPV感染症の予防接種や接種後の症状に対する診療等の情報提供を行い、地域の医療機関の相談支援・医療体制を強化する。

注）協力医療機関とは、ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関を指す。

令和5年度　地域ブロック拠点病院

第60回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会
予　防　接　種　基　本　方　針　部　会
2024(令和６)年５月22日
資料2

全国を10ブロックに分け、計12病院を地域ブロック拠点病院に選定。



全国協力病院一覧

ブロック	実施機関
北海道	北海道大学病院
東北	福島県立医科大学附属病院
関東	順天堂大学医学部附属順天堂病院
関東	横浜市立大学附属市民総合医療センター
甲信越	新潟大学医歯学総合病院
北陸	富山大学附属病院
東海	愛知医科大学病院
近畿	京都府立医科大学附属病院
近畿	大阪医科薬科大学病院
中国	岡山大学病院
四国	高知大学医学部附属病院
九州・沖縄	九州大学病院

※令和5年度の拠点病院一覧です。

連携体制の構築と情報提供活動

＜医療機関・医療従事者との連携＞

- 定期の連絡会を開催し、ブロック拠点病院と協力医療機関で、顔の見える関係性を作ることでよりよい連携体制をつくる。
- 医療者間で接種後症状による受診状況や、症例経過を共有し、診療に役立てる。
- 研修会を開催し、接種前からの対応や接種留意点、接種後副反応の考え方等の知見を共有する。

Web情報共有掲示板の活用



＜教育関係者との連携＞

- 接種対象者の多くが、学校教育を受けている世代であるため、教育現場との連携が重要である。
- 自治体の教育委員担当と調整し、研修会や資料配布等の啓発活動を行う。
- 厚労省を通じて、文科省から本事業への協力依頼に関する事務連絡を教育委員会宛に発出するとともに、学校関係者向けの情報提供資材を作成。

情報提供資材
（動画・リーフレット等）の作成





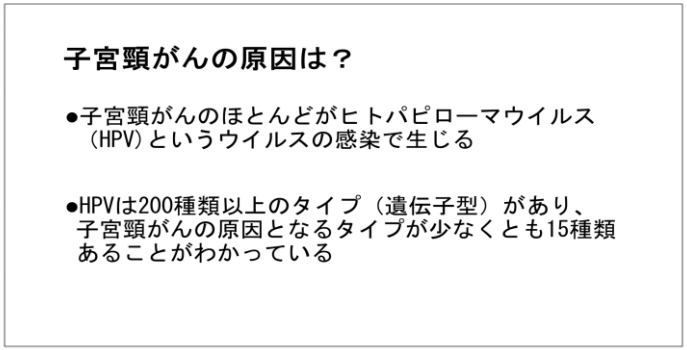
＜情報提供活動＞

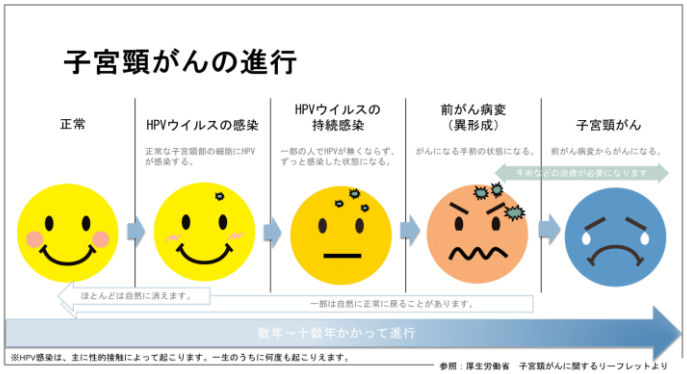
- 接種対象者および保護者等にもわかりやすい一般向け情報提供
- 接種対象者の多くをかかえる教育現場への情報提供
- 接種にあたる医療者サイドのサポート連携

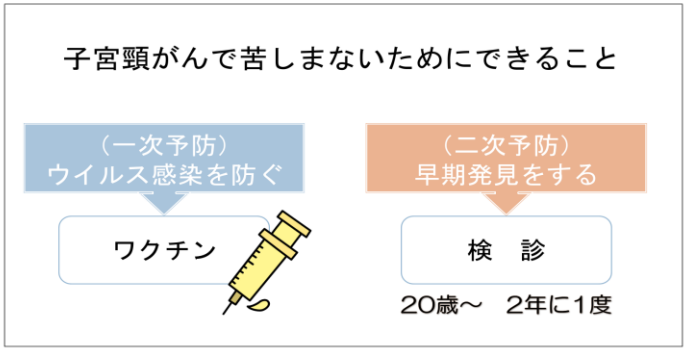
教育現場における啓発活動

- 高等学校のがん教育授業の中における子宮頸がんおよびHPVに関する講義
- 養護教諭を対象とした研修会





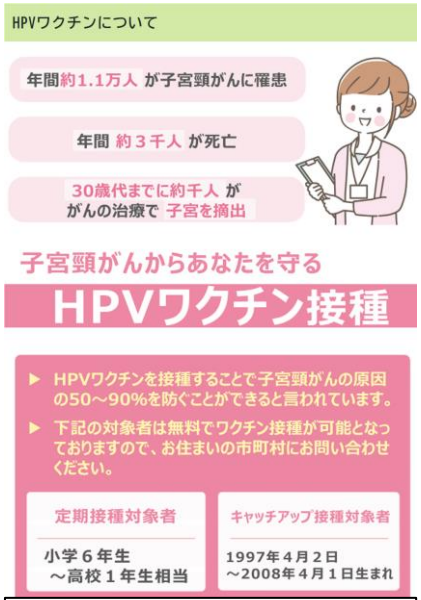




今年度で終了するキャッチアップ接種への取組



大学生向けのリーフレット
（女子栄養大学：埼玉県）



地方自治体によるWebでの
啓発（高知県）



HPVワクチン普及啓発シンポジウム（愛知県）



学生・教職員へのキャッチアップ接種の接種後副反応調査（岡山大学）

日本医師会制作　国民向け動画
「教えて！日医君！ＨＰＶワクチン２　～知っていますか？若い世代に増えている子宮頸がん～」ご活用のお願い



【日本医師会公式YouTubeチャンネルで公開】

本動画のご視聴は
こちらから



【視聴時間：約11分】

子宮頸がんの原因となるＨＰＶの感染を防ぐワクチン、

特に新たに接種できるようになった**９価のＨＰＶワクチン**のことや、ワクチン接種の機会を逃してしまった方のための**キャッチアップ制度（対象者・期限など）**について、

日本医師会公式キャラクターの「日医君」の質問に、日本医師会の釜萢敏常任理事が回答する形式で、分かりやすく解説しています。

【１】経緯及び接種の現状
　　（１）HPVワクチンに係る経緯
　　（２）HPVワクチンの接種実績等
　　（３）HPVワクチンの接種に係る調査の結果
　　（４）ワクチンに係る知見
【２】取組の状況
　　（１）国における周知広報の状況
　　（２）自治体における事例
　　（３）自治体における診療体制等の状況
【３】ワクチン評価小委における議論の状況
**　　（１）男性に対するHPVワクチンの接種に関する議論の状況**

HPVワクチンの男性接種に係る検討

第24回厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会
予防接種基本方針部会 ワクチン評価に関する小委員会
2024(令和6)年３月14日
資料
２－３
（改）

議論の経緯

令和2年12月　第7回薬事・食品衛生審議会医薬品第二部会において、前駆病変を含む肛門癌（男女）及び尖圭コンジローマ（男性）の予防に対する適応拡大が承認された。

令和4年8月　ワクチン評価に関する小委員会において議論開始。国立感染症研究所にファクトシート作成を依頼。

令和6年3月　ワクチン評価に関する小委員会において、４価ワクチンを３回接種するという前提でこれを定期接種化する場合の有効性、安全性は一定程度確認されたものの、費用対効果については課題があるとされた。

薬事承認の状況

ワクチンの種類	効能又は効果	「用法及び用量」における接種対象者・接種回数	薬事承認
組換え沈降2価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（2価）	ヒトパピローマウイルス（HPV）16型及び18型感染に起因する子宮頸癌（扁平上皮癌、腺癌）及びその前駆病変（子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）2 及び3 ）の予防	10歳以上の女性 3回	平成21年
組換え沈降4価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（4価）	ヒトパピローマウイルス6、11、16及び18型の感染に起因する以下の疾患の予防 ・子宮頸癌（扁平上皮癌及び腺癌）及びその前駆病変（子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）1、2及び3並びに上皮内腺癌（AIS）） ・外陰上皮内腫瘍（VIN）1、2及び3並びに膣上皮内腫瘍（VaIN）1、2及び3 ・肛門癌（扁平上皮癌）及びその前駆病変（肛門上皮内腫瘍（AIN）1、2及び3） ・尖圭コンジローマ	9歳以上の者 3回	平成23年 （男性への接種は、令和2年）
組換え沈降9価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（9価）	ヒトパピローマウイルス6、11、16、18、31、33、45、52 及び58型の感染に起因する以下の疾患の予防 ・子宮頸癌(扁平上皮癌及び腺癌)及びその前駆病変(子宮頸 部上皮内腫瘍(CIN)1、2及び3並びに上皮内腺癌(AIS) ・外陰上皮内腫瘍(VIN)1、2及び3並びに膣上皮内腫瘍 (VaIN)1、2及び3 ・尖圭コンジローマ	9歳以上の女性 2回もしくは3回	令和2年 （2回の接種は、令和５年）

HPVワクチンの男性接種の費用対効果

第24回厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会
予防接種基本方針部会 ワクチン評価に関する小委員会
2024(令和6)年3月14日
資料2－2より作成

分析方法の概要

- 先行研究(文献1,2)をベースに
  - i) 男性のHPV関連各種疾患への直接的効果をMarkov modelにより推計した。
  - ii) 女性への間接的効果（子宮頸がんの予防効果）を女性接種に関する評価モデルを通して推計した。

分析シナリオ

A) 男性に対する尖圭コンジローマ・肛門がんの予防効果を対象とした場合
B) A）に加えて、中咽頭部周辺のがん・陰茎がんの予防効果を対象とした場合
C) B）に加えて、女性への間接的効果を組み入れた場合

基本分析・感度分析の結果

	組み入れ疾患	ICER（万円/QALY）（基本分析）発症予防期間：20年	ICER（万円/QALY）（感度分析）発症予防期間：30年
（A）	尖圭コンジローマ・肛門がん	23,459.7	8,216.8
（B）	尖圭コンジローマ・肛門がん・中咽頭がん・陰茎がん	9,334.9	4,165.3
（C）	（B）に女性への間接的効果も追加	584.6～2,898.9	402～1,748.6

※ 第24回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会ワクチン評価に関する小委員会（2024（令和６）年３月14日開催）
池田委員発表資料（HPVワクチンの男性接種の費用対効果）から、事務局において作成。

HPVワクチンの接種に関する論点について①

まとめ

【経緯及び接種の現状】

- HPVワクチンの接種については、令和４年度より積極的勧奨の再開を行うとともに、接種機会を逃した方のためのキャッチアップ接種を、効果的に実施する観点から、３年（令和４～６年度まで）の期間を定めて、実施している。
- 接種実績については、令和３年度以降の全体の接種者数は、平成25年度のワクチン導入時点の接種者数を超え、増加する傾向にある。ただし、研究者の報告に基づく累積初回接種率の推移が示すとおり、接種率は、定期接種、キャッチアップ接種ともに、定期接種導入直前の水準には戻っていない。また、都道府県別に見ると、接種状況には差が見られる。
- 被接種者・保護者及び自治体に対して令和５年度に実施した調査では、以下の内容等が示唆された。
  - 「HPVワクチンやキャッチアップ接種について知らない」と回答した被接種者が少なくないこと
  - 公的機関や医療関係者からの情報に対し、一定の信頼が置かれていること
  - 自治体からの案内が接種を考え始めるきっかけになっていること
  - 公費で接種できる期限への意識や、保護者や医療従事者との会話等が接種の後押しになっていた
  - 多くの自治体が再勧奨を行っているものの、実施していない自治体があること

【HPVワクチンに関する知見】

- ワクチンの有効性については、英国、スウェーデン、デンマーク及びオーストラリアにおいて、子宮頸がんの罹患リスクを低下させたという報告がみられ、特に若い世代での効果が高い傾向が認められている。
- また、子宮頸部異形成に対して局所手術を受けた患者において、HPVワクチンを接種すると、再発リスクを低減させる可能性があるとするシステマティックレビュー・メタアナリシスの結果も報告されている。
- ワクチンの安全性については、積極的勧奨再開後の2022（令和４）年４月以降も、継続的に副反応検討部会において医療機関等からの副反応疑い報告の状況等を踏まえて評価を継続し、現時点では重大な懸念は認められないと判断されている。

（次ページにまとめが続く）

HPVワクチンの接種に関する論点について②

まとめ（続き）

【取組の状況】

- 国における周知広報として、以下のような取組を実施。
  - ホームページ上でリーフレットやQA等を公表
  - 厚生労働省SNS（X、Facebook）を通じた情報発信
  - 中高生向け新聞への広告掲載
  - キャッチアップ対象者に向けたインターネット広告の発信
  - 政府広報とも連携し、動画などを作成
  - キャッチアップの周知や再勧奨の際、自治体で活用可能な資材の作成
  - 文部科学省と連携し、ブロック拠点病院事業への協力依頼に関する事務連絡の発出
  - キャッチアップの対象年齢の世代の働く女性に届くよう、保険者宛にリーフレット等の周知依頼
- 自治体においても、個別通知の他に、若者目線で企画立案された周知広報策や、自治体間の契約に基づき住民票がない場合でも接種後の償還払いに対応するなど、柔軟な接種機会の提供を行うなど、特徴的な取組がある。
- 接種後の症状等の診療体制については、各都道府県の協力医療機関の他、ブロック拠点病院事業により中核となる医療機関を整備している。ブロック拠点病院の調査では、接種後の症状に関する受診状況として、令和４年度の積極的勧奨後も受診の大幅な増加は見られなかったとされている。
- ブロック拠点病院においては、各地域において教育機関での講演を行うなど、周知に関する取り組みもある。

【ワクチン評価小委員会における議論の状況】

- ワクチンの評価に当たっては、これまで、薬事承認されたワクチンについて、有効性、安全性及び費用対効果の観点で議論することとしてきたところ、ワクチンの有効性については、原則として薬事承認の範囲内の疾患に対する効果を念頭に、検討してきた。
  今般、HPVワクチンの男性に対する接種は、薬事承認された男性の疾患（肛門がん、尖圭コンジローマ）の他、薬事承認外の男性の疾患（頭頸部がん）や女性の子宮頸がんの予防効果を含めて、ワクチン評価小委においてファクトシート等に基づき評価を行った。
- その結果、有効性や安全性は一定程度認められるものの、費用対効果には課題があるとの結果であり、薬事承認の状況を含め、様々なデータが新たに得られるなど、前提条件が変われば、更に議論を行う必要があるとされた。

HPVワクチンの接種に関する論点について③

論点案

論点１　HPVワクチンのキャッチアップ接種及び本来の定期接種の周知広報について

- キャッチアップ接種については、円滑な接種を確保しつつ、より高い年齢でワクチンの有効性がより低くなることや、「より早期に接種する必要がない」という誤ったメッセージにつながりうることなどを勘案し、予防接種施行令上、令和４年度から３年間実施することとしており、今年度末で終了となる。
- 今年度がキャッチアップ接種の最終年度であることを踏まえ、より効果的な周知広報のために、国で作成した周知用資材の他、自治体における好事例については、改めて接種の主体である市町村等の自治体に対して情報提供し、自治体における効果的な周知広報活動に活用いただくこととしてはどうか。
- ワクチンの３回の接種を完了するためには最長６か月程度要することも踏まえ、夏までの間に重点的な周知広報を行うよう、自治体や関係省庁等とも連携し、取り組んではどうか。
- その際、本来の定期接種の対象者に対する周知についても、改めて確実な周知広報等の取組を実施することとしてはどうか。

論点２　HPVワクチンの男性への接種について

- 小委においては、以下のような意見があった。
  - ✓ 定期接種化を検討する際、基本計画の中でも安全性、有効性、そして費用対効果を重視して評価すると明記されており、今回、費用対効果の点で課題が残る結果であることは重く受け止めるべき。一方で、男女平等性や相乗的効果などの観点や、薬事承認に基づかない接種回数の変更が可能かどうかの観点などによっては評価が変わりうる。
  - ✓ gender neutral vaccinationとVPD（vaccine preventable diseases）の考え方も踏まえて総合的に判断すべき。
- こうした指摘を踏まえ、HPVワクチンの男性に対する接種について、女性への波及効果等を勘案して評価を進めていくことについてどう考えるか。

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

参考資料

ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省

Ministry of Health, Labour and Welfare

HPVワクチンに係る法令上の規定

予防接種法

（市町村長が行う予防接種）

第五条　市町村長は、Ａ類疾病及びＢ類疾病のうち政令で定めるものについて、当該市町村の区域内に居住する者であって政令で定めるものに対し、保健所長（特別区及び地域保健法（昭和二十二年法律第百一号）第五条第一項の規定に基づく政令で定める市（第十条において「保健所を設置する市」という。）にあっては、都道府県知事）の指示を受け期日又は期間を指定して、予防接種を行わなければならない。

２・３　（略）

予防接種法施行令

（市町村長が予防接種を行う疾病及びその対象者）

第三条　法第五条第一項の政令で定める疾病は、次の表の上欄に掲げる疾病とし、同項（予防接種法の一部を改正する法律（平成十三年法律第百十六号）附則第三条第一項（予防接種法の一部を改正する法律（平成二十五年法律第八号）附則第七条の規定により読み替えられる場合を含む。）の規定により読み替えられる場合を含む。）の政令で定める者は、同表の上欄に掲げる疾病ごとにそれぞれ同表の下欄に掲げる者（当該疾病にかかっている者又はかかったことのある者（インフルエンザ又は新型コロナウイルス感染症にあっては、当該疾病にかかったことのある者を除く。）その他厚生労働省令で定める者を除く。）とする。

疾病	予防接種の対象者
（略）	（略）
ヒトパピローマウイルス感染症	十二歳となる日の属する年度の初日から十六歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子
（略）	（略）

２　（略）

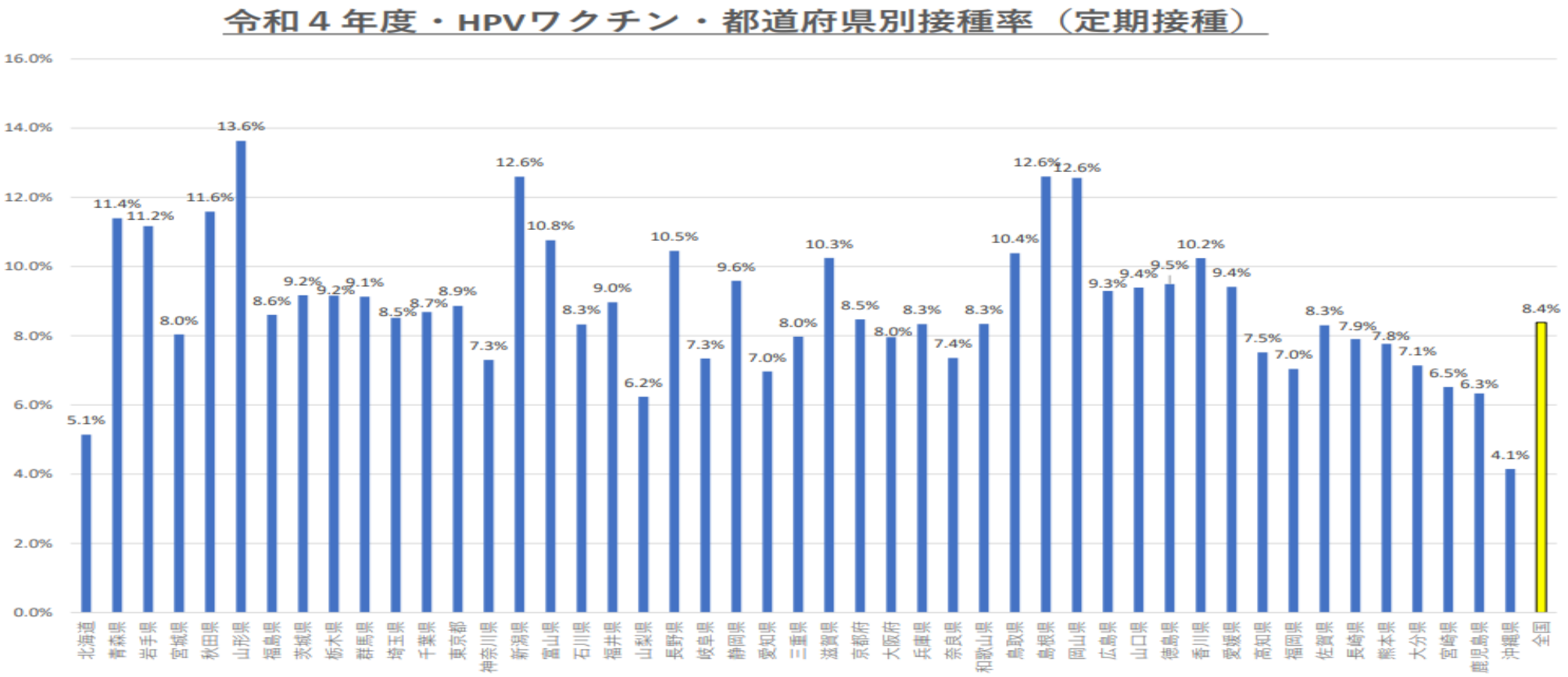
附則

（市町村長が行う予防接種の対象者の特例）

５　令和四年四月一日から令和七年三月三十一日までの間、第三条第一項の表ヒトパピローマウイルス感染症の項中「十二歳となる日の属する年度の初日から十六歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子」とあるのは、「／一　十二歳となる日の属する年度の初日から十六歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子／二　平成九年四月二日から平成二十年四月一日までの間に生まれた女子（前号に掲げる女子を除く。）／」とする。

令和4年度都道府県別の接種率（定期接種）

令和４年度に実施された初回接種の実施回数を当該年度の女子の人口で除して求めた接種率は、都道府県ごとにばらつきがある。



【留意事項】

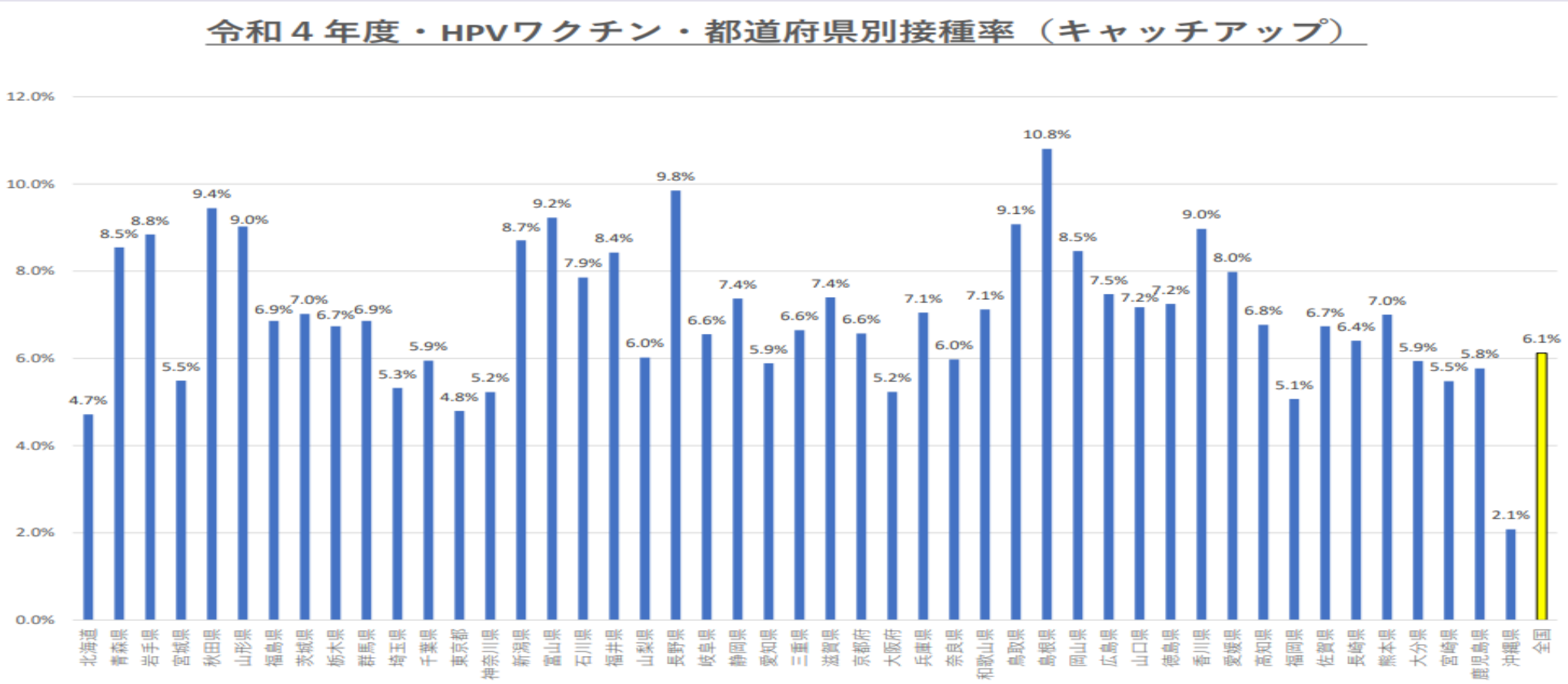
・分子は、令和４年度地域保健・健康増進事業報告都道府県別・年齢別　接種回数（表番号67）

・分母は、総務省統計局が公表している令和４年度人口推計・年齢・男女別の総人口推計を基に、小学６年人口＝11歳人口×1/2＋12歳人口×1/2のように学年ごとの人口を算出した上で、小学６年から25歳になる年までを合算した。

・本資料における「接種率」は、令和４年度中に実施された接種状況のみを表しており、政令で定める接種可能年齢を通じた累積の接種率ではないため、本資料における「接種率」に基づいて最終的な接種の進捗を評価することはできない。

令和4年度都道府県別の接種率（キャッチアップ接種）

令和４年度に実施された初回接種の実施回数を当該年度の女子の人口で除して求めた接種率は、都道府県ごとにばらつきがある。



【留意事項】

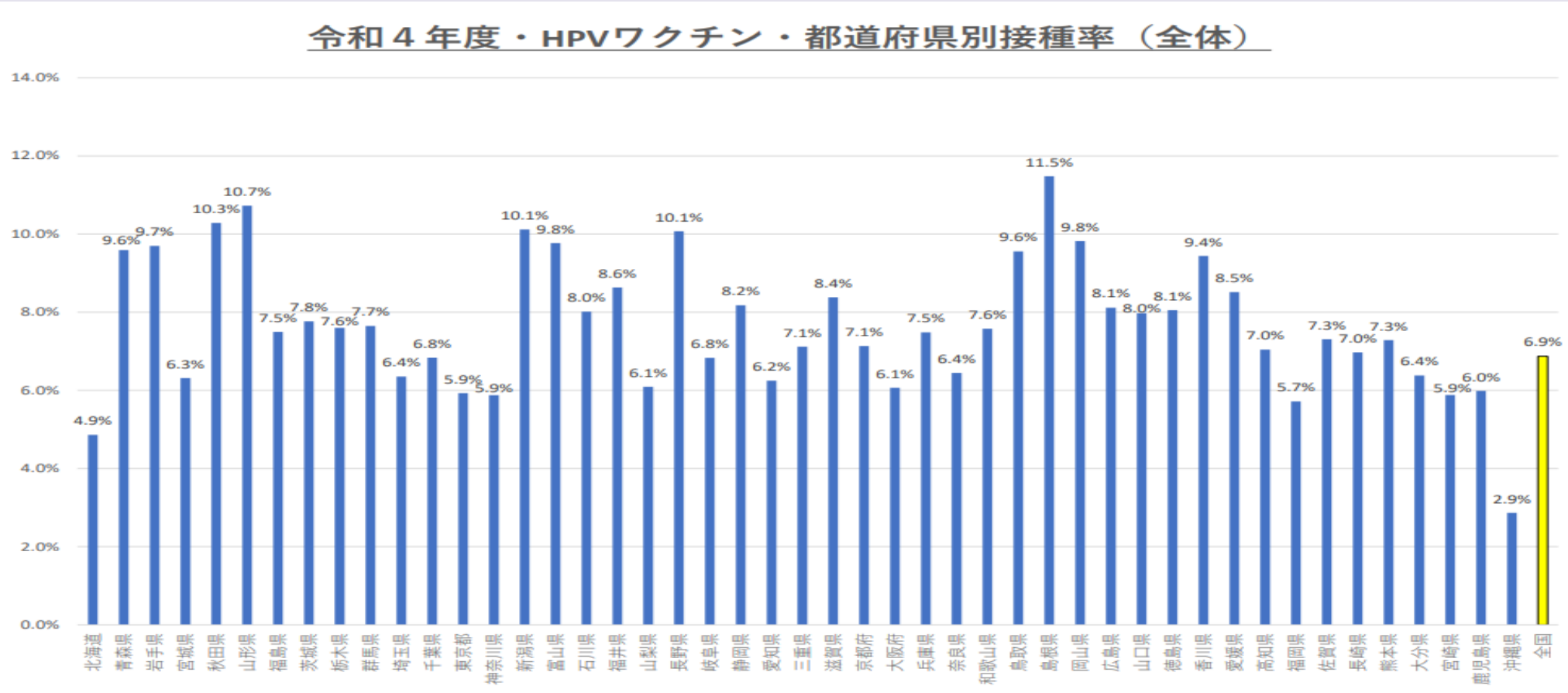
・分子は、令和４年度地域保健・健康増進事業報告都道府県別・年齢別　接種回数（表番号67）

・分母は、総務省統計局が公表している令和４年度人口推計・年齢・男女別の総人口推計を基に、小学６年人口＝11歳人口×1/2＋12歳人口×1/2のように学年ごとの人口を算出した上で、小学６年から25歳になる年までを合算した。

・本資料における「接種率」は、令和４年度中に実施された接種状況のみを表しており、政令で定める接種可能年齢を通じた累積の接種率ではないため、本資料における「接種率」に基づいて最終的な接種の進捗を評価することはできない。

令和4年度都道府県別の接種率（定期接種・キャッチアップ接種合計）

令和４年度に実施された初回接種の実施回数を当該年度の女子の人口で除して求めた接種率は、都道府県ごとにばらつきがある。



【留意事項】

・分子は、令和４年度地域保健・健康増進事業報告都道府県別・年齢別　接種回数（表番号67）

・分母は、総務省統計局が公表している令和４年度人口推計・年齢・男女別の総人口推計を基に、小学６年人口＝11歳人口×1/2＋12歳人口×1/2のように学年ごとの人口を算出した上で、小学６年から25歳になる年までを合算した。

・本資料における「接種率」は、令和４年度中に実施された接種状況のみを表しており、政令で定める接種可能年齢を通じた累積の接種率ではないため、本資料における「接種率」に基づいて最終的な接種の進捗を評価することはできない。

26歳までの女性におけるCIN2+, CIN3+に対する４価HPVワクチンの有効性（米国、症例対照研究）

第69回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会
令和３年度第18回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）
2021(令和３)年10月１日
資料 1－2

○　米国では、13歳から26歳までに初回接種が行われたHPVワクチン接種がキャッチアップ接種と定義づけられている。初回接種年齢、接種回数によるCIN2+とCIN3+の病変のリスクを評価するため、カリフォルニア州における大規模なデータベースを利用して症例対照研究が行われた。

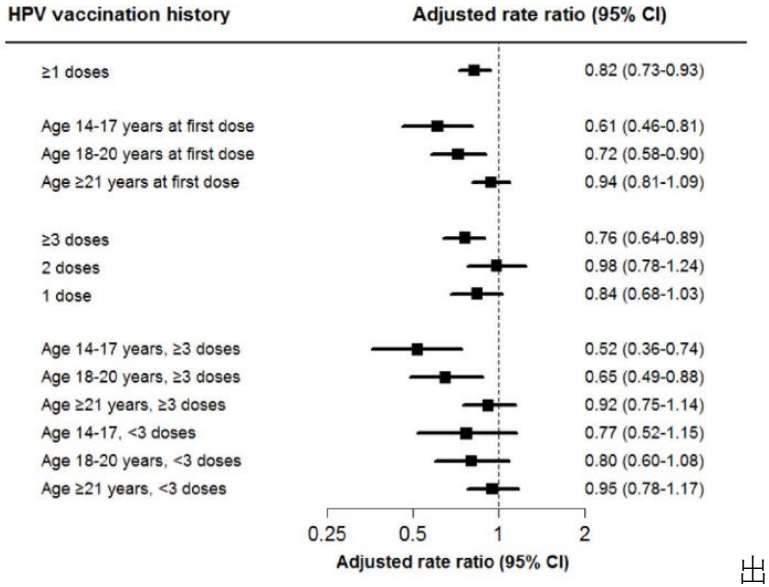
○　４価ワクチン導入の2006年に26歳以下であった女性が対象となり、 4,357例のCIN2+症例群と、年齢等を考慮してマッチングされた217,773例の対照群についての解析が行われた。

○　１回以上の接種でCIN2+（RR; 0.82, 95%CI: 0.73-0.93）、CIN3+（RR; 0.77, 95%CI: 0.64-0.94）の双方に予防効果を認めた。

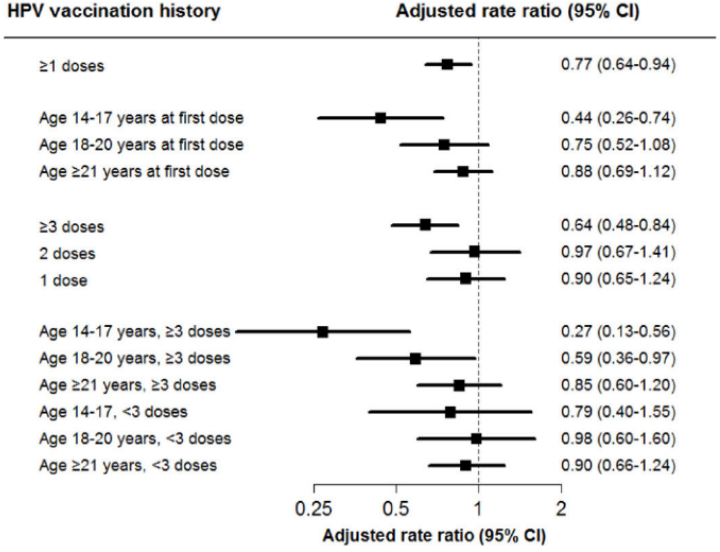
○　**３回の接種群において初回接種が14-17歳（調整後RR; CIN2+で0.52, 95%CI: 0.36-0.74, CIN3+で0.27, 95%CI: 0.13-0.56）で高い有効性、初回接種が18-20歳（調整後RR; CIN2+で0.65, 95%CI: 0.49-0.88, CIN3+で 0.59, 95%CI: 0.36-0.97）でも有効性を認めた一方、21歳以上で初回接種した群では有意な効果は見られなかった。**

※CIN：子宮頸部異形成　軽度（CIN1）、中等度（CIN2）、高度（CIN3）に分類

CIN2+



CIN3+



出典：Michael J. Silverberg et al. Lancet Child Adolesc Health. 2018; 2(10): 707-714.

日本のHPVワクチン接種事業開始以降の高度子宮頸部病変におけるHPV 16/18型の陽性率

第69回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和３年度第18回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）
2021(令和３)年10月１日
資料１－２

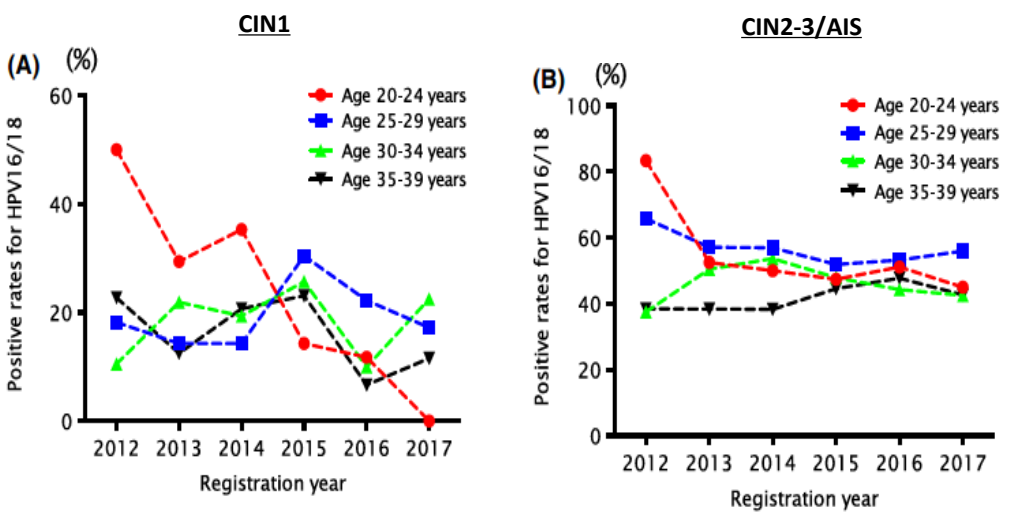
○　日本のHPVワクチン接種事業開始以降の子宮頸部病変におけるHPV型の変化を調査するために、2012年から2017年まで、21の医療施設で新たに子宮頸部病変（CIN1-3, AIS, ICC（※））と診断された16歳から39歳の女性7,709名を対象として、長期の追跡調査を行った。

○　CIN1及びCIN2-3/AISにおけるHPVウイルス型について、25歳未満においてはワクチン型HPV（16/18型）の経時的な減少傾向を認めた（P < 0.0001）が、26歳以上では同様の傾向は認められなかった。

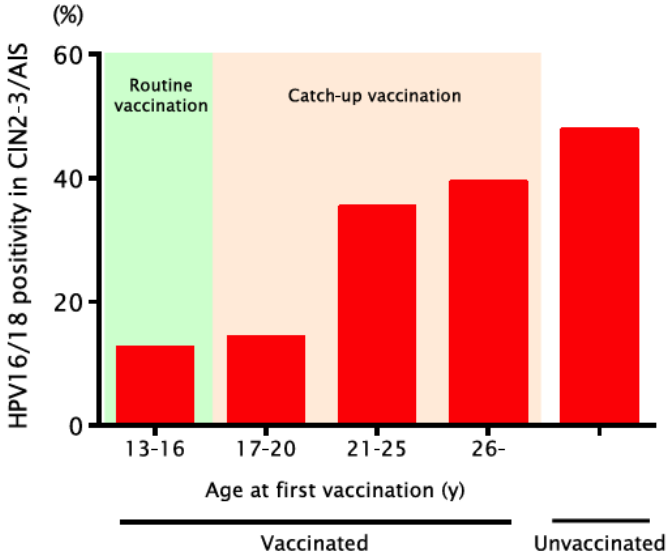
○　**20歳以下での初回接種群ではCIN2-3/AIS陽性例におけるHPV16/18型の陽性率が有意に低下していた（p=0.02）。一方で、21歳以上での初回接種群では、有意差は認めなかった（p=0.18）。**

※　CIN：子宮頸部異形成　軽度（CIN1）、中等度（CIN2）、高度（CIN3）に分類
AIS：上皮内腺癌、ICC：浸潤性子宮頸がん

各病変におけるHPV 16/18型の保有率の経年変化



各年齢層における、CIN2-3/AIS患者のHPV16/18型保有率



出典：Koji Matsumoto et al. Cancer Science. 2019;110:3811–3820.

（参考資料１）

HPVワクチンに関する調査１及び２（接種対象者/保護者向け調査）

調査結果

■ 目次

- p1～p59　調査１「HPVワクチンに関するアンケート調査」結果
  - p4～p26　サマリー
  - p28～p59　学年ごとのクロス集計
- p60～p79　調査２「HPVワクチンに関するインタビュー調査」結果

調査１「HPVワクチンに関するアンケート調査」

調査概要

目的	接種対象者と保護者における、HPVワクチンや子宮頸がんに対する認知・認識、および接種に対する考え方等を把握する
形式	オンラインアンケート調査　※小学校6年～高校1年相当の女性は、本人が横にいて保護者が代理回答する方式で実施
対象者	以下の条件で、生まれ年度ごとに400サンプルを回収。エリア別の構成は下記表のとおり。 【接種対象者本人】1997年度～2011年度生まれの女性*1　6,000サンプル　*1：2023年度に小学校6年～26歳になった女性 【保護者】2005年度～2011年度生まれの娘*2 がいる母親　2,800サンプル　*2：2023年度に小学校6年～高校3年相当になった娘 ※サマリー（p4～p26）については、以下の集団での割付とした。 【接種対象者本人】 • 小学校6年～高校1年相当の女性　2,000人 • 高校2年～3年相当の女性　800人 • 1997年度～2004年度生まれの女性*3　3,200人　*3：2023年度に19歳～26歳になった女性 【保護者】 • 小学校6年～高校1年相当の娘がいる母親　2,000人 • 高校2年～3年相当の娘がいる母親　800人
調査期間	2024/2/29（木）～2024/3/4（月）

<エリア別構成>

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	合計
① 2011年度生まれ（小学校６年）の女性	40	141	66	74	33	46	400
② 2010年度生まれ（中学校１年）の女性	40	141	66	74	33	46	400
③ 2009年度生まれ（中学校２年）の女性	40	141	66	74	33	46	400
④ 2008年度生まれ（中学校３年）の女性	40	141	66	74	33	46	400
⑤ 2007年度生まれ（高校１年相当）の女性	40	141	66	74	33	46	400
⑥ 2006年度生まれ（高校２年相当）の女性	40	141	66	74	33	46	400
⑦ 2005年度生まれ（高校３年相当）の女性	40	141	66	74	33	46	400
⑧ 2004年度生まれの女性	40	141	66	74	33	46	400
⑨ 2003年度生まれの女性	40	141	66	74	33	46	400
⑩ 2002年度生まれの女性	40	141	66	74	33	46	400
⑪ 2001年度生まれの女性	40	141	66	74	33	46	400
⑫ 2000年度生まれの女性	40	141	66	74	33	46	400
⑬ 1999年度生まれの女性	40	141	66	74	33	46	400
⑭ 1998年度生まれの女性	40	141	66	74	33	46	400
⑮ 1997年度生まれの女性	40	141	66	74	33	46	400
⑯ ①に該当する娘がいる保護者	43	144	64	72	33	44	400
⑰ ②に該当する娘がいる保護者	43	144	64	72	33	44	400
⑱ ③に該当する娘がいる保護者	43	144	64	72	33	44	400
⑲ ④に該当する娘がいる保護者	43	144	64	72	33	44	400
⑳ ⑤に該当する娘がいる保護者	43	144	64	72	33	44	400
㉑ ⑥に該当する娘がいる保護者	43	144	64	72	33	44	400
㉒ ⑦に該当する娘がいる保護者	43	144	64	72	33	44	400
合計	901	3123	1438	1614	726	998	8800

※エリア（地域）の偏りが発生しないよう、国勢調査の構成比に近似させて割り付け

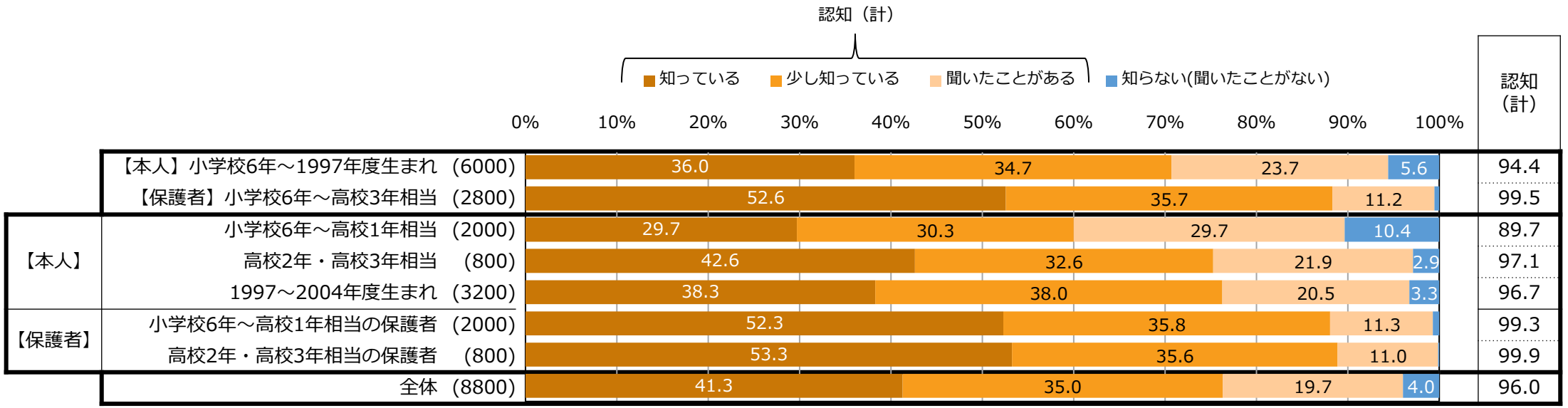
※エリア内訳：
【北海道・東北】 北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県
【関東】 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県
【中部】 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県
【近畿】 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
【中国・四国】 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県
【九州・沖縄】 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

サマリー編

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（１）－１

Q：あなたは以下について、どの程度知っていますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
① [「子宮頸(けい)がん」という病気について]

- 接種対象者本人は「知っている」36.0%に対し、保護者は52.6%と本人より高い。
- 本人の割付別でみると、「知っている」は、高校2年・3年相当が42.6%と一番高く、次いで、1997～2004年度生まれが38.3%、小学校6年～高校1年相当では29.7%であった。



2%未満の数値ラベルは非表示

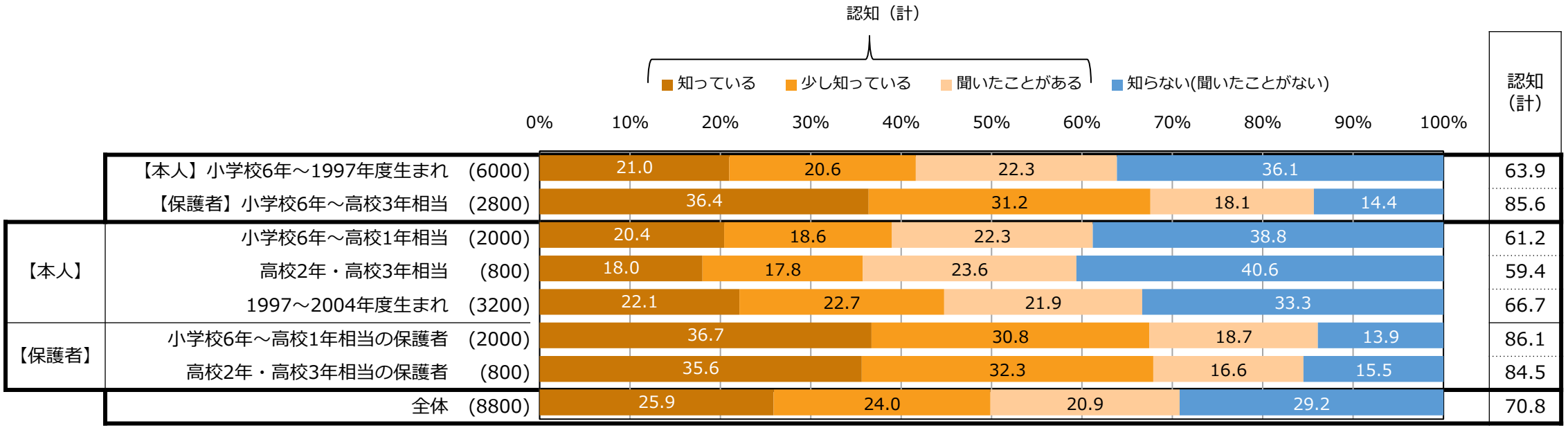
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（１）－２

Q：あなたは以下について、どの程度知っていますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
②　[「ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン」について]

- 本人は「知っている」21.0%に対し､保護者は36.4%と高く、「知らない」は本人は36.1%に対し、保護者は14.4%と低い。

- 本人の割付別では「知っている」では違いはあまりないが、
「知らない」は高校2年・高校3年相当40.6%、小学校6年～高校1年相当38.8%に対し、1997～2004年度生まれ33.3%とやや低い。



			知っている	少し知っている	聞いたことがある	知らない(聞いたことがない)	認知（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	21.0	20.6	22.3	36.1	63.9
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	36.4	31.2	18.1	14.4	85.6
【本人】	小学校6年～高校1年相当	(2000)	20.4	18.6	22.3	38.8	61.2
【本人】	高校2年・高校3年相当	(800)	18.0	17.8	23.6	40.6	59.4
【本人】	1997～2004年度生まれ	(3200)	22.1	22.7	21.9	33.3	66.7
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者	(2000)	36.7	30.8	18.7	13.9	86.1
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者	(800)	35.6	32.3	16.6	15.5	84.5
	全体	(8800)	25.9	24.0	20.9	29.2	70.8

2%未満の数値ラベルは非表示

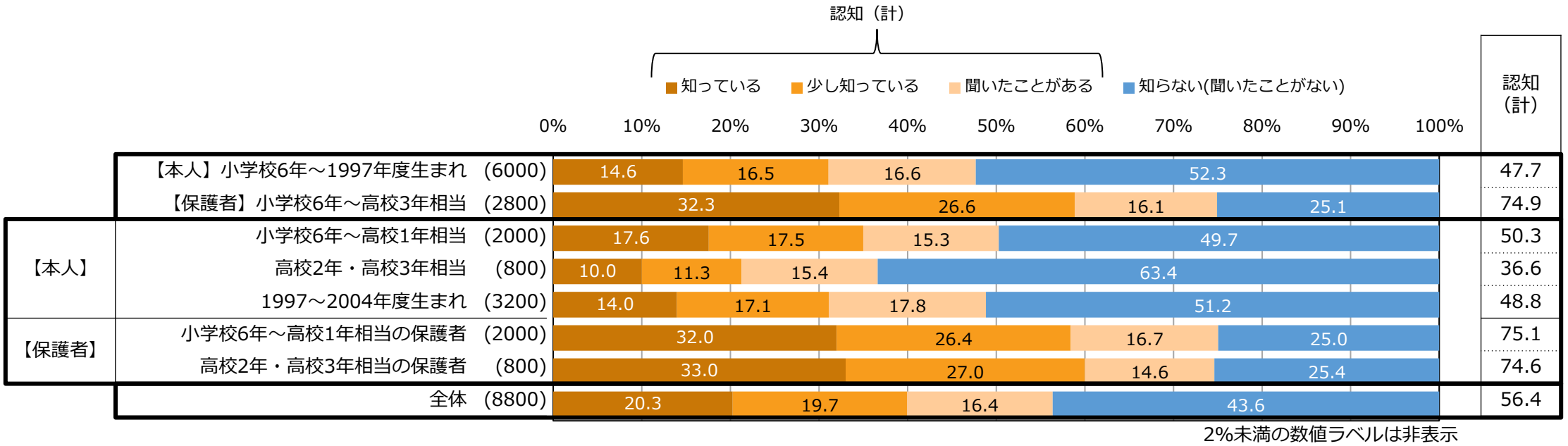
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（１）－３

Q：あなたは以下について、どの程度知っていますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
③　[ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンの接種方法・必要な手続き]

- 本人は「知っている」14.6%に対し、保護者は32.3%と高く、「知らない」は､本人52.3%に対し、保護者は25.1%と低い。

- 本人の割付別でみると、「知っている」は、小学校6年～高校1年相当17.6%、1997～2004年度生まれ14.0%、高校2年・高校3年相当10.0%。
「知らない」は、高校2年・高校3年相当63.4%と高く、1997～2004年度生まれ51.2%、小学校6年～高校1年相当49.7%と続く。



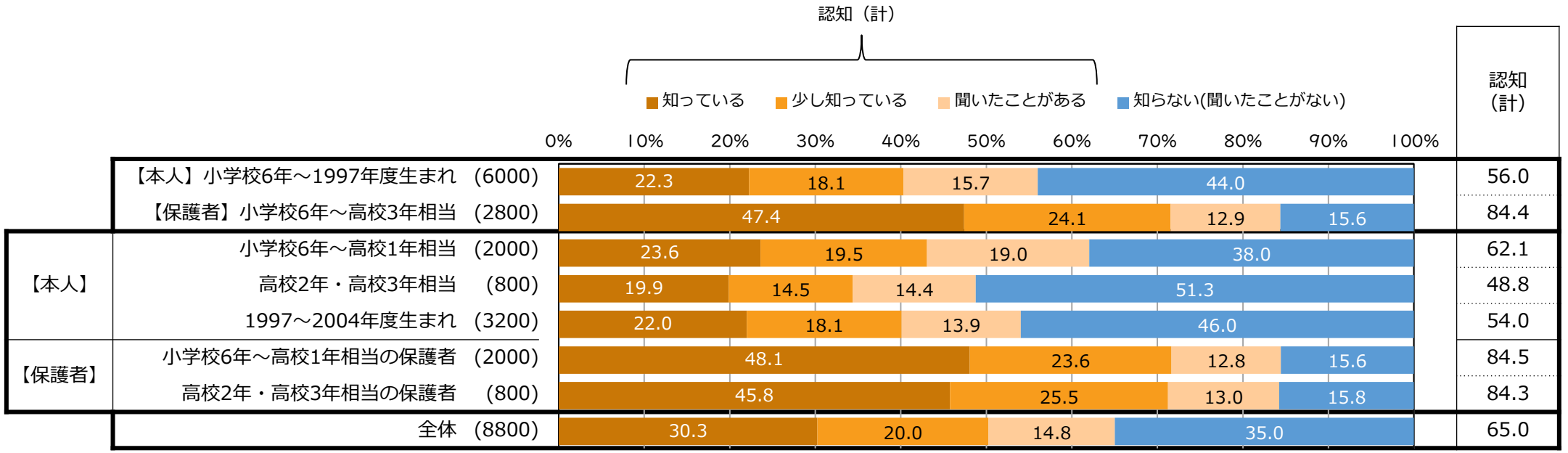
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（１）－４

Q：あなたは以下について、どの程度知っていますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
④　[政府が、小学校6年～高校1年相当に該当する女性に、ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンの接種を積極的にお勧めしていること]

- 本人は「知っている」は22.3%に対し、保護者は47.4%と高く、「知らない」は、本人44.0%に対し、保護者は15.6%と低い。
- 本人の割付別でみると、「知らない」は高校2年・高校3年相当51.3%、1997～2004年度生まれ46.0%に対し、小学校6年～高校1年相当38.0%とやや低い。



※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

2%未満の数値ラベルは非表示

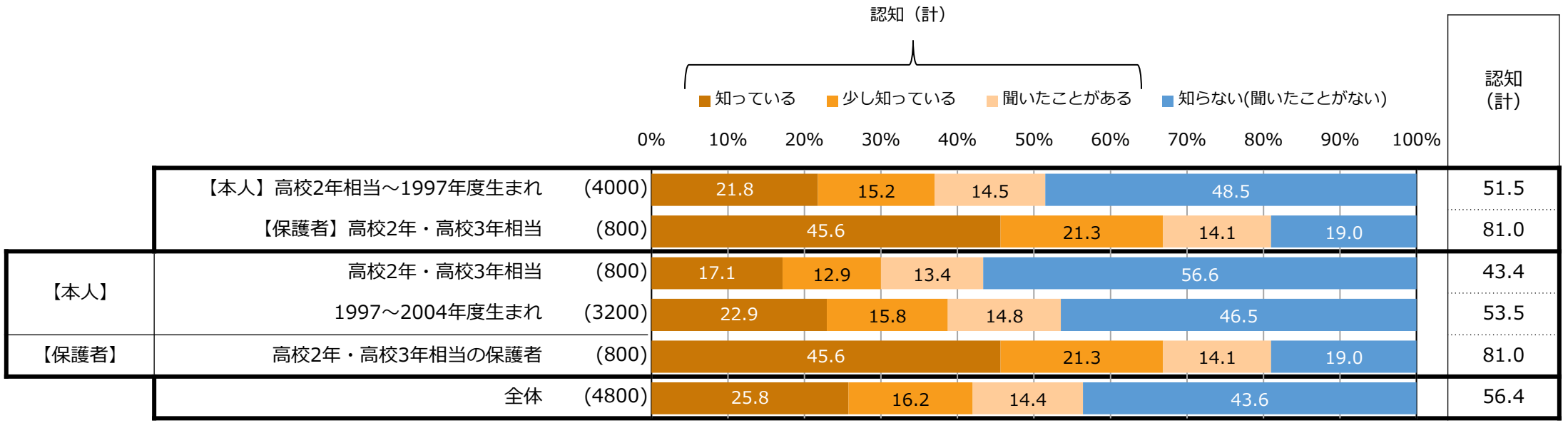
子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（１）－５

Q：（高校2年相当～1997年度生まれの女性本人、高校2年・高校3年相当の保護者のみ）

あなたは以下について、どの程度知っていますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。

⑤　[政府が、1997～2006年度生まれの女性に対しても、HPVワクチンを公費で接種できる機会を提供していること(キャッチアップ接種)]

- 「本人は「知っている」は21.8%、保護者は45.6%と高く、「知らない」は、本人48.5%に対し、保護者は19.0%と低い。
- 本人の割付別でみると、1997～2004年度生まれは「知っている」22.9%に対し、高校2年・高校3年相当17.1%、「知らない」は、1997～2004年度生まれ46.5%に対し、高校2年・高校3年相当56.6%と高い。



※本設問は、高校2年相当～1997年度生まれの女性本人、高校2年・高校3年相当の保護者のみに聴取

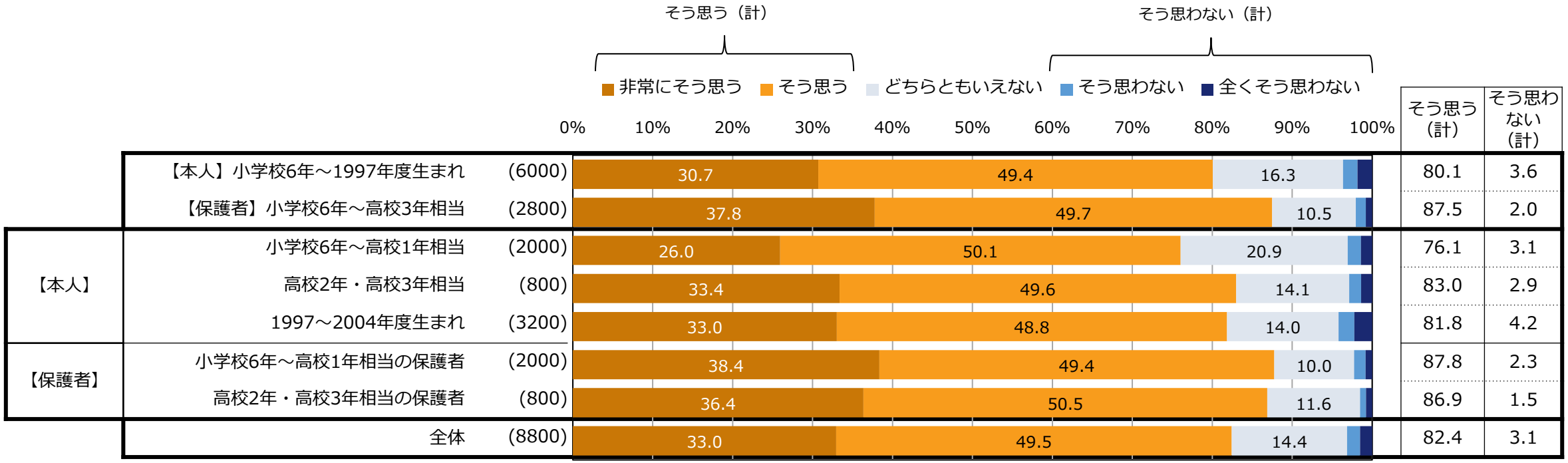
2%未満の数値ラベルは非表示

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（２）－１

Q：あなたは/あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。

① [子宮頸がんは深刻な病気だと思う]

- 本人は「そう思う（計）」80.1%に対し、保護者は87.5%とやや高い。「そう思わない（計）」ではあまり差がない。
- 本人の割付別でみると、「そう思う（計）」が高校2年・高校3年相当は83.0%、1997～2004年度生まれ81.8%に対し、小学校6年～高校1年相当では76.1%とやや低い。



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	30.7	49.4	16.3			80.1	3.6
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	37.8	49.7	10.5			87.5	2.0
【本人】	小学校6年～高校1年相当	(2000)	26.0	50.1	20.9			76.1	3.1
【本人】	高校2年・高校3年相当	(800)	33.4	49.6	14.1			83.0	2.9
【本人】	1997～2004年度生まれ	(3200)	33.0	48.8	14.0			81.8	4.2
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者	(2000)	38.4	49.4	10.0			87.8	2.3
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者	(800)	36.4	50.5	11.6			86.9	1.5
	全体	(8800)	33.0	49.5	14.4			82.4	3.1

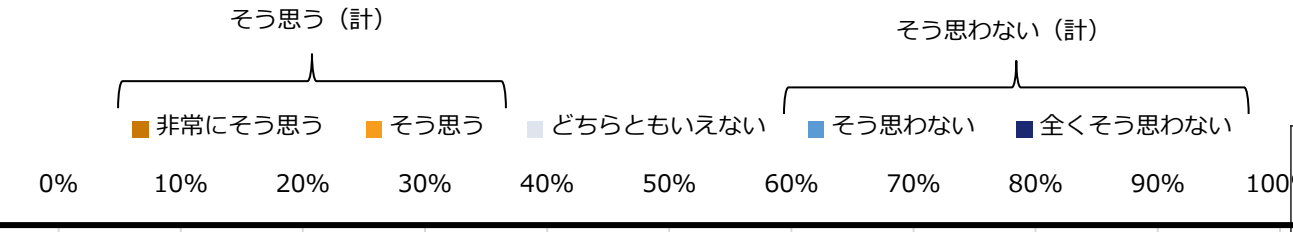
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（２）－２

Q：あなたは/あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
② [HPVは、性交渉の経験のある女性であれば、誰でも一生に一度は感染する可能性がある]

- 本人は「そう思う（計）」58.9%に対し、保護者は62.6%とやや高い。「そう思わない（計）」は、保護者7.4%に対し本人が8.3%とやや高い。
- 本人の割付別でみると、「そう思う（計）」が高校2年・高校3年相当は83.0%、1997～2004年度生まれ81.8%に対し、小学校6年～高校1年相当では76.1%とやや低い。



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	20.0	38.8	32.9	6.3	2.0	58.9	8.3
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	24.5	38.1	30.0	6.5		62.6	7.4
【本人】	小学校6年～高校1年相当	(2000)	13.4	36.8	41.8	6.4		50.2	8.1
【本人】	高校2年・高校3年相当	(800)	21.4	39.1	29.4	8.8		60.5	10.1
【本人】	1997～2004年度生まれ	(3200)	23.8	40.0	28.2	5.5	2.4	63.9	7.9
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者	(2000)	25.6	38.3	29.3	5.9		63.9	6.9
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者	(800)	21.6	37.8	31.8	8.3		59.4	8.9
	全体	(8800)	21.4	38.6	31.9	6.3		60.0	8.0

2%未満の数値ラベルは非表示

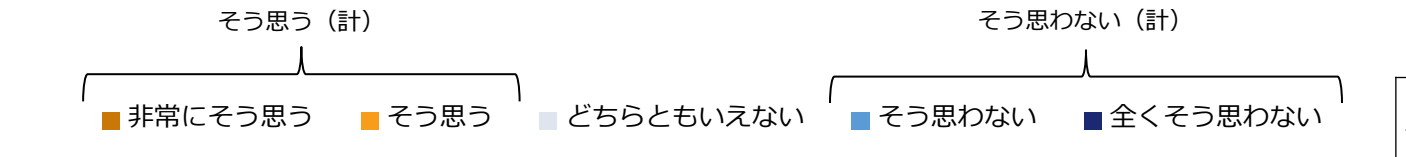
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（２）－３

Q：あなたは/あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
③　[私は/娘は、子宮頸がんになる可能性は高くないと思う]

- 本人は「そう思う（計）」22.6%に対し、保護者は17.5%で大きく変わらない。「そう思わない（計）」でも、本人26.9%に対し、保護者は23.2%と変わらない。

- 本人の割付別でみると、
「そう思う（計）」 が、高校2年・高校3年相当25.9% 、1997～2004年度生まれは25.6%に対し、小学校6年～高校1年相当は16.6%とやや低く、
「そう思わない（計）」 が、 1997～2004年度生まれは30.2%、高校2年・高校3年相当27.8% に対し、小学校6年～高校1年相当は21.2%とやや低い。
小学校6年～高校1年相当は、「どちらともいえない」が62.3%と高くなっている。



		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ （6000）	6.3	16.3	50.5	19.7	7.1	22.6	26.9
	【保護者】小学校6年～高校3年相当 （2800）	4.0	13.5	59.3	15.8	7.4	17.5	23.2
【本人】	小学校6年～高校1年相当 （2000）	3.6	13.0	62.3	15.9	5.3	16.6	21.2
【本人】	高校2年・高校3年相当 （800）	7.8	18.1	46.4	21.4	6.4	25.9	27.8
【本人】	1997～2004年度生まれ （3200）	7.6	18.0	44.2	21.7	8.5	25.6	30.2
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者 （2000）	4.0	12.9	58.9	16.3	8.0	16.9	24.3
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者 （800）	3.9	15.1	60.5	14.6	5.9	19.0	20.5
	全体 （8800）	5.5	15.4	53.3	18.5	7.2	21.0	25.7

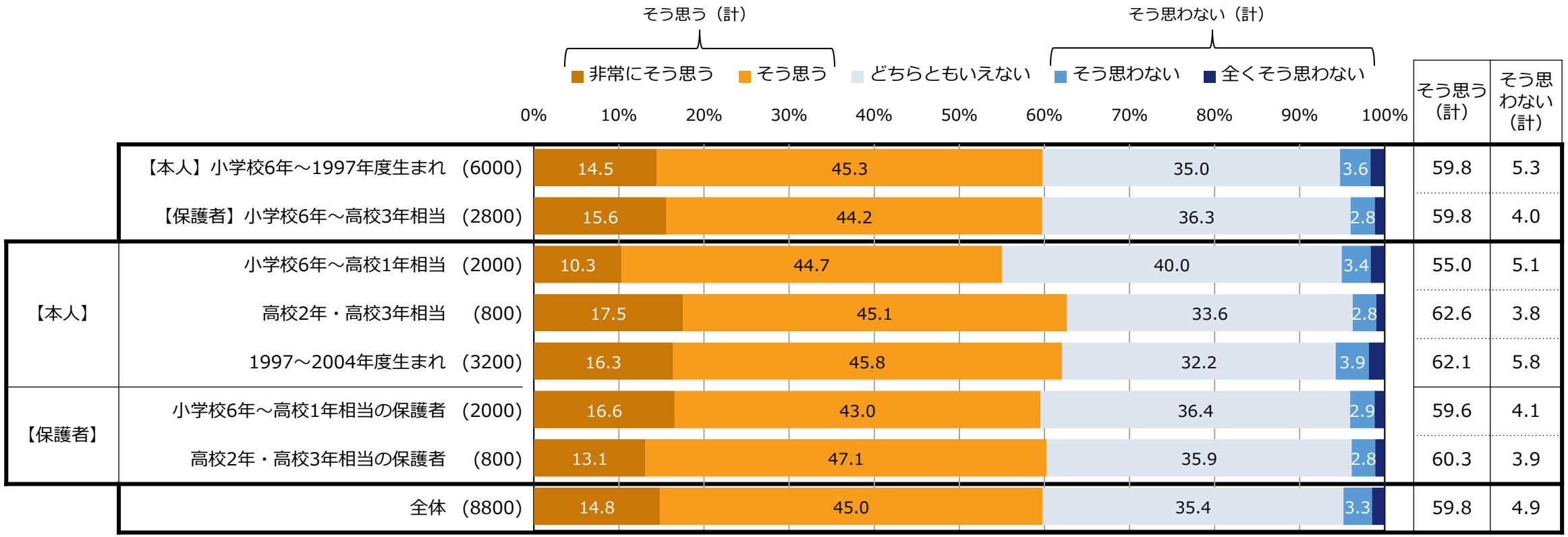
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答。
また、小学校6年～高校1年相当の女性に対しても、「娘は、子宮頸がんになる可能性は高くないと思う」として聴取されている

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（２）－４

Q：あなたは/あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
④　[HPVワクチンは、子宮頸がんを予防するのに有効である]

- 本人も保護者も「そう思う（計）」は59.8%と変わらない。
- 本人の割付別でみると、小学校6年～高校1年相当が「そう思う（計）」がやや低く、「どちらともいえない」がやや高い。



		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ （6000）	14.5	45.3	35.0	3.6		59.8	5.3
	【保護者】小学校6年～高校3年相当 （2800）	15.6	44.2	36.3	2.8		59.8	4.0
【本人】	小学校6年～高校1年相当 （2000）	10.3	44.7	40.0	3.4		55.0	5.1
【本人】	高校2年・高校3年相当 （800）	17.5	45.1	33.6	2.8		62.6	3.8
【本人】	1997～2004年度生まれ （3200）	16.3	45.8	32.2	3.9		62.1	5.8
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者 （2000）	16.6	43.0	36.4	2.9		59.6	4.1
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者 （800）	13.1	47.1	35.9	2.8		60.3	3.9
	全体 （8800）	14.8	45.0	35.4	3.3		59.8	4.9

2%未満の数値ラベルは非表示

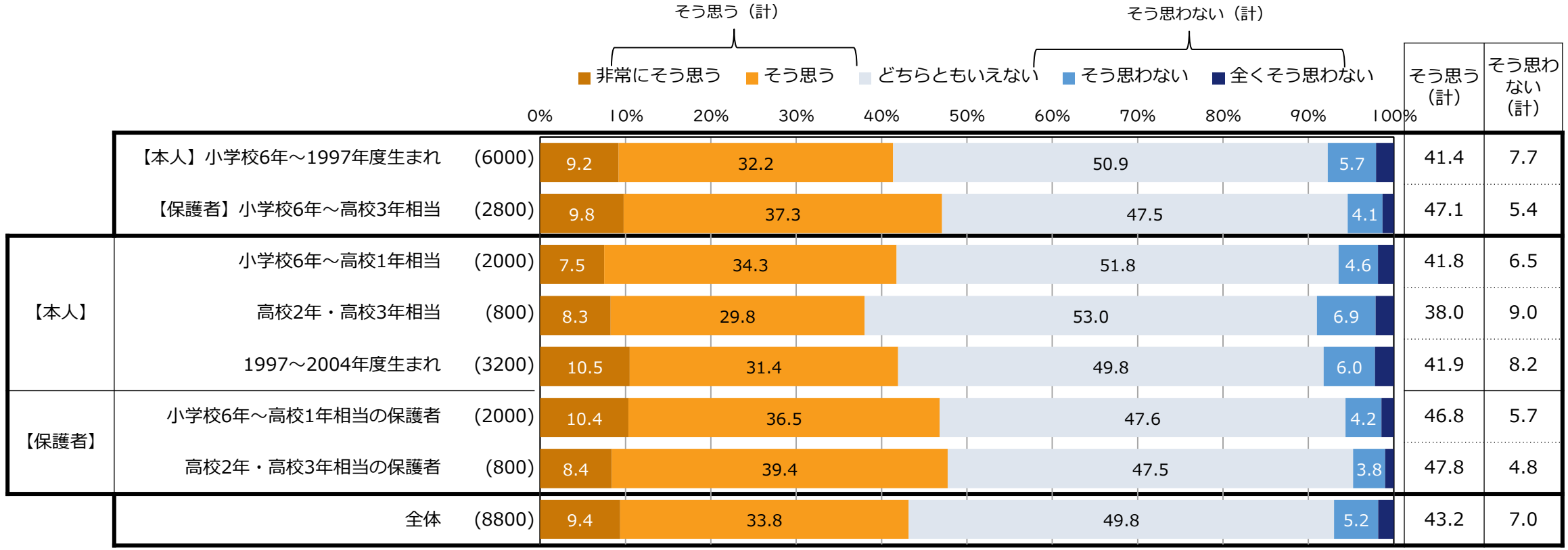
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（２）－５

Q：あなたは/あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。

⑤　[公費で接種できるHPVワクチンで、子宮頸がんの原因となるHPVの90%までが予防できる]

- 本人は「そう思う（計）」41.4%に対し、保護者は47.1%とやや高い。
- 本人の割付別、保護者の割付別どちらも大きく違いは見られない。



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	9.2	32.2	50.9	5.7		41.4	7.7
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	9.8	37.3	47.5	4.1		47.1	5.4
【本人】	小学校6年～高校1年相当	(2000)	7.5	34.3	51.8	4.6		41.8	6.5
【本人】	高校2年・高校3年相当	(800)	8.3	29.8	53.0	6.9		38.0	9.0
【本人】	1997～2004年度生まれ	(3200)	10.5	31.4	49.8	6.0		41.9	8.2
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者	(2000)	10.4	36.5	47.6	4.2		46.8	5.7
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者	(800)	8.4	39.4	47.5	3.8		47.8	4.8
	全体	(8800)	9.4	33.8	49.8	5.2		43.2	7.0

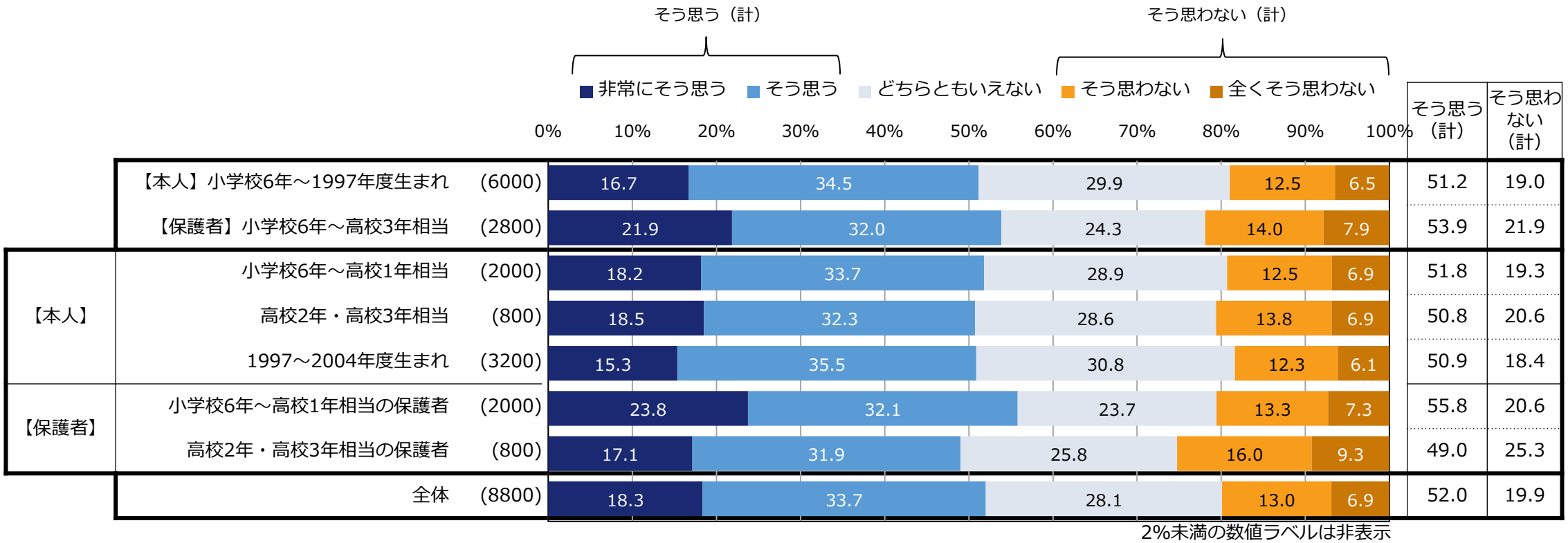
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

2%未満の数値ラベルは非表示

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（２）－６

Q：あなたは/あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
⑥　[HPVワクチンのリスクについて十分な情報がなく、接種するか/させるかどうか決められない]

- 本人は「そう思う（計）」51.2%に対し、保護者53.9%とあまり変わらない。
- 保護者の割付別で見ると、「そう思う（計）」では、小学校6年～高校1年相当の保護者が55.8%に対し、高校2年・高校3年相当の保護者49.0%とやや低い。



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	16.7	34.5	29.9	12.5	6.5	51.2	19.0
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	21.9	32.0	24.3	14.0	7.9	53.9	21.9
【本人】	小学校6年～高校1年相当	(2000)	18.2	33.7	28.9	12.5	6.9	51.8	19.3
【本人】	高校2年・高校3年相当	(800)	18.5	32.3	28.6	13.8	6.9	50.8	20.6
【本人】	1997～2004年度生まれ	(3200)	15.3	35.5	30.8	12.3	6.1	50.9	18.4
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者	(2000)	23.8	32.1	23.7	13.3	7.3	55.8	20.6
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者	(800)	17.1	31.9	25.8	16.0	9.3	49.0	25.3
	全体	(8800)	18.3	33.7	28.1	13.0	6.9	52.0	19.9

2%未満の数値ラベルは非表示

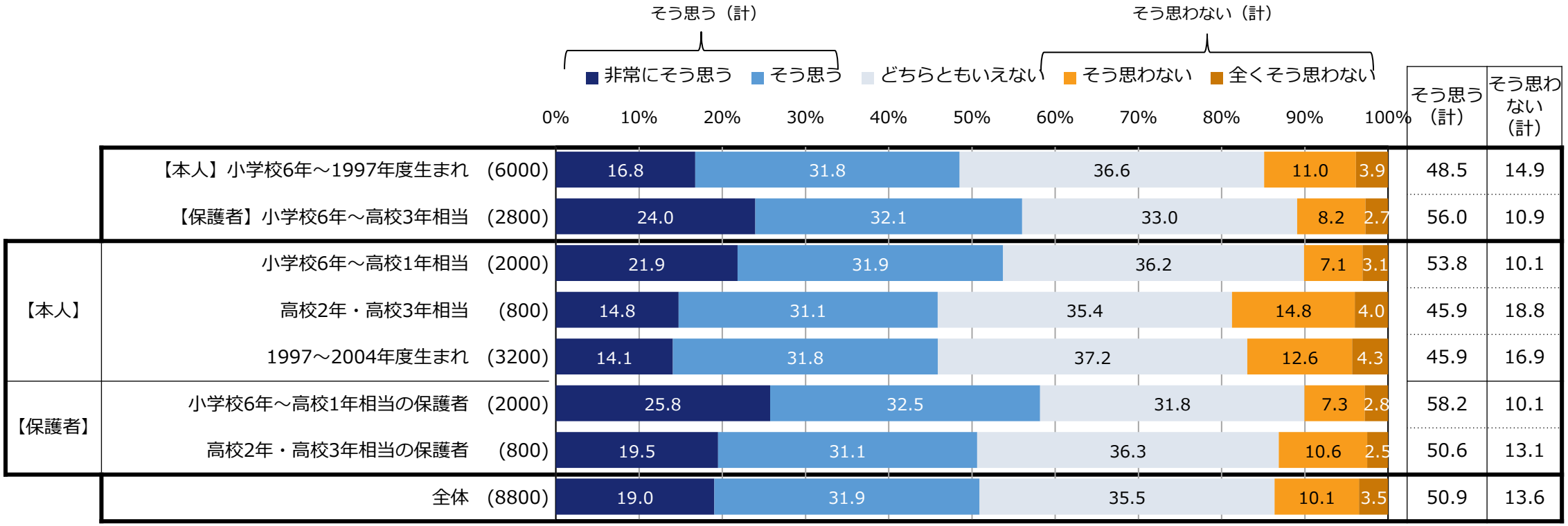
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（２）－７

Q：あなたは/あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。

⑦　[HPVワクチンを接種すると、以前報道で見たような健康被害が起きるのではないかと思っている]

- 本人は「そう思う（計）」48.5%に対し、保護者は56.0%とやや高い。
- 本人の割付別でみると、「そう思う（計）」が、高校2年・高校3年相当、1997～2004年度生まれ45.9%に対し、小学校6年～高校1年相当53.8%とやや高く、保護者の割付別で見ると、「そう思う（計）」が、小学校6年～高校1年相当の保護者58.2%に対し、高校2年・高校3年相当の保護者50.6%とやや低い。



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	16.8	31.8	36.6	11.0	3.9	48.5	14.9
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	24.0	32.1	33.0	8.2	2.7	56.0	10.9
【本人】	小学校6年～高校1年相当	(2000)	21.9	31.9	36.2	7.1	3.1	53.8	10.1
【本人】	高校2年・高校3年相当	(800)	14.8	31.1	35.4	14.8	4.0	45.9	18.8
【本人】	1997～2004年度生まれ	(3200)	14.1	31.8	37.2	12.6	4.3	45.9	16.9
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者	(2000)	25.8	32.5	31.8	7.3	2.8	58.2	10.1
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者	(800)	19.5	31.1	36.3	10.6	2.5	50.6	13.1
	全体	(8800)	19.0	31.9	35.5	10.1	3.5	50.9	13.6

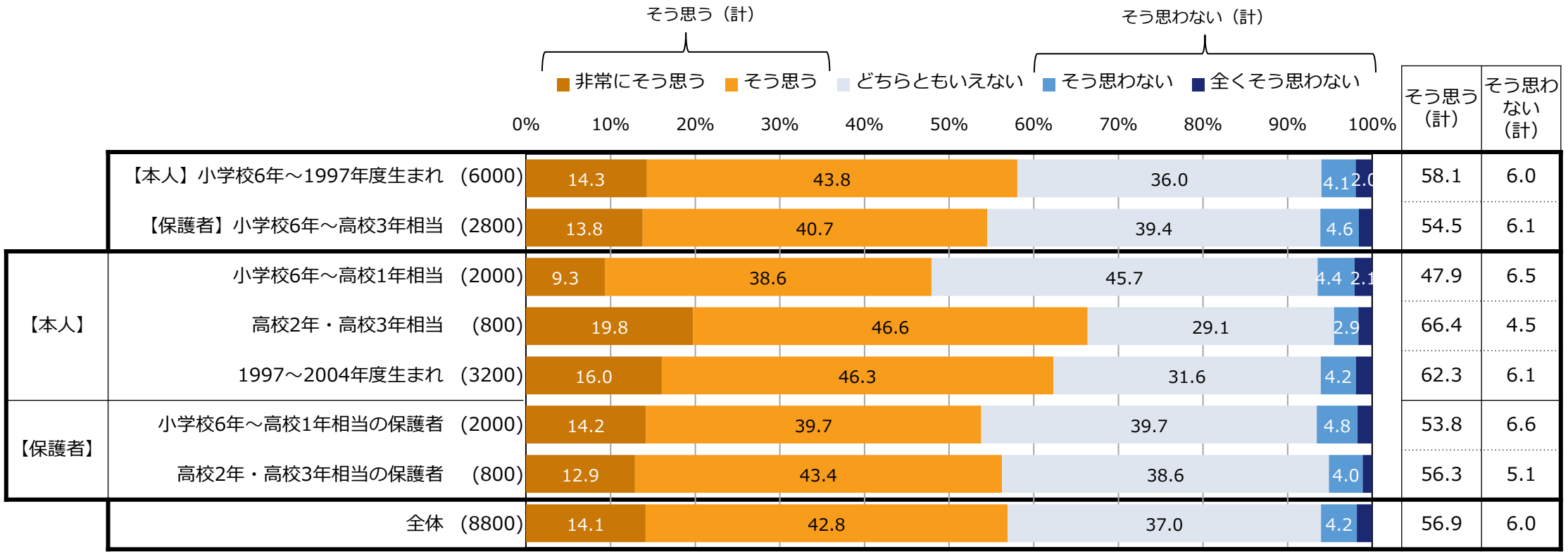
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

2%未満の数値ラベルは非表示

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（３）－１

Q：あなたは/あなたの娘は以下のHPVワクチンに対する考えについて、どう思いますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
① [HPVワクチンは重要である]

- 本人は「そう思う（計）」58.1%に対し、保護者は54.5%、「そう思わない（計）」も本人6.0%、保護者6.1%とあまり変わらない。
- 本人の割付別でみると、「そう思う（計）」が高校2年・高校3年相当は66.4%と高く、小学校6年～高校1年相当は47.9%と低い。



		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ (6000)	14.3	43.8	36.0	4.1	2.0	58.1	6.0
	【保護者】小学校6年～高校3年相当 (2800)	13.8	40.7	39.4	4.6		54.5	6.1
【本人】	小学校6年～高校1年相当 (2000)	9.3	38.6	45.7	4.4	2.1	47.9	6.5
【本人】	高校2年・高校3年相当 (800)	19.8	46.6	29.1	2.9		66.4	4.5
【本人】	1997～2004年度生まれ (3200)	16.0	46.3	31.6	4.2		62.3	6.1
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者 (2000)	14.2	39.7	39.7	4.8		53.8	6.6
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者 (800)	12.9	43.4	38.6	4.0		56.3	5.1
	全体 (8800)	14.1	42.8	37.0	4.2		56.9	6.0

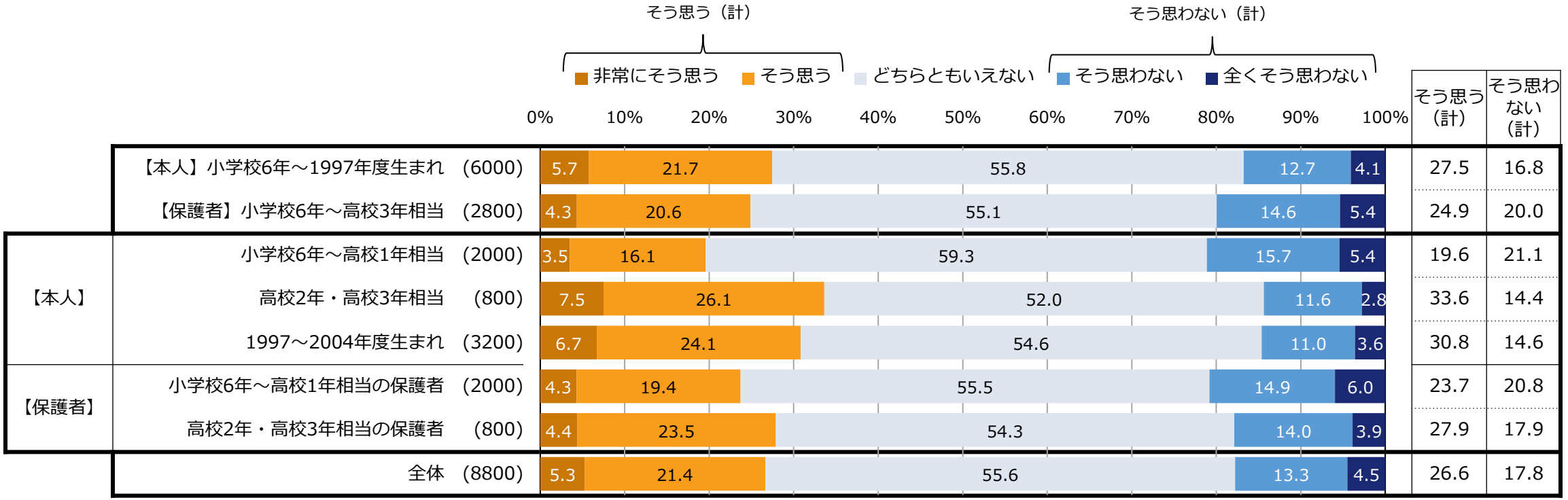
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

2%未満の数値ラベルは非表示

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（３）－２

Q：あなたは/あなたの娘は以下のHPVワクチンに対する考えについて、どう思いますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
② [HPVワクチンは安全である]

- 本人は「そう思う（計）」27.5%に対し、保護者は24.9%、「そう思わない（計）」は本人16.8%に対し、保護者20.0%とあまり変わらない。
- 本人の割付別でみると、「そう思う（計）」が高校2年・高校3年相当は33.6%と高く、小学校6年～高校1年相当は19.6%と低い。



		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ (6000)	5.7	21.7	55.8	12.7	4.1	27.5	16.8
	【保護者】小学校6年～高校3年相当 (2800)	4.3	20.6	55.1	14.6	5.4	24.9	20.0
【本人】	小学校6年～高校1年相当 (2000)	3.5	16.1	59.3	15.7	5.4	19.6	21.1
【本人】	高校2年・高校3年相当 (800)	7.5	26.1	52.0	11.6	2.8	33.6	14.4
【本人】	1997～2004年度生まれ (3200)	6.7	24.1	54.6	11.0	3.6	30.8	14.6
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者 (2000)	4.3	19.4	55.5	14.9	6.0	23.7	20.8
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者 (800)	4.4	23.5	54.3	14.0	3.9	27.9	17.9
	全体 (8800)	5.3	21.4	55.6	13.3	4.5	26.6	17.8

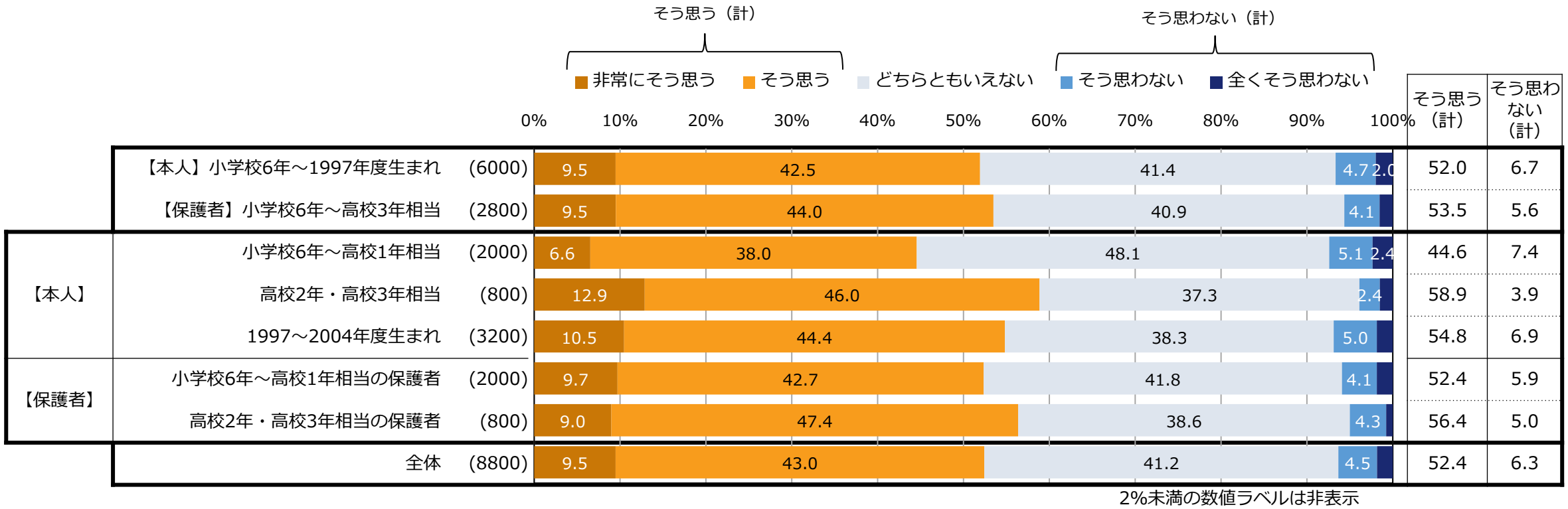
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンについての認知・認識（３）－３

Q：あなたは/あなたの娘は以下のHPVワクチンに対する考えについて、どう思いますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
③　[HPVワクチンは有効である]

- 本人は「そう思う（計）」52.0%に対し、保護者は「そう思う（計）」53.5%、「そう思わない（計）」も本人6.7%、保護者5.6%とあまり変わらない。
- 本人の割付別でみると、「そう思う（計）」が高校2年・高校3年相当は58.9%と高く、小学校6年～高校1年相当は44.6%と低い。



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	9.5	42.5	41.4	4.7	2.0	52.0	6.7
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	9.5	44.0	40.9	4.1		53.5	5.6
【本人】	小学校6年～高校1年相当	(2000)	6.6	38.0	48.1	5.1	2.4	44.6	7.4
【本人】	高校2年・高校3年相当	(800)	12.9	46.0	37.3	2.4		58.9	3.9
【本人】	1997～2004年度生まれ	(3200)	10.5	44.4	38.3	5.0		54.8	6.9
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者	(2000)	9.7	42.7	41.8	4.1		52.4	5.9
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者	(800)	9.0	47.4	38.6	4.3		56.4	5.0
	全体	(8800)	9.5	43.0	41.2	4.5		52.4	6.3

2%未満の数値ラベルは非表示

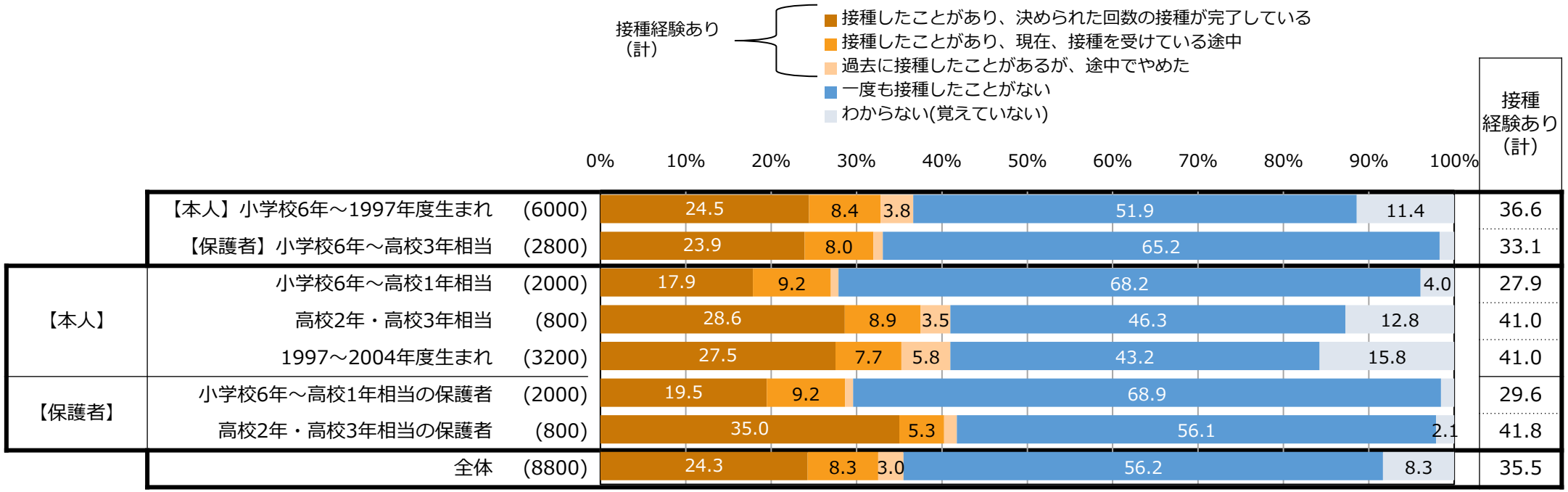
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンの接種について（１）

Q：あなたは/あなたの娘はHPVワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)を接種したことはありますか。

- 「一度も接種したことがない」は本人51.9%に対し、保護者は65.2%と差があるが、
  「接種経験あり」は本人36.6%に対し、保護者は33.1%であまり差はなく、「わからない」が本人11.4%に対し、保護者は1.7%と差が出ている。

- 本人の割付別では､小学校6年～高校1年相当は「一度も接種したことがない」が68.2%と高い。
- 同様に、保護者の割付別でも、小学校6年～高校1年相当の保護者が「一度も接種したことがない」が68.9%に対し、高校2年・高校3年相当の保護者は56.1%と低い。



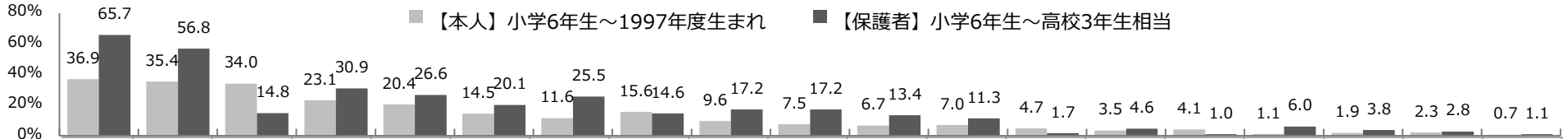
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンの接種について（２）

Q：（前問で、接種したことがある（「決められた回数の接種が完了している」「現在、接種を受けている途中」「過去に接種したことがあるが、途中でやめた」）と回答した人のみ）
あなたが（あなたの娘に）HPVワクチンを接種した/させた理由として、あてはまるものをすべてお答えください。

- 本人で最も高いのは、「HPVワクチンは有効だと思っているから」(36.9%) 。次いで「子宮頸がんは危険だと思ったから」(35.4%)、「母親にHPVワクチンの接種を勧められたから」(34.0%)と続く。
  保護者で最も高いのは、「HPVワクチンは有効だと思っているから」(65.7%)。次いで「子宮頸がんは危険だと思ったから」(56.8%)、「HPVワクチンを公費（無料）で接種できたから」(30.9%) と続く。
- 本人の割付別でみると、小学校6年～高校1年相当は「HPVワクチンは有効だと思っているから」「子宮頸がんは危険だと思ったから」が高い。
  一方、高校2年・高校3年相当は「母親にHPVワクチンの接種を勧められたから」が高く、高校2年・高校3年相当の保護者とのギャップが大きい。



		n	HPVワクチンは有効だと思っているから	子宮頸がんは危険だと思ったから	母親（私が娘）にHPVワクチンの接種を勧められたから	HPVワクチンを公費（無料）で接種できたから	HPVワクチンの接種の案内が送られてきたから	HPVワクチンは安全だと思っているから	HPVワクチンの接種を受けるのに適切な時期だと思ったから	友人・知人（の娘）たちも、HPVワクチンの接種を受けていたから	将来HPVに感染する可能性があると思ったから	政府がHPVワクチンの積極的勧奨を再開したから	かかりつけの病院の医師や看護師にHPVワクチンの接種を勧められたから	接種を決断するのに十分な情報を持っていたから	その他の家族にHPVワクチンの接種を勧められたから	過去に予防接種で嫌な思いをしたことがないから	学校の先生に接種を勧められたから	娘がHPVワクチン接種を希望していたから	TVやインターネットなどで、医師や看護師がHPVワクチンの接種を勧めていたから	父親（配偶者/パートナー）にHPVワクチンの接種を勧められたから	その他
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	2198	36.9%	35.4%	34.0%	23.1%	20.4%	14.5%	11.6%	15.6%	9.6%	7.5%	6.7%	7.0%	4.7%	3.5%	4.1%	1.1%	1.9%	2.3%	0.7%
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	926	65.7%	56.8%	14.8%	30.9%	26.6%	20.1%	25.5%	14.6%	17.2%	17.2%	13.4%	11.3%	1.7%	4.6%	1.0%	6.0%	3.8%	2.8%	1.1%
【本人】	小学校6年～高校1年相当	558	55.7%	46.1%	27.4%	25.8%	21.3%	19.5%	19.2%	17.0%	13.1%	10.2%	12.7%	10.2%	2.5%	3.8%	0.9%	4.5%	2.3%	2.0%	0.9%
【本人】	高校2年・高校3年相当	328	31.1%	41.2%	44.5%	21.0%	20.4%	15.5%	13.7%	19.5%	9.1%	9.5%	5.5%	6.7%	5.2%	4.0%	4.9%	0.0%	2.4%	2.7%	0.6%
【本人】	1997～2004年度生まれ	1312	30.4%	29.3%	34.1%	22.4%	20.0%	12.0%	7.8%	13.9%	8.3%	5.8%	4.4%	5.7%	5.6%	3.2%	5.3%	0.0%	1.5%	2.3%	0.6%
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者	592	66.0%	57.6%	14.2%	28.9%	26.5%	20.1%	25.8%	13.9%	18.4%	15.2%	15.9%	11.8%	2.0%	5.1%	0.8%	5.2%	4.1%	3.4%	0.8%
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者	334	65.0%	55.4%	15.9%	34.4%	26.6%	20.1%	24.9%	15.9%	15.0%	20.7%	9.0%	10.5%	1.2%	3.9%	1.2%	7.5%	3.3%	1.8%	1.5%
	全体	3124	45.5%	41.7%	28.3%	25.4%	22.2%	16.1%	15.7%	15.3%	11.9%	10.3%	8.7%	8.3%	3.8%	3.8%	3.2%	2.6%	2.4%	2.4%	0.8%

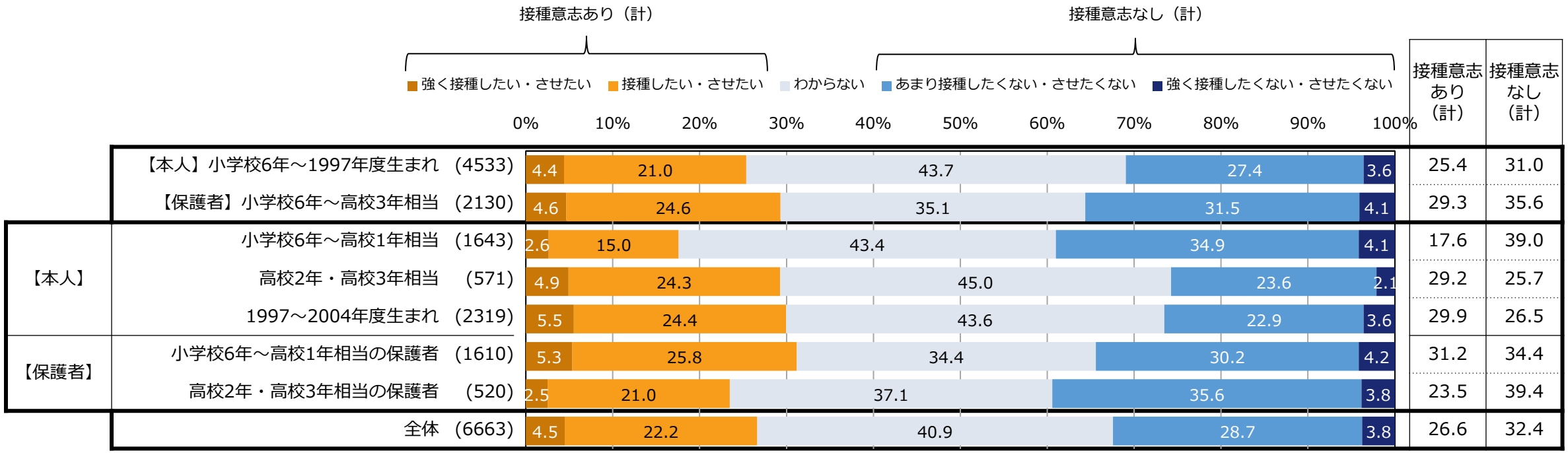
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答。
また、小学校6年～高校1年相当の女性に対しては、「娘がHPVワクチン接種を希望していたから」「私が娘にHPVワクチンの接種を勧めたから」の双方が表示されている

HPVワクチンの接種について（３）

Q：（前問で、「決められた回数の接種が完了している」以外の回答をした人のみ）
今後、あなたは/あなたの娘にHPVワクチンを接種したい/させたいと思いますか。

- 本人は「接種意志あり」25.4%に対し、保護者は「接種意志あり」29.3%とやや高いが、「接種意志なし」も本人31.0%に対し、保護者35.6%と高く、「わからない」で本人43.7%に対し、保護者は35.1%と低くなっている。

- 本人の割付別では、小学校6年～高校1年相当が「接種意志あり」は17.6%と低く、「接触意志なし」は39.0%と高い。
保護者の割付別でみると、高校2年・高校3年相当の保護者が「接種意志あり」は23.5%とやや低く、「接種意志なし」は39.4%とやや高い。
小学校6年～高校1年相当では、本人より保護者の方が「接種意志あり」が高く、高校2年・高校3年相当では、保護者より本人の方が「接種意志あり」が高い。



									接種意志あり（計）	接種意志なし（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(4533)	4.4	21.0	43.7	27.4	3.6		25.4	31.0
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2130)	4.6	24.6	35.1	31.5	4.1		29.3	35.6
【本人】	小学校6年～高校1年相当	(1643)	2.6	15.0	43.4	34.9	4.1		17.6	39.0
【本人】	高校2年・高校3年相当	(571)	4.9	24.3	45.0	23.6	2.1		29.2	25.7
【本人】	1997～2004年度生まれ	(2319)	5.5	24.4	43.6	22.9	3.6		29.9	26.5
【保護者】	小学校6年～高校1年相当の保護者	(1610)	5.3	25.8	34.4	30.2	4.2		31.2	34.4
【保護者】	高校2年・高校3年相当の保護者	(520)	2.5	21.0	37.1	35.6	3.8		23.5	39.4
	全体	(6663)	4.5	22.2	40.9	28.7	3.8		26.6	32.4

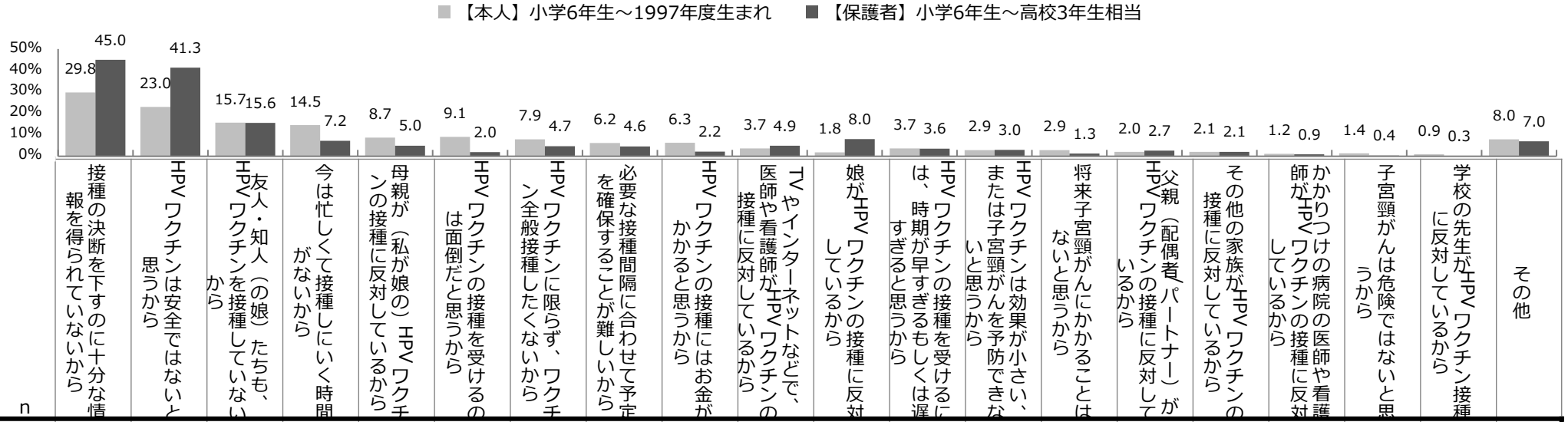
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンの接種について（４）

Q：（前問で、「あまり接種したくない/させたくない」「強く接種したくない/させたくない」と回答した人のみ）
あなたが（あなたの娘に）HPVワクチンを接種したくない/させたくない理由は何ですか。以下より、あてはまるものをすべてお答えください。

- 本人で最も高いのは、「十分な情報がない」(29.8%)である。次いで「HPVワクチンは安全でない」(23.0%)、「友人・知人も、未接種」(15.7%) と続く。
  保護者で最も高いのは、「十分な情報がない」(45.0%) 、次いで「HPVワクチンは安全でない」(41.3%)、「友人・知人の娘も、未接種」(15.6%) と続く。
- 本人の割付別でみると、 小学校6年～高校1年相当で「HPVワクチンは安全でない」 「友人・知人も、未接種」がやや高い。



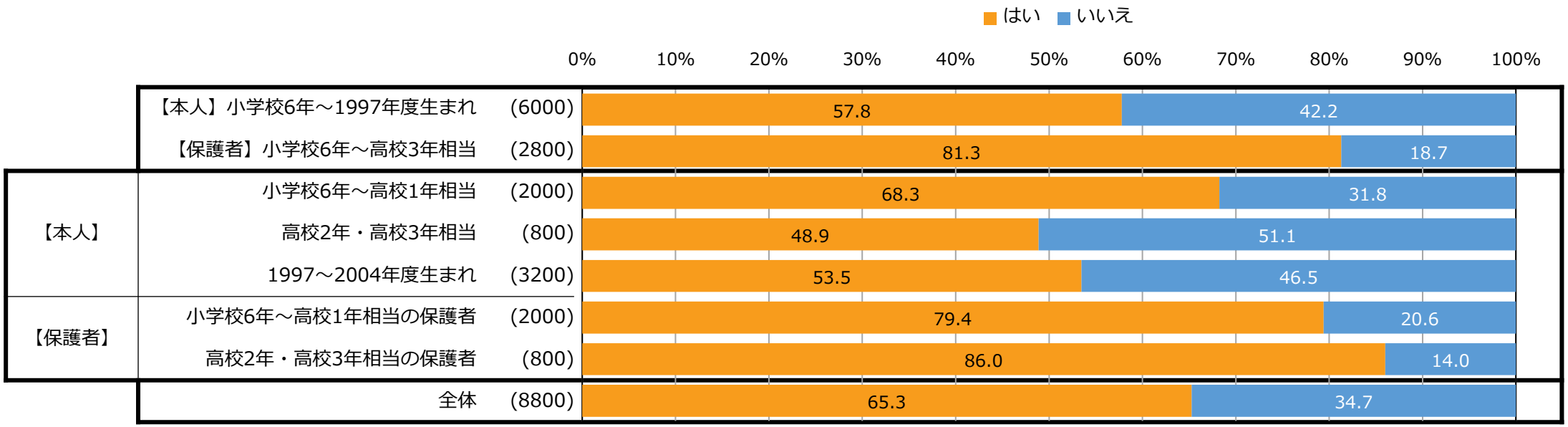
	n	接種の決断を下すのに十分な情報を得られていないから	HPVワクチンは安全ではないと思うから	友人・知人（の娘）たちも、HPVワクチンを接種していないから	今は忙しくて接種しにくい時間がないから	母親が（私が娘の）HPVワクチンの接種に反対しているから	HPVワクチンの接種を受けるのは面倒だと思うから	HPVワクチンに限らず、ワクチン全般接種したくないから	必要な接種間隔に合わせて予定を確保することが難しいから	HPVワクチンの接種にはお金がかかると思うから	TVやインターネットなどで、医師や看護師がHPVワクチンの接種に反対しているから	娘がHPVワクチンの接種に反対しているから	HPVワクチンの接種を受けるには、時期が早すぎるもしくは遅すぎると思うから	HPVワクチンは効果が小さい、または子宮頸がんを予防できないと思うから	将来子宮頸がんにかかることはないと思うから	父親（配偶者/パートナー）がHPVワクチンの接種に反対しているから	その他の家族がHPVワクチンの接種に反対しているから	かかりつけの病院の医師や看護師がHPVワクチンの接種に反対しているから	子宮頸がんは危険ではないと思うから	学校の先生がHPVワクチン接種に反対しているから	その他
【本人】小学校6年～1997年度生まれ	3383	29.8%	23.0%	15.7%	14.5%	8.7%	9.1%	7.9%	6.2%	6.3%	3.7%	1.8%	3.7%	2.9%	2.9%	2.0%	2.1%	1.2%	1.4%	0.9%	8.0%
【保護者】小学校6年～高校3年相当	1506	45.0%	41.3%	15.6%	7.2%	5.0%	2.0%	4.7%	4.6%	2.2%	4.9%	8.0%	3.6%	3.0%	1.3%	2.7%	2.1%	0.9%	0.4%	0.3%	7.0%
【本人】 小学校6年～高校1年相当	1354	33.2%	29.5%	21.5%	9.7%	8.4%	6.4%	8.4%	4.9%	2.1%	4.2%	4.5%	4.1%	2.5%	2.2%	2.7%	2.3%	0.8%	1.0%	0.4%	7.4%
【本人】 高校2年・高校3年相当	404	27.7%	19.1%	12.9%	17.1%	12.9%	9.4%	8.9%	6.2%	6.9%	5.0%	0.0%	2.5%	3.0%	2.5%	1.7%	1.7%	1.2%	1.0%	1.5%	11.4%
【本人】 1997～2004年度生まれ	1625	27.5%	18.6%	11.5%	17.9%	7.9%	11.2%	7.1%	7.3%	9.7%	2.9%	0.0%	3.6%	3.3%	3.6%	1.5%	2.1%	1.4%	1.8%	1.2%	7.6%
【保護者】 小学校6年～高校1年相当の保護者	1108	45.8%	41.2%	15.4%	6.9%	4.7%	1.6%	4.5%	3.9%	2.2%	5.4%	7.5%	3.6%	3.2%	1.6%	2.8%	2.3%	0.7%	0.5%	0.4%	6.8%
【保護者】 高校2年・高校3年相当の保護者	398	42.7%	41.5%	16.1%	8.0%	5.8%	3.0%	5.3%	6.8%	2.3%	3.5%	9.5%	3.5%	2.3%	0.3%	2.3%	1.8%	1.5%	0.3%	0.0%	7.5%
全体	4889	34.5%	28.6%	15.6%	12.3%	7.6%	6.9%	6.9%	5.7%	5.1%	4.0%	3.7%	3.6%	2.9%	2.4%	2.2%	2.1%	1.1%	1.1%	0.7%	7.6%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答。
また、小学校6年～高校1年相当の女性に対しては、「娘がHPVワクチン接種に反対しているから」「私が娘のHPVワクチンの接種に反対しているから」の双方が表示されている

接種案内との接触

Q：自治体から送られてきた、HPVワクチンの接種についての案内(封書、はがきなど)を見たことはありますか。

- 本人は「はい」が57.8%に対し、保護者は81.3%と高い。
- 本人の割付別では、 「はい」は高校2年・高校3年相当48.9%、1997～2004年度生まれ53.5%に対し、小学校6年～高校1年相当68.3%と高い。
  保護者の割付別でみると、「はい」は小学校6年～高校1年相当の保護者79.4%に対し、高校2年・高校3年相当86.0%とやや高い。
  特に、高校２年・高校3年相当では、保護者が高く、本人と保護者のギャップが大きい。



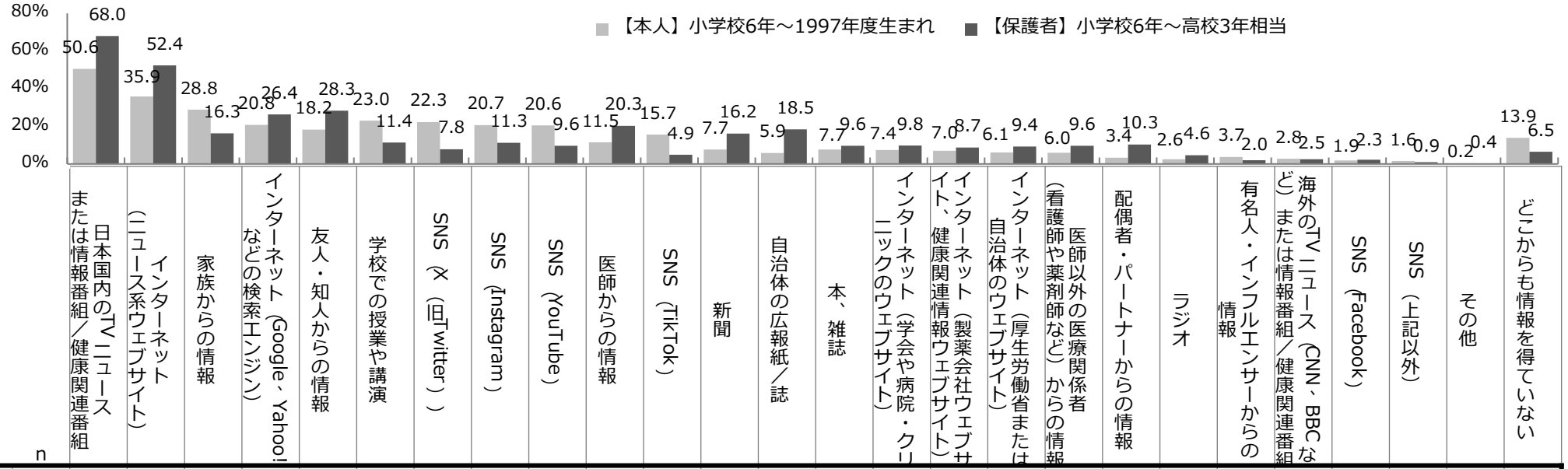
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

一般的な健康についての情報源

Q：以下にあてはまる情報源および媒体について、すべてお答えください。
① [あなたが/あなたの娘が、一般的な健康についての情報を得る場合に使っている情報源]

- 本人で最も高いのは、「日本国内のTV」(29.5%)である。次いで「家族からの情報」(21.5%)、「学校での授業や講演」(13.9%)と続く。
  保護者で最も高いのは、「日本国内のTV」(56.4%)、次いで「インターネット(ニュース系ウェブサイト)」(27.5%)、「自治体の広報紙／誌」(20.5%)と続く。
  「日本国内のTV」「インターネット(ニュース系ウェブサイト)」など多くの項目で本人より保護者の方が高い。
- 本人の割付別でも大きな違いはないが、高校2年・高校3年相当で「家族からの情報」がやや高い。



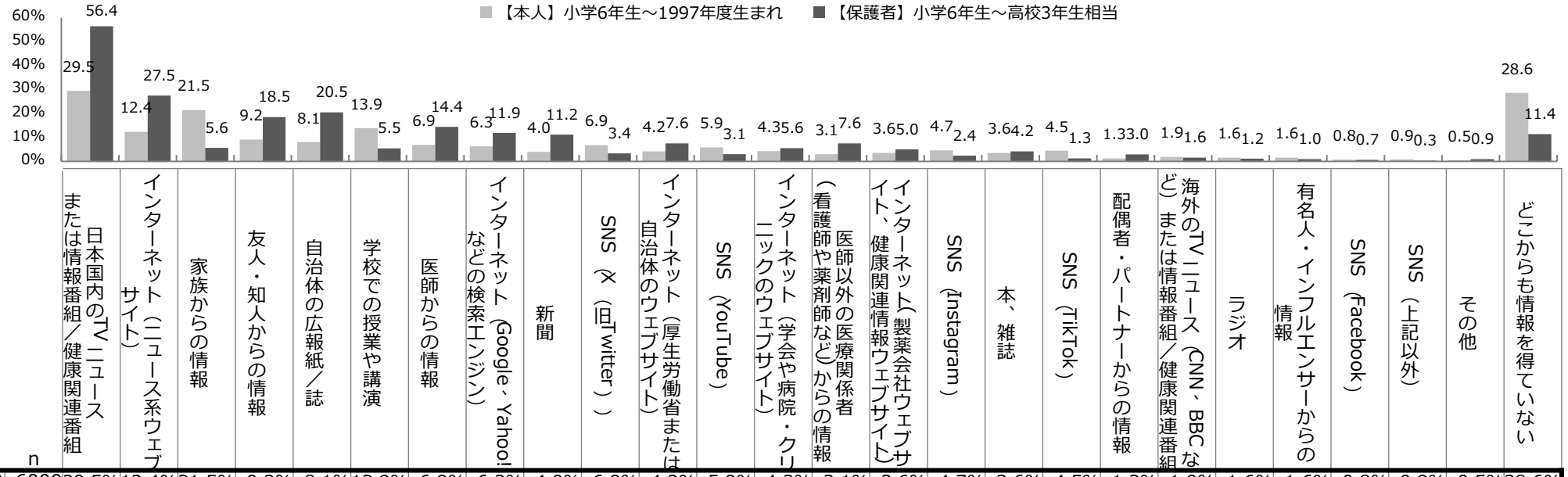
	n	日本国内のTVニュースまたは情報番組／健康関連番組	インターネット（ニュース系ウェブサイト）	家族からの情報	インターネット（Google、Yahoo!などの検索エンジン）	友人・知人からの情報	学校での授業や講演	SNS（X（旧Twitter））	SNS（Instagram）	SNS（YouTube）	医師からの情報	SNS（TikTok）	新聞	自治体の広報紙／誌	本、雑誌	インターネット（学会や病院・クリニックのウェブサイト）	インターネット（製薬会社ウェブサイト、健康関連情報ウェブサイト）	インターネット（厚生労働省または自治体のウェブサイト）	医師以外の医療関係者（看護師や薬剤師など）からの情報	配偶者・パートナーからの情報	ラジオ	有名人・インフルエンサーからの情報	海外のTVニュース（CNN、BBCなど）または情報番組／健康関連番組	SNS（Facebook）	SNS（上記以外）	その他	どこからも情報を得ていない
【本人】小学校6年～1997年度生まれ	6000	50.6%	35.9%	28.8%	20.8%	18.2%	23.0%	22.3%	20.7%	20.6%	11.5%	15.7%	7.7%	5.9%	7.7%	7.4%	7.0%	6.1%	6.0%	3.4%	2.6%	3.7%	2.8%	1.9%	1.6%	0.2%	13.9%
【保護者】小学校6年～高校3年相当	2800	68.0%	52.4%	16.3%	26.4%	28.3%	11.4%	7.8%	11.3%	9.6%	20.3%	4.9%	16.2%	18.5%	9.6%	9.8%	8.7%	9.4%	9.6%	10.3%	4.6%	2.0%	2.5%	2.3%	0.9%	0.4%	6.5%
【本人】小学校6年～高校1年相当	2000	28.2%	11.4%	23.9%	11.2%	8.8%	19.6%	7.1%	4.8%	3.7%	3.0%	2.1%	6.4%	2.2%	2.2%	2.0%	5.0%	2.8%	4.8%	1.4%	1.4%	0.8%	0.8%	1.1%	0.6%	0.5%	25.8%
【本人】高校2年・高校3年相当	800	33.6%	15.1%	28.5%	9.4%	6.4%	17.6%	5.9%	7.3%	5.1%	7.4%	4.5%	6.3%	4.8%	2.6%	3.4%	4.5%	3.8%	6.3%	0.8%	2.3%	1.9%	2.5%	0.6%	1.0%	0.4%	23.0%
【本人】1997～2004年度生まれ	3200	29.3%	12.3%	18.2%	7.8%	8.0%	9.5%	7.1%	7.0%	3.8%	9.2%	5.4%	5.6%	5.6%	3.8%	4.6%	4.5%	4.1%	3.9%	1.3%	2.2%	2.0%	1.9%	0.7%	1.0%	0.6%	31.8%
【保護者】小学校6年～高校1年相当の保護者	2000	57.0%	28.3%	5.5%	18.1%	19.0%	5.4%	16.3%	11.9%	10.4%	3.7%	7.5%	3.3%	5.3%	8.1%	5.1%	2.6%	4.7%	1.6%	3.1%	1.7%	1.4%	1.0%	0.7%	0.4%	1.0%	11.6%
【保護者】高校2年・高校3年相当の保護者	800	55.1%	25.6%	6.1%	19.8%	24.1%	5.6%	9.8%	11.9%	13.1%	2.5%	7.9%	2.6%	6.3%	6.3%	4.9%	2.0%	3.0%	0.5%	2.8%	1.3%	0.6%	0.9%	0.8%	0.3%	0.8%	10.9%
全体	8800	56.1%	41.1%	24.8%	22.6%	21.4%	19.3%	17.7%	17.7%	17.1%	14.3%	12.2%	10.4%	9.9%	8.3%	8.2%	7.6%	7.1%	7.1%	5.6%	3.2%	3.1%	2.7%	2.0%	1.4%	0.2%	11.6%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンについて見聞きした情報源

Q：以下にあてはまる情報源および媒体について、すべてお答えください。
② [あなたが/あなたの娘が、 HPVワクチンの情報についての情報を見聞きしたことのある媒体]

- 本人で最も高いのは、「日本国内のTV」(29.5%)である。次いで「家族からの情報」(21.5%)、「学校での授業や講演」(13.9%)と続く。
  保護者で最も高いのは、「日本国内のTV」(56.4%)、次いで「インターネット(ニュース系ウェブサイト)」(27.5%)、「自治体の広報紙／誌」(20.5%)と続く。
  「日本国内のTV」「インターネット(ニュース系ウェブサイト)」など多くの項目で本人より保護者の方が高い。
- 本人の割付別でも大きな違いはないが、高校2年・高校3年相当で「家族からの情報」がやや高い。



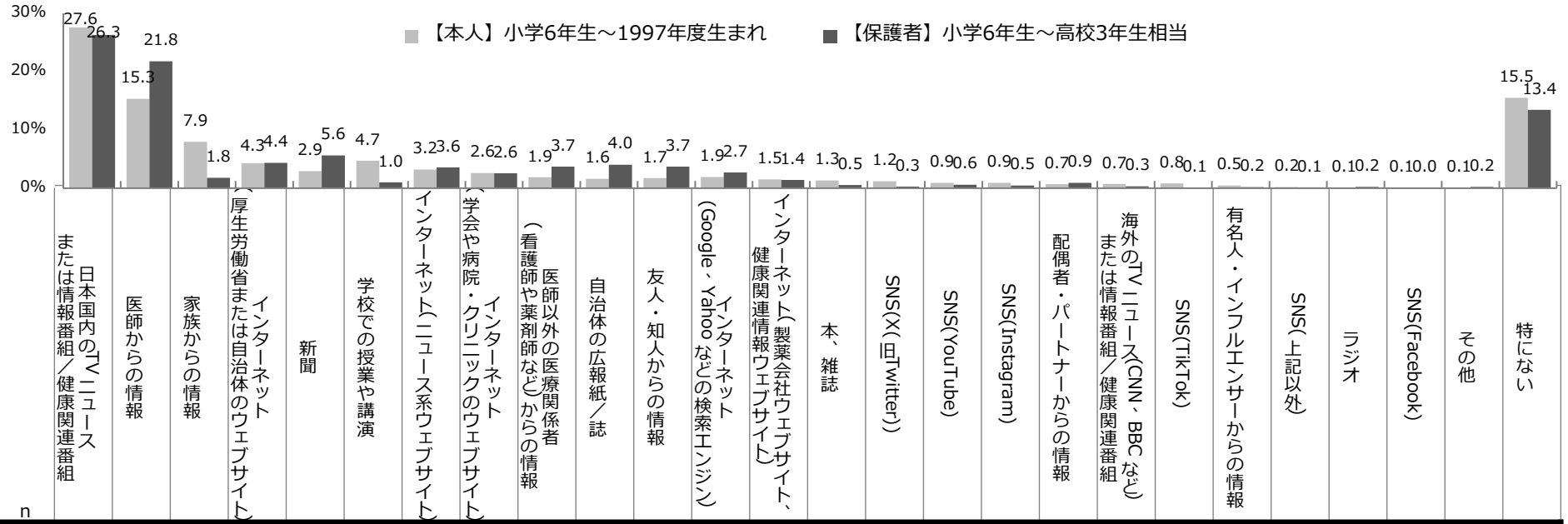
	n	日本国内のTV ニュースまたは情報番組／健康関連番組	インターネット（ニュース系ウェブサイト）	家族からの情報	友人・知人からの情報	自治体の広報紙／誌	学校での授業や講演	医師からの情報	インターネット（Google、Yahoo!などの検索エンジン）	新聞	SNS（X（旧Twitter））	インターネット（厚生労働省または自治体のウェブサイト）	SNS（YouTube）	インターネット（学会や病院・クリニックのウェブサイト）	医師以外の医療関係者（看護師や薬剤師など）からの情報	インターネット（製薬会社ウェブサイト、健康関連情報ウェブサイト）	SNS（Instagram）	本、雑誌	SNS（TikTok）	配偶者・パートナーからの情報	海外のTV ニュース（CNN、BBCなど）または情報番組／健康関連番組	ラジオ	有名人・インフルエンサーからの情報	SNS（Facebook）	SNS（上記以外）	その他	どこからも情報を得ていない
【本人】小学6年～1997年度生まれ	6000	29.5%	12.4%	21.5%	9.2%	8.1%	13.9%	6.9%	6.3%	4.0%	6.9%	4.2%	5.9%	4.3%	3.1%	3.6%	4.7%	3.6%	4.5%	1.3%	1.9%	1.6%	1.6%	0.8%	0.9%	0.5%	28.6%
【保護者】小学6年～高校3年相当	2800	56.4%	27.5%	5.6%	18.5%	20.5%	5.5%	14.4%	11.9%	11.2%	3.4%	7.6%	3.1%	5.6%	7.6%	5.0%	2.4%	4.2%	1.3%	3.0%	1.6%	1.2%	1.0%	0.7%	0.3%	0.9%	11.4%
【本人】小学6年～高校1年相当	2000	28.2%	11.4%	23.9%	11.2%	8.8%	19.6%	7.1%	4.8%	3.7%	3.0%	2.1%	6.4%	2.2%	2.2%	2.0%	5.0%	2.8%	4.8%	1.4%	1.4%	0.8%	0.8%	1.1%	0.6%	0.5%	25.8%
【本人】高校2年・高校3年相当	800	33.6%	15.1%	28.5%	9.4%	6.4%	17.6%	5.9%	7.3%	5.1%	7.4%	4.5%	6.3%	4.8%	2.6%	3.4%	4.5%	3.8%	6.3%	0.8%	2.3%	1.9%	2.5%	0.6%	1.0%	0.4%	23.0%
【本人】1997～2004年度生まれ	3200	29.3%	12.3%	18.2%	7.8%	8.0%	9.5%	7.1%	7.0%	3.8%	9.2%	5.4%	5.6%	5.6%	3.8%	4.6%	4.5%	4.1%	3.9%	1.3%	2.2%	2.0%	1.9%	0.7%	1.0%	0.6%	31.8%
【保護者】小学6年～高校1年相当の保護者	2000	57.0%	28.3%	5.5%	18.1%	19.0%	5.4%	16.3%	11.9%	10.4%	3.7%	7.5%	3.3%	5.3%	8.1%	5.1%	2.6%	4.7%	1.6%	3.1%	1.7%	1.4%	1.0%	0.7%	0.4%	1.0%	11.6%
【保護者】高校2年・高校3年相当の保護者	800	55.1%	25.6%	6.1%	19.8%	24.1%	5.6%	9.8%	11.9%	13.1%	2.5%	7.9%	2.6%	6.3%	6.3%	4.9%	2.0%	3.0%	0.5%	2.8%	1.3%	0.6%	0.9%	0.8%	0.3%	0.8%	10.9%
全体	8800	38.1%	17.2%	16.4%	12.1%	12.0%	11.2%	9.3%	8.1%	6.3%	5.7%	5.3%	5.0%	4.7%	4.5%	4.0%	3.9%	3.8%	3.5%	1.8%	1.8%	1.5%	1.4%	0.8%	0.7%	0.6%	23.1%

※【本人】小学6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンの情報を得る場合に信頼できると思う情報源（1位）

Q：HPVワクチンに関する情報を得る場合に、あなたが/あなたの娘が信頼できると思う情報源についてお聞きします。以下のうち、あなたが/あなたの娘が最も信頼している情報源上位3つをお答えください。

- 本人で最も高いのは、「日本国内のTV」(27.6%) 、次いで「医師からの情報」(15.3%)、「家族からの情報」(7.9%) と続く。
  保護者は、「日本国内のTV」(26.3%)、次いで「医師からの情報」(21.8%)、「新聞」(5.6%)と続く。保護者では「医師からの情報」が本人より高い。
- 本人の割付別でも大きな違いはないが、高校2年・高校3年相当で「日本国内のTV」がやや高い。



	n	日本国内のTVニュースまたは情報番組／健康関連番組	医師からの情報	家族からの情報	インターネット（厚生労働省または自治体のウェブサイト）	新聞	学校での授業や講演	インターネット（ニュース系ウェブサイト）	インターネット（学会や病院・クリニックのウェブサイト）	医師以外の医療関係者（看護師や薬剤師など）からの情報	自治体の広報紙／誌	友人・知人からの情報	インターネット（Google、Yahooなどの検索エンジン）	インターネット（製薬会社ウェブサイト、健康関連情報ウェブサイト）	本、雑誌	SNS(X(旧Twitter))	SNS(YouTube)	SNS(Instagram)	配偶者・パートナーからの情報	海外のTVニュース(CNN、BBCなど)または情報番組／健康関連番組	SNS(TikTok)	有名人・インフルエンサーからの情報	SNS(上記以外)	ラジオ	SNS(Facebook)	その他	特にない
【本人】小学校6年～1997年度生まれ	6000	27.6%	15.3%	7.9%	4.3%	2.9%	4.7%	3.2%	2.6%	1.9%	1.6%	1.7%	1.9%	1.5%	1.3%	1.2%	0.9%	0.9%	0.7%	0.7%	0.8%	0.5%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	15.5%
【保護者】小学校6年～高校3年相当	2800	26.3%	21.8%	1.8%	4.4%	5.6%	1.0%	3.6%	2.6%	3.7%	4.0%	3.7%	2.7%	1.4%	0.5%	0.3%	0.6%	0.5%	0.9%	0.3%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.0%	0.2%	13.4%
【本人】小学校6年～高校1年相当	2000	25.2%	15.0%	11.2%	2.2%	3.1%	8.6%	3.7%	1.8%	1.6%	2.2%	2.9%	1.5%	1.0%	0.6%	0.6%	1.1%	1.0%	0.8%	0.5%	1.6%	0.4%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	13.6%
【本人】高校2年・高校3年相当	800	35.1%	15.6%	6.9%	4.6%	3.3%	4.1%	3.1%	1.5%	2.9%	1.0%	1.3%	2.5%	2.0%	1.1%	1.0%	0.4%	0.5%	0.1%	0.6%	0.8%	1.1%	0.1%	-	-	-	10.4%
【本人】1997～2004年度生まれ	3200	27.2%	15.5%	6.2%	5.6%	2.8%	2.4%	2.9%	3.4%	1.8%	1.4%	1.1%	2.1%	1.7%	1.8%	1.6%	0.9%	0.9%	0.7%	0.9%	0.4%	0.4%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	18.0%
【保護者】小学校6年～高校1年相当の保護者	2000	26.2%	22.9%	1.8%	4.3%	5.0%	1.0%	3.7%	2.6%	3.8%	3.6%	3.8%	2.5%	1.5%	0.6%	0.3%	0.8%	0.5%	0.9%	0.4%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%	-	0.2%	13.3%
【保護者】高校2年・高校3年相当の保護者	800	26.6%	19.1%	1.9%	4.5%	7.3%	1.1%	3.3%	2.5%	3.5%	5.1%	3.6%	3.3%	1.4%	0.4%	0.3%	0.1%	0.5%	1.0%	0.1%	-	-	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	13.9%
全体	8800	27.2%	17.4%	6.0%	4.3%	3.8%	3.5%	3.3%	2.6%	2.4%	2.4%	2.4%	2.2%	1.5%	1.1%	0.9%	0.8%	0.8%	0.8%	0.6%	0.6%	0.4%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	14.8%

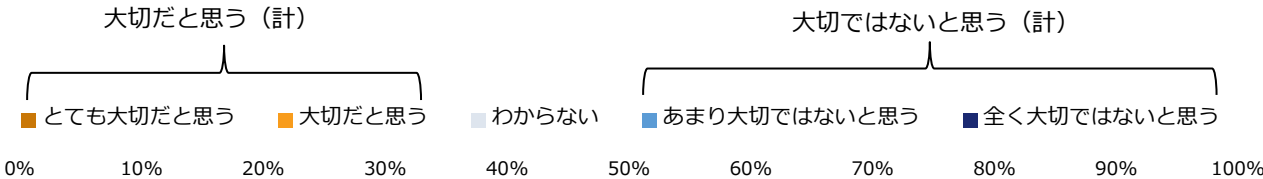
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

学年ごとのクロス集計

予防接種に対する認識

Q1　あなたは、一般的に、予防接種を受けることは大切だと思いますか。

■全体+10pt以上　■全体+5pt以上
■全体－10pt以下　■全体－5pt以下
（n=30以上）　※本人全体、保護者全体で各色付け



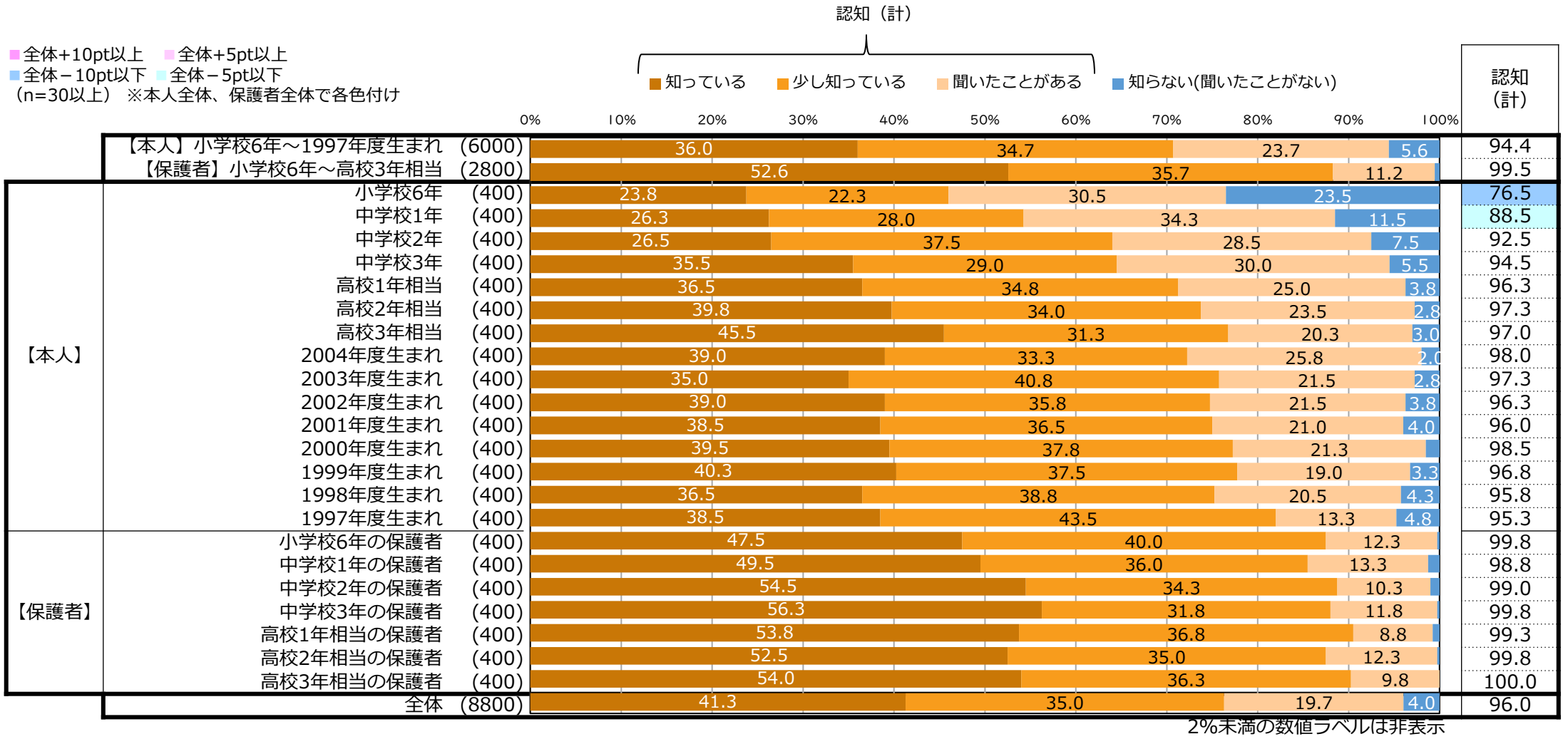
			とても大切だと思う	大切だと思う	わからない	あまり大切ではないと思う	全く大切ではないと思う	大切だと思う（計）	大切ではないと思う（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	25.4	52.6	16.4	4.6		78.1	5.6
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	28.1	54.3	13.1	3.7		82.4	4.5
【本人】	小学校6年	(400)	19.8	48.3	26.5	4.5		68.0	5.5
【本人】	中学校1年	(400)	22.5	44.8	28.0	3.5		67.3	4.8
【本人】	中学校2年	(400)	17.5	49.5	27.8	4.8		67.0	5.3
【本人】	中学校3年	(400)	21.8	52.3	21.5	2.8		74.0	4.5
【本人】	高校1年相当	(400)	21.3	48.3	23.8	6.3		69.5	6.8
【本人】	高校2年相当	(400)	36.8	50.3	8.3	4.5		87.0	4.8
【本人】	高校3年相当	(400)	30.3	52.3	11.8	4.5		82.5	5.8
【本人】	2004年度生まれ	(400)	32.3	51.5	10.3	5.5		83.8	6.0
【本人】	2003年度生まれ	(400)	27.0	56.3	11.5	5.3		83.3	5.3
【本人】	2002年度生まれ	(400)	27.0	56.5	10.5	4.8		83.5	6.0
【本人】	2001年度生まれ	(400)	24.0	58.0	13.3	3.8		82.0	4.8
【本人】	2000年度生まれ	(400)	29.3	54.5	11.5	4.5		83.8	4.8
【本人】	1999年度生まれ	(400)	25.0	53.0	13.5	6.8		78.0	8.5
【本人】	1998年度生まれ	(400)	21.8	56.0	16.5	4.3		77.8	5.8
【本人】	1997年度生まれ	(400)	25.3	58.3	11.5	3.0		83.5	5.0
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	30.5	55.3	9.8	3.3		85.8	4.5
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	30.0	50.8	15.0	2.8		80.8	4.3
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	29.0	54.3	13.0	2.8		83.3	3.8
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	32.3	51.0	12.3	3.5		83.3	4.5
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	27.3	53.0	15.0	4.8		80.3	4.8
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	23.0	58.0	12.8	5.5		81.0	6.3
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	24.8	57.8	14.3	3.3		82.5	3.3
	全体	(8800)	26.3	53.2	15.4	4.3		79.4	5.2

2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンの知識【「子宮頸がん」の認知状況】

Q2S1 あなたは以下について、どの程度知っていますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[「子宮頸(けい)がん」という病気について]



■全体+10pt以上　■全体+5pt以上
■全体－10pt以下　■全体－5pt以下
（n=30以上）　※本人全体、保護者全体で各色付け

			知っている	少し知っている	聞いたことがある	知らない(聞いたことがない)	認知(計)
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	36.0	34.7	23.7	5.6	94.4
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	52.6	35.7	11.2		99.5
【本人】	小学校6年	(400)	23.8	22.3	30.5	23.5	76.5
【本人】	中学校1年	(400)	26.3	28.0	34.3	11.5	88.5
【本人】	中学校2年	(400)	26.5	37.5	28.5	7.5	92.5
【本人】	中学校3年	(400)	35.5	29.0	30.0	5.5	94.5
【本人】	高校1年相当	(400)	36.5	34.8	25.0	3.8	96.3
【本人】	高校2年相当	(400)	39.8	34.0	23.5	2.8	97.3
【本人】	高校3年相当	(400)	45.5	31.3	20.3	3.0	97.0
【本人】	2004年度生まれ	(400)	39.0	33.3	25.8	2.0	98.0
【本人】	2003年度生まれ	(400)	35.0	40.8	21.5	2.8	97.3
【本人】	2002年度生まれ	(400)	39.0	35.8	21.5	3.8	96.3
【本人】	2001年度生まれ	(400)	38.5	36.5	21.0	4.0	96.0
【本人】	2000年度生まれ	(400)	39.5	37.8	21.3		98.5
【本人】	1999年度生まれ	(400)	40.3	37.5	19.0	3.3	96.8
【本人】	1998年度生まれ	(400)	36.5	38.8	20.5	4.3	95.8
【本人】	1997年度生まれ	(400)	38.5	43.5	13.3	4.8	95.3
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	47.5	40.0	12.3		99.8
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	49.5	36.0	13.3		98.8
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	54.5	34.3	10.3		99.0
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	56.3	31.8	11.8		99.8
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	53.8	36.8	8.8		99.3
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	52.5	35.0	12.3		99.8
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	54.0	36.3	9.8		100.0
	全体	(8800)	41.3	35.0	19.7	4.0	96.0

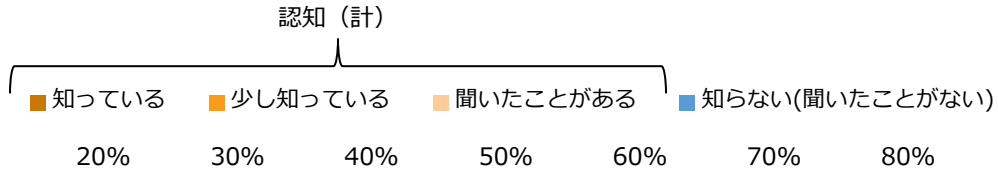
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンの知識【「HPVワクチン」の認知状況】

Q2S2　あなたは以下について、どの程度知っていますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
［「ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン」について］

■全体+10pt以上　■全体+5pt以上
■全体－10pt以下　■全体－5pt以下
（n=30以上）　※本人全体、保護者全体で各色付け



		知っている	少し知っている	聞いたことがある	知らない(聞いたことがない)	認知（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ (6000)	21.0	20.6	22.3	36.1	63.9
	【保護者】小学校6年～高校3年相当 (2800)	36.4	31.2	18.1	14.4	85.6
【本人】	小学校6年 (400)	13.8	13.8	16.8	55.8	44.3
【本人】	中学校1年 (400)	16.5	17.8	21.0	44.8	55.3
【本人】	中学校2年 (400)	17.5	20.0	27.3	35.3	64.8
【本人】	中学校3年 (400)	25.5	19.3	24.3	31.0	69.0
【本人】	高校1年相当 (400)	28.8	22.0	22.0	27.3	72.8
【本人】	高校2年相当 (400)	19.0	17.8	23.8	39.5	60.5
【本人】	高校3年相当 (400)	17.0	17.8	23.5	41.8	58.3
【本人】	2004年度生まれ (400)	19.8	20.3	26.3	33.8	66.3
【本人】	2003年度生まれ (400)	22.8	23.3	19.0	35.0	65.0
【本人】	2002年度生まれ (400)	24.3	23.0	19.5	33.3	66.8
【本人】	2001年度生まれ (400)	24.0	25.8	19.3	31.0	69.0
【本人】	2000年度生まれ (400)	24.0	20.0	26.3	29.8	70.3
【本人】	1999年度生まれ (400)	22.8	21.5	22.3	33.5	66.5
【本人】	1998年度生まれ (400)	18.5	23.8	24.0	33.8	66.3
【本人】	1997年度生まれ (400)	20.8	23.8	18.8	36.8	63.3
【保護者】	小学校6年の保護者 (400)	29.5	30.5	21.0	19.0	81.0
【保護者】	中学校1年の保護者 (400)	32.3	34.0	19.5	14.3	85.8
【保護者】	中学校2年の保護者 (400)	38.0	31.5	17.3	13.3	86.8
【保護者】	中学校3年の保護者 (400)	43.3	27.5	18.8	10.5	89.5
【保護者】	高校1年相当の保護者 (400)	40.5	30.3	16.8	12.5	87.5
【保護者】	高校2年相当の保護者 (400)	35.8	31.3	17.8	15.3	84.8
【保護者】	高校3年相当の保護者 (400)	35.5	33.3	15.5	15.8	84.3
	全体 (8800)	25.9	24.0	20.9	29.2	70.8

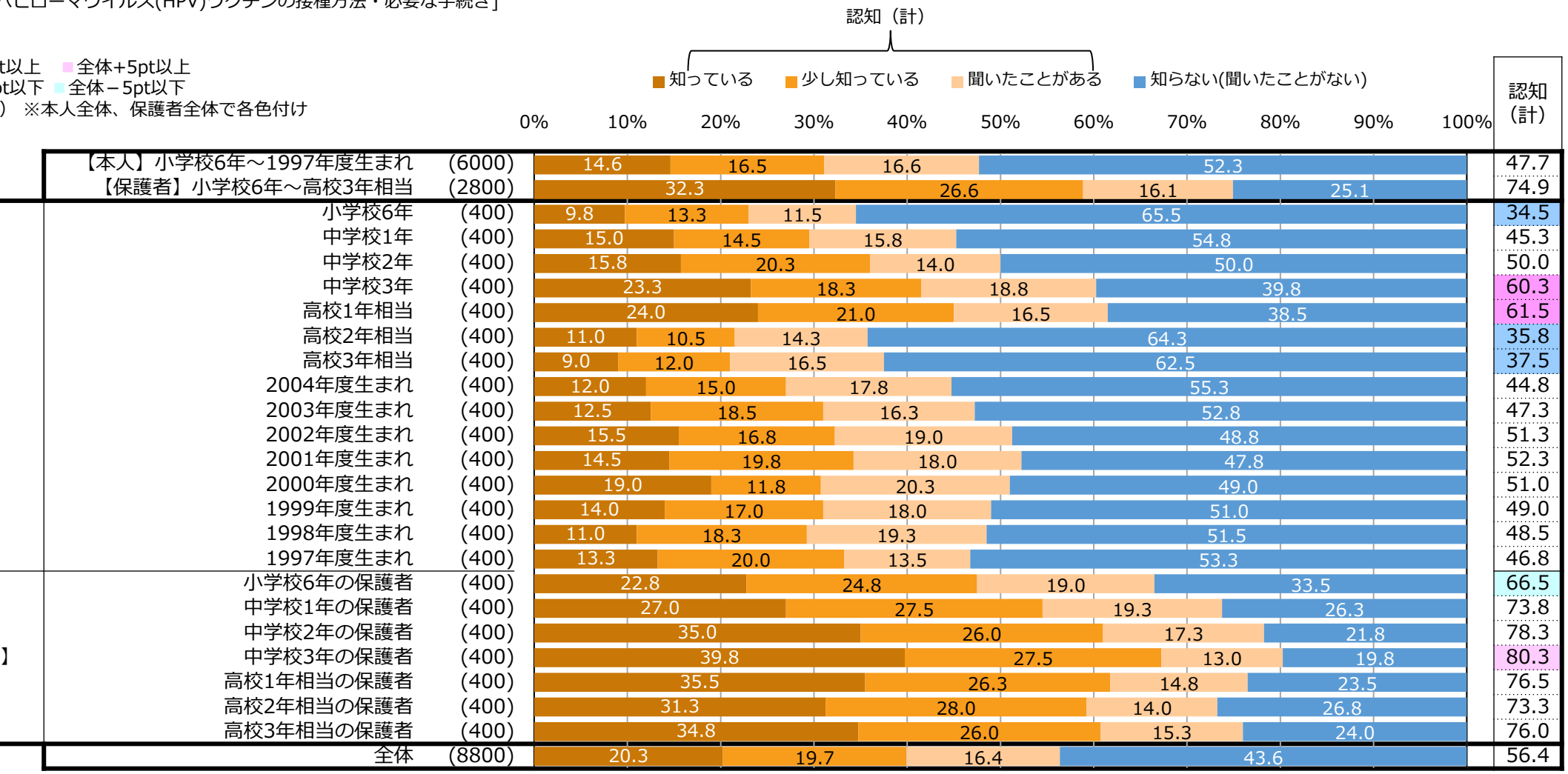
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンの知識【「HPVワクチンの接種方法・必要な手続き」の認知状況】

Q2S3　あなたは以下について、どの程度知っていますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンの接種方法・必要な手続き]

■全体+10pt以上　■全体+5pt以上
■全体－10pt以下　■全体－5pt以下
（n=30以上）　※本人全体、保護者全体で各色付け



			知っている	少し知っている	聞いたことがある	知らない(聞いたことがない)	認知（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	14.6	16.5	16.6	52.3	47.7
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	32.3	26.6	16.1	25.1	74.9
【本人】	小学校6年	(400)	9.8	13.3	11.5	65.5	34.5
	中学校1年	(400)	15.0	14.5	15.8	54.8	45.3
	中学校2年	(400)	15.8	20.3	14.0	50.0	50.0
	中学校3年	(400)	23.3	18.3	18.8	39.8	60.3
	高校1年相当	(400)	24.0	21.0	16.5	38.5	61.5
	高校2年相当	(400)	11.0	10.5	14.3	64.3	35.8
	高校3年相当	(400)	9.0	12.0	16.5	62.5	37.5
	2004年度生まれ	(400)	12.0	15.0	17.8	55.3	44.8
	2003年度生まれ	(400)	12.5	18.5	16.3	52.8	47.3
	2002年度生まれ	(400)	15.5	16.8	19.0	48.8	51.3
	2001年度生まれ	(400)	14.5	19.8	18.0	47.8	52.3
	2000年度生まれ	(400)	19.0	11.8	20.3	49.0	51.0
	1999年度生まれ	(400)	14.0	17.0	18.0	51.0	49.0
	1998年度生まれ	(400)	11.0	18.3	19.3	51.5	48.5
	1997年度生まれ	(400)	13.3	20.0	13.5	53.3	46.8
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	22.8	24.8	19.0	33.5	66.5
	中学校1年の保護者	(400)	27.0	27.5	19.3	26.3	73.8
	中学校2年の保護者	(400)	35.0	26.0	17.3	21.8	78.3
	中学校3年の保護者	(400)	39.8	27.5	13.0	19.8	80.3
	高校1年相当の保護者	(400)	35.5	26.3	14.8	23.5	76.5
	高校2年相当の保護者	(400)	31.3	28.0	14.0	26.8	73.3
	高校3年相当の保護者	(400)	34.8	26.0	15.3	24.0	76.0
	全体	(8800)	20.3	19.7	16.4	43.6	56.4

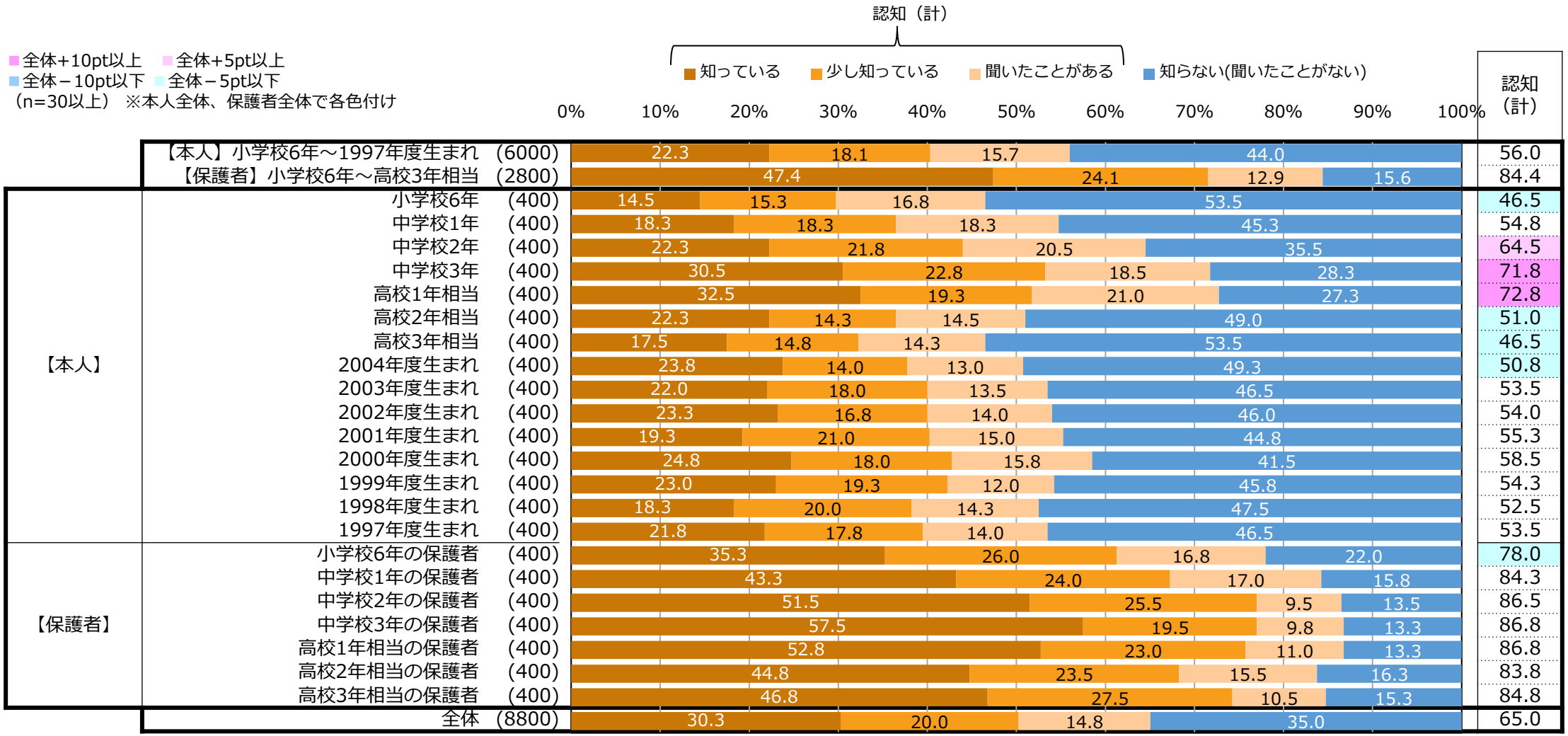
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンの知識【「政府が、小学校6年～高校1年相当に該当する女性に、HPVワクチンの接種を積極的にお勧めしていること」の認知状況】

Q2S4　あなたは以下について、どの程度知っていますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[政府が、小学校6年～高校1年相当に該当する女性に、ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンの接種を積極的にお勧めしていること]

■全体+10pt以上　■全体+5pt以上
■全体－10pt以下　■全体－5pt以下
（n=30以上）　※本人全体、保護者全体で各色付け



			知っている	少し知っている	聞いたことがある	知らない(聞いたことがない)	認知（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	22.3	18.1	15.7	44.0	56.0
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	47.4	24.1	12.9	15.6	84.4
【本人】	小学校6年	(400)	14.5	15.3	16.8	53.5	46.5
	中学校1年	(400)	18.3	18.3	18.3	45.3	54.8
	中学校2年	(400)	22.3	21.8	20.5	35.5	64.5
	中学校3年	(400)	30.5	22.8	18.5	28.3	71.8
	高校1年相当	(400)	32.5	19.3	21.0	27.3	72.8
	高校2年相当	(400)	22.3	14.3	14.5	49.0	51.0
	高校3年相当	(400)	17.5	14.8	14.3	53.5	46.5
	2004年度生まれ	(400)	23.8	14.0	13.0	49.3	50.8
	2003年度生まれ	(400)	22.0	18.0	13.5	46.5	53.5
	2002年度生まれ	(400)	23.3	16.8	14.0	46.0	54.0
	2001年度生まれ	(400)	19.3	21.0	15.0	44.8	55.3
	2000年度生まれ	(400)	24.8	18.0	15.8	41.5	58.5
	1999年度生まれ	(400)	23.0	19.3	12.0	45.8	54.3
	1998年度生まれ	(400)	18.3	20.0	14.3	47.5	52.5
	1997年度生まれ	(400)	21.8	17.8	14.0	46.5	53.5
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	35.3	26.0	16.8	22.0	78.0
	中学校1年の保護者	(400)	43.3	24.0	17.0	15.8	84.3
	中学校2年の保護者	(400)	51.5	25.5	9.5	13.5	86.5
	中学校3年の保護者	(400)	57.5	19.5	9.8	13.3	86.8
	高校1年相当の保護者	(400)	52.8	23.0	11.0	13.3	86.8
	高校2年相当の保護者	(400)	44.8	23.5	15.5	16.3	83.8
	高校3年相当の保護者	(400)	46.8	27.5	10.5	15.3	84.8
	全体	(8800)	30.3	20.0	14.8	35.0	65.0

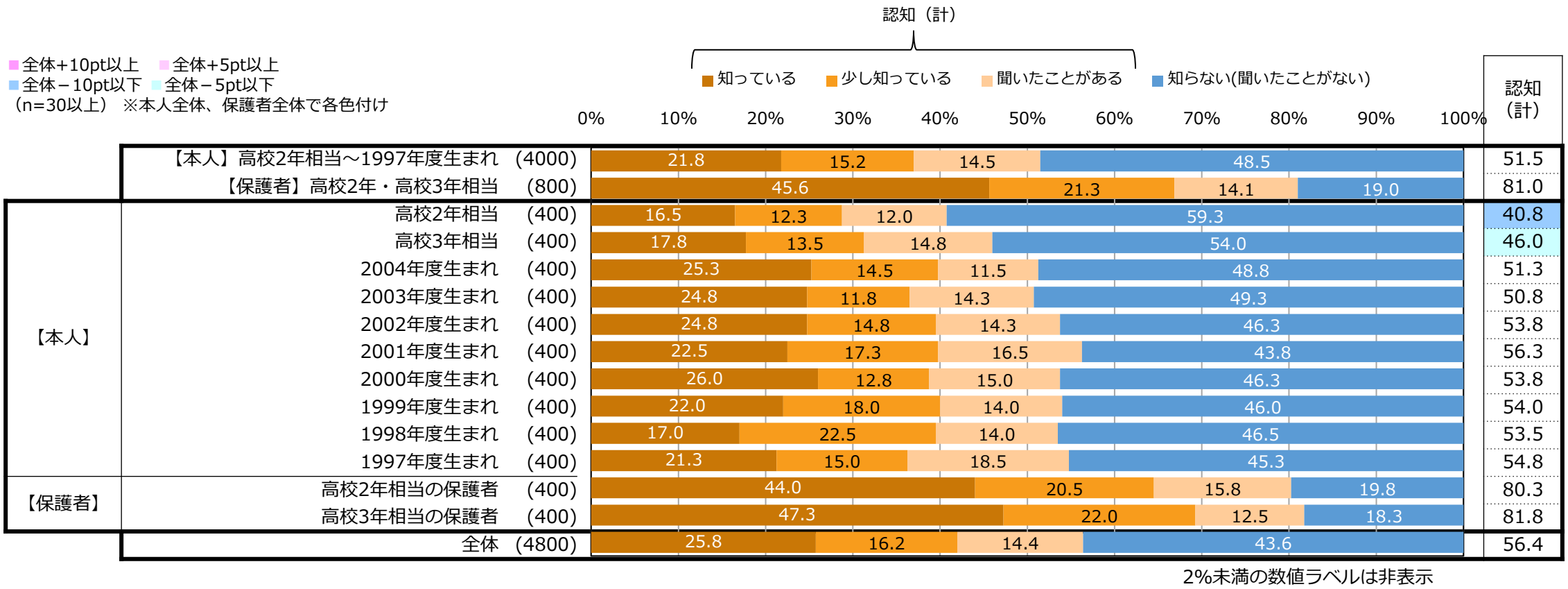
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンの知識【「政府が、1997～2006年度生まれの女性に対しても、HPVワクチンを公費で接種できる機会を提供していること(キャッチアップ接種)」の認知状況】

Q2S5　あなたは以下について、どの程度知っていますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[政府が、1997～2006年度生まれの女性に対しても、HPVワクチンを公費で接種できる機会を提供していること(キャッチアップ接種)]

■全体+10pt以上　■全体+5pt以上
■全体－10pt以下　■全体－5pt以下
（n=30以上）　※本人全体、保護者全体で各色付け



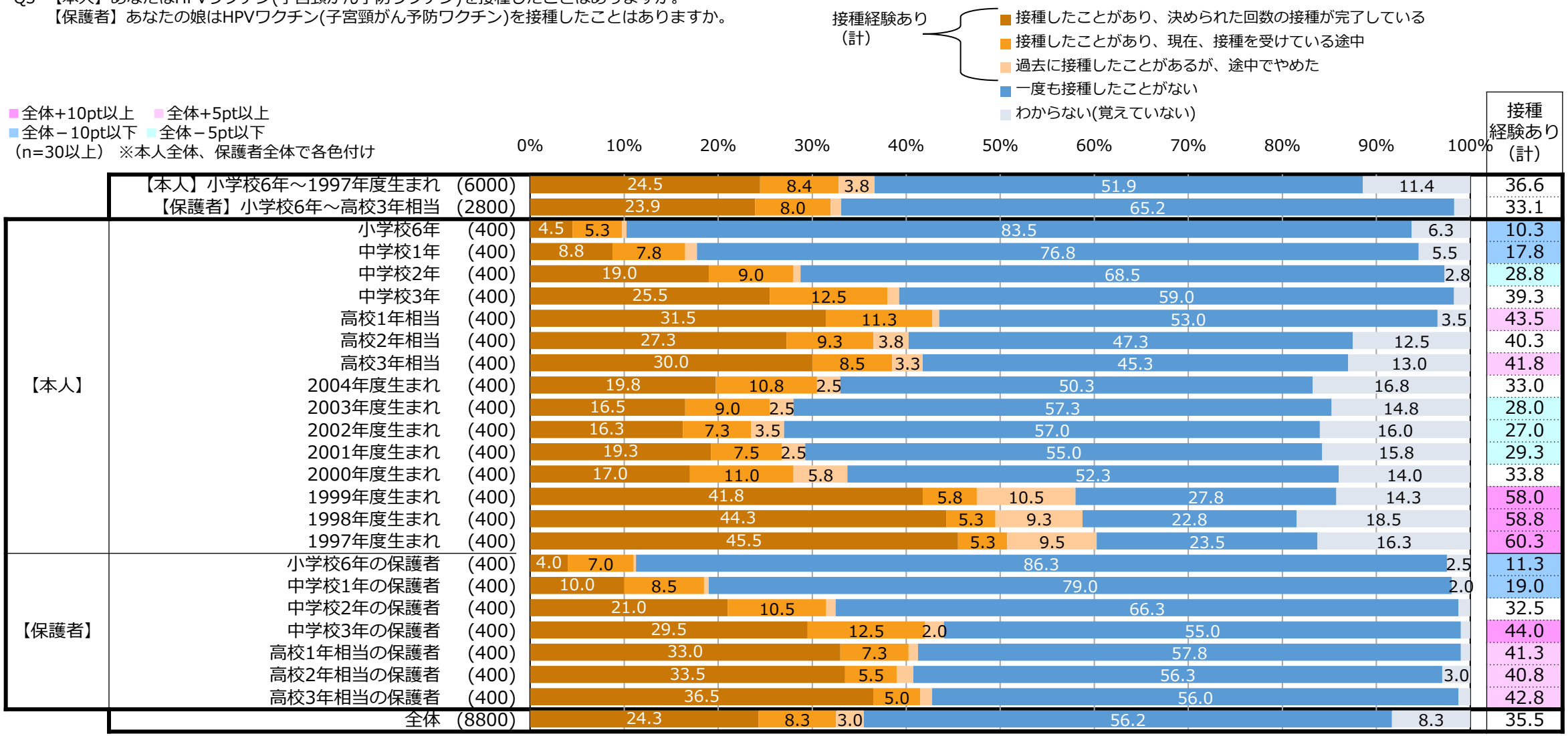
			知っている	少し知っている	聞いたことがある	知らない(聞いたことがない)	認知（計）
	【本人】高校2年相当～1997年度生まれ	(4000)	21.8	15.2	14.5	48.5	51.5
	【保護者】高校2年・高校3年相当	(800)	45.6	21.3	14.1	19.0	81.0
【本人】	高校2年相当	(400)	16.5	12.3	12.0	59.3	40.8
【本人】	高校3年相当	(400)	17.8	13.5	14.8	54.0	46.0
【本人】	2004年度生まれ	(400)	25.3	14.5	11.5	48.8	51.3
【本人】	2003年度生まれ	(400)	24.8	11.8	14.3	49.3	50.8
【本人】	2002年度生まれ	(400)	24.8	14.8	14.3	46.3	53.8
【本人】	2001年度生まれ	(400)	22.5	17.3	16.5	43.8	56.3
【本人】	2000年度生まれ	(400)	26.0	12.8	15.0	46.3	53.8
【本人】	1999年度生まれ	(400)	22.0	18.0	14.0	46.0	54.0
【本人】	1998年度生まれ	(400)	17.0	22.5	14.0	46.5	53.5
【本人】	1997年度生まれ	(400)	21.3	15.0	18.5	45.3	54.8
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	44.0	20.5	15.8	19.8	80.3
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	47.3	22.0	12.5	18.3	81.8
	全体	(4800)	25.8	16.2	14.4	43.6	56.4

2%未満の数値ラベルは非表示

※本設問は、高校2年相当～1997年度生まれの女性本人、高校2年・高校3年相当の保護者のみに聴取

HPVワクチン接種経験

Q3　【本人】あなたはHPVワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)を接種したことはありますか。
　　【保護者】あなたの娘はHPVワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)を接種したことはありますか。



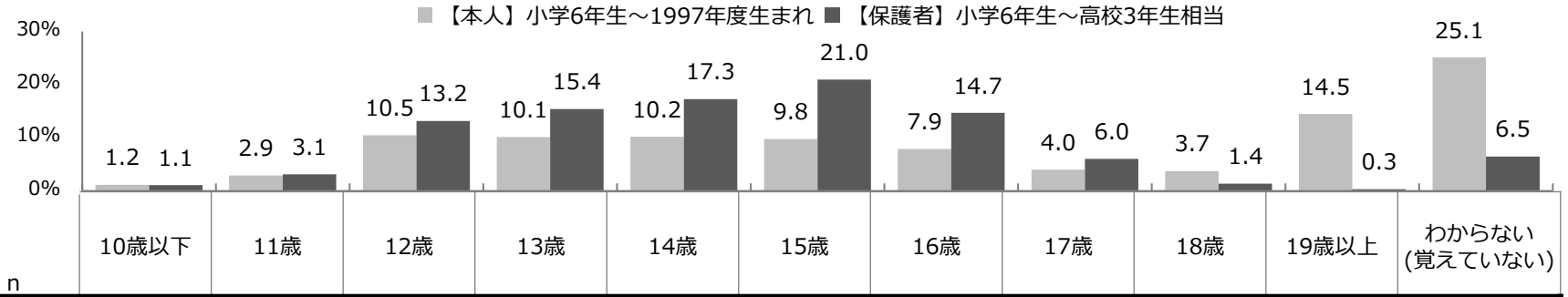
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンの1回目の接種年齢

Q4　（前問で、接種したことがある（「決められた回数の接種が完了している」「現在、接種を受けている途中」「過去に接種したことがあるが、途中でやめた」）と回答した人のみ）

【本人】あなたが、HPVワクチンの1回目の接種を受けたのは何歳の時かお答えください。
【保護者】あなたの娘が、HPVワクチンの1回目の接種を受けたのは何歳の時かお答えください。



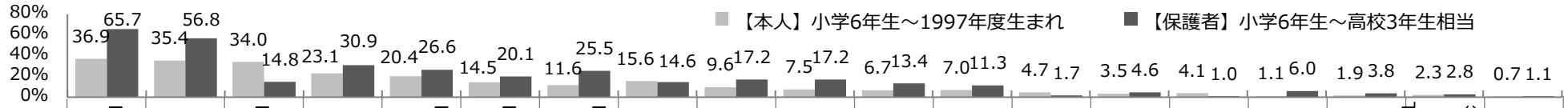
■全体+10pt以上　■全体+5pt以上
■全体－10pt以下　■全体－5pt以下
（n=30以上）※本人全体、保護者全体で各色付け

		n	10歳以下	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳以上	わからない(覚えていない)
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	2198	1.2%	2.9%	10.5%	10.1%	10.2%	9.8%	7.9%	4.0%	3.7%	14.5%	25.1%
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	926	1.1%	3.1%	13.2%	15.4%	17.3%	21.0%	14.7%	6.0%	1.4%	0.3%	6.5%
【本人】	小学校6年	41	4.9%	31.7%	61.0%	-	-	-	-	-	-	-	2.4%
	中学校1年	71	1.4%	8.5%	53.5%	32.4%	-	-	-	-	-	-	4.2%
	中学校2年	115	0.9%	7.0%	33.0%	35.7%	15.7%	-	-	-	-	-	7.8%
	中学校3年	157	-	1.9%	15.9%	18.5%	35.0%	22.3%	-	-	-	-	6.4%
	高校1年相当	174	1.1%	1.1%	8.6%	8.6%	14.4%	36.2%	21.3%	-	-	-	8.6%
	高校2年相当	161	0.6%	-	3.7%	5.0%	7.5%	24.2%	33.5%	9.9%	-	-	15.5%
	高校3年相当	167	0.6%	1.8%	4.8%	4.8%	4.8%	13.8%	23.4%	21.0%	5.4%	-	19.8%
	2004年度生まれ	132	0.8%	1.5%	3.0%	1.5%	6.1%	9.1%	4.5%	15.2%	28.0%	17.4%	12.9%
	2003年度生まれ	112	-	0.9%	-	2.7%	0.9%	-	8.9%	2.7%	12.5%	55.4%	16.1%
	2002年度生まれ	108	1.9%	0.9%	0.9%	3.7%	0.9%	2.8%	1.9%	2.8%	3.7%	64.8%	15.7%
	2001年度生まれ	117	0.9%	-	4.3%	3.4%	3.4%	3.4%	2.6%	4.3%	1.7%	63.2%	12.8%
	2000年度生まれ	135	1.5%	2.2%	5.2%	8.1%	8.1%	3.7%	3.0%	-	3.0%	38.5%	26.7%
	1999年度生まれ	232	0.9%	3.9%	7.8%	14.2%	7.8%	3.4%	3.0%	0.4%	1.7%	8.6%	48.3%
	1998年度生まれ	235	1.3%	3.0%	10.6%	9.8%	12.8%	4.3%	1.7%	0.9%	0.9%	4.7%	50.2%
	1997年度生まれ	241	2.9%	2.5%	6.6%	7.9%	13.7%	5.4%	3.3%	1.2%	2.5%	2.9%	51.0%
【保護者】	小学校6年の保護者	45	4.4%	22.2%	57.8%	2.2%	-	-	-	-	-	-	13.3%
	中学校1年の保護者	76	2.6%	6.6%	52.6%	32.9%	-	-	-	-	-	-	5.3%
	中学校2年の保護者	130	1.5%	6.2%	17.7%	43.8%	20.8%	0.8%	1.5%	-	-	-	7.7%
	中学校3年の保護者	176	1.7%	2.8%	10.8%	18.2%	44.3%	17.0%	1.1%	-	-	-	4.0%
	高校1年相当の保護者	165	0.6%	-	4.2%	8.5%	20.0%	39.4%	18.2%	-	-	0.6%	8.5%
	高校2年相当の保護者	163	-	0.6%	1.2%	4.9%	8.6%	38.0%	33.1%	9.2%	1.2%	-	3.1%
	高校3年相当の保護者	171	-	-	2.9%	3.5%	4.7%	21.1%	28.1%	24.0%	6.4%	1.2%	8.2%
	全体	3124	1.2%	3.0%	11.3%	11.7%	12.3%	13.1%	9.9%	4.6%	3.0%	10.3%	19.6%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンを接種した/させた理由

（前問で、接種したことがある（「決められた回数の接種が完了している」「現在、接種を受けている途中」「過去に接種したことがあるが、途中でやめた」）と回答した人のみ）
Q5S1 【本人】あなたがHPVワクチンを接種した理由として、あてはまるものをすべてお答えください。
Q5S2 【保護者】あなたが、あなたの娘にHPVワクチンを接種させた理由として、あてはまるものをすべてお答えください。



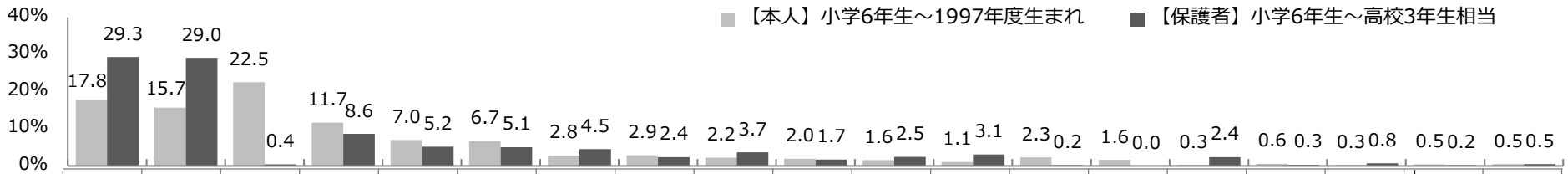
■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上）
※本人全体、保護者全体で各色付け

		n	HPVワクチンは有効だと思っているから	子宮頸がんは危険だと思ったから	母親（私が娘）にHPVワクチンの接種を勧められたから	HPVワクチンを公費（無料）で接種できたから	HPVワクチンの接種の案内が送られてきたから	HPVワクチンは安全だと思っているから	HPVワクチンの接種を受けていたから	HPVワクチンの接種を受けるのに適切な時期だと思ったから	友人・知人（の娘）たちも、HPVワクチンの接種を受けていたから	将来HPVに感染する可能性があると思ったから	政府がHPVワクチンの積極的勧奨を再開したから	かかりつけの病院の医師や看護師にHPVワクチンの接種を勧められたから	接種を決断するのに十分な情報を持っていたから	その他の家族にHPVワクチンの接種を勧められたから	過去に予防接種で嫌な思いをしたことがないから	学校の先生に接種を勧められたから	娘がHPVワクチン接種を希望していたから	HPVワクチンの接種を勧めていたからなどで、医師や看護師がHPVワクチンの接種を勧められたから	父親（配偶者／パートナー）にHPVワクチンの接種を勧められたから	その他
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	2198	36.9%	35.4%	34.0%	23.1%	20.4%	14.5%	11.6%	15.6%	9.6%	7.5%	6.7%	7.0%	4.7%	3.5%	4.1%	1.1%	1.9%	2.3%	0.7%
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	926	65.7%	56.8%	14.8%	30.9%	26.6%	20.1%	25.5%	14.6%	17.2%	17.2%	13.4%	11.3%	1.7%	4.6%	1.0%	6.0%	3.8%	2.8%	1.1%
【本人】	小学校6年	41	34.1%	31.7%	31.7%	24.4%	17.1%	29.3%	17.1%	19.5%	17.1%	9.8%	12.2%	12.2%	2.4%	9.8%	4.9%	9.8%	7.3%	4.9%	-
	中学校1年	71	47.9%	42.3%	26.8%	31.0%	32.4%	12.7%	18.3%	9.9%	9.9%	9.9%	12.7%	8.5%	1.4%	8.5%	-	1.4%	2.8%	2.8%	1.4%
	中学校2年	115	58.3%	45.2%	30.4%	22.6%	18.3%	17.4%	19.1%	13.0%	16.5%	7.8%	13.9%	10.4%	2.6%	1.7%	-	4.3%	1.7%	3.5%	-
	中学校3年	157	58.0%	46.5%	23.6%	22.3%	15.9%	22.3%	21.0%	20.4%	8.9%	10.8%	9.6%	10.2%	3.8%	1.9%	1.3%	3.8%	1.3%	0.6%	1.9%
	高校1年相当	174	60.3%	51.1%	28.2%	29.3%	24.7%	19.0%	18.4%	19.0%	14.9%	11.5%	14.9%	10.3%	1.7%	3.4%	0.6%	5.2%	2.3%	1.1%	0.6%
	高校2年相当	161	34.8%	39.8%	45.3%	25.5%	20.5%	14.3%	14.3%	17.4%	9.3%	9.9%	6.2%	6.8%	7.5%	3.1%	3.7%	-	2.5%	3.7%	-
	高校3年相当	167	27.5%	42.5%	43.7%	16.8%	20.4%	16.8%	13.2%	21.6%	9.0%	9.0%	4.8%	6.6%	3.0%	4.8%	6.0%	-	2.4%	1.8%	1.2%
	2004年度生まれ	132	37.9%	40.2%	31.8%	22.0%	21.2%	18.9%	9.8%	16.7%	9.8%	10.6%	5.3%	9.1%	5.3%	4.5%	2.3%	-	3.0%	0.8%	0.8%
	2003年度生まれ	112	36.6%	34.8%	28.6%	21.4%	20.5%	19.6%	10.7%	12.5%	18.8%	10.7%	5.4%	7.1%	8.0%	6.3%	2.7%	-	0.9%	0.9%	-
	2002年度生まれ	108	45.4%	29.6%	38.0%	22.2%	24.1%	19.4%	9.3%	11.1%	9.3%	10.2%	6.5%	10.2%	4.6%	6.5%	4.6%	-	1.9%	3.7%	-
	2001年度生まれ	117	36.8%	35.0%	27.4%	29.9%	17.9%	12.0%	3.4%	13.7%	11.1%	4.3%	7.7%	6.0%	5.1%	1.7%	0.9%	-	0.9%	2.6%	1.7%
	2000年度生まれ	135	37.0%	32.6%	28.9%	19.3%	20.7%	14.1%	10.4%	12.6%	10.4%	11.1%	6.7%	5.9%	5.2%	2.2%	3.7%	-	4.4%	2.2%	0.7%
	1999年度生まれ	232	28.0%	22.4%	36.6%	24.1%	21.6%	12.1%	8.2%	17.2%	5.6%	3.4%	3.4%	4.7%	6.9%	3.9%	6.5%	-	0.9%	2.6%	1.3%
	1998年度生まれ	235	20.9%	23.0%	37.4%	20.4%	15.3%	4.3%	4.3%	11.1%	3.0%	2.1%	1.3%	3.4%	5.5%	1.3%	7.7%	-	0.9%	2.6%	-
	1997年度生まれ	241	21.6%	29.0%	36.9%	21.6%	20.7%	7.9%	8.3%	14.9%	7.5%	2.5%	3.7%	4.1%	4.1%	2.1%	7.9%	-	0.8%	2.5%	0.4%
【保護者】	小学校6年の保護者	45	53.3%	46.7%	15.6%	28.9%	33.3%	13.3%	26.7%	13.3%	24.4%	8.9%	11.1%	13.3%	2.2%	8.9%	2.2%	6.7%	6.7%	6.7%	2.2%
	中学校1年の保護者	76	61.8%	61.8%	9.2%	34.2%	42.1%	23.7%	32.9%	10.5%	14.5%	19.7%	15.8%	14.5%	1.3%	9.2%	-	1.3%	2.6%	5.3%	-
	中学校2年の保護者	130	66.9%	59.2%	16.2%	27.7%	23.1%	23.8%	29.2%	11.5%	19.2%	13.1%	19.2%	13.1%	3.1%	5.4%	1.5%	3.8%	3.8%	0.8%	-
	中学校3年の保護者	176	71.0%	56.3%	14.8%	27.8%	19.9%	14.2%	25.6%	15.9%	19.3%	17.0%	10.2%	11.9%	1.7%	4.5%	0.6%	7.4%	5.1%	3.4%	1.1%
	高校1年相当の保護者	165	65.5%	58.8%	13.9%	28.5%	27.3%	23.6%	20.0%	15.2%	17.0%	14.5%	20.6%	9.1%	1.8%	2.4%	0.6%	5.5%	3.0%	3.6%	1.2%
	高校2年相当の保護者	163	68.7%	53.4%	14.1%	33.7%	30.1%	22.1%	25.8%	12.3%	11.7%	20.9%	7.4%	9.2%	1.8%	3.1%	1.8%	7.4%	3.1%	2.5%	1.2%
	高校3年相当の保護者	171	61.4%	57.3%	17.5%	35.1%	23.4%	18.1%	24.0%	19.3%	18.1%	20.5%	10.5%	11.7%	0.6%	4.7%	0.6%	7.6%	3.5%	1.2%	1.8%
	全体	3124	45.5%	41.7%	28.3%	25.4%	22.2%	16.1%	15.7%	15.3%	11.9%	10.3%	8.7%	8.3%	3.8%	3.8%	3.2%	2.6%	2.4%	2.4%	0.8%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答。
また、小学校6年～高校1年相当の女性に対しては、「娘がHPVワクチン接種を希望していたから」「私が娘にHPVワクチンの接種を勧めたから」の双方が表示されていた

最も影響が大きかった理由

Q5S3 その中で、最も影響が大きかった理由をお答えください。



■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上）※本人全体、保護者全体で各色付け

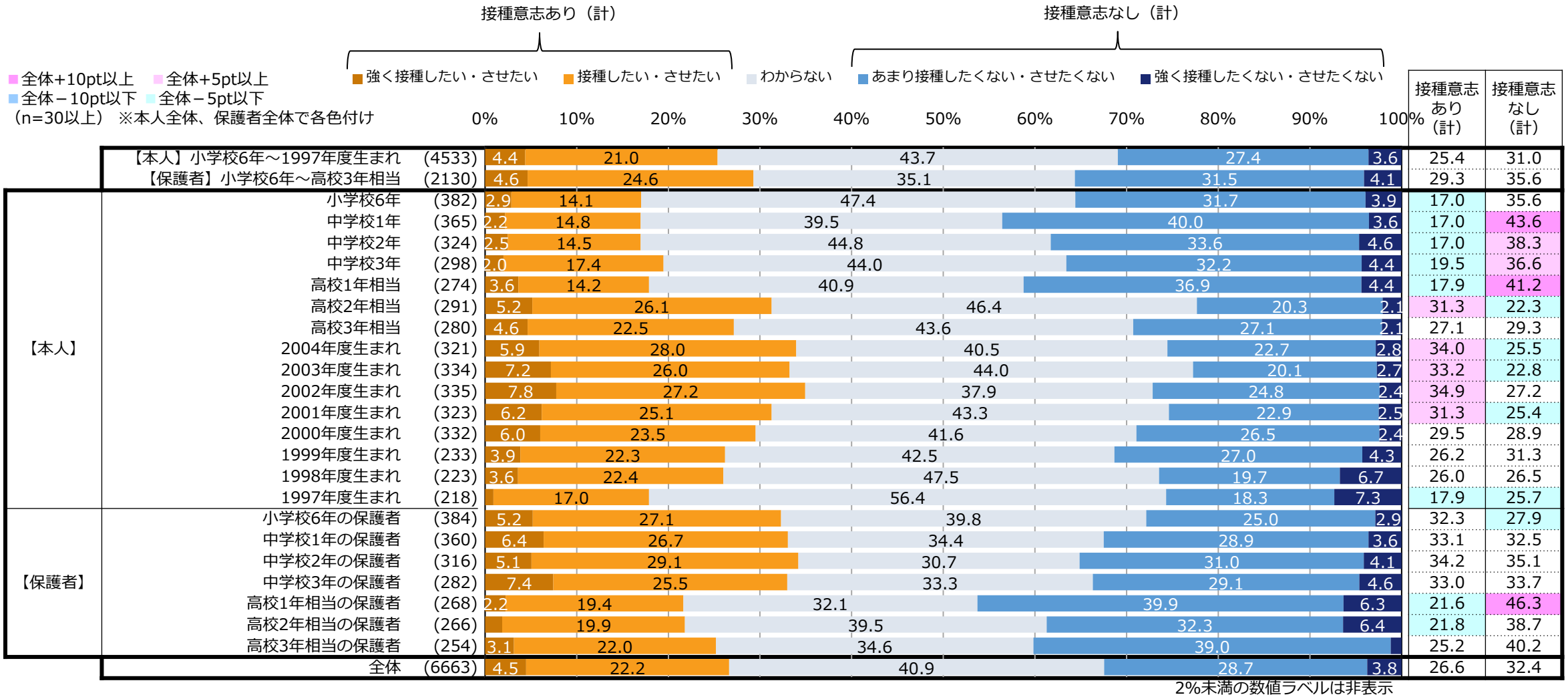
		n	子宮頸がんは危険だと思ったから	HPVワクチンは有効だと思っているから	母親（私が娘）にHPVワクチンの接種を勧められたから	HPVワクチンを公費（無料）で接種できたから	HPVワクチンの接種の案内が送られてきたから	友人・知人（の娘）たちも、HPVワクチンの接種を受けていたから	かかりつけの病院の医師や看護師にHPVワクチンの接種を勧められたから	HPVワクチンは安全だと思っているから	将来、HPVに感染する可能性があると思ったから	接種を決断するのに十分な情報を持っていたから	HPVワクチンの接種を受けるのに適切な時期だと思ったから	政府がHPVワクチンの積極的勧奨を再開したから	その他の家族にHPVワクチンの接種を勧められたから	学校の先生に接種を勧められたから	娘がHPVワクチン接種を希望していたから	父親（配偶者、パートナー）にHPVワクチンの接種を勧められたから	TVやインターネットなどで、医師や看護師がHPVワクチンの接種を勧めていたから	過去に予防接種で嫌な思いをしたことがあるから	その他
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	2198	17.8%	15.7%	22.5%	11.7%	7.0%	6.7%	2.8%	2.9%	2.2%	2.0%	1.6%	1.1%	2.3%	1.6%	0.3%	0.6%	0.3%	0.5%	0.5%
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	926	29.3%	29.0%	0.4%	8.6%	5.2%	5.1%	4.5%	2.4%	3.7%	1.7%	2.5%	3.1%	0.2%	-	2.4%	0.3%	0.8%	0.2%	0.5%
【本人】	小学校6年	41	22.0%	17.1%	4.9%	7.3%	2.4%	9.8%	7.3%	14.6%	7.3%	2.4%	2.4%	2.4%	-	-	-	-	-	-	-
	中学校1年	71	18.3%	33.8%	8.5%	9.9%	9.9%	1.4%	7.0%	1.4%	2.8%	1.4%	2.8%	-	1.4%	-	-	-	-	-	1.4%
	中学校2年	115	23.5%	28.7%	13.0%	5.2%	1.7%	5.2%	7.0%	2.6%	5.2%	1.7%	1.7%	1.7%	1.7%	-	-	0.9%	-	-	-
	中学校3年	157	24.2%	31.2%	8.9%	5.7%	1.9%	10.8%	3.8%	3.2%	2.5%	1.3%	2.5%	0.6%	0.6%	-	1.3%	-	-	-	1.3%
	高校1年相当	174	23.6%	26.4%	10.9%	6.3%	4.6%	7.5%	6.3%	3.4%	1.1%	0.6%	1.1%	2.9%	0.6%	-	2.3%	0.6%	1.1%	0.6%	-
	高校2年相当	161	19.9%	10.6%	29.8%	13.0%	5.6%	6.2%	2.5%	2.5%	3.1%	-	1.2%	-	4.3%	-	-	1.2%	-	-	-
	高校3年相当	167	19.8%	9.0%	32.3%	9.6%	6.6%	9.0%	1.8%	3.0%	0.6%	1.8%	1.8%	0.6%	-	1.2%	-	0.6%	0.6%	0.6%	1.2%
	2004年度生まれ	132	18.2%	15.2%	22.0%	12.9%	7.6%	3.0%	1.5%	3.0%	3.0%	4.5%	2.3%	0.8%	3.0%	0.8%	-	-	0.8%	0.8%	0.8%
	2003年度生まれ	112	22.3%	17.0%	15.2%	12.5%	9.8%	8.0%	1.8%	0.9%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	3.6%	-	-	-	-	1.8%	-
	2002年度生まれ	108	9.3%	16.7%	27.8%	11.1%	9.3%	4.6%	2.8%	4.6%	3.7%	3.7%	2.8%	0.9%	0.9%	0.9%	-	0.9%	-	-	-
	2001年度生まれ	117	17.9%	11.1%	18.8%	15.4%	7.7%	9.4%	3.4%	2.6%	6.0%	3.4%	0.9%	-	1.7%	-	-	-	-	-	1.7%
	2000年度生まれ	135	20.0%	12.6%	17.8%	12.6%	5.2%	6.7%	3.0%	5.9%	3.0%	2.2%	2.2%	3.0%	2.2%	2.2%	-	-	0.7%	0.7%	-
	1999年度生まれ	232	8.6%	9.9%	30.6%	15.1%	9.5%	6.9%	1.3%	2.2%	0.4%	2.2%	1.7%	1.7%	5.6%	2.2%	-	0.4%	-	0.4%	1.3%
	1998年度生まれ	235	14.0%	9.8%	31.9%	14.9%	8.1%	5.5%	-	0.4%	0.9%	2.1%	0.9%	0.9%	3.0%	5.5%	-	1.7%	0.4%	-	-
	1997年度生まれ	241	15.8%	8.7%	28.6%	14.9%	10.0%	6.2%	1.7%	2.5%	0.8%	1.7%	0.4%	-	2.1%	4.6%	-	0.8%	-	1.2%	-
【保護者】	小学校6年の保護者	45	24.4%	31.1%	-	4.4%	6.7%	2.2%	4.4%	4.4%	8.9%	2.2%	2.2%	-	-	-	4.4%	2.2%	-	2.2%	-
	中学校1年の保護者	76	31.6%	27.6%	1.3%	10.5%	7.9%	3.9%	2.6%	3.9%	2.6%	2.6%	2.6%	1.3%	-	-	-	-	-	1.3%	-
	中学校2年の保護者	130	33.8%	32.3%	0.8%	3.1%	5.4%	1.5%	7.7%	2.3%	4.6%	0.8%	2.3%	3.1%	0.8%	-	1.5%	-	-	-	-
	中学校3年の保護者	176	26.7%	30.7%	0.6%	9.7%	2.8%	5.7%	4.0%	2.3%	4.0%	1.7%	2.8%	3.4%	-	-	2.8%	0.6%	1.7%	-	0.6%
	高校1年相当の保護者	165	29.1%	26.1%	-	10.3%	4.8%	6.1%	8.5%	2.4%	4.8%	1.2%	1.8%	2.4%	0.6%	-	1.2%	-	0.6%	-	-
	高校2年相当の保護者	163	31.3%	32.5%	-	9.2%	6.1%	4.3%	1.2%	0.6%	1.8%	1.8%	3.1%	2.5%	-	-	3.7%	-	1.2%	-	0.6%
	高校3年相当の保護者	171	26.9%	24.6%	0.6%	9.9%	5.3%	8.2%	2.9%	2.9%	2.3%	2.3%	2.3%	5.8%	-	-	2.9%	0.6%	0.6%	-	1.8%
	全体	3124	21.2%	19.7%	16.0%	10.8%	6.4%	6.2%	3.3%	2.7%	2.7%	1.9%	1.9%	1.7%	1.7%	1.2%	0.9%	0.5%	0.4%	0.4%	0.5%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答。
また、小学校6年～高校1年相当の女性に対しては、「娘がHPVワクチン接種を希望していたから」「私が娘にHPVワクチンの接種を勧めたから」の双方が表示されていた

HPVワクチンの接種に対する考え

Q6　（前問で、「決められた回数の接種が完了している」以外の回答をした人のみ）

【本人】今後、あなたはHPVワクチンを接種したいと思いますか。
【保護者】今後、あなたはあなたの娘にHPVワクチンを接種させたいと思いますか。



			強く接種したい・させたい	接種したい・させたい	わからない	あまり接種したくない・させたくない	強く接種したくない・させたくない	接種意志あり（計）	接種意志なし（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(4533)	4.4	21.0	43.7	27.4	3.6	25.4	31.0
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2130)	4.6	24.6	35.1	31.5	4.1	29.3	35.6
【本人】	小学校6年	(382)	2.9	14.1	47.4	31.7	3.9	17.0	35.6
【本人】	中学校1年	(365)	2.2	14.8	39.5	40.0	3.6	17.0	43.6
【本人】	中学校2年	(324)	2.5	14.5	44.8	33.6	4.6	17.0	38.3
【本人】	中学校3年	(298)	2.0	17.4	44.0	32.2	4.4	19.5	36.6
【本人】	高校1年相当	(274)	3.6	14.2	40.9	36.9	4.4	17.9	41.2
【本人】	高校2年相当	(291)	5.2	26.1	46.4	20.3	2.1	31.3	22.3
【本人】	高校3年相当	(280)	4.6	22.5	43.6	27.1	2.1	27.1	29.3
【本人】	2004年度生まれ	(321)	5.9	28.0	40.5	22.7	2.8	34.0	25.5
【本人】	2003年度生まれ	(334)	7.2	26.0	44.0	20.1	2.7	33.2	22.8
【本人】	2002年度生まれ	(335)	7.8	27.2	37.9	24.8	2.4	34.9	27.2
【本人】	2001年度生まれ	(323)	6.2	25.1	43.3	22.9	2.5	31.3	25.4
【本人】	2000年度生まれ	(332)	6.0	23.5	41.6	26.5	2.4	29.5	28.9
【本人】	1999年度生まれ	(233)	3.9	22.3	42.5	27.0	4.3	26.2	31.3
【本人】	1998年度生まれ	(223)	3.6	22.4	47.5	19.7	6.7	26.0	26.5
【本人】	1997年度生まれ	(218)		17.0	56.4	18.3	7.3	17.9	25.7
【保護者】	小学校6年の保護者	(384)	5.2	27.1	39.8	25.0	2.9	32.3	27.9
【保護者】	中学校1年の保護者	(360)	6.4	26.7	34.4	28.9	3.6	33.1	32.5
【保護者】	中学校2年の保護者	(316)	5.1	29.1	30.7	31.0	4.1	34.2	35.1
【保護者】	中学校3年の保護者	(282)	7.4	25.5	33.3	29.1	4.6	33.0	33.7
【保護者】	高校1年相当の保護者	(268)	2.2	19.4	32.1	39.9	6.3	21.6	46.3
【保護者】	高校2年相当の保護者	(266)		19.9	39.5	32.3	6.4	21.8	38.7
【保護者】	高校3年相当の保護者	(254)	3.1	22.0	34.6	39.0		25.2	40.2
	全体	(6663)	4.5	22.2	40.9	28.7	3.8	26.6	32.4

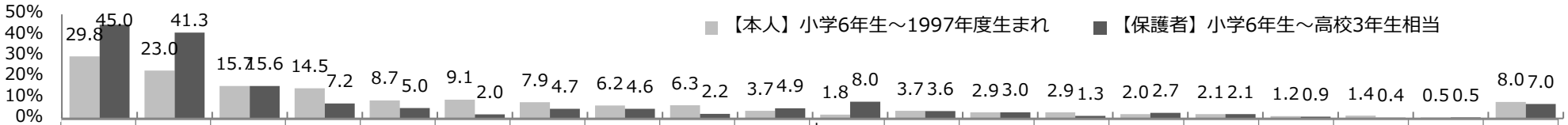
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンを接種したくない理由

Q7　（前問で、「あまり接種したくない/させたくない」「強く接種したくない/させたくない」と回答した人のみ）

【本人】あなたが、HPVワクチンを接種したくない理由は何ですか。以下より、あてはまるものをすべてお答えください。
【保護者】あなたが、あなたの娘にHPVワクチンを接種させたくない理由は何ですか。以下より、あてはまるものをすべてお答えください。



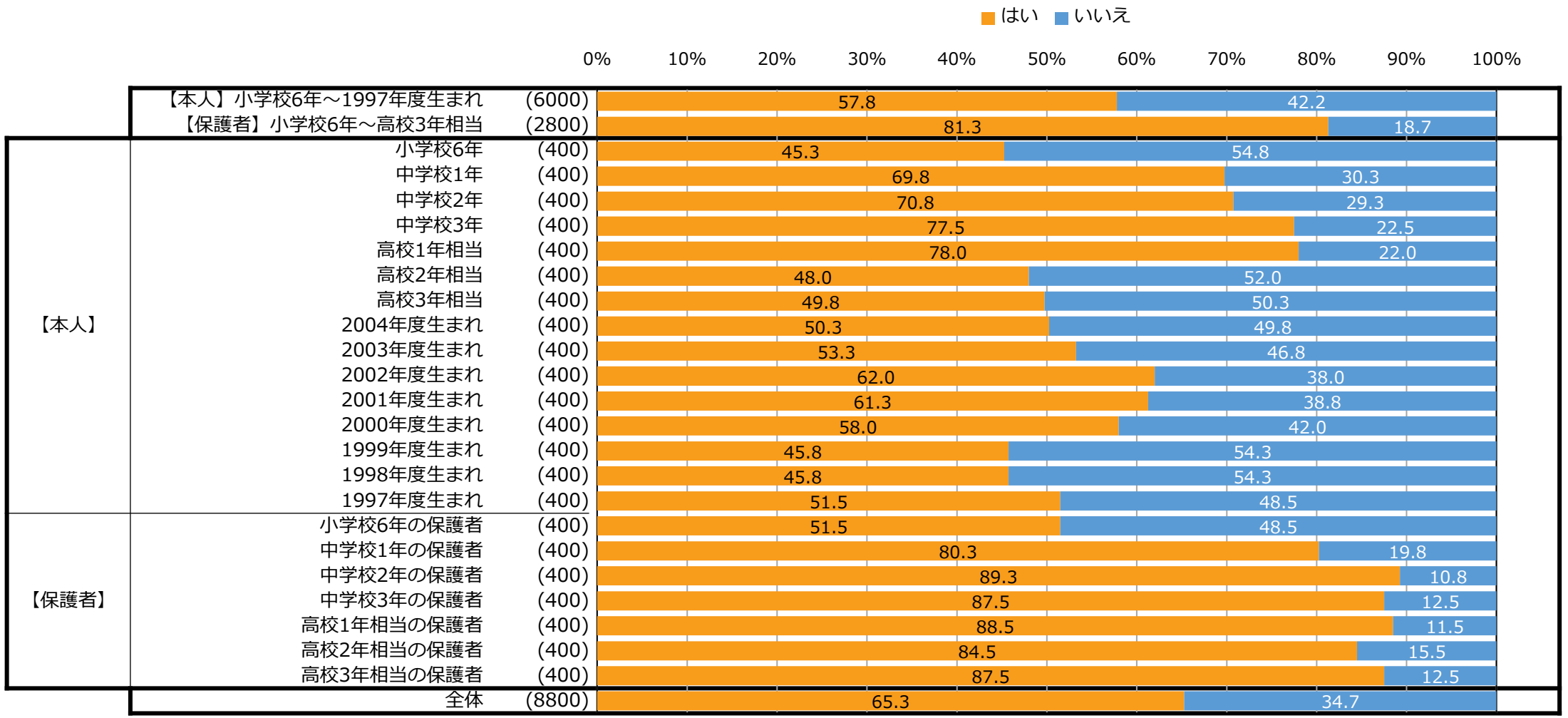
■全体+10pt以上　■全体+5pt以上
■全体－10pt以下　■全体－5pt以下
（n=30以上）※本人全体、保護者全体で各色付け

		n	接種の決断を下すのに十分な情報を得られていないから	HPVワクチンは安全ではないと思うから	友人・知人（の娘）たちも、HPVワクチンを接種していないから	今は忙しくて接種しにくい時間がないから	母親が（私が娘の）HPVワクチンの接種に反対しているから	HPVワクチンの接種を受けるのは面倒だと思うから	HPVワクチンに限らず、ワクチン全般接種したくないから	必要な接種間隔に合わせて予定を確保することが難しいから	HPVワクチンの接種にはお金がかかると思うから	HPVワクチンからTVやインターネットなどで、医師や看護師がHPVワクチンの接種に反対しているから	娘がHPVワクチンの接種に反対しているから	HPVワクチンの接種を受けるには、時期が早すぎるもしくは遅すぎると思うから	HPVワクチンは効果がないと思うから	HPVワクチンは効果が小さい、または子宮頸がんを予防できないから	将来子宮頸がんにかかることはないと思うから	父親（配偶者/パートナー）がHPVワクチンの接種に反対しているから	その他の家族がHPVワクチンの接種に反対しているから	かかりつけの病院の医師や看護師がHPVワクチンの接種に反対しているから	子宮頸がんは危険ではないと思うから	学校の先生がHPVワクチン接種に反対しているから	その他
	【本人】小学6年～1997年度生まれ	3383	29.8%	23.0%	15.7%	14.5%	8.7%	9.1%	7.9%	6.2%	6.3%	3.7%	1.8%	3.7%	2.9%	2.9%	2.0%	2.1%	1.2%	1.4%	0.5%	8.0%
	【保護者】小学6年～高校3年相当	1506	45.0%	41.3%	15.6%	7.2%	5.0%	2.0%	4.7%	4.6%	2.2%	4.9%	8.0%	3.6%	3.0%	1.3%	2.7%	2.1%	0.9%	0.4%	0.5%	7.0%
【本人】	小学校6年	317	30.0%	25.6%	19.9%	6.9%	9.1%	4.1%	6.9%	2.8%	3.2%	3.8%	3.2%	7.9%	2.5%	2.2%	3.5%	2.5%	0.3%	0.6%	-	9.8%
【本人】	中学校1年	303	30.7%	29.0%	23.8%	8.9%	6.6%	8.3%	8.9%	2.6%	1.7%	4.6%	5.3%	3.3%	3.0%	2.3%	2.3%	2.6%	0.3%	0.7%	1.4%	6.3%
【本人】	中学校2年	269	39.4%	31.2%	21.2%	10.4%	7.4%	7.4%	10.8%	5.6%	1.5%	3.7%	3.7%	4.1%	2.6%	3.0%	2.2%	3.0%	1.1%	1.1%	-	5.9%
【本人】	中学校3年	240	32.5%	29.2%	22.1%	10.8%	9.2%	3.8%	7.1%	7.1%	1.3%	3.8%	6.3%	2.1%	2.1%	0.8%	2.9%	0.8%	1.7%	0.8%	1.3%	7.5%
【本人】	高校1年相当	225	34.7%	33.8%	20.4%	12.9%	10.2%	8.9%	8.4%	7.6%	2.7%	5.3%	4.4%	1.8%	2.2%	2.7%	2.7%	2.2%	0.9%	1.8%	-	7.1%
【本人】	高校2年相当	200	28.5%	19.0%	10.0%	22.0%	12.5%	10.0%	8.5%	7.0%	6.5%	6.5%	-	1.5%	1.5%	3.5%	2.5%	2.0%	2.0%	1.0%	-	10.5%
【本人】	高校3年相当	204	27.0%	19.1%	15.7%	12.3%	13.2%	8.8%	9.3%	5.4%	7.4%	3.4%	-	3.4%	4.4%	1.5%	1.0%	1.5%	0.5%	1.0%	1.2%	12.3%
【本人】	2004年度生まれ	212	29.7%	27.8%	12.7%	20.8%	11.8%	14.6%	5.2%	8.0%	11.3%	1.4%	-	5.2%	2.8%	3.8%	0.9%	5.2%	-	1.9%	0.8%	6.1%
【本人】	2003年度生まれ	223	32.7%	17.5%	14.8%	21.5%	10.8%	11.7%	6.3%	7.2%	11.7%	4.0%	-	3.6%	2.2%	3.1%	1.3%	0.9%	1.8%	1.3%	-	7.6%
【本人】	2002年度生まれ	218	29.4%	13.8%	12.4%	17.0%	11.0%	11.9%	3.7%	6.4%	9.6%	2.8%	-	3.2%	3.2%	2.8%	2.3%	1.4%	0.5%	3.2%	-	6.9%
【本人】	2001年度生まれ	222	31.5%	23.0%	13.1%	18.0%	6.3%	9.9%	7.7%	6.8%	8.1%	5.0%	-	4.5%	1.8%	3.2%	0.9%	2.7%	1.4%	1.4%	1.7%	9.9%
【本人】	2000年度生まれ	234	26.9%	19.7%	11.5%	20.1%	10.7%	9.0%	8.1%	7.3%	5.1%	3.0%	-	2.6%	4.7%	4.7%	2.1%	1.7%	2.1%	2.1%	-	8.1%
【本人】	1999年度生まれ	172	16.3%	15.7%	8.7%	19.2%	2.9%	9.9%	9.3%	8.7%	15.7%	2.9%	-	2.9%	4.7%	1.2%	2.3%	0.6%	2.9%	2.3%	1.3%	8.7%
【本人】	1998年度生まれ	165	25.5%	16.4%	10.3%	14.5%	2.4%	12.1%	7.9%	6.1%	8.5%	2.4%	-	4.2%	4.2%	6.1%	1.8%	3.0%	2.4%	-	-	6.1%
【本人】	1997年度生まれ	179	24.6%	12.8%	6.7%	10.1%	4.5%	10.6%	10.1%	8.4%	8.9%	1.1%	-	2.8%	2.8%	3.9%	0.6%	1.1%	0.6%	1.7%	-	6.7%
【保護者】	小学校6年の保護者	260	46.5%	33.5%	12.7%	6.2%	1.5%	1.2%	3.1%	3.1%	2.3%	5.8%	4.2%	5.4%	2.7%	0.8%	2.7%	1.2%	0.4%	-	-	7.7%
【保護者】	中学校1年の保護者	241	47.7%	40.7%	18.3%	6.6%	5.4%	2.5%	5.0%	2.9%	2.1%	5.8%	4.6%	4.6%	4.1%	2.9%	5.0%	1.7%	0.4%	0.4%	-	5.4%
【保護者】	中学校2年の保護者	208	40.9%	47.6%	17.3%	7.7%	5.8%	1.0%	4.8%	2.4%	1.4%	4.3%	7.7%	4.3%	2.9%	1.0%	1.9%	3.4%	1.0%	0.5%	-	5.3%
【保護者】	中学校3年の保護者	189	46.0%	43.4%	16.9%	7.9%	5.8%	2.1%	5.8%	6.3%	2.6%	4.8%	12.2%	1.1%	1.1%	0.5%	2.1%	3.2%	0.5%	1.6%	0.6%	4.8%
【保護者】	高校1年相当の保護者	210	47.6%	43.3%	12.4%	6.7%	5.7%	1.4%	4.3%	5.2%	2.4%	6.2%	10.5%	1.9%	5.2%	2.9%	1.9%	2.4%	1.4%	-	-	10.5%
【保護者】	高校2年相当の保護者	208	40.4%	41.3%	18.3%	8.7%	6.3%	3.4%	4.8%	8.2%	2.4%	1.9%	12.5%	3.4%	2.4%	0.5%	2.4%	1.9%	1.9%	0.5%	0.6%	7.2%
【保護者】	高校3年相当の保護者	190	45.3%	41.6%	13.7%	7.4%	5.3%	2.6%	5.8%	5.3%	2.1%	5.3%	6.3%	3.7%	2.1%	-	2.1%	1.6%	1.1%	-	1.8%	7.9%
	全体	4889	34.5%	28.6%	15.6%	12.3%	7.6%	6.9%	6.9%	5.7%	5.1%	4.0%	3.7%	3.6%	2.9%	2.4%	2.2%	2.1%	1.1%	1.1%	0.7%	7.6%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答。
　また、小学校6年～高校1年相当の女性に対しては、「娘がHPVワクチン接種に反対しているから」「私が娘のHPVワクチンの接種に反対しているから」の双方が表示されていた

HPVワクチン接種案内接触経験

Q8 自治体から送られてきた、HPVワクチンの接種についての案内(封書、はがきなど)を見たことはありますか。



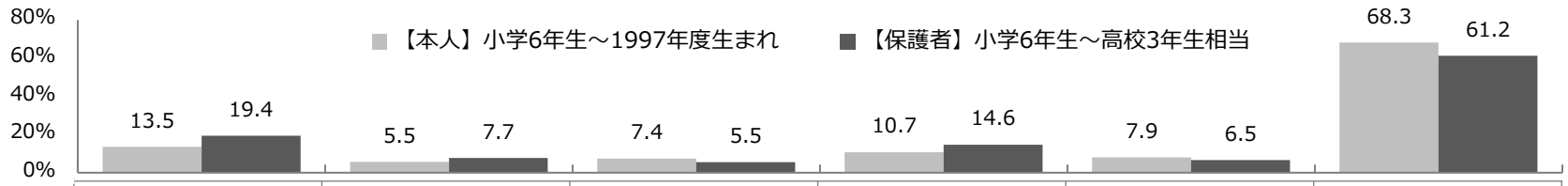
			はい	いいえ
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	57.8	42.2
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	81.3	18.7
【本人】	小学校6年	(400)	45.3	54.8
	中学校1年	(400)	69.8	30.3
	中学校2年	(400)	70.8	29.3
	中学校3年	(400)	77.5	22.5
	高校1年相当	(400)	78.0	22.0
	高校2年相当	(400)	48.0	52.0
	高校3年相当	(400)	49.8	50.3
	2004年度生まれ	(400)	50.3	49.8
	2003年度生まれ	(400)	53.3	46.8
	2002年度生まれ	(400)	62.0	38.0
	2001年度生まれ	(400)	61.3	38.8
	2000年度生まれ	(400)	58.0	42.0
	1999年度生まれ	(400)	45.8	54.3
	1998年度生まれ	(400)	45.8	54.3
	1997年度生まれ	(400)	51.5	48.5
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	51.5	48.5
	中学校1年の保護者	(400)	80.3	19.8
	中学校2年の保護者	(400)	89.3	10.8
	中学校3年の保護者	(400)	87.5	12.5
	高校1年相当の保護者	(400)	88.5	11.5
	高校2年相当の保護者	(400)	84.5	15.5
	高校3年相当の保護者	(400)	87.5	12.5
	全体	(8800)	65.3	34.7

2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

リーフレット(パンフレット)接触経験

Q9 これまでに、以下のリーフレット(パンフレット)を見たことはありますか。あてはまるものをすべてお答えください。



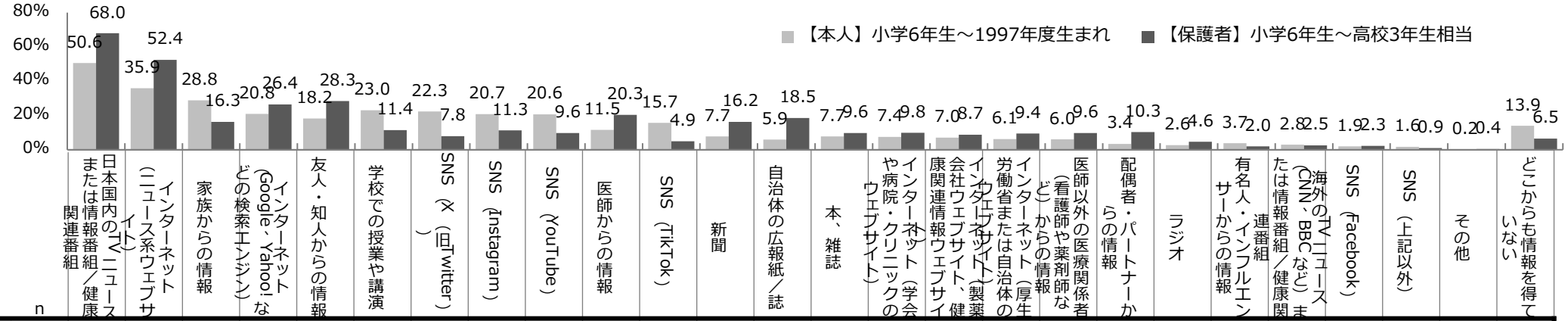
■全体+10pt以上　■全体+5pt以上
■全体－10pt以下　■全体－5pt以下
（n=30以上）※本人全体、保護者全体で各色付け

		n	「小学校6年～高校1年相当の女の子と保護者の方へ大切なお知らせ(概要版)」	「小学校6年～高校1年相当の女の子と保護者の方へ大切なお知らせ(詳細版)」	「平成9年度～平成18年度生まれまでの女性へ大切なお知らせ」	「9価HPVワクチン接種のお知らせ(定期接種版)」	「9価HPVワクチン接種のお知らせ(キャッチアップ版)」	あてはまるものはない
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	6000	13.5%	5.5%	7.4%	10.7%	7.9%	68.3%
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	2800	19.4%	7.7%	5.5%	14.6%	6.5%	61.2%
【本人】	小学校6年	400	15.0%	6.0%	2.5%	10.0%	4.5%	75.3%
	中学校1年	400	17.3%	5.8%	3.0%	11.5%	7.0%	68.5%
	中学校2年	400	20.5%	7.5%	3.5%	13.8%	4.8%	64.3%
	中学校3年	400	18.8%	9.0%	3.5%	17.3%	7.0%	59.5%
	高校1年相当	400	23.3%	7.8%	4.3%	13.0%	7.0%	60.5%
	高校2年相当	400	16.8%	5.8%	5.8%	13.5%	7.0%	65.3%
	高校3年相当	400	15.5%	6.8%	5.3%	12.8%	4.5%	65.8%
	2004年度生まれ	400	15.5%	6.3%	7.5%	9.8%	9.5%	65.8%
	2003年度生まれ	400	6.3%	3.5%	10.0%	10.8%	8.8%	72.8%
	2002年度生まれ	400	7.3%	2.0%	8.8%	10.8%	12.3%	69.3%
	2001年度生まれ	400	7.8%	4.8%	14.8%	9.5%	13.0%	66.0%
	2000年度生まれ	400	12.3%	5.5%	12.5%	8.8%	10.8%	68.3%
	1999年度生まれ	400	11.0%	5.3%	9.3%	5.8%	7.3%	73.3%
	1998年度生まれ	400	8.5%	3.3%	7.3%	5.8%	5.8%	77.5%
	1997年度生まれ	400	6.3%	4.0%	12.5%	7.3%	9.8%	72.0%
【保護者】	小学校6年の保護者	400	14.5%	4.5%	1.5%	9.5%	4.3%	75.8%
	中学校1年の保護者	400	14.5%	6.0%	2.3%	17.5%	5.5%	63.0%
	中学校2年の保護者	400	24.3%	9.0%	3.5%	17.3%	7.8%	54.8%
	中学校3年の保護者	400	28.0%	7.5%	5.0%	17.8%	8.0%	54.8%
	高校1年相当の保護者	400	22.3%	10.0%	6.0%	15.5%	5.3%	57.0%
	高校2年相当の保護者	400	18.0%	10.8%	9.5%	13.0%	8.0%	59.8%
	高校3年相当の保護者	400	14.0%	6.0%	10.5%	11.8%	6.8%	63.3%
	全体	8800	15.3%	6.2%	6.8%	11.9%	7.5%	66.0%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

一般的な健康についての情報源

Q10S1,S2 以下にあてはまる情報源および媒体について、すべてお答えください。
【本人】 [あなたが、一般的な健康についての情報を得る場合に使っている情報源]
【保護者】 [あなたの娘が、一般的な健康についての情報を得る場合に使っている情報源]



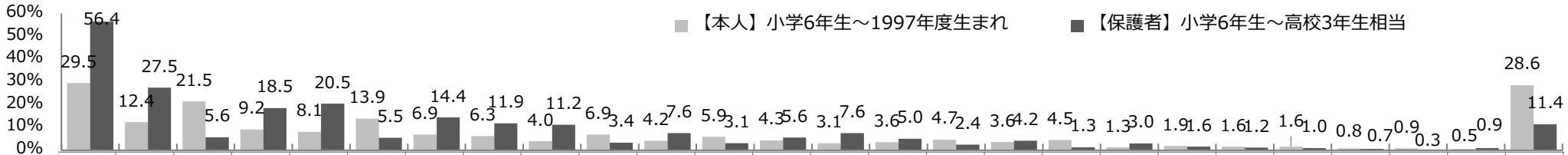
■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上）
※本人全体、保護者全体で各色付け

	n	日本国内のTV（ニュースまたは情報番組／健康関連番組）	インターネット（ニュース系ウェブサイト）	家族からの情報	インターネット（Google、Yahoo!などの検索エンジン）	友人・知人からの情報	学校での授業や講演	SNS（X（旧Twitter））	SNS（Instagram）	SNS（YouTube）	医師からの情報	SNS（TikTok）	新聞	自治体の広報紙／誌	本、雑誌	インターネット（学会や病院・クリニックのウェブサイト）	インターネット（製薬会社ウェブサイト、健康関連情報ウェブサイト）	インターネット（厚生労働省または自治体のウェブサイト）	インターネット（医師や薬剤師など）からの情報	医師以外の医療関係者（看護師や薬剤師など）からの情報	配偶者・パートナーからの情報	ラジオ	連番組／健康関有名人・インフルエンサーからの情報	海外のTVニュース（CNN、BBCなど）または情報番組／健康関	SNS（Facebook）	SNS（上記以外）	その他	どこからも情報を得ていない
【本人】小学校6年～1997年度生まれ	6000	50.6%	35.9%	28.8%	20.8%	18.2%	23.0%	22.3%	20.7%	20.6%	11.5%	15.7%	7.7%	5.9%	7.7%	7.4%	7.0%	6.1%	6.0%	3.4%	2.6%	3.7%	2.8%	1.9%	1.6%	0.2%	13.9%
【保護者】小学校6年～高校3年相当	2800	68.0%	52.4%	16.3%	26.4%	28.3%	11.4%	7.8%	11.3%	9.6%	20.3%	4.9%	16.2%	18.5%	9.6%	9.8%	8.7%	9.4%	9.6%	10.3%	4.6%	2.0%	2.5%	2.3%	0.9%	0.4%	6.5%
【本人】小学校6年	400	49.8%	29.0%	34.3%	14.3%	24.5%	35.0%	6.0%	11.0%	23.8%	12.0%	15.0%	8.8%	6.8%	8.5%	5.3%	3.8%	3.3%	5.0%	5.5%	2.5%	2.3%	2.3%	1.5%	0.5%	0.3%	13.8%
【本人】中学校1年	400	47.8%	35.3%	33.5%	18.3%	27.8%	34.3%	11.5%	16.8%	21.5%	11.8%	19.0%	5.3%	7.3%	4.8%	3.8%	3.5%	2.8%	3.5%	5.3%	0.3%	3.5%	2.8%	3.0%	0.5%	0.8%	11.0%
【本人】中学校2年	400	43.5%	36.0%	32.0%	17.8%	23.8%	38.8%	9.5%	20.3%	22.5%	8.0%	21.8%	8.8%	8.3%	6.3%	6.3%	4.3%	2.8%	7.8%	2.0%	3.0%	2.8%	1.8%	3.3%	1.8%	0.3%	8.5%
【本人】中学校3年	400	45.8%	34.8%	31.8%	19.3%	24.8%	30.5%	10.0%	19.3%	21.8%	8.8%	17.8%	6.0%	8.5%	5.8%	5.8%	3.8%	5.3%	4.5%	3.3%	1.0%	3.3%	2.8%	2.5%	1.3%	0.3%	9.8%
【本人】高校1年相当	400	45.8%	42.0%	31.5%	19.0%	25.5%	37.3%	13.0%	21.3%	21.3%	8.5%	17.5%	5.8%	8.8%	5.3%	3.3%	3.3%	2.3%	2.3%	2.5%	1.0%	2.5%	1.3%	2.5%	1.0%	-	9.8%
【本人】高校2年相当	400	67.8%	47.8%	39.0%	23.0%	17.3%	37.3%	26.5%	22.5%	19.5%	13.0%	19.8%	12.3%	4.8%	11.3%	11.0%	9.5%	8.8%	6.3%	1.3%	3.0%	5.5%	2.0%	1.8%	2.5%	-	5.3%
【本人】高校3年相当	400	62.0%	39.8%	30.8%	25.3%	11.0%	23.5%	27.8%	23.3%	20.8%	10.0%	18.0%	10.5%	4.3%	9.3%	8.0%	8.5%	5.5%	5.5%	1.0%	2.8%	2.5%	1.8%	0.5%	1.8%	-	10.5%
【本人】2004年度生まれ	400	56.5%	38.0%	30.0%	20.3%	15.5%	23.5%	28.5%	22.0%	20.5%	14.0%	18.5%	9.0%	3.5%	9.3%	9.5%	11.0%	6.5%	7.5%	1.5%	3.8%	4.5%	3.5%	1.3%	0.8%	-	12.3%
【本人】2003年度生まれ	400	52.5%	35.5%	26.3%	23.3%	15.8%	23.5%	29.5%	23.0%	21.0%	12.3%	14.5%	6.8%	4.8%	7.3%	9.5%	8.3%	10.5%	3.3%	1.8%	2.3%	4.5%	2.5%	1.5%	3.0%	0.3%	14.8%
【本人】2002年度生まれ	400	47.3%	34.3%	28.5%	21.3%	13.5%	16.8%	27.3%	20.8%	18.5%	14.3%	14.0%	7.3%	5.8%	8.8%	9.3%	7.8%	8.0%	7.3%	3.0%	3.5%	4.0%	4.3%	1.3%	2.0%	-	16.3%
【本人】2001年度生まれ	400	50.0%	35.8%	26.0%	26.3%	14.8%	13.3%	30.8%	24.3%	22.8%	13.8%	15.5%	8.5%	5.5%	10.5%	10.8%	9.5%	8.5%	7.3%	3.8%	3.0%	5.5%	4.3%	2.8%	1.5%	-	18.3%
【本人】2000年度生まれ	400	53.8%	37.5%	21.8%	27.0%	17.5%	10.8%	29.8%	27.5%	21.8%	10.5%	16.8%	8.3%	4.8%	7.5%	11.0%	10.0%	9.8%	5.3%	3.8%	3.5%	5.5%	4.3%	2.5%	4.0%	0.5%	15.3%
【本人】1999年度生まれ	400	46.5%	31.8%	23.5%	17.5%	15.0%	8.0%	28.5%	20.8%	19.8%	12.3%	11.5%	6.5%	5.5%	8.0%	8.0%	9.5%	7.8%	8.3%	4.5%	4.5%	3.8%	3.0%	1.5%	0.8%	-	19.8%
【本人】1998年度生まれ	400	45.3%	32.3%	21.8%	20.5%	13.3%	7.0%	26.8%	18.8%	17.3%	10.8%	8.5%	5.5%	5.3%	4.8%	5.8%	6.3%	5.0%	7.0%	5.3%	1.5%	2.5%	3.3%	1.5%	1.5%	-	22.8%
【本人】1997年度生まれ	400	44.5%	28.3%	22.0%	19.8%	13.8%	5.8%	29.5%	18.5%	16.5%	12.5%	7.0%	7.0%	5.3%	7.8%	4.5%	6.5%	5.0%	8.8%	6.3%	3.0%	2.8%	3.0%	1.5%	1.0%	0.3%	21.3%
【保護者】小学校6年の保護者	400	68.0%	52.0%	16.5%	25.0%	28.3%	12.5%	7.8%	12.3%	8.8%	24.5%	3.8%	13.5%	19.3%	9.0%	9.8%	10.0%	8.8%	11.8%	11.8%	3.5%	1.5%	2.5%	1.8%	1.0%	0.3%	6.5%
【保護者】中学校1年の保護者	400	69.5%	54.8%	18.0%	27.5%	31.0%	12.8%	9.0%	14.5%	10.5%	19.5%	5.5%	13.0%	15.3%	10.0%	8.3%	5.8%	7.3%	9.8%	14.5%	3.8%	2.3%	1.0%	1.5%	1.5%	-	6.3%
【保護者】中学校2年の保護者	400	69.8%	52.8%	17.3%	26.8%	28.8%	12.5%	6.8%	11.8%	8.8%	22.3%	6.0%	15.8%	18.5%	13.3%	10.3%	9.5%	11.5%	8.5%	11.5%	4.8%	3.3%	2.8%	3.0%	1.0%	0.8%	7.0%
【保護者】中学校3年の保護者	400	69.5%	58.0%	17.0%	25.3%	30.0%	10.0%	9.5%	13.3%	13.0%	22.3%	6.8%	17.3%	17.3%	9.0%	10.5%	10.3%	10.3%	10.0%	9.3%	4.8%	2.3%	2.5%	3.8%	1.3%	0.3%	4.5%
【保護者】高校1年相当の保護者	400	70.5%	50.8%	15.5%	27.0%	28.0%	11.5%	9.0%	10.0%	10.3%	22.3%	5.5%	17.0%	18.0%	8.0%	10.8%	8.8%	9.3%	10.5%	10.0%	4.5%	1.5%	2.5%	1.0%	0.3%	1.0%	5.8%
【保護者】高校2年相当の保護者	400	63.8%	50.5%	14.0%	27.5%	26.8%	11.5%	6.8%	9.8%	9.5%	15.5%	4.3%	16.8%	20.3%	8.8%	10.0%	8.8%	10.3%	6.8%	7.5%	4.3%	1.5%	3.3%	3.3%	1.3%	-	9.3%
【保護者】高校3年相当の保護者	400	65.0%	48.0%	15.5%	25.5%	25.3%	9.3%	6.0%	7.5%	6.8%	15.5%	2.5%	20.3%	20.8%	9.5%	9.3%	8.0%	8.3%	10.3%	7.8%	6.8%	1.5%	3.0%	1.5%	0.3%	0.3%	6.3%
全体	8800	56.1%	41.1%	24.8%	22.6%	21.4%	19.3%	17.7%	17.7%	17.1%	14.3%	12.2%	10.4%	9.9%	8.3%	8.2%	7.6%	7.1%	7.1%	5.6%	3.2%	3.1%	2.7%	2.0%	1.4%	0.2%	11.6%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンについて見聞きした情報源

Q10S3,S4 以下にあてはまる情報源および媒体について、すべてお答えください。
【本人】 [あなたが、HPVワクチンの情報についての情報を見聞きしたことのある媒体]
【保護者】 [あなたの娘が、HPVワクチンの情報についての情報を見聞きしたことのある媒体]



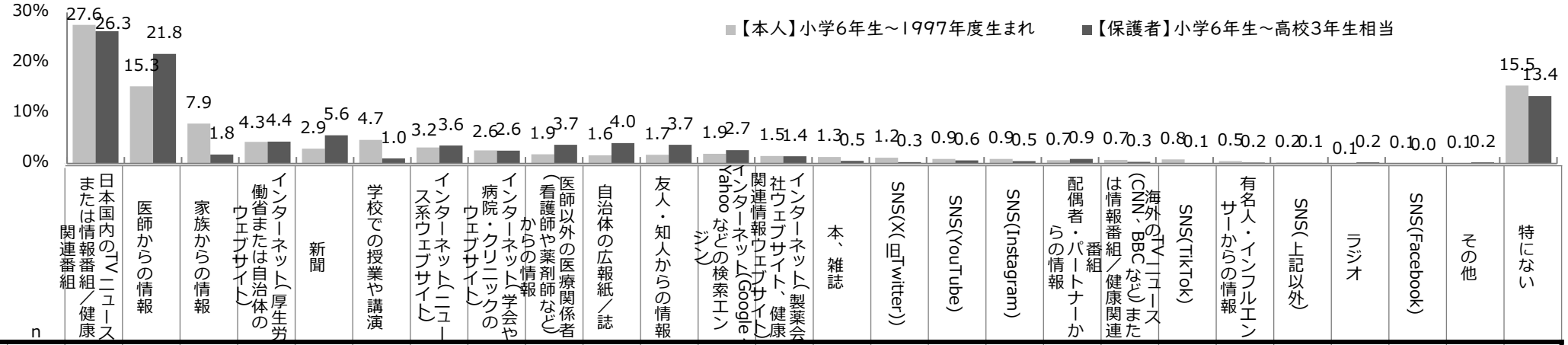
■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上）
※本人全体、保護者全体で各色付け

	n	日本国内のTV（ニュースまたは情報番組／健康関連番組）	インターネット（ニュース系ウェブサイト）	家族からの情報	友人・知人からの情報	自治体の広報紙／誌	学校での授業や講演	医師からの情報	インターネット（Google、Yahoo!などの検索エンジン）	新聞	SNS（X（旧Twitter））	インターネット（厚生労働省または自治体のウェブサイト）	SNS（YouTube）	インターネット（学会や病院・クリニックのウェブサイト）	医師以外の医療関係者（看護師や薬剤師など）からの情報	インターネット（製薬会社ウェブサイト、健康関連情報ウェブサイ	SNS（Instagram）	本、雑誌	SNS（TikTok）	配偶者・パートナーからの情報	連番組／健康関	海外のTV（ニュース（CNN、BBCなど）または情報番組	ラジオ	有名人・インフルエンサーからの情報	SNS（Facebook）	SNS（上記以外）	その他	どこからも情報を得ていない
【本人】小学6年～1997年度生まれ	6000	29.5%	12.4%	21.5%	9.2%	8.1%	13.9%	6.9%	6.3%	4.0%	6.9%	4.2%	5.9%	4.3%	3.1%	3.6%	4.7%	3.6%	4.5%	1.3%	1.9%	1.6%	1.6%	0.8%	0.9%	0.5%	28.6%
【保護者】小学6年～高校3年相当	2800	56.4%	27.5%	5.6%	18.5%	20.5%	5.5%	14.4%	11.9%	11.2%	3.4%	7.6%	3.1%	5.6%	7.6%	5.0%	2.4%	4.2%	1.3%	3.0%	1.6%	1.2%	1.0%	0.7%	0.3%	0.9%	11.4%
【本人】小学校6年	400	27.3%	7.8%	17.5%	5.8%	4.5%	16.0%	6.8%	2.3%	2.3%	2.0%	2.8%	7.0%	2.3%	3.0%	2.0%	2.5%	3.5%	4.5%	2.0%	1.3%	1.0%	1.0%	1.3%	0.3%	0.8%	39.8%
【本人】中学校1年	400	27.3%	12.3%	20.3%	10.8%	7.5%	18.0%	8.0%	6.0%	2.0%	3.0%	1.8%	6.0%	1.5%	0.5%	1.8%	6.0%	2.8%	5.5%	1.5%	1.5%	0.5%	0.8%	1.3%	1.5%	0.3%	32.0%
【本人】中学校2年	400	27.5%	10.3%	29.3%	10.8%	8.3%	23.3%	6.3%	4.8%	4.0%	2.8%	1.8%	5.8%	4.0%	3.0%	2.3%	4.8%	2.8%	4.8%	1.3%	0.5%	0.3%	0.3%	1.0%	0.5%	1.0%	21.8%
【本人】中学校3年	400	27.5%	13.0%	23.8%	14.0%	10.0%	18.3%	7.5%	5.5%	4.8%	3.0%	2.0%	6.5%	1.8%	1.5%	2.0%	5.5%	3.3%	4.3%	1.8%	2.3%	1.5%	1.3%	1.0%	0.5%	0.3%	20.0%
【本人】高校1年相当	400	31.3%	13.5%	28.5%	14.5%	13.5%	22.3%	6.8%	5.5%	5.5%	4.0%	2.0%	6.5%	1.3%	2.8%	2.0%	6.0%	1.5%	4.8%	0.3%	1.3%	0.5%	0.8%	1.0%	0.3%	0.3%	15.5%
【本人】高校2年相当	400	34.0%	17.0%	28.5%	8.3%	6.0%	22.5%	6.0%	8.3%	5.3%	6.8%	5.0%	7.5%	5.8%	2.8%	4.0%	4.0%	4.0%	5.8%	0.5%	1.5%	1.5%	2.8%	1.0%	1.0%	0.5%	22.3%
【本人】高校3年相当	400	33.3%	13.3%	28.5%	10.5%	6.8%	12.8%	5.8%	6.3%	5.0%	8.0%	4.0%	5.0%	3.8%	2.5%	2.8%	5.0%	3.5%	6.8%	1.0%	3.0%	2.3%	2.3%	0.3%	1.0%	0.3%	23.8%
【本人】2004年度生まれ	400	28.8%	12.8%	23.5%	10.8%	7.0%	15.0%	5.5%	8.0%	3.5%	9.8%	5.3%	4.5%	5.0%	3.5%	5.8%	4.8%	5.0%	4.3%	0.5%	1.3%	1.3%	1.5%	-	0.3%	1.3%	24.5%
【本人】2003年度生まれ	400	31.0%	12.5%	19.8%	7.3%	10.3%	14.0%	6.8%	6.5%	4.0%	8.8%	6.8%	6.5%	6.0%	2.8%	4.3%	3.8%	4.5%	5.5%	1.0%	2.3%	0.5%	2.0%	1.0%	0.8%	0.5%	24.5%
【本人】2002年度生まれ	400	29.0%	12.3%	23.0%	7.8%	8.5%	10.0%	6.8%	6.8%	3.5%	8.3%	5.5%	6.5%	8.0%	3.8%	4.3%	4.8%	5.0%	5.0%	1.8%	3.0%	2.0%	2.5%	0.5%	0.8%	0.5%	27.5%
【本人】2001年度生まれ	400	31.5%	15.5%	19.3%	10.0%	11.3%	9.5%	10.8%	10.8%	5.0%	10.0%	8.0%	7.0%	8.8%	6.0%	5.5%	7.5%	4.5%	4.8%	1.5%	2.8%	3.3%	3.3%	1.3%	2.3%	0.5%	30.8%
【本人】2000年度生まれ	400	32.5%	13.3%	16.5%	10.0%	8.3%	6.3%	6.8%	9.5%	5.0%	10.5%	6.3%	6.8%	5.8%	4.3%	5.8%	5.0%	4.8%	4.3%	1.5%	1.8%	3.3%	2.8%	1.3%	1.0%	0.8%	30.5%
【本人】1999年度生まれ	400	28.5%	11.3%	16.8%	7.8%	6.0%	6.8%	7.8%	3.5%	3.3%	10.5%	5.0%	5.8%	4.3%	2.0%	3.5%	3.8%	2.0%	3.8%	2.8%	2.0%	2.5%	2.3%	1.0%	1.0%	0.3%	37.3%
【本人】1998年度生まれ	400	25.5%	11.5%	13.3%	5.3%	4.8%	8.8%	6.5%	6.3%	3.5%	7.8%	3.3%	4.3%	4.3%	4.5%	5.0%	2.8%	2.5%	1.5%	-	1.5%	2.3%	0.3%	-	1.0%	0.3%	40.3%
【本人】1997年度生まれ	400	28.0%	9.5%	13.8%	4.0%	8.3%	5.5%	6.3%	4.5%	2.8%	7.8%	3.3%	3.3%	2.8%	3.8%	2.8%	3.8%	4.8%	2.0%	1.8%	2.8%	1.3%	0.5%	0.5%	0.8%	0.5%	38.8%
【保護者】小学校6年の保護者	400	57.8%	26.0%	4.5%	15.3%	13.5%	2.0%	15.3%	8.5%	11.0%	3.0%	5.8%	2.3%	3.0%	6.8%	3.5%	2.8%	5.8%	1.0%	2.3%	1.5%	1.8%	0.8%	1.0%	0.3%	1.3%	14.0%
【保護者】中学校1年の保護者	400	56.0%	29.5%	6.0%	18.0%	19.3%	4.5%	15.0%	10.3%	7.0%	3.3%	5.8%	1.8%	3.3%	9.8%	2.5%	3.0%	3.5%	1.8%	6.3%	0.3%	1.0%	1.5%	-	0.8%	0.8%	11.8%
【保護者】中学校2年の保護者	400	57.0%	24.5%	5.5%	19.0%	19.5%	6.8%	18.3%	13.3%	10.8%	2.8%	8.5%	2.3%	7.8%	8.0%	5.8%	2.3%	7.3%	1.3%	2.3%	2.5%	1.8%	1.0%	0.5%	0.3%	1.8%	10.5%
【保護者】中学校3年の保護者	400	56.3%	30.5%	6.3%	19.0%	19.5%	8.3%	16.8%	13.8%	11.5%	4.8%	9.0%	4.5%	6.3%	8.8%	8.3%	2.5%	4.3%	2.0%	2.5%	2.5%	1.3%	0.8%	1.5%	0.5%	0.8%	10.5%
【保護者】高校1年相当の保護者	400	57.8%	30.8%	5.0%	19.0%	23.3%	5.5%	16.0%	13.8%	11.8%	4.8%	8.3%	5.5%	6.3%	7.3%	5.5%	2.5%	2.8%	2.0%	2.0%	1.8%	1.3%	1.0%	0.3%	-	0.5%	11.3%
【保護者】高校2年相当の保護者	400	56.5%	27.3%	7.0%	18.3%	25.0%	5.8%	10.3%	12.5%	10.8%	2.8%	9.5%	3.3%	6.8%	5.8%	6.3%	2.5%	2.8%	1.0%	3.8%	1.0%	0.3%	1.3%	1.3%	0.3%	0.5%	11.8%
【保護者】高校3年相当の保護者	400	53.8%	24.0%	5.3%	21.3%	23.3%	5.5%	9.3%	11.3%	15.5%	2.3%	6.3%	2.0%	5.8%	6.8%	3.5%	1.5%	3.3%	-	1.8%	1.5%	1.0%	0.5%	0.3%	0.3%	1.0%	10.0%
全体	8800	38.1%	17.2%	16.4%	12.1%	12.0%	11.2%	9.3%	8.1%	6.3%	5.7%	5.3%	5.0%	4.7%	4.5%	4.0%	3.9%	3.8%	3.5%	1.8%	1.8%	1.5%	1.4%	0.8%	0.7%	0.6%	23.1%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

1番目にHPVワクチンの情報を得る場合に信頼できると思う情報源

Q11S1 【本人】HPVワクチンに関する情報を得る場合に、あなたが信頼できると思う情報源についてお聞きします。以下のうち、あなたが最も信頼している情報源上位3つをお答えください。
【保護者】 HPVワクチンに関する情報を得る場合に、あなたの娘が信頼できると思う情報源についてお聞きします。以下のうち、あなたの娘が最も信頼している情報源上位3つをお答えください。
[1位：最も信頼しているもの]



■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上）
※本人全体、保護者全体で各色付け

		n	日本国内のTVニュースまたは情報番組／健康関連番組	医師からの情報	家族からの情報	インターネット(厚生労働省または自治体のウェブサイト)	新聞	学校での授業や講演	インターネット(ニュース系ウェブサイト)	インターネット(学会や病院・クリニックのウェブサイト)	医師以外の医療関係者（看護師や薬剤師など）からの情報	自治体の広報紙／誌	友人・知人からの情報	インターネット(製薬会社ウェブサイト、健康関連情報ウェブサイト)	インターネット(Google、Yahoo などの検索エンジン)	本、雑誌	SNS(X（旧Twitter))	SNS(YouTube)	SNS(Instagram)	番組配偶者・パートナーからの情報	海外のTVニュース(CNN、BBC など)または情報番組／健康関連	SNS(TikTok)	有名人・インフルエンサーからの情報	SNS(上記以外)	ラジオ	SNS(Facebook)	その他	特にない
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	6000	27.6%	15.3%	7.9%	4.3%	2.9%	4.7%	3.2%	2.6%	1.9%	1.6%	1.7%	1.9%	1.5%	1.3%	1.2%	0.9%	0.9%	0.7%	0.7%	0.8%	0.5%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	15.5%
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	2800	26.3%	21.8%	1.8%	4.4%	5.6%	1.0%	3.6%	2.6%	3.7%	4.0%	3.7%	2.7%	1.4%	0.5%	0.3%	0.6%	0.5%	0.9%	0.3%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.0%	0.2%	13.4%
【本人】	小学校6年	400	27.0%	13.3%	12.8%	1.5%	4.0%	9.0%	4.0%	1.3%	1.8%	0.5%	1.5%	0.8%	1.3%	-	-	1.8%	1.3%	1.5%	0.5%	2.5%	0.5%	0.3%	-	-	-	13.3%
	中学校1年	400	24.5%	14.0%	9.3%	2.8%	2.0%	9.8%	2.5%	2.3%	1.5%	2.0%	3.0%	2.3%	1.5%	1.0%	0.5%	1.0%	0.5%	0.8%	1.0%	1.8%	-	0.3%	-	0.3%	0.3%	15.5%
	中学校2年	400	24.8%	17.5%	12.0%	2.0%	3.0%	8.8%	3.5%	2.3%	2.5%	1.8%	2.5%	1.0%	1.3%	0.3%	0.8%	0.3%	0.3%	0.5%	0.3%	1.5%	0.5%	-	-	0.3%	-	12.8%
	中学校3年	400	25.5%	12.8%	11.3%	2.3%	3.8%	7.5%	3.3%	2.3%	0.5%	3.5%	4.0%	2.0%	0.3%	0.8%	0.3%	1.8%	1.3%	0.8%	0.8%	0.8%	0.5%	0.3%	-	-	0.3%	14.0%
	高校1年相当	400	24.3%	17.5%	10.8%	2.3%	2.5%	7.8%	5.0%	0.8%	1.8%	3.3%	3.5%	1.3%	0.5%	0.8%	1.3%	0.8%	1.8%	0.5%	-	1.3%	0.3%	-	0.3%	-	-	12.3%
	高校2年相当	400	38.0%	15.0%	7.3%	5.8%	3.5%	4.5%	3.3%	1.8%	2.5%	1.0%	0.8%	2.3%	2.0%	1.3%	1.0%	0.5%	0.5%	-	0.5%	1.3%	0.8%	-	-	-	-	6.8%
	高校3年相当	400	32.3%	16.3%	6.5%	3.5%	3.0%	3.8%	3.0%	1.3%	3.3%	1.0%	1.8%	2.8%	2.0%	1.0%	1.0%	0.3%	0.5%	0.3%	0.8%	0.3%	1.5%	0.3%	-	-	-	14.0%
	2004年度生まれ	400	31.5%	14.8%	5.8%	6.0%	5.3%	3.5%	1.8%	2.3%	2.0%	1.5%	0.8%	2.3%	2.3%	3.0%	1.0%	0.8%	1.5%	0.5%	1.0%	0.3%	0.3%	0.3%	-	-	-	12.0%
	2003年度生まれ	400	24.0%	16.3%	8.0%	6.0%	2.3%	5.3%	3.8%	4.8%	1.0%	1.0%	1.0%	1.8%	1.3%	2.8%	2.0%	1.5%	0.3%	-	0.3%	0.3%	0.5%	-	-	-	0.3%	16.0%
	2002年度生まれ	400	27.5%	14.5%	6.8%	5.8%	2.5%	4.0%	1.8%	4.8%	1.5%	1.8%	1.3%	1.5%	1.0%	2.0%	1.8%	-	0.8%	0.5%	0.5%	0.3%	0.8%	0.3%	0.3%	0.3%	-	18.3%
	2001年度生まれ	400	27.0%	18.5%	5.5%	7.0%	3.0%	2.3%	1.8%	4.3%	2.0%	2.3%	0.5%	2.8%	1.5%	1.5%	1.8%	1.0%	1.8%	0.8%	0.8%	-	-	-	-	0.5%	-	13.8%
	2000年度生まれ	400	32.0%	15.0%	5.0%	6.3%	3.3%	1.3%	3.0%	2.3%	2.0%	1.0%	1.5%	1.5%	2.5%	1.0%	1.8%	1.0%	0.5%	0.5%	1.3%	0.8%	0.5%	0.8%	-	-	-	15.5%
	1999年度生まれ	400	27.5%	15.5%	6.3%	4.0%	3.0%	1.5%	4.0%	3.8%	1.0%	1.0%	0.8%	2.0%	0.8%	1.8%	2.0%	1.5%	0.3%	1.5%	1.3%	0.3%	0.5%	0.3%	0.3%	-	-	19.5%
	1998年度生まれ	400	23.5%	15.3%	5.0%	3.5%	2.0%	0.8%	3.5%	2.8%	1.5%	1.5%	1.8%	2.3%	1.5%	0.8%	1.0%	0.8%	1.3%	1.0%	1.0%	0.3%	0.5%	-	-	-	-	28.8%
	1997年度生まれ	400	24.3%	14.0%	7.0%	6.3%	1.0%	1.0%	4.0%	2.3%	3.0%	1.3%	1.3%	2.8%	3.0%	2.0%	1.5%	1.0%	1.3%	1.0%	1.0%	1.0%	-	-	0.3%	-	-	20.0%
【保護者】	小学校6年の保護者	400	22.5%	23.8%	1.8%	4.5%	6.8%	1.0%	3.5%	3.5%	3.5%	1.8%	3.8%	1.3%	1.3%	0.8%	-	0.8%	0.8%	0.5%	0.8%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	-	0.3%	16.5%
	中学校1年の保護者	400	27.5%	21.5%	0.8%	4.3%	4.0%	0.8%	4.5%	2.3%	4.3%	3.5%	4.5%	1.8%	2.3%	0.5%	0.3%	0.3%	0.5%	2.5%	-	-	0.5%	0.3%	0.3%	-	-	13.3%
	中学校2年の保護者	400	26.5%	26.3%	2.3%	4.3%	4.3%	0.5%	3.3%	3.8%	4.8%	3.8%	3.0%	2.5%	0.8%	0.5%	0.3%	0.8%	0.5%	1.0%	0.3%	-	-	-	0.8%	-	-	10.3%
	中学校3年の保護者	400	29.0%	18.3%	2.8%	4.8%	5.0%	1.3%	4.3%	2.0%	2.8%	4.5%	4.0%	3.3%	1.3%	0.3%	0.5%	1.3%	-	0.5%	0.5%	0.3%	-	-	-	-	0.5%	13.3%
	高校1年相当の保護者	400	25.3%	24.5%	1.3%	3.8%	4.8%	1.3%	3.0%	1.5%	3.8%	4.5%	3.5%	3.5%	1.8%	1.0%	0.5%	1.0%	0.5%	-	0.5%	0.3%	0.5%	0.3%	-	-	0.3%	13.0%
	高校2年相当の保護者	400	28.5%	21.3%	1.0%	4.3%	6.0%	0.5%	3.0%	2.5%	2.5%	4.5%	3.8%	2.8%	2.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	1.3%	0.3%	-	-	0.3%	0.3%	-	-	14.3%
	高校3年相当の保護者	400	24.8%	17.0%	2.8%	4.8%	8.5%	1.8%	3.5%	2.5%	4.5%	5.8%	3.5%	3.8%	0.5%	0.5%	0.3%	-	0.8%	0.8%	-	-	-	-	-	0.3%	0.5%	13.5%
	全体	8800	27.2%	17.4%	6.0%	4.3%	3.8%	3.5%	3.3%	2.6%	2.4%	2.4%	2.4%	2.2%	1.5%	1.1%	0.9%	0.8%	0.8%	0.8%	0.6%	0.6%	0.4%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	14.8%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

2番目にHPVワクチンの情報を得る場合に信頼できると思う情報源

Q11S2　【本人】HPVワクチンに関する情報を得る場合に、あなたが信頼できると思う情報源についてお聞きします。以下のうち、あなたが最も信頼している情報源上位3つをお答えください。
【保護者】 HPVワクチンに関する情報を得る場合に、あなたの娘が信頼できると思う情報源についてお聞きします。以下のうち、あなたの娘が最も信頼している情報源上位3つをお答えください。
[2位：2番目に信頼しているもの]



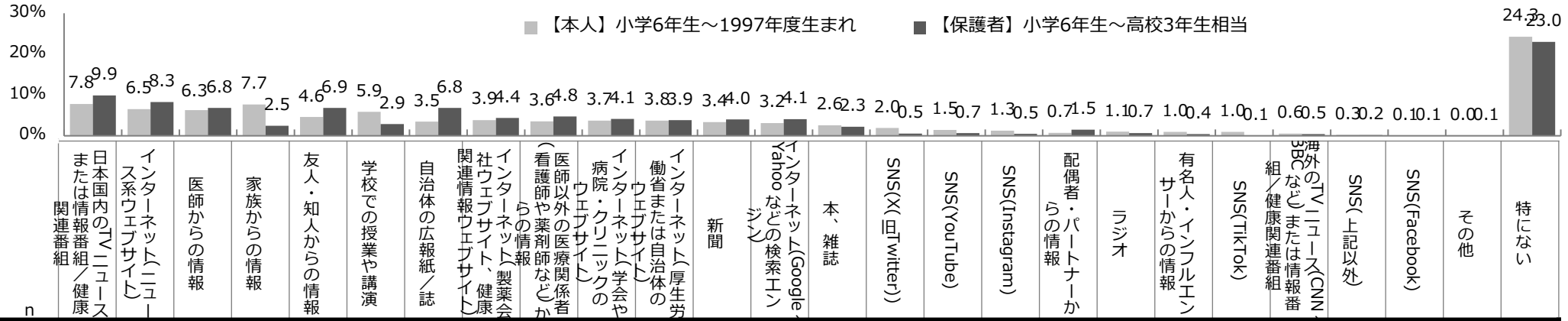
■全体+10pt以上　■全体+5pt以上
■全体－10pt以下　■全体－5pt以下
（n=30以上）
※本人全体、保護者全体で各色付け

		n	日本国内のTVニュースまたは情報番組／健康関連番組	インターネット(ニュース系ウェブサイト)	医師からの情報	新聞	医師以外の医療関係者（看護師や薬剤師など）からの情報	家族からの情報	学校での授業や講演	インターネット(厚生労働省または自治体のウェブサイト)	友人・知人からの情報	インターネット(学会や病院・クリニックのウェブサイト)	インターネット(製薬会社ウェブサイト、健康関連情報ウェブサイト)	自治体の広報紙／誌	本、雑誌	インターネット(Google・Yahooなどの検索エンジン)	SNS(X(旧Twitter))	ラジオ	SNS(YouTube)	海外のTVニュース(CNN、BBCなど)または情報番組／健康関連番組	SNS(Instagram)	配偶者・パートナーからの情報	SNS(TikTok)	有名人・インフルエンサーからの情報	SNS(上記以外)	SNS(Facebook)	その他	特にない
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	6000	12.2%	7.8%	7.5%	6.6%	5.8%	6.8%	5.5%	4.0%	3.2%	3.3%	3.5%	2.2%	2.4%	2.4%	1.6%	1.3%	1.2%	1.0%	1.1%	0.5%	0.9%	0.4%	0.1%	0.0%	0.1%	19.0%
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	2800	16.8%	8.6%	8.7%	8.0%	7.7%	2.3%	2.2%	4.0%	4.0%	3.6%	3.2%	5.5%	2.0%	2.0%	0.5%	0.5%	0.4%	0.8%	0.6%	1.4%	0.1%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	16.6%
【本人】	小学校6年	400	12.0%	7.5%	7.5%	7.0%	3.8%	9.5%	11.0%	2.5%	5.0%	1.8%	2.3%	1.8%	2.3%	2.8%	0.5%	0.5%	2.0%	-	0.5%	1.0%	2.0%	-	-	-	0.3%	16.8%
	中学校1年	400	15.8%	8.0%	7.8%	6.8%	3.3%	8.8%	7.8%	2.5%	3.8%	2.0%	2.5%	2.3%	0.8%	2.5%	0.5%	0.3%	2.8%	1.0%	0.5%	0.3%	1.0%	0.8%	0.5%	0.3%	-	18.0%
	中学校2年	400	13.0%	10.8%	7.8%	4.8%	4.8%	7.8%	10.5%	3.8%	4.8%	2.0%	2.3%	3.5%	1.5%	2.8%	0.3%	0.3%	0.5%	0.5%	2.3%	0.5%	0.8%	0.3%	-	-	-	15.0%
	中学校3年	400	14.0%	7.3%	7.5%	5.3%	6.0%	7.0%	8.5%	2.8%	5.0%	1.5%	2.3%	2.3%	1.3%	2.8%	1.3%	0.8%	1.8%	1.5%	2.3%	0.3%	1.3%	-	0.3%	-	-	17.5%
	高校1年相当	400	12.0%	11.0%	7.0%	8.0%	5.5%	9.5%	8.0%	1.8%	5.0%	2.0%	1.5%	3.0%	2.0%	2.0%	0.8%	0.5%	0.8%	0.3%	1.3%	0.3%	1.8%	0.5%	-	-	-	15.8%
	高校2年相当	400	13.8%	8.3%	10.8%	10.3%	5.8%	6.3%	6.8%	4.8%	1.8%	4.5%	5.3%	1.0%	2.3%	2.0%	1.8%	1.5%	1.0%	1.3%	0.5%	0.3%	0.3%	0.5%	-	-	-	9.8%
	高校3年相当	400	14.0%	8.0%	7.0%	7.8%	5.8%	6.8%	5.8%	3.3%	2.3%	2.8%	4.3%	1.5%	3.8%	3.3%	1.3%	2.3%	0.8%	1.0%	0.5%	0.8%	0.5%	0.5%	-	-	0.3%	16.3%
	2004年度生まれ	400	14.3%	5.8%	8.0%	6.8%	5.8%	7.0%	4.5%	5.8%	1.5%	4.5%	3.5%	2.8%	4.5%	1.8%	2.3%	1.8%	0.5%	0.8%	0.3%	0.5%	1.0%	1.0%	-	-	-	15.8%
	2003年度生まれ	400	12.5%	8.3%	7.5%	6.0%	7.3%	5.0%	3.0%	4.0%	2.5%	4.5%	4.3%	2.3%	3.8%	2.5%	2.5%	0.8%	1.0%	0.3%	1.3%	0.3%	1.0%	0.3%	0.3%	-	0.3%	19.0%
	2002年度生まれ	400	9.3%	7.3%	9.8%	6.3%	4.0%	7.3%	4.0%	5.3%	2.0%	4.0%	5.3%	2.3%	3.5%	2.0%	1.8%	0.8%	1.8%	1.3%	0.3%	0.3%	1.0%	-	-	-	0.3%	20.8%
	2001年度生まれ	400	11.8%	7.5%	6.5%	6.3%	8.8%	5.5%	4.8%	3.5%	2.8%	3.0%	5.5%	3.3%	2.3%	2.5%	1.5%	1.5%	1.0%	1.3%	1.3%	-	0.5%	0.8%	-	0.3%	-	18.3%
	2000年度生まれ	400	10.8%	7.0%	5.5%	5.8%	6.3%	6.5%	3.3%	5.0%	2.8%	5.0%	4.8%	2.0%	2.5%	1.8%	3.0%	2.5%	1.3%	1.8%	1.3%	0.3%	1.3%	0.3%	0.3%	-	0.3%	19.3%
	1999年度生まれ	400	9.8%	9.8%	7.3%	5.3%	6.0%	5.5%	2.0%	5.5%	3.3%	3.5%	3.0%	1.3%	1.3%	1.5%	2.3%	1.5%	1.3%	1.5%	1.3%	0.5%	0.8%	0.5%	-	-	-	25.8%
	1998年度生まれ	400	9.5%	5.8%	4.5%	6.0%	6.5%	4.5%	1.8%	4.0%	2.3%	5.0%	2.0%	1.5%	2.3%	2.5%	2.8%	1.5%	1.0%	1.3%	1.3%	1.0%	0.3%	0.3%	0.3%	-	-	32.5%
	1997年度生まれ	400	10.8%	4.3%	8.5%	6.3%	7.3%	4.8%	0.3%	5.3%	3.0%	3.8%	4.0%	2.0%	2.3%	2.8%	1.8%	2.8%	1.0%	1.3%	1.3%	2.0%	0.5%	0.3%	-	-	-	24.3%
【保護者】	小学校6年の保護者	400	16.0%	7.0%	9.0%	7.0%	9.8%	1.0%	2.8%	4.3%	5.5%	3.3%	3.0%	5.5%	3.0%	0.8%	1.0%	0.3%	-	0.5%	0.5%	1.5%	0.3%	-	-	-	0.5%	17.8%
	中学校1年の保護者	400	15.8%	8.8%	9.3%	8.3%	10.0%	4.0%	2.5%	3.0%	3.0%	4.3%	2.5%	3.8%	1.0%	2.0%	0.5%	0.3%	0.3%	1.0%	1.0%	2.5%	-	-	0.3%	-	-	16.3%
	中学校2年の保護者	400	18.5%	7.0%	9.3%	9.8%	8.0%	2.0%	2.5%	4.0%	4.3%	4.3%	2.3%	5.5%	2.8%	1.3%	0.5%	0.5%	0.3%	0.8%	0.5%	1.8%	-	0.8%	0.3%	-	-	13.5%
	中学校3年の保護者	400	18.5%	9.5%	8.3%	6.8%	5.5%	1.5%	2.5%	3.8%	3.8%	4.5%	3.8%	5.5%	1.8%	2.5%	1.0%	1.0%	0.5%	0.5%	1.0%	1.3%	0.3%	-	-	-	0.3%	16.3%
	高校1年相当の保護者	400	15.0%	9.3%	10.5%	7.3%	9.3%	2.3%	1.3%	3.8%	2.5%	3.0%	2.8%	6.3%	1.5%	3.8%	0.3%	0.5%	0.8%	1.5%	0.8%	1.0%	-	0.8%	-	-	0.3%	16.0%
	高校2年相当の保護者	400	16.3%	8.5%	6.8%	8.3%	7.5%	3.3%	1.8%	4.3%	3.3%	3.5%	4.0%	5.8%	1.5%	1.8%	0.3%	0.3%	0.5%	1.0%	0.3%	1.3%	0.3%	-	0.3%	0.3%	-	19.5%
	高校3年相当の保護者	400	17.8%	10.3%	7.8%	9.0%	4.0%	1.8%	2.0%	4.8%	5.5%	2.5%	4.0%	6.3%	2.8%	1.8%	-	1.0%	0.3%	0.5%	0.3%	0.8%	0.3%	0.3%	-	-	-	16.8%
	全体	8800	13.7%	8.0%	7.9%	7.0%	6.4%	5.3%	4.4%	4.0%	3.4%	3.4%	3.4%	3.2%	2.3%	2.2%	1.3%	1.0%	0.9%	0.9%	0.9%	0.8%	0.7%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	18.2%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

3番目にHPVワクチンの情報を得る場合に信頼できると思う情報源

Q11S3 【本人】HPVワクチンに関する情報を得る場合に、あなたが信頼できると思う情報源についてお聞きします。以下のうち、あなたが最も信頼している情報源上位3つをお答えください。
【保護者】 HPVワクチンに関する情報を得る場合に、あなたの娘が信頼できると思う情報源についてお聞きします。以下のうち、あなたの娘が最も信頼している情報源上位3つをお答えください。
[3位：3番目に信頼しているもの]



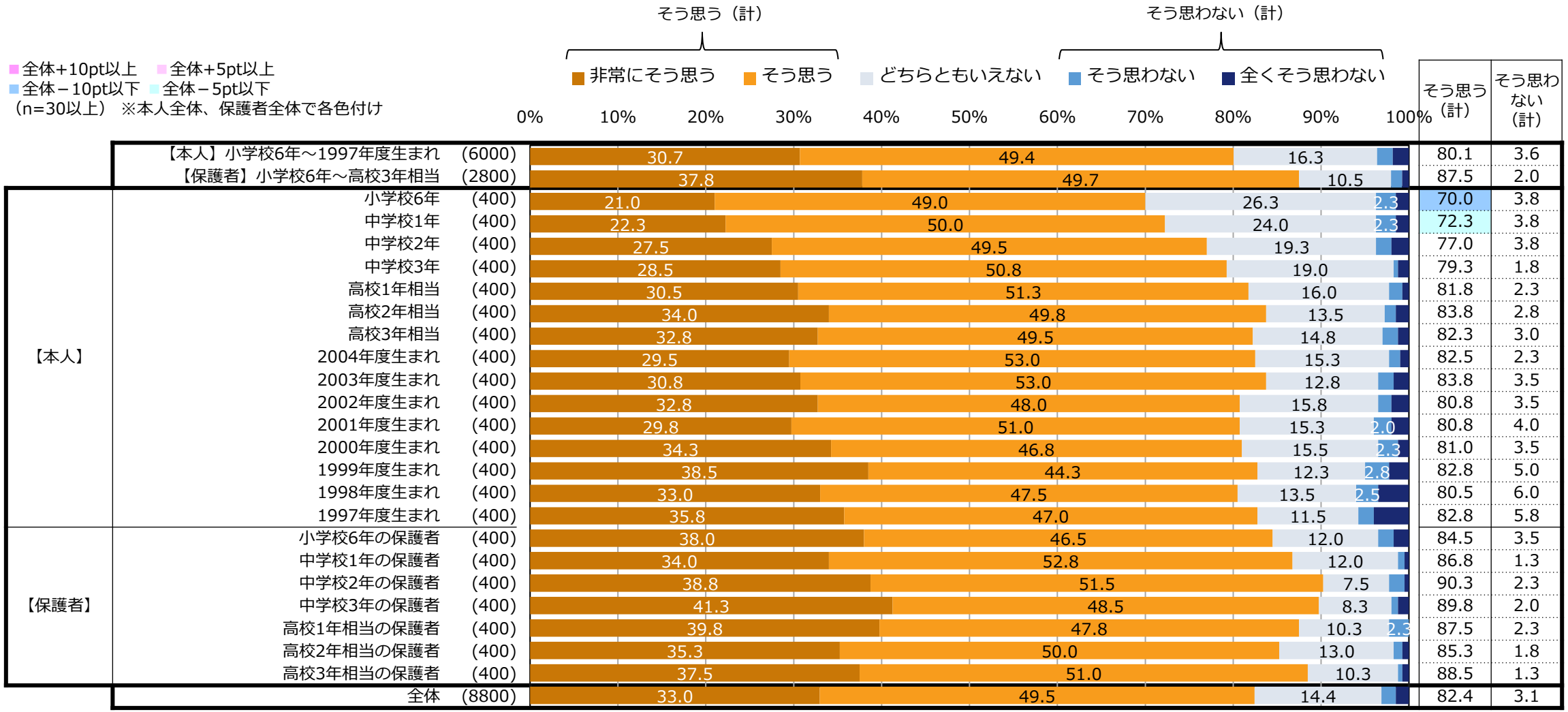
■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上）
※本人全体、保護者全体で各色付け

		n	日本国内のTVニュースまたは情報番組／健康関連番組	インターネット（ニュース系ウェブサイト）	医師からの情報	家族からの情報	友人・知人からの情報	学校での授業や講演	自治体の広報紙／誌	インターネット（製薬会社ウェブサイト、健康関連情報ウェブサイト）	医師以外の医療関係者（看護師や薬剤師など）からの情報	インターネット（学会や病院・クリニックのウェブサイト）	インターネット（厚生労働省または自治体のウェブサイト）	新聞	インターネット（Google、Yahoo などの検索エンジン）	本、雑誌	SNS（X（旧Twitter））	SNS（YouTube）	SNS（Instagram）	配偶者・パートナーからの情報	ラジオ	有名人・インフルエンサーからの情報	SNS（TikTok）	海外のTVニュース（CNN、BBC など）または情報番組／健康関連番組	SNS（上記以外）	SNS（Facebook）	その他	特にない
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	6000	7.8%	6.5%	6.3%	7.7%	4.6%	5.9%	3.5%	3.9%	3.6%	3.7%	3.8%	3.4%	3.2%	2.6%	2.0%	1.5%	1.3%	0.7%	1.1%	1.0%	1.0%	0.6%	0.3%	0.1%	0.0%	24.3%
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	2800	9.9%	8.3%	6.8%	2.5%	6.9%	2.9%	6.8%	4.4%	4.8%	4.1%	3.9%	4.0%	4.1%	2.3%	0.5%	0.7%	0.5%	1.5%	0.7%	0.4%	0.1%	0.5%	0.2%	0.1%	0.1%	23.0%
【本人】	小学校6年	400	8.5%	4.5%	6.8%	7.3%	10.0%	9.5%	3.8%	1.8%	3.8%	2.3%	3.8%	2.8%	3.3%	2.3%	0.3%	3.0%	0.5%	1.3%	0.5%	0.5%	1.0%	0.3%	0.5%	0.3%	-	22.0%
	中学校1年	400	7.3%	8.3%	4.8%	9.0%	8.0%	11.0%	4.3%	2.0%	2.5%	2.5%	3.0%	1.5%	3.5%	1.5%	1.0%	1.3%	1.5%	0.5%	0.5%	1.0%	1.0%	0.8%	0.3%	-	-	23.3%
	中学校2年	400	7.5%	7.3%	7.8%	9.3%	6.0%	7.8%	5.8%	2.8%	3.3%	3.0%	2.3%	3.0%	2.0%	2.5%	0.5%	1.8%	0.8%	0.8%	0.5%	1.8%	0.8%	-	-	-	-	23.3%
	中学校3年	400	7.8%	8.0%	6.0%	9.3%	6.8%	7.8%	3.8%	3.3%	2.5%	2.5%	2.8%	3.0%	3.3%	2.0%	1.3%	1.8%	1.0%	1.3%	0.5%	1.0%	0.3%	0.3%	0.3%	0.5%	-	23.5%
	高校1年相当	400	7.8%	7.3%	7.0%	8.3%	5.0%	8.3%	4.5%	1.5%	4.8%	2.8%	3.5%	4.0%	4.0%	0.5%	0.8%	1.5%	2.0%	0.5%	0.5%	1.5%	1.0%	0.5%	0.8%	-	-	22.0%
	高校2年相当	400	9.8%	7.5%	7.5%	11.3%	3.0%	8.0%	2.5%	5.5%	3.5%	3.8%	3.8%	5.0%	2.8%	3.0%	2.3%	1.3%	0.3%	0.3%	1.5%	1.5%	1.3%	0.3%	-	0.5%	-	14.3%
	高校3年相当	400	8.3%	8.0%	5.8%	9.8%	4.3%	4.5%	2.0%	5.3%	3.5%	4.5%	3.8%	4.0%	2.0%	3.5%	2.8%	0.5%	1.3%	1.0%	1.3%	1.3%	0.8%	0.5%	-	-	-	21.8%
	2004年度生まれ	400	8.0%	7.3%	6.5%	6.8%	3.3%	6.5%	2.8%	5.0%	3.5%	4.5%	2.8%	5.0%	4.3%	3.0%	3.0%	1.8%	1.5%	-	3.0%	0.3%	1.0%	0.8%	0.5%	-	-	19.3%
	2003年度生まれ	400	9.8%	3.0%	6.5%	6.5%	3.3%	6.5%	3.5%	4.5%	3.3%	4.0%	4.8%	3.3%	3.3%	2.8%	1.5%	1.0%	2.0%	0.3%	2.5%	1.8%	1.3%	1.3%	-	-	0.3%	23.5%
	2002年度生まれ	400	8.3%	6.5%	7.0%	5.5%	2.5%	6.3%	2.8%	4.8%	4.5%	5.0%	4.0%	3.8%	2.3%	2.3%	2.3%	1.3%	2.5%	0.8%	0.5%	0.8%	1.8%	-	-	0.3%	-	24.8%
	2001年度生まれ	400	8.5%	8.3%	7.5%	7.3%	3.0%	2.0%	4.3%	4.5%	5.0%	4.0%	5.3%	2.0%	3.5%	2.8%	2.0%	1.3%	1.3%	0.8%	1.0%	0.8%	1.3%	0.3%	-	0.3%	-	23.5%
	2000年度生まれ	400	6.8%	6.3%	5.8%	5.0%	2.5%	2.0%	3.8%	5.0%	2.5%	5.3%	5.8%	3.5%	5.0%	4.3%	3.3%	2.5%	2.0%	0.5%	1.0%	0.8%	0.3%	0.5%	0.5%	0.3%	-	25.3%
	1999年度生まれ	400	4.8%	4.0%	4.8%	6.8%	4.8%	3.5%	2.8%	4.0%	3.8%	4.5%	4.5%	4.8%	2.5%	2.8%	3.3%	1.5%	1.0%	1.5%	0.5%	0.8%	1.0%	1.3%	0.3%	-	-	31.0%
	1998年度生まれ	400	7.5%	6.3%	5.3%	6.3%	3.8%	2.5%	3.5%	4.5%	4.0%	2.5%	2.3%	0.8%	2.8%	3.5%	2.3%	1.5%	0.8%	-	1.3%	0.3%	1.5%	0.3%	0.5%	-	-	36.5%
	1997年度生まれ	400	7.0%	5.8%	5.8%	7.3%	3.3%	2.3%	2.5%	4.0%	3.5%	5.0%	4.3%	4.0%	3.0%	2.3%	3.0%	0.3%	1.3%	1.5%	1.0%	0.8%	0.5%	1.5%	0.3%	-	-	30.3%
【保護者】	小学校6年の保護者	400	10.8%	9.8%	5.3%	2.0%	7.0%	3.3%	7.8%	5.0%	4.5%	4.3%	3.0%	1.3%	4.0%	4.0%	-	0.3%	0.8%	1.0%	1.0%	0.3%	-	0.8%	-	-	0.3%	24.0%
	中学校1年の保護者	400	10.0%	10.3%	5.0%	2.5%	8.8%	3.5%	7.3%	5.5%	4.0%	3.5%	2.8%	4.8%	4.3%	1.5%	0.8%	0.8%	0.3%	1.5%	0.3%	0.3%	0.3%	0.8%	-	-	-	21.8%
	中学校2年の保護者	400	10.5%	7.5%	7.0%	3.8%	6.8%	2.3%	7.5%	4.8%	4.5%	6.0%	4.0%	2.5%	3.8%	4.3%	-	0.5%	0.3%	2.3%	0.8%	0.8%	-	0.3%	-	-	-	20.3%
	中学校3年の保護者	400	6.8%	10.8%	8.8%	2.5%	7.8%	3.0%	6.3%	4.0%	5.5%	3.8%	4.0%	3.5%	2.8%	1.5%	0.8%	2.0%	0.8%	1.3%	0.5%	0.3%	-	0.3%	0.5%	-	0.5%	22.5%
	高校1年相当の保護者	400	12.0%	5.3%	8.3%	2.0%	3.5%	2.5%	8.5%	4.3%	3.8%	4.3%	2.5%	5.8%	4.5%	1.3%	1.5%	0.5%	0.3%	1.8%	1.3%	0.8%	0.3%	0.5%	0.5%	0.3%	-	24.3%
	高校2年相当の保護者	400	9.0%	7.8%	6.5%	3.0%	7.0%	2.5%	5.3%	4.5%	6.8%	3.0%	4.8%	3.3%	5.3%	1.5%	0.5%	0.3%	0.3%	1.0%	0.3%	-	0.3%	0.5%	0.3%	-	-	26.8%
	高校3年相当の保護者	400	10.5%	6.8%	7.0%	1.8%	7.3%	3.3%	5.3%	2.8%	4.3%	4.3%	6.0%	7.3%	4.3%	1.8%	0.3%	0.5%	1.0%	1.8%	1.0%	0.8%	-	0.3%	-	0.3%	0.3%	21.8%
	全体	8800	8.5%	7.1%	6.5%	6.0%	5.3%	4.9%	4.5%	4.0%	4.0%	3.9%	3.8%	3.6%	3.5%	2.5%	1.5%	1.2%	1.0%	1.0%	1.0%	0.8%	0.7%	0.5%	0.2%	0.1%	0.1%	23.9%

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンに対する認識【子宮頸がんは深刻な病気だと思う】

Q12S1　【本人】あなたは以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
【保護者】あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[子宮頸がんは深刻な病気だと思う]



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	30.7	49.4	16.3			80.1	3.6
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	37.8	49.7	10.5			87.5	2.0
【本人】	小学校6年	(400)	21.0	49.0	26.3		2.3	70.0	3.8
【本人】	中学校1年	(400)	22.3	50.0	24.0		2.3	72.3	3.8
【本人】	中学校2年	(400)	27.5	49.5	19.3			77.0	3.8
【本人】	中学校3年	(400)	28.5	50.8	19.0			79.3	1.8
【本人】	高校1年相当	(400)	30.5	51.3	16.0			81.8	2.3
【本人】	高校2年相当	(400)	34.0	49.8	13.5			83.8	2.8
【本人】	高校3年相当	(400)	32.8	49.5	14.8			82.3	3.0
【本人】	2004年度生まれ	(400)	29.5	53.0	15.3			82.5	2.3
【本人】	2003年度生まれ	(400)	30.8	53.0	12.8			83.8	3.5
【本人】	2002年度生まれ	(400)	32.8	48.0	15.8			80.8	3.5
【本人】	2001年度生まれ	(400)	29.8	51.0	15.3	2.0		80.8	4.0
【本人】	2000年度生まれ	(400)	34.3	46.8	15.5	2.3		81.0	3.5
【本人】	1999年度生まれ	(400)	38.5	44.3	12.3	2.8		82.8	5.0
【本人】	1998年度生まれ	(400)	33.0	47.5	13.5	2.5		80.5	6.0
【本人】	1997年度生まれ	(400)	35.8	47.0	11.5			82.8	5.8
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	38.0	46.5	12.0			84.5	3.5
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	34.0	52.8	12.0			86.8	1.3
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	38.8	51.5	7.5			90.3	2.3
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	41.3	48.5	8.3			89.8	2.0
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	39.8	47.8	10.3	2.3		87.5	2.3
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	35.3	50.0	13.0			85.3	1.8
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	37.5	51.0	10.3			88.5	1.3
	全体	(8800)	33.0	49.5	14.4			82.4	3.1

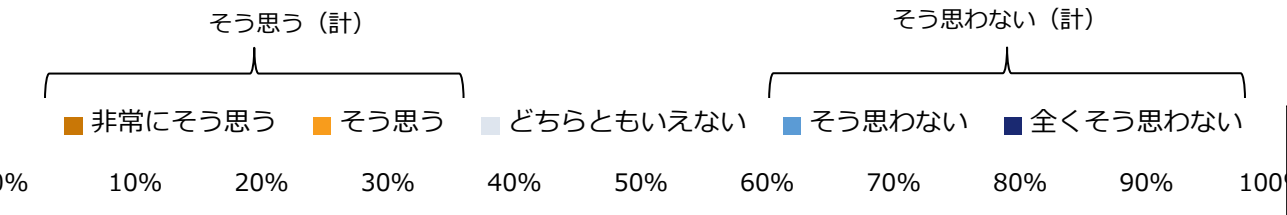
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

2%未満の数値ラベルは非表示

子宮頸がんやHPVワクチンに対する認識
【HPVは、性交渉の経験のある女性であれば、誰でも一生に一度は感染する可能性がある】

Q12S2　【本人】あなたは以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
【保護者】あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[HPVは、性交渉の経験のある女性であれば、誰でも一生に一度は感染する可能性がある]

■全体+10pt以上　■全体+5pt以上
■全体－10pt以下　■全体－5pt以下
（n=30以上）　※本人全体、保護者全体で各色付け



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	20.0	38.8	32.9	6.3		58.9	8.3
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	24.5	38.1	30.0	6.5		62.6	7.4
【本人】	小学校6年	(400)	10.8	33.8	47.8	6.5		44.5	7.8
【本人】	中学校1年	(400)	13.0	34.8	41.0	8.3		47.8	11.3
【本人】	中学校2年	(400)	13.5	40.0	38.3	6.8		53.5	8.3
【本人】	中学校3年	(400)	14.3	38.3	40.0	6.3		52.5	7.5
【本人】	高校1年相当	(400)	15.5	37.0	41.8	4.3		52.5	5.8
【本人】	高校2年相当	(400)	25.0	39.5	26.3	8.3		64.5	9.3
【本人】	高校3年相当	(400)	17.8	38.8	32.5	9.3		56.5	11.0
【本人】	2004年度生まれ	(400)	23.0	39.8	31.5	4.8		62.8	5.8
【本人】	2003年度生まれ	(400)	19.0	41.8	31.3	6.5		60.8	8.0
【本人】	2002年度生まれ	(400)	24.5	42.5	27.0	4.5		67.0	6.0
【本人】	2001年度生まれ	(400)	24.8	37.5	27.8	6.8		62.3	10.0
【本人】	2000年度生まれ	(400)	26.8	39.8	25.3	6.3		66.5	8.3
【本人】	1999年度生まれ	(400)	24.5	37.8	28.3	7.3		62.3	9.5
【本人】	1998年度生まれ	(400)	21.8	42.5	27.8	4.0		64.3	8.0
【本人】	1997年度生まれ	(400)	26.5	38.8	26.8	4.3		65.3	8.0
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	23.5	38.0	32.3	5.5		61.5	6.3
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	24.0	38.0	31.5	5.8		62.0	6.5
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	26.5	38.3	28.5	5.5		64.8	6.8
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	29.0	40.0	24.3	5.5		69.0	6.8
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	25.0	37.3	29.8	7.0		62.3	8.0
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	21.5	37.0	31.5	9.0		58.5	10.0
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	21.8	38.5	32.0	7.5		60.3	7.8
	全体	(8800)	21.4	38.6	31.9	6.3		60.0	8.0

2%未満の数値ラベルは非表示

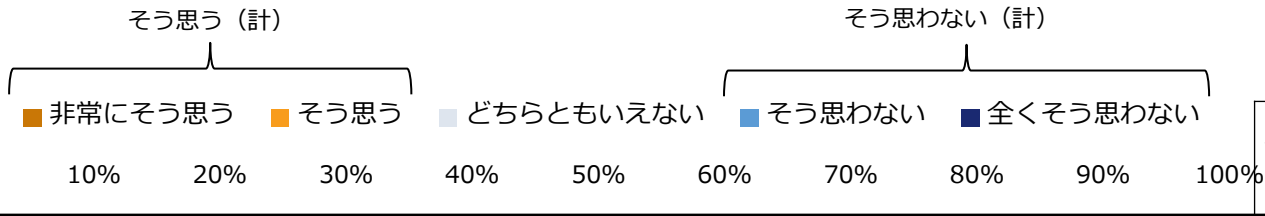
※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンに対する認識
【私は、子宮頸がんになる可能性は高くないと思う/娘は、子宮頸がんになる可能性は高くないと思う】

Q12S3 【本人】あなたは以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[私は、子宮頸がんになる可能性は高くないと思う]

Q12S4 【保護者】あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[娘は、子宮頸がんになる可能性は高くないと思う]

■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上） ※本人全体、保護者全体で各色付け



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	6.3	16.3	50.5	19.7	7.1	22.6	26.9
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	4.0	13.5	59.3	15.8	7.4	17.5	23.2
【本人】	小学校6年	(400)	2.5	9.3	66.0	16.0	6.3	11.8	22.3
【本人】	中学校1年	(400)	3.8	12.3	63.3	17.3	3.5	16.0	20.8
【本人】	中学校2年	(400)	4.8	14.5	60.0	14.8	6.0	19.3	20.8
【本人】	中学校3年	(400)	4.5	13.0	60.3	16.0	6.3	17.5	22.3
【本人】	高校1年相当	(400)	2.3	16.0	62.0	15.5	4.3	18.3	19.8
【本人】	高校2年相当	(400)	9.3	17.5	45.5	21.5	6.3	26.8	27.8
【本人】	高校3年相当	(400)	6.3	18.8	47.3	21.3	6.5	25.0	27.8
【本人】	2004年度生まれ	(400)	8.0	15.8	46.8	22.3	7.3	23.8	29.5
【本人】	2003年度生まれ	(400)	5.3	20.3	43.8	24.8	6.0	25.5	30.8
【本人】	2002年度生まれ	(400)	6.3	16.8	47.3	20.0	9.8	23.0	29.8
【本人】	2001年度生まれ	(400)	7.8	20.0	43.8	21.5	7.0	27.8	28.5
【本人】	2000年度生まれ	(400)	10.5	19.8	40.5	19.5	9.8	30.3	29.3
【本人】	1999年度生まれ	(400)	10.5	17.0	42.8	21.3	8.5	27.5	29.8
【本人】	1998年度生まれ	(400)	6.3	17.0	45.0	22.0	9.8	23.3	31.8
【本人】	1997年度生まれ	(400)	6.3	17.3	44.0	22.5	10.0	23.5	32.5
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	3.0	9.3	58.5	19.0	10.3	12.3	29.3
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	2.8	12.8	60.0	16.3	8.3	15.5	24.5
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	3.8	14.3	59.3	14.5	8.3	18.0	22.8
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	6.5	11.8	59.5	16.8	5.5	18.3	22.3
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	4.0	16.3	57.0	15.0	7.8	20.3	22.8
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	3.8	16.3	58.3	15.5	6.3	20.0	21.8
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	4.0	14.0	62.8	13.8	5.5	18.0	19.3
	全体	(8800)	5.5	15.4	53.3	18.5	7.2	21.0	25.7

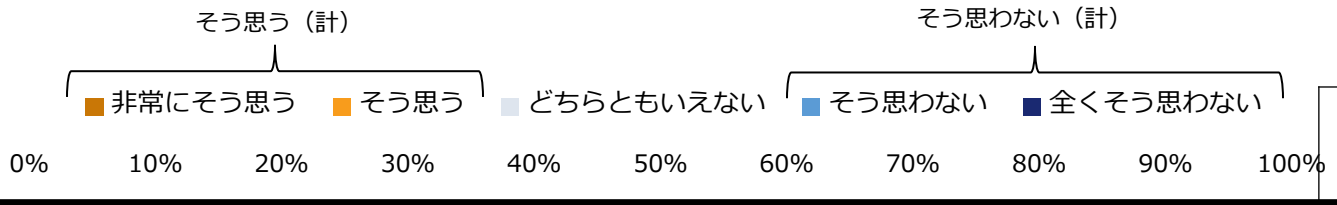
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答。
また、小学校6年～高校1年相当の女性に対しても、「娘は、子宮頸がんになる可能性は高くないと思う」として聴取されていた

子宮頸がんやHPVワクチンに対する認識【HPVワクチンは、子宮頸がんを予防するのに有効である】

Q12S5 【本人】あなたは以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
【保護者】あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[HPVワクチンは、子宮頸がんを予防するのに有効である]

■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上） ※本人全体、保護者全体で各色付け



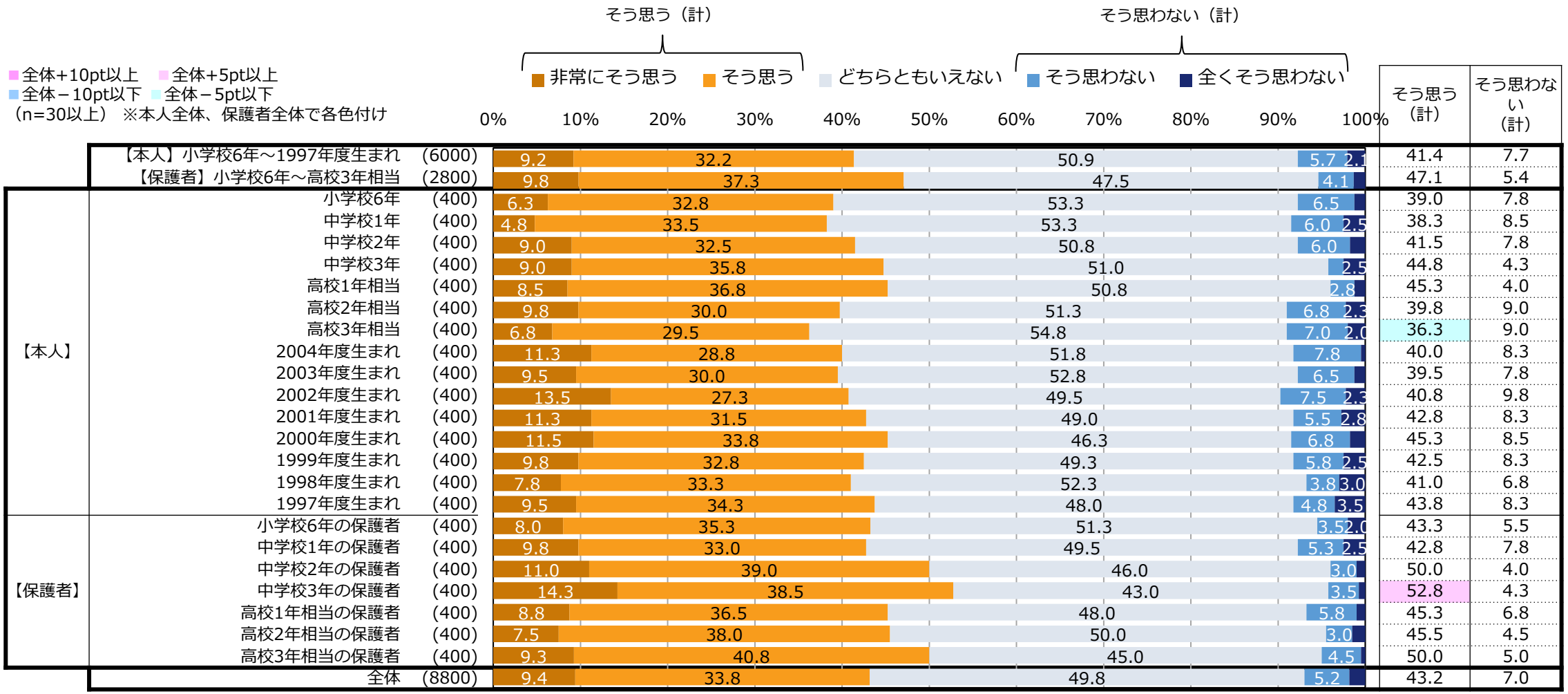
			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	14.5	45.3	35.0	3.6		59.8	5.3
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	15.6	44.2	36.3	2.8		59.8	4.0
【本人】	小学校6年	(400)	6.5	42.5	44.8	5.0		49.0	6.3
【本人】	中学校1年	(400)	7.3	44.3	41.3	5.3		51.5	7.3
【本人】	中学校2年	(400)	12.0	45.3	37.0	3.5		57.3	5.8
【本人】	中学校3年	(400)	12.8	43.3	41.0			56.0	3.0
【本人】	高校1年相当	(400)	13.0	48.3	35.8			61.3	3.0
【本人】	高校2年相当	(400)	19.3	46.5	31.0	2.5		65.8	3.3
【本人】	高校3年相当	(400)	15.8	43.8	36.3	3.0		59.5	4.3
【本人】	2004年度生まれ	(400)	17.3	47.3	31.0	3.8		64.5	4.5
【本人】	2003年度生まれ	(400)	16.0	47.5	33.3	2.5		63.5	3.3
【本人】	2002年度生まれ	(400)	17.3	42.0	34.8	4.3		59.3	6.0
【本人】	2001年度生まれ	(400)	15.8	43.5	34.8	4.0		59.3	6.0
【本人】	2000年度生まれ	(400)	18.5	45.8	31.0	3.5		64.3	4.8
【本人】	1999年度生まれ	(400)	16.3	44.8	30.5	5.8		61.0	8.5
【本人】	1998年度生まれ	(400)	13.3	49.8	31.0	3.3		63.0	6.0
【本人】	1997年度生まれ	(400)	16.3	45.5	31.3	4.3		61.8	7.0
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	11.5	42.3	41.8	2.8		53.8	4.5
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	16.0	41.3	38.5	2.5		57.3	4.3
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	18.3	41.8	37.0	2.3		60.0	3.0
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	21.8	44.0	30.0	3.5		65.8	4.3
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	15.3	45.8	34.8	3.3		61.0	4.3
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	11.5	46.3	37.3	3.3		57.8	5.0
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	14.8	48.0	34.5	2.3		62.8	2.8
	全体	(8800)	14.8	45.0	35.4	3.3		59.8	4.9

2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンに対する認識
【公費で接種できるHPVワクチンで、子宮頸がんの原因となるHPVの90%までが予防できる】

Q12S6 【本人】あなたは以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
【保護者】あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[公費で接種できるHPVワクチンで、子宮頸がんの原因となるHPVの90%までが予防できる]



			そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	41.4	7.7
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	47.1	5.4
【本人】	小学校6年	(400)	39.0	7.8
【本人】	中学校1年	(400)	38.3	8.5
【本人】	中学校2年	(400)	41.5	7.8
【本人】	中学校3年	(400)	44.8	4.3
【本人】	高校1年相当	(400)	45.3	4.0
【本人】	高校2年相当	(400)	39.8	9.0
【本人】	高校3年相当	(400)	36.3	9.0
【本人】	2004年度生まれ	(400)	40.0	8.3
【本人】	2003年度生まれ	(400)	39.5	7.8
【本人】	2002年度生まれ	(400)	40.8	9.8
【本人】	2001年度生まれ	(400)	42.8	8.3
【本人】	2000年度生まれ	(400)	45.3	8.5
【本人】	1999年度生まれ	(400)	42.5	8.3
【本人】	1998年度生まれ	(400)	41.0	6.8
【本人】	1997年度生まれ	(400)	43.8	8.3
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	43.3	5.5
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	42.8	7.8
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	50.0	4.0
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	52.8	4.3
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	45.3	6.8
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	45.5	4.5
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	50.0	5.0
	全体	(8800)	43.2	7.0

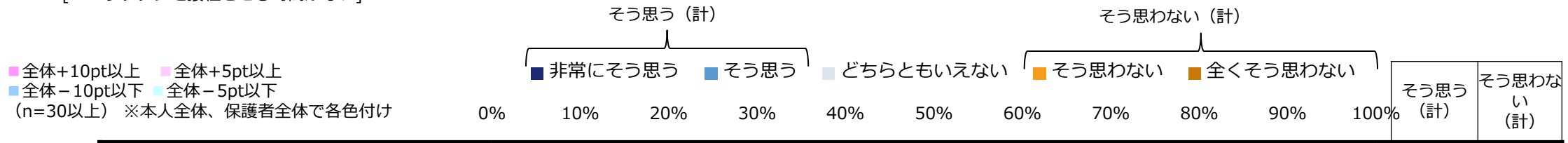
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンに対する認識
【HPVワクチンを接種する時間がない/HPVワクチンを接種させる時間がない】

Q12S7 【本人】あなたは以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[HPVワクチンを接種する時間がない]

Q12S8 【保護者】あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[HPVワクチンを接種させる時間がない]



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	6.8	25.3	30.9	25.8	11.2	32.1	37.0
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	4.5	18.9	29.3	31.0	16.3	23.4	47.3
【本人】	小学校6年	(400)	3.3	14.0	41.0	34.3	7.5	17.3	41.8
【本人】	中学校1年	(400)	3.0	17.3	38.0	30.3	11.5	20.3	41.8
【本人】	中学校2年	(400)	3.5	21.3	30.8	28.3	16.3	24.8	44.5
【本人】	中学校3年	(400)	4.5	18.0	34.5	28.5	14.5	22.5	43.0
【本人】	高校1年相当	(400)	5.5	21.0	31.3	25.5	16.8	26.5	42.3
【本人】	高校2年相当	(400)	9.5	29.0	23.3	28.8	9.5	38.5	38.3
【本人】	高校3年相当	(400)	9.8	26.5	24.3	27.3	12.3	36.3	39.5
【本人】	2004年度生まれ	(400)	8.8	29.0	26.5	26.3	9.5	37.8	35.8
【本人】	2003年度生まれ	(400)	11.0	31.3	26.8	21.8	9.3	42.3	31.0
【本人】	2002年度生まれ	(400)	9.3	32.8	28.5	19.5	10.0	42.0	29.5
【本人】	2001年度生まれ	(400)	8.0	32.5	34.3	17.0	8.3	40.5	25.3
【本人】	2000年度生まれ	(400)	8.0	33.0	30.0	21.8	7.3	41.0	29.0
【本人】	1999年度生まれ	(400)	6.5	27.8	29.8	25.8	10.3	34.3	36.0
【本人】	1998年度生まれ	(400)	5.0	22.3	33.5	26.5	12.8	27.3	39.3
【本人】	1997年度生まれ	(400)	6.8	23.3	31.8	26.0	12.3	30.0	38.3
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	3.8	15.0	34.0	33.5	13.8	18.8	47.3
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	4.8	18.5	36.3	29.0	11.5	23.3	40.5
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	4.8	20.0	27.5	32.3	15.5	24.8	47.8
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	4.5	18.8	26.8	29.3	20.8	23.3	50.0
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	4.3	20.0	27.3	31.3	17.3	24.3	48.5
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	4.5	20.0	24.0	29.0	22.5	24.5	51.5
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	4.8	20.3	29.3	33.0	12.8	25.0	45.8
	全体	(8800)	6.1	23.2	30.4	27.5	12.8	29.3	40.3

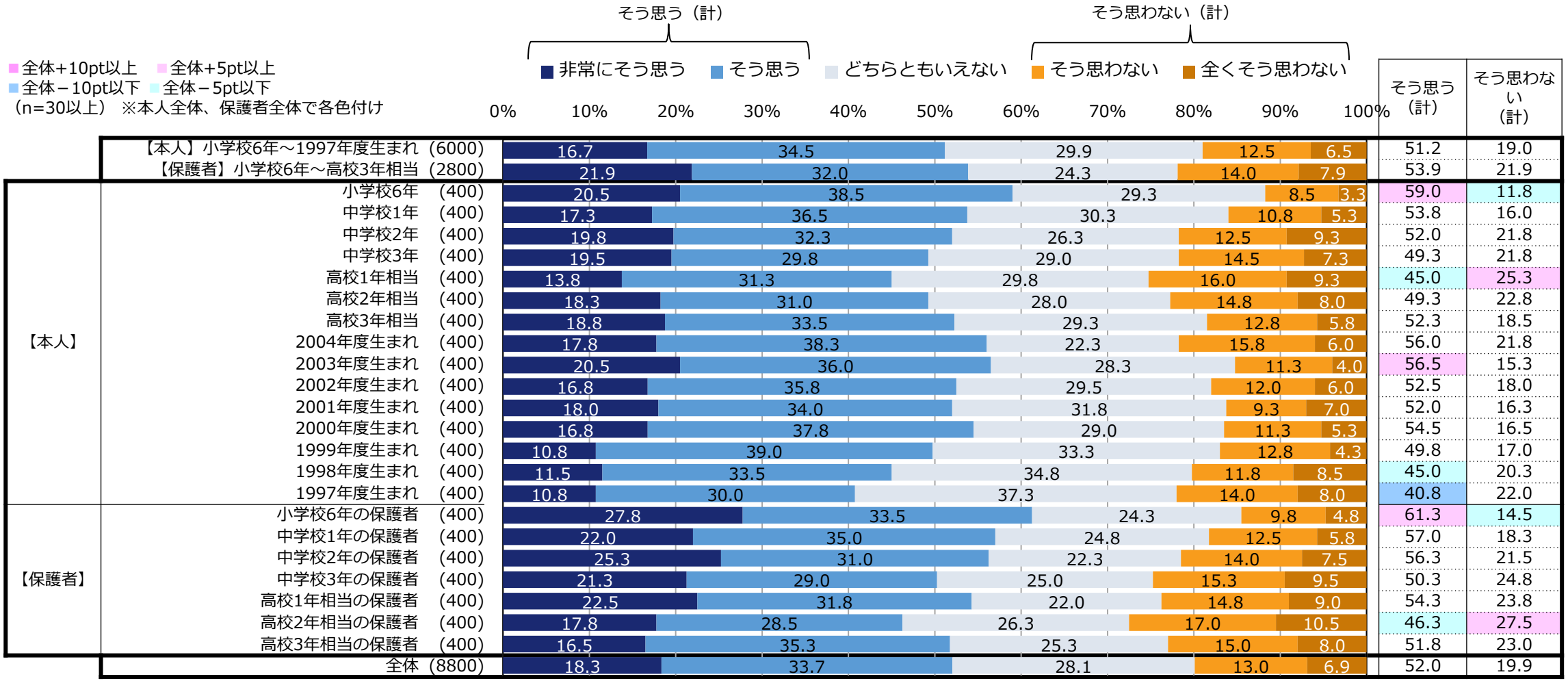
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンに対する認識【HPVワクチンのリスクについて十分な情報がなく、接種するかどうか決められない/ HPVワクチンのリスクについて十分な情報がなく、接種させるかどうか決められない】

Q12S9 【本人】あなたは以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[HPVワクチンのリスクについて十分な情報がなく、接種するかどうか決められない]

Q12S10 【保護者】あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[HPVワクチンのリスクについて十分な情報がなく、接種させるかどうか決められない]



		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ (6000)	16.7	34.5	29.9	12.5	6.5	51.2	19.0
	【保護者】小学校6年～高校3年相当 (2800)	21.9	32.0	24.3	14.0	7.9	53.9	21.9
【本人】	小学校6年 (400)	20.5	38.5	29.3	8.5	3.3	59.0	11.8
【本人】	中学校1年 (400)	17.3	36.5	30.3	10.8	5.3	53.8	16.0
【本人】	中学校2年 (400)	19.8	32.3	26.3	12.5	9.3	52.0	21.8
【本人】	中学校3年 (400)	19.5	29.8	29.0	14.5	7.3	49.3	21.8
【本人】	高校1年相当 (400)	13.8	31.3	29.8	16.0	9.3	45.0	25.3
【本人】	高校2年相当 (400)	18.3	31.0	28.0	14.8	8.0	49.3	22.8
【本人】	高校3年相当 (400)	18.8	33.5	29.3	12.8	5.8	52.3	18.5
【本人】	2004年度生まれ (400)	17.8	38.3	22.3	15.8	6.0	56.0	21.8
【本人】	2003年度生まれ (400)	20.5	36.0	28.3	11.3	4.0	56.5	15.3
【本人】	2002年度生まれ (400)	16.8	35.8	29.5	12.0	6.0	52.5	18.0
【本人】	2001年度生まれ (400)	18.0	34.0	31.8	9.3	7.0	52.0	16.3
【本人】	2000年度生まれ (400)	16.8	37.8	29.0	11.3	5.3	54.5	16.5
【本人】	1999年度生まれ (400)	10.8	39.0	33.3	12.8	4.3	49.8	17.0
【本人】	1998年度生まれ (400)	11.5	33.5	34.8	11.8	8.5	45.0	20.3
【本人】	1997年度生まれ (400)	10.8	30.0	37.3	14.0	8.0	40.8	22.0
【保護者】	小学校6年の保護者 (400)	27.8	33.5	24.3	9.8	4.8	61.3	14.5
【保護者】	中学校1年の保護者 (400)	22.0	35.0	24.8	12.5	5.8	57.0	18.3
【保護者】	中学校2年の保護者 (400)	25.3	31.0	22.3	14.0	7.5	56.3	21.5
【保護者】	中学校3年の保護者 (400)	21.3	29.0	25.0	15.3	9.5	50.3	24.8
【保護者】	高校1年相当の保護者 (400)	22.5	31.8	22.0	14.8	9.0	54.3	23.8
【保護者】	高校2年相当の保護者 (400)	17.8	28.5	26.3	17.0	10.5	46.3	27.5
【保護者】	高校3年相当の保護者 (400)	16.5	35.3	25.3	15.0	8.0	51.8	23.0
	全体 (8800)	18.3	33.7	28.1	13.0	6.9	52.0	19.9

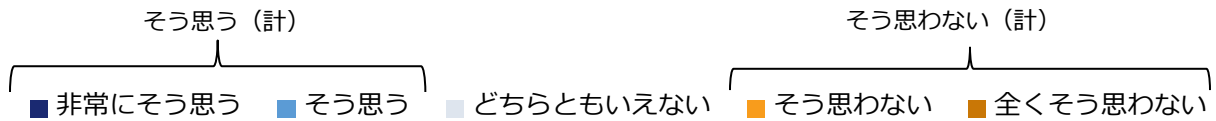
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

子宮頸がんやHPVワクチンに対する認識
【HPVワクチンを接種すると、以前報道で見たような健康被害が起きるのではないかと思っている】

Q12S11 【本人】あなたは以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
【保護者】あなたの娘は以下の内容について、どの程度同意されますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[HPVワクチンを接種すると、以前報道で見たような健康被害が起きるのではないかと思っている]

■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上） ※本人全体、保護者全体で各色付け



								そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	16.8	31.8	36.6	11.0	3.9	48.5	14.9
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	24.0	32.1	33.0	8.2	2.7	56.0	10.9
【本人】	小学校6年	(400)	23.5	32.3	38.8	3.8		55.8	5.5
【本人】	中学校1年	(400)	23.5	34.3	33.5	6.0	2.8	57.8	8.8
【本人】	中学校2年	(400)	23.8	33.3	29.8	9.8	3.5	57.0	13.3
【本人】	中学校3年	(400)	21.3	29.5	38.5	7.3	3.5	50.8	10.8
【本人】	高校1年相当	(400)	17.3	30.3	40.3	8.5	3.8	47.5	12.3
【本人】	高校2年相当	(400)	13.8	28.0	38.0	15.8	4.5	41.8	20.3
【本人】	高校3年相当	(400)	15.8	34.3	32.8	13.8	3.5	50.0	17.3
【本人】	2004年度生まれ	(400)	17.0	30.3	35.0	13.8	4.0	47.3	17.8
【本人】	2003年度生まれ	(400)	15.3	35.5	33.3	11.8	4.3	50.8	16.0
【本人】	2002年度生まれ	(400)	14.0	28.3	40.3	12.8	4.8	42.3	17.5
【本人】	2001年度生まれ	(400)	16.8	33.5	35.3	11.5	3.0	50.3	14.5
【本人】	2000年度生まれ	(400)	16.3	35.8	35.0	9.0	4.0	52.0	13.0
【本人】	1999年度生まれ	(400)	12.0	34.5	37.0	13.5	3.0	46.5	16.5
【本人】	1998年度生まれ	(400)	9.8	29.0	38.5	16.8	6.0	38.8	22.8
【本人】	1997年度生まれ	(400)	11.5	28.0	43.3	11.8	5.5	39.5	17.3
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	27.0	32.3	33.5	4.3	3.0	59.3	7.3
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	23.3	37.3	31.8	6.5		60.5	7.8
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	26.3	33.8	30.3	6.0	3.8	60.0	9.8
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	27.8	28.3	30.8	10.5	2.8	56.0	13.3
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	24.5	30.8	32.5	9.0	3.3	55.3	12.3
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	19.5	29.8	35.5	12.0	3.3	49.3	15.3
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	19.5	32.5	37.0	9.3		52.0	11.0
	全体	(8800)	19.0	31.9	35.5	10.1	3.5	50.9	13.6

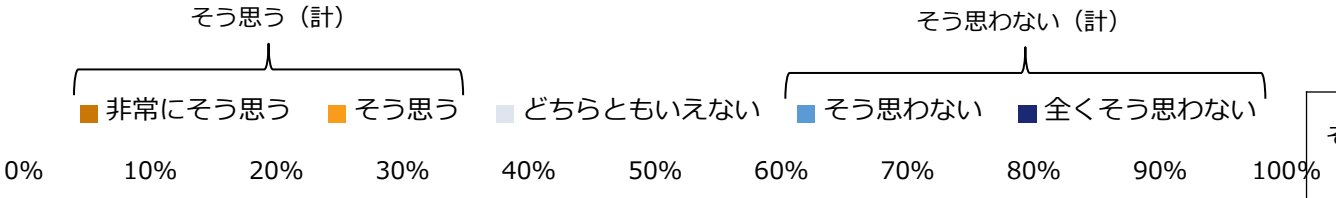
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンへの信頼【HPVワクチンは重要である】

Q13S1 【本人】あなたは、以下のHPVワクチンに対する考えについて、どう思いますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
【保護者】あなたの娘は、以下のHPVワクチンに対する考えについて、どう思いますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[HPVワクチンは重要である]

■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上） ※本人全体、保護者全体で各色付け



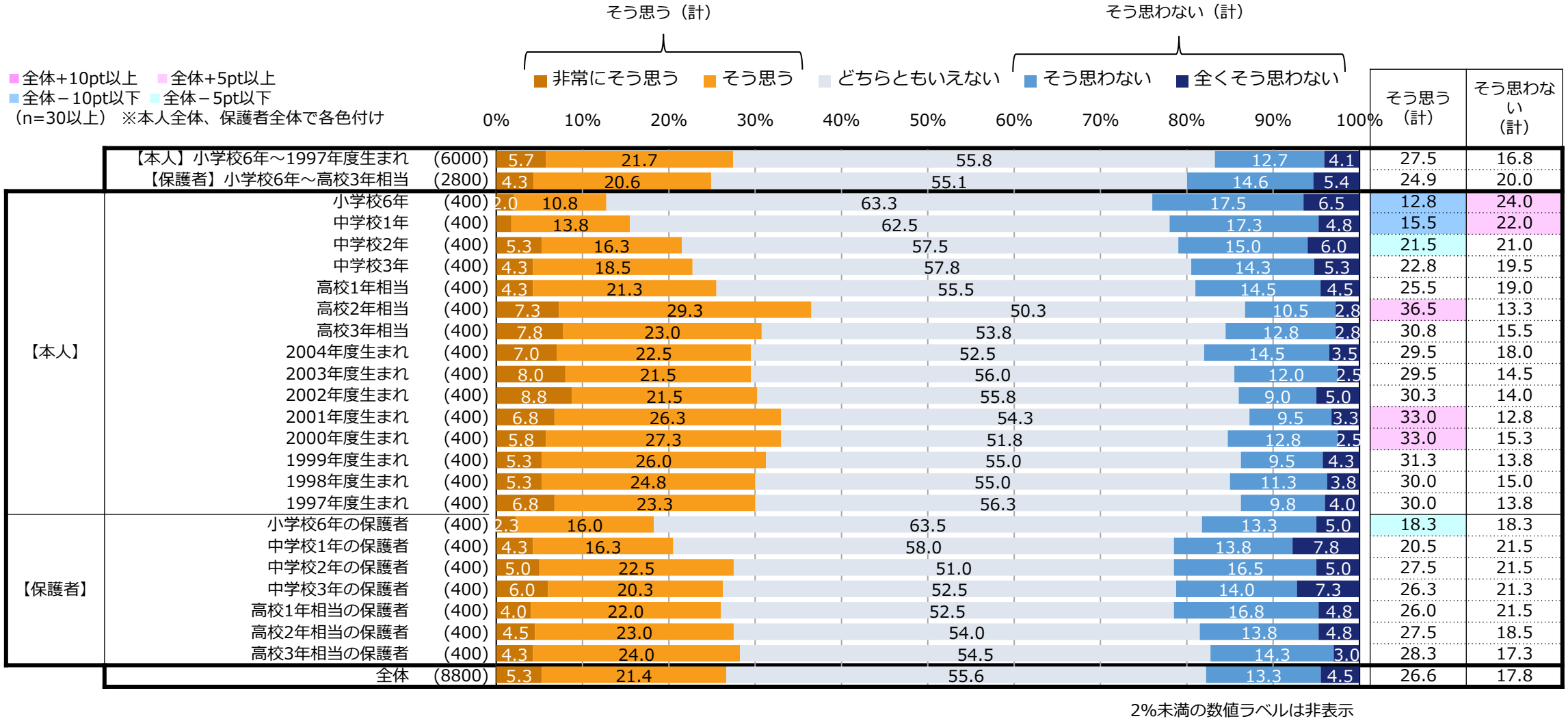
			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	14.3	43.8	36.0	4.1		58.1	6.0
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	13.8	40.7	39.4	4.6		54.5	6.1
【本人】	小学校6年	(400)	5.8	34.8	50.8	5.8	3.0	40.5	8.8
【本人】	中学校1年	(400)	7.8	35.5	48.3	6.3	2.3	43.3	8.5
【本人】	中学校2年	(400)	11.3	38.3	45.3	3.8		49.5	5.3
【本人】	中学校3年	(400)	10.5	40.5	43.5	2.8	2.8	51.0	5.5
【本人】	高校1年相当	(400)	11.3	44.0	40.5	3.3		55.3	4.3
【本人】	高校2年相当	(400)	20.8	46.8	28.3	2.5		67.5	4.3
【本人】	高校3年相当	(400)	18.8	46.5	30.0	3.3		65.3	4.8
【本人】	2004年度生まれ	(400)	17.8	49.8	27.8	4.0		67.5	4.8
【本人】	2003年度生まれ	(400)	16.8	44.0	32.3	5.3		60.8	7.0
【本人】	2002年度生まれ	(400)	17.5	45.5	31.8	4.0		63.0	5.3
【本人】	2001年度生まれ	(400)	17.5	44.3	33.0	3.5		61.8	5.3
【本人】	2000年度生まれ	(400)	16.8	44.0	33.3	4.3		60.8	6.0
【本人】	1999年度生まれ	(400)	13.0	49.0	30.5	4.8	2.8	62.0	7.5
【本人】	1998年度生まれ	(400)	13.3	48.0	31.5	4.8	2.5	61.3	7.3
【本人】	1997年度生まれ	(400)	15.8	45.8	32.8	2.8	3.0	61.5	5.8
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	9.8	40.3	43.3	4.8	2.0	50.0	6.8
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	13.5	37.8	41.8	4.0	3.0	51.3	7.0
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	15.8	42.3	36.8	4.3		58.0	5.3
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	18.8	39.3	35.0	5.3		58.0	7.0
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	13.0	38.8	41.5	5.8		51.8	6.8
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	11.5	44.3	38.5	4.5		55.8	5.8
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	14.3	42.5	38.8	3.5		56.8	4.5
	全体	(8800)	14.1	42.8	37.0	4.2		56.9	6.0

2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンへの信頼【HPVワクチンは安全である】

Q13S2 【本人】あなたは、以下のHPVワクチンに対する考えについて、どう思いますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
【保護者】あなたの娘は、以下のHPVワクチンに対する考えについて、どう思いますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[HPVワクチンは安全である]



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	5.7	21.7	55.8	12.7	4.1	27.5	16.8
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	4.3	20.6	55.1	14.6	5.4	24.9	20.0
【本人】	小学校6年	(400)	2.0	10.8	63.3	17.5	6.5	12.8	24.0
【本人】	中学校1年	(400)		13.8	62.5	17.3	4.8	15.5	22.0
【本人】	中学校2年	(400)	5.3	16.3	57.5	15.0	6.0	21.5	21.0
【本人】	中学校3年	(400)	4.3	18.5	57.8	14.3	5.3	22.8	19.5
【本人】	高校1年相当	(400)	4.3	21.3	55.5	14.5	4.5	25.5	19.0
【本人】	高校2年相当	(400)	7.3	29.3	50.3	10.5	2.8	36.5	13.3
【本人】	高校3年相当	(400)	7.8	23.0	53.8	12.8	2.8	30.8	15.5
【本人】	2004年度生まれ	(400)	7.0	22.5	52.5	14.5	3.5	29.5	18.0
【本人】	2003年度生まれ	(400)	8.0	21.5	56.0	12.0	2.5	29.5	14.5
【本人】	2002年度生まれ	(400)	8.8	21.5	55.8	9.0	5.0	30.3	14.0
【本人】	2001年度生まれ	(400)	6.8	26.3	54.3	9.5	3.3	33.0	12.8
【本人】	2000年度生まれ	(400)	5.8	27.3	51.8	12.8	2.5	33.0	15.3
【本人】	1999年度生まれ	(400)	5.3	26.0	55.0	9.5	4.3	31.3	13.8
【本人】	1998年度生まれ	(400)	5.3	24.8	55.0	11.3	3.8	30.0	15.0
【本人】	1997年度生まれ	(400)	6.8	23.3	56.3	9.8	4.0	30.0	13.8
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	2.3	16.0	63.5	13.3	5.0	18.3	18.3
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	4.3	16.3	58.0	13.8	7.8	20.5	21.5
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	5.0	22.5	51.0	16.5	5.0	27.5	21.5
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	6.0	20.3	52.5	14.0	7.3	26.3	21.3
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	4.0	22.0	52.5	16.8	4.8	26.0	21.5
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	4.5	23.0	54.0	13.8	4.8	27.5	18.5
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	4.3	24.0	54.5	14.3	3.0	28.3	17.3
	全体	(8800)	5.3	21.4	55.6	13.3	4.5	26.6	17.8

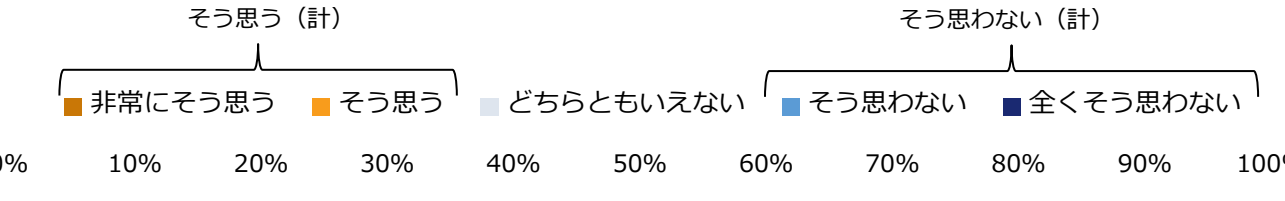
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンへの信頼【HPVワクチンは有効である】

Q13S3 【本人】あなたは、以下のHPVワクチンに対する考えについて、どう思いますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
【保護者】あなたの娘は、以下のHPVワクチンに対する考えについて、どう思いますか。以下より、あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[HPVワクチンは有効である]

■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上） ※本人全体、保護者全体で各色付け



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	9.5	42.5	41.4	4.7	2.0	52.0	6.7
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	9.5	44.0	40.9	4.1		53.5	5.6
【本人】	小学校6年	(400)	4.3	34.3	53.0	5.3	3.3	38.5	8.5
【本人】	中学校1年	(400)	5.0	34.3	52.8	5.8	2.3	39.3	8.0
【本人】	中学校2年	(400)	8.5	36.5	47.8	5.3	2.0	45.0	7.3
【本人】	中学校3年	(400)	6.8	40.8	45.5	4.3	2.8	47.5	7.0
【本人】	高校1年相当	(400)	8.3	44.3	41.3	4.8		52.5	6.3
【本人】	高校2年相当	(400)	14.5	48.5	34.0			63.0	3.0
【本人】	高校3年相当	(400)	11.3	43.5	40.5	3.3		54.8	4.8
【本人】	2004年度生まれ	(400)	12.0	46.3	36.0	4.8		58.3	5.8
【本人】	2003年度生まれ	(400)	11.8	42.8	39.5	5.0		54.5	6.0
【本人】	2002年度生まれ	(400)	12.5	42.3	37.0	5.8	2.5	54.8	8.3
【本人】	2001年度生まれ	(400)	12.3	43.5	36.8	5.3	2.3	55.8	7.5
【本人】	2000年度生まれ	(400)	9.0	45.0	39.5	5.8		54.0	6.5
【本人】	1999年度生まれ	(400)	8.5	42.3	42.3	4.8	2.3	50.8	7.0
【本人】	1998年度生まれ	(400)	8.0	48.0	36.8	5.0	2.3	56.0	7.3
【本人】	1997年度生まれ	(400)	9.8	45.0	38.5	4.0	2.8	54.8	6.8
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	7.8	39.5	47.0	3.3	2.5	47.3	5.8
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	9.3	42.3	41.8	4.0	2.8	51.5	6.8
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	10.8	44.8	38.5	4.8		55.5	6.0
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	13.3	41.0	42.0	2.5		54.3	3.8
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	7.5	45.8	39.5	5.8		53.3	7.3
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	7.8	47.0	39.0	5.0		54.8	6.3
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	10.3	47.8	38.3	3.5		58.0	3.8
	全体	(8800)	9.5	43.0	41.2	4.5		52.4	6.3

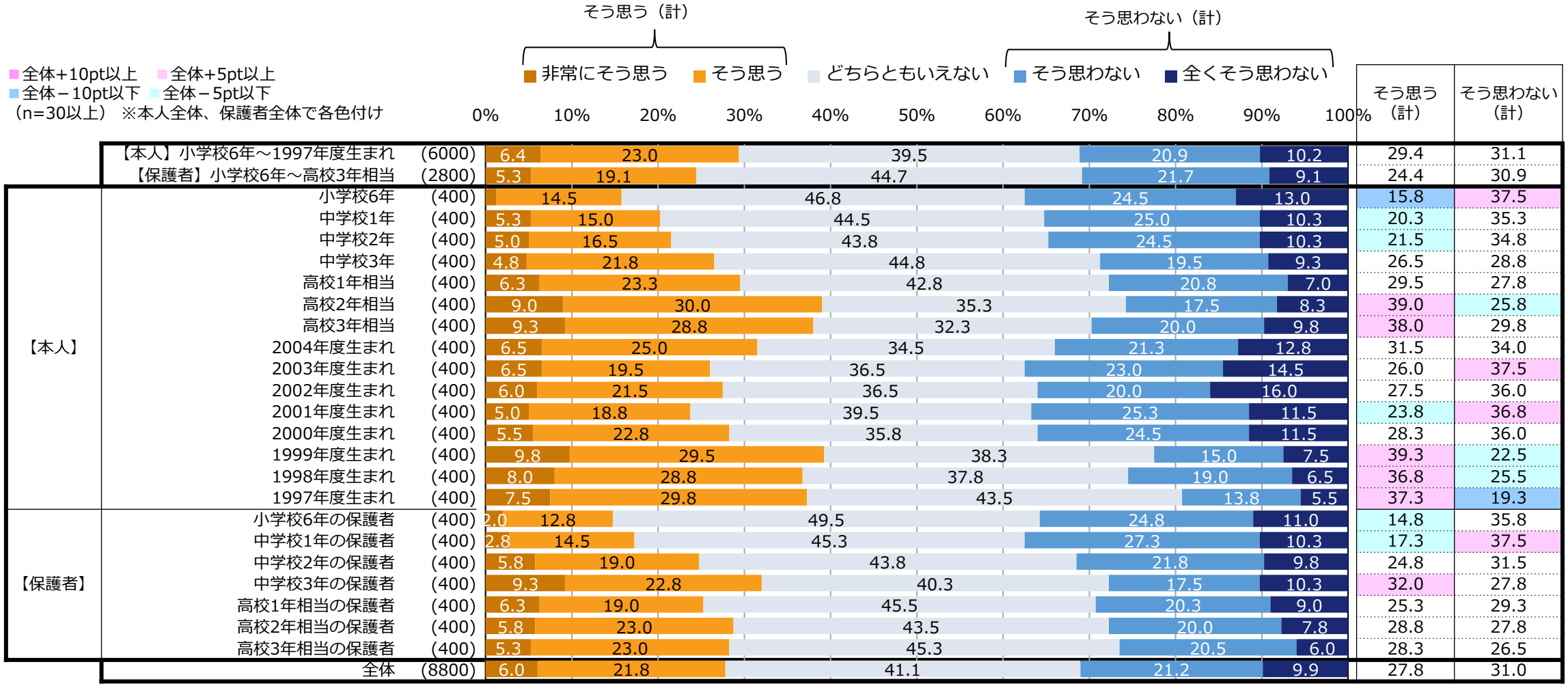
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

HPVワクチンに関する周りの状況
【私の周りの人たちは、HPVワクチンを接種している/私の周りの保護者は、娘にHPVワクチンを接種させている】

Q14S1 【本人】あなたは、以下のHPVワクチンに関する周りの状況について、それぞれどう思いますか。あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[私の周りの人たちは、HPVワクチンを接種している]

Q14S3 【保護者】あなたは、以下のHPVワクチンに関する周りの状況について、それぞれどう思いますか。あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[私の周りの保護者は、娘にHPVワクチンを接種させている]



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	6.4	23.0	39.5	20.9	10.2	29.4	31.1
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	5.3	19.1	44.7	21.7	9.1	24.4	30.9
【本人】	小学校6年	(400)	1.5	14.5	46.8	24.5	13.0	15.8	37.5
【本人】	中学校1年	(400)	5.3	15.0	44.5	25.0	10.3	20.3	35.3
【本人】	中学校2年	(400)	5.0	16.5	43.8	24.5	10.3	21.5	34.8
【本人】	中学校3年	(400)	4.8	21.8	44.8	19.5	9.3	26.5	28.8
【本人】	高校1年相当	(400)	6.3	23.3	42.8	20.8	7.0	29.5	27.8
【本人】	高校2年相当	(400)	9.0	30.0	35.3	17.5	8.3	39.0	25.8
【本人】	高校3年相当	(400)	9.3	28.8	32.3	20.0	9.8	38.0	29.8
【本人】	2004年度生まれ	(400)	6.5	25.0	34.5	21.3	12.8	31.5	34.0
【本人】	2003年度生まれ	(400)	6.5	19.5	36.5	23.0	14.5	26.0	37.5
【本人】	2002年度生まれ	(400)	6.0	21.5	36.5	20.0	16.0	27.5	36.0
【本人】	2001年度生まれ	(400)	5.0	18.8	39.5	25.3	11.5	23.8	36.8
【本人】	2000年度生まれ	(400)	5.5	22.8	35.8	24.5	11.5	28.3	36.0
【本人】	1999年度生まれ	(400)	9.8	29.5	38.3	15.0	7.5	39.3	22.5
【本人】	1998年度生まれ	(400)	8.0	28.8	37.8	19.0	6.5	36.8	25.5
【本人】	1997年度生まれ	(400)	7.5	29.8	43.5	13.8	5.5	37.3	19.3
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	2.0	12.8	49.5	24.8	11.0	14.8	35.8
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	2.8	14.5	45.3	27.3	10.3	17.3	37.5
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	5.8	19.0	43.8	21.8	9.8	24.8	31.5
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	9.3	22.8	40.3	17.5	10.3	32.0	27.8
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	6.3	19.0	45.5	20.3	9.0	25.3	29.3
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	5.8	23.0	43.5	20.0	7.8	28.8	27.8
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	5.3	23.0	45.3	20.5	6.0	28.3	26.5
	全体	(8800)	6.0	21.8	41.1	21.2	9.9	27.8	31.0

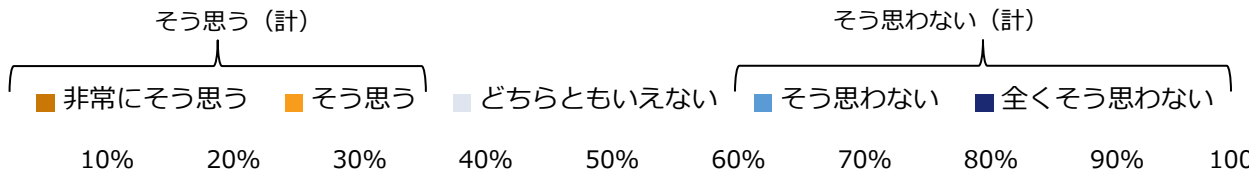
2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答。
また、小学校6年～高校1年相当の女性に対しても、「私の周りの保護者は、娘にHPVワクチンを接種させている」として聴取されていた

HPVワクチンに関する周りの状況【私にとって大切な人の多くは、HPVワクチンを接種することに賛成すると思う/私にとって大切な人の多くは、娘にHPVワクチンを接種させることに賛成すると思う】

Q14S2 【本人】あなたは、以下のHPVワクチンに関する周りの状況について、それぞれどう思いますか。あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[私にとって大切な人の多くは、HPVワクチンを接種することに賛成すると思う]
Q14S4 【保護者】あなたは、以下のHPVワクチンに関する周りの状況について、それぞれどう思いますか。あてはまるものをそれぞれひとつお答えください。
[私にとって大切な人の多くは、娘にHPVワクチンを接種させることに賛成すると思う]

■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上
■全体－10pt以下 ■全体－5pt以下
（n=30以上） ※本人全体、保護者全体で各色付け



			非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う（計）	そう思わない（計）
	【本人】小学校6年～1997年度生まれ	(6000)	7.0	31.4	45.4	11.9	4.4	38.4	16.2
	【保護者】小学校6年～高校3年相当	(2800)	5.7	27.5	51.4	12.0	3.4	33.3	15.4
【本人】	小学校6年	(400)	2.5	21.0	53.5	18.5	4.5	23.5	23.0
【本人】	中学校1年	(400)	4.5	22.0	55.5	13.3	4.8	26.5	18.0
【本人】	中学校2年	(400)	6.5	25.0	47.3	15.3	6.0	31.5	21.3
【本人】	中学校3年	(400)	6.0	26.3	50.0	12.0	5.8	32.3	17.8
【本人】	高校1年相当	(400)	7.0	32.8	45.3	11.3	3.8	39.8	15.0
【本人】	高校2年相当	(400)	10.8	41.5	36.5	8.0	3.3	52.3	11.3
【本人】	高校3年相当	(400)	7.3	35.3	44.0	10.3	3.3	42.5	13.5
【本人】	2004年度生まれ	(400)	7.8	35.5	41.0	10.3	5.5	43.3	15.8
【本人】	2003年度生まれ	(400)	8.0	29.0	44.8	14.3	4.0	37.0	18.3
【本人】	2002年度生まれ	(400)	9.0	32.3	42.8	11.3	4.8	41.3	16.0
【本人】	2001年度生まれ	(400)	7.3	29.3	45.5	13.0	5.0	36.5	18.0
【本人】	2000年度生まれ	(400)	6.5	31.5	46.3	12.3	3.5	38.0	15.8
【本人】	1999年度生まれ	(400)	7.8	37.3	40.0	12.0	3.0	45.0	15.0
【本人】	1998年度生まれ	(400)	6.5	35.3	45.8	9.0	3.5	41.8	12.5
【本人】	1997年度生まれ	(400)	7.0	37.8	43.0	7.5	4.8	44.8	12.3
【保護者】	小学校6年の保護者	(400)	3.8	23.5	57.5	11.3	4.0	27.3	15.3
【保護者】	中学校1年の保護者	(400)	5.0	25.5	52.8	12.0	4.8	30.5	16.8
【保護者】	中学校2年の保護者	(400)	6.8	27.0	52.5	11.5	2.3	33.8	13.8
【保護者】	中学校3年の保護者	(400)	8.0	29.0	46.3	10.8	6.0	37.0	16.8
【保護者】	高校1年相当の保護者	(400)	5.0	29.8	49.8	13.3	2.3	34.8	15.5
【保護者】	高校2年相当の保護者	(400)	5.8	29.0	49.8	13.0	2.5	34.8	15.5
【保護者】	高校3年相当の保護者	(400)	5.8	29.0	51.3	12.0	2.0	34.8	14.0
	全体	(8800)	6.6	30.2	47.3	11.9	4.0	36.8	15.9

2%未満の数値ラベルは非表示

※【本人】小学校6年～高校1年相当の女性 は、本人が横にいて保護者が代理回答

調査２「HPVワクチンに関するインタビュー調査」

調査概要と対象者

■調査概要

目的	納得・安心して接種を判断できるような情報提供のあり方について検討するための示唆を得る
形式	オンラインインタビュー • 調査機関保有モニターより候補者抽出のうえ、リクルーティングを実施 • 厚生労働省が作成したリーフレットを事前に送付（概要版および詳細版。キャッチアップ接種対象者にはキャッチアップ版も同送） 
調査期間	2024年2月22日（木）～27日（火）

■インタビュー方法および対象者の詳細

インタビュー方法	親子ペアインタビュー	個別インタビュー
対象者・人数	2005年度～2011年度生まれの女性*1 とその母親　8組（計16人） *1：2023年度に小学校6年～高校3年相当になった女性	1997年度～2004年度生まれの女性*2　8人 *2：2023年度に19歳～26歳になった女性
内訳	• 規定回数の接種が完了している　―　2組（計4人） • 規定回数の接種は未完了（次回接種予約済）―　1組（計2人） • 接種経験なし（接種を受けようと思っている）―　1組（計2人） • 接種経験なし（接種を受けるか迷っている）―　4組（計8人）	• 規定回数の接種が完了している　―　3人 • 規定回数の接種は未完了（次回接種予約済）　―　1人 • 接種経験あり（接種を受けるか迷っている）　―　1人 • 接種経験なし（接種を受けるか迷っている）　―　3人
スクリーニング条件	• HPVワクチンについて「知っている」または「名前は聞いたことがある」 • HPVワクチンの接種について、以下のいずれかにあてはまる ・ 規定回数の接種が完了している ・ 規定回数の接種は未完了であるうち、 - 今後の接種予定：あり（予約済） - 今後の接種予定：なし（接種を受けようと思っている） - 今後の接種予定：なし（接種を受けるか迷っている） • 親子間で接種に対する考えは「一致している」または「やや一致している」	• HPVワクチンについて「知っている」または「名前は聞いたことがある」 • HPVワクチンの接種について、以下のいずれかにあてはまる ・ 規定回数の接種が完了している ・ 規定回数の接種は未完了であるうち、 - 今後の接種予定：あり（予約済） - 今後の接種予定：なし（接種を受けようと思っている） - 今後の接種予定：なし（接種を受けるか迷っている）
調査時間	1件あたり90分	1件あたり60分

調査参加者一覧①（親子ペアインタビュー）

- 2005年度～2011年度生まれの女性（2023年度に小学校6年～高校3年相当になった女性）
- 上記女性の母親

No.	居住地	母　職業	娘　学年	同居家族	接種経験	接種時期	今後の接種予定	周囲の接種状況
1	関東	会社員	高校1年	父　母　弟	あり（1回）	1回目：2024年1月	あり（予約済）	学校の友達は半分くらい接種済
2	関東	事務職	中学3年	父　母 姉（高2）	なし	ー	なし（接種しようと思っている）	姉：接種経験あり（規定回数完了） 周囲：1人接種経験あり
3	中国・四国	公務員	高校2年	母	あり（3回）	1回目：2022年3月 2回目：2022年5月 3回目：2022年10月	―	学校の友達はちらほら接種済
4	関東	専業主婦	中学3年	父　母 兄（高2） 妹（小6） 弟（小3）	あり（3回）	1回目：2022年4月 2回目：2022年7月 3回目：2023年7月	―	不明
5	関東	専業主婦	小学校6年	父　母 妹（未就学）	なし	ー	なし（接種を迷っている）	周囲：未接種
6	関東	専業主婦	小学校6年	父　母 姉（中2）	なし	ー	なし（接種を迷っている）	周囲：未接種
7	関東	専業主婦	高校2年	父　母	なし	ー	なし（接種を迷っている）	学校の友達3人くらい
8	近畿	専業主婦	高校3年	父　母	なし	ー	なし（接種を迷っている）	周囲：片手で数えられるくらいの人数

調査参加者一覧②（個別インタビュー）

- 1997年度～2004年度生まれの女性（2023年度に19歳～26歳になった女性）

No.	居住地	学年・職業	同居家族	接種経験	接種時期	今後の接種予定	周囲の接種状況
1	近畿	大学4年（23歳）	母 妹（2人）	あり（1回）	1回目：中学生	なし（接種を迷っている）	妹：2人とも未接種 周囲：不明
2	関東	大学4年（22歳）	父　母	なし	ー	なし（接種を迷っている）	周囲：1人（高校時代の友人）
3	関東	会社員（25歳）	母	なし	ー	なし（接種を迷っている）	周囲：1人（高校時代の友人）
4	北陸	大学1年（19歳）	1人暮らし	なし	1回目：2024年4月予定	あり（予約済）	不明
5	北陸	大学1年（19歳）	1人暮らし	あり（3回）	1回目：2023年8月 2回目：2023年9月 3回目：2024年2月	―	妹（中学3年）：1回接種済
6	関東	大学4年（22歳）	1人暮らし	あり（3回）	1回目：2022年9月 2回目：2022年11月 3回目：2023年5月	―	妹（大学1年）：未接種 周囲：数人（大学の友人）
7	関東	大学2年（20歳）	父　母	なし	ー	なし（接種を迷っている）	周囲：不明
8	関東	新大学1年（20歳）	父　母 妹（2人）	あり（3回）	1回目：2023年夏 2回目：1回目の2か月後 3回目：2023年12月	―	妹（中学生、高校生）：接種する予定

No.1

娘　学年 高校1年	同居家族 父、母、弟	接種経験 あり（1回）	接種時期 1回目：2024年1月
母　職業 会社員	居住地 関東	今後の接種予定 あり（予約済）	家族・周囲の接種状況 周囲：学校の友達は半分くらい接種済

NEO MARKETING

黒：母発言　　ピンク：娘発言

普段の接触媒体	• テレビは常についていて、ジャンル不問で見る。私は新聞も時々読む。 • PCでは子どもの通っている学校のHPを見たり、受験についてのブログを見たりする。子どもに関することで調べることが多い。SNSはやっていない。 • スマホで情報収集することが多い。中学生から使っている。LINEはよく見る。YouTubeはたまに見る。ミュージックビデオをよく見る。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 独身時代に健康被害についてのニュースを見て、HPVワクチンというものを知った。安全性の分からないものを受けさせるのは怖いと思った。 • 娘が中学生になった時には案内が来ていた。市から接種案内が来て選択を突き付けられた。娘には「こんなのが来てたけど、危ないからやめときな」と言った記憶がある。 • 中高一貫女子校で中3くらいのときに学校で産婦人科医の講演があり、そこで知った。 • ワクチンのリスクを考えて接種しないより、がんになる方が嫌だと思った。
接種した理由	• 娘が高1になり「案内が来てたよね。あれどこに行ったの？みんな受けているけど私は受けていない」と言われたのが決め手。副反応は気になっていたが、それは稀なことだし、期限が高1までと書かれていた。がんになったら困るし、自分が若い時代と今では食生活も生活習慣も違うので、娘がかかる可能性はあると思い、受けさせるのが正しいのかなと思った。 • 以前、若くして子宮頸がんで亡くなる女性のニュースも見ていたので、「早期発見が大事だけど恐ろしい病気なんだな」と思い始めたことはある。 • 講演を聞いた時は「受けた方がいいのかな」とあまり気にしていなかったが、周りに接種した人が増え、友達と話しているうちに、受けた方がいいと思うようになった。みんなも打っているし、自分の体も大事だから。 • もし母が強く反対したら諦めていたと思うが、講演のレジュメを見せて反論や説得はしたかもしれない。みんなが打っているということよりも有力になったと思う。
接種時期 決定理由	• 娘から打ちたいと言われて、当日の朝予約をした。土曜日の午前中に枠を作っている病院で、すぐに接種できた。 • 機会をうかがっていた。部活とかでなんだかんだ忙しいので、この日なら空くかな、というので送り出した感じ。
ワクチンについての情報収集	• 全然調べていない。本当に大丈夫なのか、再開されるまでに何があったのかとは思うが、聞いても…。半分不安だが大丈夫だろうと思った。 • 学校の講演以外、特に授業などで知る機会はなかった。 • 自分で調べようと思って調べたことはない。友達には「痛かった？」くらいは聞いた。
公的機関からの案内	• 中学生の頃、A4封書で接種可能病院、ワクチンの説明、接種券が入っていた。 • その後も未接種の人向けの案内が来た気がするが、ちょうどコロナの接種もあり、HPVについては考えたくなかった。でも案内を捨ててしまったら、子どもが「受けたい」と言った時に困るので、すみの方に置いていた。 • 中学生の頃、「こんなのが届いたよ」くらいに見た気がする。講演を聞いた後だったが、その時は「今すぐ打たなければ」という気持ちではなかった。

厚生労働省作成リーフレット感想	＜概要版＞ • 「●クラスに▲人」という表現が分かりやすいと思う。結構多いんだなと思った。 • 接種した後でも2年に1回検診を受けることが大事、というのは、子どもに「こういうのちゃんと受けておいてね」と言えるので重要。 • 高校1年「相当」の意味がよくわからなかった。 • 子宮頸がんで亡くなる人がいないわけではないので対策が必要だと思った。 • 副反応は他のワクチンでもあることだが、自分が重い症状になったら嫌だな。 ＜詳細版＞ • 「一生に1度は感染する」は、「感染はするけど発症はしない」というのが怖いと思った。何かをきっかけに発症すると聞いて、ちゃんと受けた方がいいのかなと思った。 • ワクチンの種類が3つあるが、何が違うのか分からないので選べない。 • 概要版と合わせて読むと、打つという選択肢の方がいい、という方向にもっていかれる感じ。読むうちに考えや意思が変化した。 ＜その他感想＞ • 小6ではまだピンとこないのでは。子どもと一緒に判断するなら、中3くらいになると体の成長もあるので、自分でも考えられるようになると思う。 • やはり接種して良かったんだと思った。子宮頸がんで苦しまないためにできること、他国での同世代の人が接種していると知ると、自分も予防した方がいいと思った。 • 友達に伝えるなら「子宮頸がんの現状」を見せる。インパクトがあるし100%ならないわけではないと知ってもらうには現状を見せるといいと思う。
望ましい情報の受け取り方	• リーフレットが学校や職場に置いてあるといいかも。職場は、年頃の子どもを持つ人もいるので。 • 家に届いたら目にするので紙で良い。スマホとかの広告だとみる可能性は低いが、安全な機関が出しているなら見る可能性がゼロではないと思った。
ワクチン接種に対する考え （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「6」。接種前は「2」か「3」。評価が変わったのは1回目の接種で何事もなかったから。たまたまこのリーフレットを読んで、接種させて良かったと思った。 • 接種しなくても何事もないのなら接種しなくてもいいと思うが、時代が違うので接種した方がいいのだろうと思っている。 • 「6」。接種前は「5」くらいだった。接種後もそれほどの変化はなかったが、リーフレットを読んで安心できた部分があり、次も打とうと思えた。
ワクチンについて知りたかったこと	• 専門知識がないので、「子宮頸がんとは？」「子宮頸がんにかかるとどうなるか？」は、自分の思うことしか話せない。専門家ではないので、ただ怖がらせても良くないし、「副反応が怖いから受けさせない」とも言えなくて、説明しにくい部分があった。医師が学校で正しい情報について説明してくれたのは良かった。 • 「注射は痛くないか」は知っておきたかった。 • なぜ今接種が必要かはちゃんと知っておけばみんなが予防する方向に行けると思う。無料で接種できる期間だけでなく、手遅れになる前に接種した方が良いと思うような、きっかけや後押しになる情報があると良いなと思った。

No.2

娘　学年 中学3年	同居家族 父、母、姉（高2）	接種経験 なし	接種時期 —
母　職業 事務職	居住地 関東	今後の接種予定 なし（接種しようと思っている）	家族・周囲の接種状況 姉：中3～高2の期間で3回接種完了

NEO MARKETING

黒：母発言　　ピンク：娘発言

普段の接触媒体	• テレビがメインでバラエティやニュースを見る。新聞、雑誌は読まない。 • ネットはほぼ検索で利用。たまにニュースをチェックする。YouTubeで音楽を聞く。 • 朝はテレビでニュースを見る。帰宅後はスマホでTikTok、YouTube、Instagramを見ている。ダンスや料理動画が多い。スマホのアプリを入れるのは親の承認が必要。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 長女が生まれた頃、17年くらい前に知った。「この子も対象になるんだな」と思った。 • その後、重篤な症状についてワイドショーなどで報道されたのを見て「これは未知のワクチンで、副反応が人によって違う」という恐怖感を覚えた。 • それから数年後に、「重篤な症状は稀なもので、ワクチンが影響していない可能性がある」という情報が出てきて、「安心して受けられるもの」に認識が変わった。それでも、家族でがんになっている人が少ないので「うちには関係ないかな」という認識。 • 中1の保健体育の授業で、こういうウイルスがある、というのを体育の先生から聞いた。 • 中3のときには助産師さんが学校に来て、体育館で男女一緒に子宮頸がんとワクチンについて詳しく教わった。助産師さんから、子宮頸がんで尿が出なくなった女子高生の話を聞いて怖くなった。 • 初めてワクチンについて聞いたときは、痛いのは怖いし副反応が起きやすいので、リスクが怖かった。「みんなが打っていれば打とうかなー」と思っていた。
接種を決めた理由	• 元は打たない派だったが、ママ友達は「打った方がいい」という人が多かった。長女が中2～3の頃にみんなが接種するようになって心が揺れた。 • ちょうど長女が1回目の接種をした頃、自分が子宮体がん、自分の妹は子宮頸がんの検査に引っ掛かった。さらに、周りの友達ががんで再検査になったことも重なり、「このワクチンは絶対に必要」と思うようになった。今は家族総出で次女を説得している。 • 保健の授業で助産師さんに聞いた話の影響は大きかった。実際の話を聞けたので。 • 中1から中3の間に接種した友達が増えてきて、友達の話の影響も大きかった。先日接種した友達との会話で、「(友達)腕が痛い」「(自分)どうしたの？」「(友達)子宮頸がんのワクチンを打った！3回より2回の方がいいし、15歳までに打たないと次の接種はめちゃお金がかかる」と聞いた。公費の方がいいし、(15歳の)誕生日が3月31日なので「打たないとやばい」と思った。
接種時期決定理由	• 自分の考えで、コロナやインフルエンザのワクチンは効果が続く期間が限られていると思うが、HPVワクチンもあまり早い時期に打つと、効いている期間が短くなってしまう気がする。それと、体がきちんとできてからの方が副反応が少ないと思うので、中3あたりで接種するのが一番良いと思っている。 • 学校がある時に副反応が出ると困るので、卒業式の3月15日の後で、かつ誕生日の3月31日より前、高校入学前に接種できればと思っている。
ワクチンについての情報収集	• 自分で調べるというよりは、学校からの資料や、市からの案内を読む、という感じ。 • ワクチンについては自分では調べていない。友達と話をする機会もあまりなかった。

公的機関からの案内	• 小6の卒業あたりに、封書でワクチンの説明と予診票が届いた。 • 封書が届いたことは知っているが、あまり興味はなく、物自体は見ていない。
厚生労働省作成リーフレット感想	＜概要版＞ • 全体的に理解することができわかりやすい。情報量もちょうどよく簡単に読める。 • 病気やワクチンの効果に興味はわいた。 • クラスに何人くらいが子宮頸がんになるか、というのは数値が分かりやすい。 ＜詳細版＞ • 分かりやすくてとても良かった。子宮頸がんについてもわかるし、それに対してHPVワクチンがあり効果的だとわかる。リスクも載っていて、100%安全でないのだとも思った。 • 世界の状況を見て、より打とうかなと思った。海外では12歳でも接種している子が多い。世界で接種している子が多いなら、自分も接種した方がいいなと思った。 • 副反応の表は、文章をたくさん読むよりも読み解きやすい。
望ましい情報の受け取り方	• 紙で欲しい。ネットは自分が興味のあるものしか見ない。 • 学校からの配布物だと、これは子どもに必要なものだと思って読む。郵便で送られてきても読むと思う。病院の待ち時間、先生から渡されたら読むと思う。 • HPVワクチンの接種を考えるのは、小6とか中1とかでは早いのかなと。個人的には中3あたりが一番いいかなと思っている。上の娘に対してもそんな考え方だった。 • 紙の方がいい。時間がある時、見たい時に見られる。 • 学校で配布さえたらお母さんにこれ読んでおいてと言われると思う。郵便だったら大事なものだからより見なくてはと思う。
ワクチン接種に対する考え （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「7」。最初は「1」だった。怖かったので絶対に接種させないと思っていたが、今は安全性・必要性を感じて「7」。がんを身近に感じたことが一番だが、最初に考えるようになったきっかけは市からのお知らせ。それで打った方がいいのかと思うようになった。 • 「6」。打っておいた方がいいと思うし、周りも打っている人が多いので。「7」にしたいところだが、痛みや副反応が気になるので「6」。中1の頃だったら「3」。その時よりは、周りの人が打っているし、（対象年齢を過ぎたら）公費で打てなくなると考えるようになった。痛みも、友達が「腕が痛い」という程度と分かったから。 • 「私は絶対打たない」って言ってる人は、周りの友達にもいない。次の日に「腕が上がらない」「着替えが大変」とかは聞く。
ワクチンについて知りたかったこと	• 「小6だとこれくらい」のように、どの学年で何人くらいが接種しているか知りたかった。もし小6が多かったらなぜなのか調べて、納得できたら1回目を接種する年齢が変わったかもしれない。 • 娘からは「2回で終わるほうがいい」と言われている。ワクチンによっては2回で済むようだが、「どこで受けたら2回で終わるのか」は聞かれても分からない。 • どの程度痛いのか、副反応がどれくらいなのか。動画ならわかりやすいし見てみようと思う。

No.3

娘　学年 高校2年	同居家族 母	接種経験 あり（3回）	接種時期 2022年3月、2022年5月、2022年10月
母　職業 公務員	居住地 中国・四国	今後の接種予定 —	家族・周囲の接種状況 周囲：学校の友達はちらほら接種済

NEO MARKETING

黒：母発言　　ピンク：娘発言

普段の接触媒体	• 調べ物はすべてスマホ。Googleでも検索するが時短のためTikTok、Instagramも使う。10秒くらいになっていて使いやすい。料理検索が多い。ニュースはスマホで必要なものだけを見ていく。主要な知識はLINEニュースで入れている。 • 新聞は見ない。テレビは、録画したドラマをCMを飛ばしながら見る程度。 • 情報はネットがほとんど。TikTokで検索することも多い。Instagram、LINEも使う。 • テレビはスマホのTVerを見る。ドラマを見ることが多い。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• HPVワクチンについて知ったきっかけとして、娘が学校から持って帰ってきた手紙があった。接種スケジュールと、この年齢の間なら公費で受けられる、という案内はあったような気がする。 • （インタビュー時点から）5年以内に自分が子宮頸がんになって、その後手術を受けたが、子宮頸がんの発症と案内が来たのとどちらが先だったかは覚えていない。 • 同じくらいの時期に娘が体調を崩して、赤ちゃんの頃からのかかりつけの小児科にかかったときに、看護師さんから「年齢的にこういうワクチンが受けられる」ということを教えてもらった。複数回接種が必要なのはその時に初めて知った。 • 中学校の保健体育の授業で知った。教科書に載っていて、子宮頸がんとHPVワクチンのセットで教わった。 • 学校でHPVワクチンのチラシが配られて、読んでみて、打とうと思った。市とか県とかで作られたもので、結構詳しく書かれていた。 • 母が子宮頸がんにかかったこともあったので、すんなりと入ってきた。
接種した理由	• 娘は公費の対象だったが、自費であってもぜひ受けさせたいと思った。若いほど進行が速いことは経験していた。ワクチンで防げるなら接種して当然という感じだった。 • ワクチンを打った方ががんを予防できるので打ちたいと思った。 • デメリットについても知っていたが、得られるメリットの方が多いという気持ちだった。母が病気になっているので自分もなる可能性があると思っていた。
接種時期 決定理由	• 中学生のときに、母とは「そろそろ受けないとな」という話をしていた。接種を受けることが前提で、スケジュールをどうするかの話。 • すぐにでも打たせたいと思っていたが、学校行事や受験があったので、副反応が出ても余裕が持てる、受験が終わったタイミング（中3の3月）にしたのだと思う。
ワクチンについての情報収集	• 特に調べたことはない。調べると悪い情報も出てくるので、色々な情報にまみれすぎると思った。すべてを受け入れるつもりで、あえて調べずに接種しようと思った。 • かかりつけ医でも案内を受けた。説明文ももらった。接種は1回だけだと思ったら3回あり、時間を空けて接種することも教えてもらいありがたかった。 • 自分から何か調べたことはない。 • 接種した友人はいる。「今日打ってきたよ」という話にはなるが、ワクチンそのものの話題にまではならない。「腕が痛い」とか言っていて、そこから話題になる。 • 中学校ではあまりワクチンは話題にならなかったが、高校に入ってからは何故かは分からないが、話題になった。中学生の時は、「打とうか迷っている」「副作用とか聞いているしどうしようかなー」という話はあった。

公的機関からの案内	• 学校からカラーのチラシを持ち帰ってきた。 • 市からはコロナワクチンの案内と一緒にHPVワクチンの案内が来ていたと思う。 • 学校の授業もあったし、チラシももらった。
厚生労働省作成リーフレット感想	＜概要版＞ • これを見てワクチンが3種類あることを初めて知った。病院に行ったらあるものを打ってくれたので、コロナワクチンのように、いくつかあってその中から選べるのを初めて知った。 • 小学校6年の子どもに「自分に必要なもの」と思ってもらえるのか、本人に響くのか、は気になった。 • それほどたくさん文字があるわけでなく、文も簡潔で見やすい。 • 2価、4価、9価のワクチンというのはよく分からない。 ＜詳細版＞ • 文字がたくさん。概要版よりは読む気にならない。副反応の症状の名前の意味やワクチンの名前はよく分からない。調べようとも思わなかった。 • ボリュームがあって威圧感はあるかも。後にしようかな、とか思ってしまう。私自身はSNSでの情報収集も、短時間でどれくらい集められるか、という考え方。 ＜キャッチアップ版＞ • 対象になる前に接種していたので、読もうと思わなかった。詳細版よりは見やすい。 ＜その他感想＞ • 誰が対象で何を一番伝えたいのかが分かりにくい。「今のあなたが対象」ということを、もっと前面に出したほうが良いと思う。 • 情報元が厚生労働省で信頼できるデータだと思う。
望ましい情報の受け取り方	• 本やリーフレットを読むのは好きでないから、あまり読まない。 • 動画ならわかりやすいし、見やすいと思う。私も動画が好きなので。アニメーションを使って、キャラクターを使って説明してくれたら、見る気になるかも。 • 学校の授業で子宮頸がんの話をして、みんなで動画を見ようって流れにしたら、見ようと思う。 • リーフレットは、学校で配られたらちらっとは見ると思うが、詳しくは見ないと思う。
ワクチンについて知りたかったこと	• 前もって知っていたら良かったことは特にはない。情報がなくても接種方針に変わりはなかった。 • 娘の同級生のお母さんは「私は打たせない。周りの状況を見てから」という人もいたので、私みたいな考えの人ばかりではないんだなとは思った。 • 接種して亡くなった、という話も聞いたことがあるので、ちょっと怖いと思っていた。でも皆がそうなるわけではないので、気になるけど気にしていないという感じ。 • (リーフレットに載っている)リスクの表を知っていたら安心して打てたかもしれない。 • 接種したことがある人に、痛かったかどうか聞いてみたかった。

No.4

娘　学年 中学3年	同居家族 父、母、兄(高2)、妹(小6)、弟(小3)	接種経験 あり（3回）	接種時期 2022年4月、2022年7月、2023年7月
母　職業 専業主婦	居住地 関東	今後の接種予定 —	家族・周囲の接種状況 周囲：不明

NEO MARKETING

黒：母発言　　ピンク：娘発言

普段の接触媒体	• テレビはあまり見ない。新聞は取っていない。Yahoo!ニュースで気になったら詳細を見る。知りたいことがあればYahoo!で検索。情報源はほとんどスマホ。 • SNSはLINE、TikTokLiteはたまに猫の動画を見ている。 • 自分のスマホはない。PCの検索画面に出るニュースや、通学で乗る電車のドア上のニュースは見る。PCで調べて受け取れる情報だけで十分。SNSは興味がない。 • テレビはドラマくらいしか見ない。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• かなり前にテレビでHPVワクチンのニュースを見て知った。いつ頃かは覚えていない。 • その時は、リスクの大きい予防接種なのかなと思った。他のワクチンでそういうニュースになったのは見たことがなかったので。 • 当時、娘は対象年齢でなかったのであまり深くは受け止めていなかった。 • でも、自分だったら接種するだろう、という根拠のない自信はあった。国が認証したものは安心して受けるタイプ。 • 市からの案内を見て知った。母から「接種した方がいいんじゃない？」と言われた。それまでワクチンの存在も名前も知らなかった。学校では聞いたことがない。 • 知ったときは、いろいろな女性がかかりやすいがんを予防してくれる注射だと認識した。自分で案内を読んだわけではく、母に教えてもらった。 • 注射を受けたくはないけど、将来的に予防できるなら受けたほうがいいじゃないですか。
接種した理由	• 副反応やリスクも考えて夫にも相談したが、夫も私と同じ考え方で、確率の問題では予防できるメリットの方が大きいと判断し、接種することにした。 • 何%という基準はないが、自分たちの親もその親も元気なので、子どもに副反応が起こる確率は少ないのではないかという、根拠のない自信があった。 • うちは「打ちましょうか？」ではなく「打ちましょう」。娘が強く嫌がったなら、その時は打たせないと思うが、また時間を置いて「接種しようね」と言っていたと思う。 • 赤ちゃんの頃のワクチンと同じで、「（案内が）来たから接種する」という考え。 • 母から「接種した方がいいんじゃない？」と言われたので受けることにした。ワクチンを打った方ががんを予防できるので打ちたいと思った。 • 親が「打ちましょう」というなら拒否権はない。（ワクチンに限らず）強く何かを嫌がったような経験はない。
接種時期 決定理由	• 1回目は、市から接種券が送られてきて、しばらくどうしようか悩んでいた。気持ちが決まったのがこの時期だった。4月は春休みで余裕があったので。2回目の7月も、夏休みに入ったころだった。学校が休みじゃないと時間が合わないから。 • 2回目の接種が終わった後にコロナのワクチンを打ったりして、なんとなく延びてしまった。学校もあるし、接種に行ける時間があまりなかったので。 • (定期接種の対象学年を過ぎるまで)まだ時間の猶予があることは全く知らなかった。
ワクチンについての情報収集	• 自主的に何か特に調べた記憶はない。 • ママ友達や周りの人との話題には全くあがらない。夫としか話をしていない。 • ワクチンに関する説明は何も読んでいない。お母さんから聞いた。 • 接種前に医師や看護士からの細かい説明はなかったと思う。

公的機関からの案内	• 案内が来たのは接種を受けた半年前くらい？具体的には覚えてはいない。 • 市から封書が届いた。中身は、簡単なリーフレットと接種と接種の間をどれくらい開けるという説明だった。 • 子宮頸がんになる仕組みまで書かれていたかは覚えていない。リスクは書いてあったと思うが詳しく覚えていない。 • 接種するかどうかの判断材料にするか、そこまで深く考えなかった。 • 案内の内容は特に見ていない。
厚生労働省作成リーフレット感想	＜概要版＞ • 市からのお知らせにもこういうことが書いてあった。2クラスに1人くらい、というのは結構な率だと思う。 • 何も考えずに読んで特に分からないことはない。 • 概要版はやさしい。こうやって1つにまとまっていると、そこが重要だとわかるのが良い。打った後のリスクのところが目に留まった。 ＜詳細版＞ • 「世界の状況」は興味深かった。 • 生物の授業で細胞分裂とか体内のDNAがどうやってがんになるのかは知っていたので、子宮頸がんの場合はこうなるのか、という感じ。内容は問題なく理解できた。 ＜その他＞ • 公的な機関が勧めているものなので、一般的には必要なものなのだと思う。将来的な安心材料にはなる。
リーフレットの影響	• 一生のうちに子宮頸がんになる人となくなる人が2クラスに1人なのは結構な率なので、予防できるものなら受けさせたいと思った。 • もし妹が迷っているなら、子宮頸がんのワクチンを打ったことで自分の体をがんから防ぐことができると教えてあげたい。
ワクチン接種に対する考え（小6の妹について） （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「6」。今急いで無理強いしなくても、本人が接種したくなってからでもいいので。 • まだ案内が来ていない。案内が来たら、上の娘と同じように「（案内が）来てるよー」って渡すと思う。「小6だけどまだ来てないな」とは特に思わなかった。 • 市から案内が来たら、細かい説明が書いてあると思うので、それをもとに判断すると思う。
ワクチンについて知りたかったこと	• 市の接種状況など数値があったらいい。その割合を見て少なければ打たなくていいと思うかもしれないし、多ければ打たなければと考えると思う。周りが打っているからという理由で接種する人もいると思う。 • あれこれ調べたりしなかったのは、市や国から案内が来たことが大きい。それは他のワクチンでも同じだった。 • 注射が痛いのかは気になっていた。それほど痛くないと言われていたら、そういう先入観を持って接種できたと思う。

No.5

娘　学年 小学校6年	同居家族 父、母、妹（未就学）	接種経験 なし	接種時期 —
母　職業 専業主婦	居住地 関東	今後の接種予定 なし（接種を迷っている）	家族・周囲の接種状況 周囲：不明

黒：母発言　　ピンク：娘発言

普段の接触媒体	• 起床後はテレビを見る。バラエティ、ドラマをよく見る。ニュースはそんなには見ない。下の子がEテレを見るので。新聞は取っておらず、雑誌も最近は読まない。 • 情報収集はネットのニュースが中心。気になったものを見ていく。Instagramでは気になる芸能人の話題、Xはリアルタイムのニュースをよく見る。 • テレビではバラエティやドラマを見る。TVerでよく見る。スマホは持っていないのでネットはあまり見ない。SNSも使わない。学校の調べ物は学校支給のタブレットを使う。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 10年くらい前に、推奨されるのがなしになったのが印象に残っているので、それより前には知っていたと思う。 • 最初に知った時の印象は「若い人向けのワクチン」というイメージ。自分ではなく子どもには必要なものかもしれない。ポジティブでもネガティブでもないイメージだった。 • ちゃんと知ったのは今回のインタビューがきっかけ。それまで関心もなくワクチンの名前も聞いたことがなかった。授業でも出てこなかった。 • 障害が出るかもしれない、というのは母から聞いて知った。まだちょっと安心できない。
接種を迷っている理由	• （積極的勧奨が）中止になったときは「まだよくわからないワクチンなんだな。怖いな」というイメージを持った。テレビのニュースで、後遺症に苦しむ人の話を娘も一緒に見ていた。テレビやネットのニュースを見て、イメージが右肩下がりになっていった。 • 市からの案内を見て子宮頸がん検診を定期的に受けるようになり、子宮頸がんにかかる人の多さを知った。それを知ると「ワクチンを接種させた方がいいのかな」って悩む。 • 一般的には必要で、子どもにも必要なものなのだとも思うが、デメリットが気になる。もう少し調べてから決めたい。確信が持てないのに不安なまま打たせるのも、と思う。 • 正直どちらでもいい。母が「打とう」と言えば打つし、「やめよう」と言えばやめる。友達が続々と打ったとしても打つ気にはならない。
ワクチンについての情報収集	• 初めて後遺症のニュースを見たときは気になって調べた。コロナのワクチンもあり、ワクチンというものが身近になったので、接種の案内のはがきを市からいただいたりすると、気になって何回かは調べた。 • 具体的には、ワクチンごとの効果の出方や打った後の症状がどれくらい出るのかの違い。コロナワクチンのように、ある程度の軽い副反応が出るのは仕方ないと思っているが、ずっと残る後遺症がどれくらいの頻度で出てくるのかが気になった。 • ワクチンの情報はお母さんからの話がほぼ全て。
公的機関からの案内	• 市か学校から、ワクチンについて書いてある紙をもらった。（接種を受けるのは）早いほうがいい、という印象はあるが、どの年齢までが対象、というのは覚えていない。 • 6年が対象であることは、何らかの手紙で知ってはいる。案内が届いたのが、娘が12歳になったばかりの時で、年末年始や学期末で立て込んでいたので、「後でいいや」と思い、娘には見せていなかった。「年齢的に早すぎる」ではなく、「夏休みとか中学校に入って落ち着いてから、ちゃんと調べて判断しないとな」という考え。 • 市からのお知らせは、「接種について考える時期が来ましたよ」というきっかけだった。 • お知らせが来たかどうかを知らせてくれても、くれなくても、どちらでもいい。

厚生労働省作成リーフレット感想	＜概要版＞ • 簡単にまとめられているように見えたが、知りたい情報はそんなになかった。 • 1人で読んで大体理解できた。難しかったのはワクチンの種類の所。第一印象は「子宮頸がんになって妊娠ができなくなったら怖いな」と思った。 • 子宮のことは学校で習ったが、子宮頸がんについては習っていない。子宮頸がんという言葉は知っていても、なんとなくしか知らなかったので、この資料でちゃんと知った。「何人くらいが子宮頸がんになるか」が印象的だった。 ＜詳細版＞ • 子宮頸がんとは何か、どこにできるなどがちゃんと書いてあり、病気の怖さや誰でもなるものだということがが分かる。それを踏まえてワクチンについても知ることができるので、詳細版の方が分かりやすかった。 • 詳細版の方が分かりやすい。子宮や頸部の場所がイラストになっているところとか。 • リスクの表はちょっと難しかった。（症状名の）漢字はだいたいわかる。 ＜その他感想＞ • 自分に関係あるのかな、という感じ。同じワクチンでもコロナと比べると遠い。
望ましい情報の受け取り方	• どこかに置かれているより、配られたり送られてくる方が目に留まる。検診の時など待ち時間に渡されると読みやすい。 • 子宮頸がん自体は学校に医師が来て説明してくれたらいいと思う。 • 珍しい病気にかかった人の話をテレビで見ると、子どもが真剣に見たりする。子どもが食いつくような映像とかで説明してもらえると、入ってきやすいかも。でも、動画だとわざわざ止まってみることはしないと思うので、冊子のほうがいいのかな。
ワクチン接種に対する考え （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「5」。リーフレットを読む前は「3」か「4」だったが、接種のメリットを真剣に読めたので今は「5」。 • 「4」。メリットもデメリットもあるから様子見したほうがいいかな。周りの人が打って、後遺症がなければ打ってもいいかなって思う。後遺症が多かったらやめておく。腕が痛いくらいならいいけれど。
ワクチンについて知りたかったこと	• 「みんなが打っているから打とう」とはすぐにはならないと思うが、周りの人がどう考えているのかは知りたい。周りの人の話を聞いて、多少は変わる可能性はある。 • 予防だから難しいかもしれないが、接種しておいて良かったという話があると良い。ネットで調べるとネガティブな意見は出てくるが、ポジティブなものもあるともう少し気持ちが動くと思う。 • 子宮頸がんになった人の話はあったほうが、子宮頸がんを身近には感じられるかもしれない。乳がんと違って、子宮は目に見えないからイメージしづらい。 • 今打った方がいいと書いてあった気がするが、もう少し詳しく書いてあってもいい。 • 接種後の症状は聞いてみたい。

No.6

娘　学年 小学校6年	同居家族 父、母、姉（中2）	接種経験 なし	接種時期 —
母　職業 専業主婦	居住地 関東	今後の接種予定 なし（接種を迷っている）	家族・周囲の接種状況 姉：未接種

黒：母発言　　ピンク：娘発言

普段の接触媒体	• 朝はテレビでニュースや天気を見る。街歩き系やドラマが好き。新聞は取っておらず、雑誌はたまに買って読むくらい。 • スマホでYahoo!ニュースやSmartNewsアプリも見る。SNSは使わない。YouTubeは旅行系のチャンネルを見る。 • テレビは笑点が好き。朝は天気予報を見ている。自分のスマホは持っていないので、母のスマホを借りてYouTubeのゲーム実況を見る。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 20年くらい前からテレビのニュースで知っていた。子宮頸がんを予防できると言っていたが、自分が成人してからは、区から子宮がん検診の案内が来たら必ず受けているので、ワクチンは受けなくてもいいと思った。 • 接種について意識するようになったのは、長女が小6のときに区から接種券が届いたとき。そのとき高校生までは無料で受けられると知った。いま長女は中2なので、まずは長女から受けさせた方がいいのではと考えている。 • 3か月くらい前に、区から「子宮頸がん予防接種のお知らせ」というものが届いたのがきっかけで知った。 • お知らせには、（子宮頸がんについて）年間約1.1万人が発症、約2,800人が亡くなっていると書いてあって、「そんなに身近にあるの？」と驚いた。
接種を迷っている理由	• （中2の姉について）長女は注射が嫌い。一度説明書は見せて「接種を受けてみたら？」と声をかけてみたが、2～3回接種するという話をしたら嫌がっていたので、接種はしなかった。もう中2なのでそろそろ受けさせてもいいと思っている。本人がどうしても嫌だと言ったらやめるが、最終的には受けさせようとは思っている。できれば費用を負担いただけるうちに受けたい。コロナのワクチンは3回受けさせている。 • 姉妹一緒でもいいが、副反応も気になる。2人同時よりは長女からの方がいいかなと思う。次女は早生まれなので、4月生まれの子と比べると約1年違う。小6から受けられるが、もう少し後でもいいかなと思っている。 • 注射は痛そうだし、小6～高1まで受けられるなら、今はまだ早いかなと思っている。でも高校だとちょっと遅いから、中学生のどこかで受ければいいかなと思っていた。 • 周りの人が「打ったよ」とか言っていたら、考えは変わるかもしれない。
ワクチンについての情報収集	• 特に調べたりはしていない。区からの案内で内容は十分だった。 • 姉や周りの友達とワクチンの話をしたことはない。自分で調べたこともない。
公的機関からの案内	• 長女が中1の時くらいに、学校から保護者宛の手紙と一緒にチラシをもらった気がする。 • 区からの情報が表裏しっかり書かれていたので、判断材料としては十分と思った。追加で何か調べようとは思わなかった。公共の機関から来ているものなので信頼できる。 • （小6の次女について）接種の案内が届いた。この子ももうこんな時期なんだ、と思った。案内はぱらぱらっと見て、接種券が3枚あり、期限が「2028年3月31日まで」と書いてあるのを確認した。この日までに受けなければいけないことは認識した。 • 母から「こういうのがあるよ」と言われたが、そのときは「ふーん」と受け流した。

厚生労働省作成リーフレット感想	＜概要版＞ • 子どもには概要版の方が分かりやすいし読みやすそう。 • イラストがありカラーで分かりやすい。クラスの何人が子宮頸がんになるかは分かりやすい。分からないところはなかった。 ＜詳細版＞ • 私は詳細版のほうをじっくり読んだ。詳細版はちょっと文字が多く、子どもが読むにはリスクや救済制度がセンセーショナル。少し恐怖心が出てきてしまうのではと思う。 • もっと知りたい事や、分からないことがあれば最後の相談先一覧を見れば相談窓口もあるので、このリーフレットで不明点はない。 • 漢字が多くて読むのが大変そう、と思った。 • ワクチンのリスクや健康被害救済制度について読んで、副反応が怖そうと感じた。 ＜その他感想＞ • 改めて早く接種した方がいいと思った。子宮頸がんの現状、一生のうちで子宮頸がんになる人、なくなる人の情報が衝撃だったので。
望ましい情報の受け取り方	• 紙の方がいい。読みたいと思ったら読める安心感がある。ネットはわざわざその情報を探さないといけない。 • 区から送られてきたら必ず見て、保管もする。 • 紙でだったらそのまま母に渡せる。学校の授業で渡されたら読むと思う。
ワクチン接種に対する考え （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「6」。詳細版を読み、受けた方が良いという気持ちは高まったかもしれない。区からの手紙では、クラスに何人くらいの割合で、ということまでは詳しく書かれていなかったので。 • 「5」。ワクチンのことを知った時から変化はない。姉がまだ受けていないし、副反応もわからない。まだ小6だし高校1年まで猶予があるし、中学生のときに受けたらいいかなと思っている。
ワクチンについて知りたかったこと	• 詳細版の、子宮を失うと妊娠できなくなる説明は中学くらいにならないとわからないのではないかと思った。書くべきことだが年齢によっては説明が難しい。 • 厚生労働省のHPに、子ども向けのわかりやすい動画や、AIではなくオペレーターがいるチャットサービスで質問できたらよい。互いの顔が見えると話しにくいのでチャットとかの方が聞きやすそう。 • ワクチンの種類の違いやそれぞれのメリットデメリット、痛くないのかは気になる。 • もし友達が受けたら、副反応とか痛みとか、受けたときの感覚は聞いてみたい。 • お医者さんからも聞きたい。副反応とか、病院で直接聞いてみたい。

No.7

娘　学年 高校2年	同居家族 父、母	接種経験 なし	接種時期 —
母　職業 専業主婦	居住地 関東	今後の接種予定 なし（接種を迷っている）	家族・周囲の接種状況 周囲：学校の友達3人くらい

黒：母発言　　ピンク：娘発言

普段の接触媒体	• 朝は家事をしながら情報番組や録画したドラマを見る。 • ニュースはYahoo!、Google、LINEニュース、TikTokなどで見る。流れてきた情報を見ている感じ。TikTokは情報が早い。YouTubeは趣味のガーデニングについて見る。 • 朝は好きなドラマの録画を見る。日によってはニュースがついているのを見ている。 • 通学電車ではLINEニュースでエンタメ系の情報を見る。 • SNSはXとYouTube。Xのトレンドに入っているものを見ている。YouTubeは勉強法や筋トレなど。ショート動画がメイン。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 娘が中3の時に、市からの案内が届いたのがきっかけ。私の母（娘の祖母）に聞いたら「私も（子宮頸がんに）かかったんだから、絶対に打たないとダメ」と言われた。 • 娘にも「案内が来てるよ」と言った。娘はワクチン打ちたがる人だから「打つ」と言っていた。その後ネットで調べると、車いすに乗って動かない人の話が出てきた。「絶対だめだよ」って言って、動画を娘にも見せた。 • 高1の夏になる前あたりのときに月経不順で、（母と一緒に）産婦人科に行った。そこでHPVワクチンのチラシをもらって読んだのがきっかけで知った。 • 産婦人科では「高校生くらいまでに打った方がいい、自分の娘も打って何の問題もなかったよ」とおすすめされた。そのときは副反応について知らなかったので、インフルやコロナのワクチンみたいに絶対に受けた方がいいものと思っていた。 • 最初の案内が来た中3の時は全然興味がなかった。
接種を迷っている理由	• 私の母が子宮頸がんになった。娘に隔世遺伝することがあるかもしれないと聞いたから、ワクチンで防げるならそうしたいが、副反応がひどかったらすべて台無し。 • コロナワクチンを接種して、部活（陸上）の大会で良いタイムが出なかったことがあり、娘と相談し今はやめるとなったが、部活を引退したので最近は接種させるか、ちょうど悩んでいるところ。 • 母からは「やめた方が良い」と言われ、接種していない。 • 副反応が怖いが、祖母が子宮頸がんになったので打った方がいいとも思う。友達が接種し始めたのも影響している。 • 自分としては接種したい。祖母のがんもあるし、友達のお母さんが子宮頸がんで亡くなった。がんになるのは2～3人に1人といわれているので打った方がいいと思う。コロナの時も大丈夫だったし、後遺症が残る可能性は低いと思うから受けたい。
ワクチンについての情報収集	• 自分が通っている整体の先生がワクチン全般反対している。その影響で、どのワクチンも必ず調べるようにしている。 • 国や自治体の情報ではなく、副反応とか怖いものから見てしまう。でも子宮頸がんは10代からでもなるし、考えすぎて疲れた。 • ママ友達や産婦人科のカウンセリングの先生に相談したが、みんな「がんを防げるなら打った方がいい」と言う。 • 怖いことしか調べないので、嫌な情報しか出てこないし、調べようとは思わない。 • 友達とは「今日ワクチン打ってきたから腕にボールが当たったら怖い」というような感じで話に挙がる。全員何ともなくて、コロナワクチンほど痛くないと言っていた。

公的機関からの案内	• 市からの案内には「子宮頸がんを防げる」とは書いてあったが、副反応のことは書かれていなかった。ネットで「国はいつもいい事しか書かない」と読んだが、市の案内はその通りだと思ってしまった。 • 最初の案内は捨ててしまったが、2回目、3回目と案内が来たときは「またか」と思いながらも読んだ。何回も来るということは、それだけ大事なことなのかなと思って。
厚生労働省作成リーフレット感想	＜キャッチアップ版＞ • 今回の調査で送られてきたこのリーフレットを見て、娘がまだ対象なのだと知った。 • 題名を見て自分のことだと思った。高2でもまだ間に合うと思った。自分のことだからちゃんと読もうと思った。子宮頸がんになるリスクは結構高いとわかった。 ＜概要版＞ • 自費の場合の金額に驚いた。公費で受けられるのはありがたい反面、救済制度があるということは副反応の心配もある。 ＜詳細版＞ • 概要版よりは詳しかったが、難しかったり聞きなれない言葉が多く大変だった。普通にもらったら概要版だけしか読まない。 ＜その他感想＞ • 重篤な症状の情報も、厚生労働省はちゃんと出しているんだなと思った。 • YouTubeやネット検索では悪い情報ばかりだったが、みんなに重篤な副反応が出るわけではない、と少し信じてもいいのかなと思った。接種を検討するきっかけになった。 • メリットだけでなくデメリットも書いてあり信用できると思った。
望ましい情報の受け取り方	• 紙で提供されたほうがいい。ネットだと興味のある悪い情報の方に行ってしまうし、厚生労働省が情報を発信していてもネットではたどり着けないから。 • みんなが行くようなスーパーやコンビニ、ドラッグストアの生理用品のコーナーとかにあると、女性しか来なくていいかもしれない。 • 学校でスマホの使い方について講演があり、その後みんな気を付けるようになった。講演とかがあれば、知る機会になると思う。
ワクチン接種に対する考え （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「5」か「6」。以前は「1」に近かったが、今回のインタビューやリーフレットを見て考えが変わった。まだ間に合うし、接種させると思う。娘を”洗脳”してしまった反省もある。 • 「6」。副反応が出る確率より、子宮頸がんになる確率の方が高い。
ワクチンについて知りたかったこと	• 婦人科での説明で、高1を過ぎたら接種できない、効果がないと思っていた。まだ大丈夫だという案内はなかった。 • もっと早くワクチンのことを知っていたら心の準備ができたかもしれない。学校で習うべきだと思う。 • YouTuberやインフルエンサーの方から、接種して良かったことや悪かったこと、接種した後の経過を聞いてみたい。

No.8

娘　学年 高校3年	同居家族 父、母	接種経験 なし	接種時期 —
母　職業 専業主婦	居住地 近畿	今後の接種予定 なし（接種を迷っている）	家族・周囲の接種状況 周囲：片手で数えられるくらいの人数

NEO MARKETING

黒：母発言　　ピンク：娘発言

普段の接触媒体	• PCでYahoo!ニュースのトップを見る。興味があったらクリックして読む。前は新聞を取っていたが、ネットのニュースの方が瞬時にアクセスできるので読まなくなった。 • SNSはLINEの連絡とニュースを見る程度。テレビも今は全然見ない。 • Yahoo!とXをよく見る。調べたいことがあればGoogle検索をする。 • SNSはXのトレンドが見やすい。友達との連絡手段としてInstagramのDMやLINEを使う。YouTubeはヘアアレンジなどの動画を見る。ニュースはYahoo!が多い。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 内科かどこかの病院の壁に「予防のために受けましょう」みたいな内容が貼られてあるのを目にしていた。最近ではなく、ずっと前のこと。 • 娘が中3か高1の頃、市から案内が届いた。その前に、ワクチンを受けた後の症状について聞いていたので、なんとなく怖い感じがして、後でじっくり読もうと思ってそのままにしていた。案内が来たことは娘には伝えていなかった。 • 高1の頃、友達から聞いて知った。「予防接種みたいなもの」だと聞いた。 • 周りに受けている人が多くなかったので、コロナワクチンのように「みんなが受けるもの」ではないんじゃないかな、と思っていた。
接種を迷っている理由	• ママ友達の知り合いの子どもが副反応で困っている話や、ネットの情報を見て、なんとなく不安を感じている。祖母は予防接種を受けて亡くなった。 • 接種の案内が届いたときも、急ぎで受けるようなものではないと思っていた。「どうする？」と友達と話していたら、副反応の話が入ってきて、娘に伝えるタイミングを逃してしまった。 • 基本的に予防接種自体が不安。赤ちゃんの頃はタイミングが決まっていて、副反応や自分の考えは関係なく受けさせてきた。 • インフルエンザワクチンも基本的には受けていない。受けてはいなくても、かからなかたので。コロナワクチンはすごく悩んだが、学校で誰が受けた・受けないという話になり、受けていないのがあと数人、みたいなタイミングで2回は受けた。 • 自分だけの人生でなく子どもは先が長いので、何かあったとき責任が取れない。受ける安心感もあるが、万が一もある。何かあったら悔やみきれない。本人が納得がいくならどうぞ、という感じ。もし何かあったら私はどうしたらいいのか分からない。 • 今回の調査でリーフレットを読むまでワクチンについて考えたことがなかった。読んでみて、受けていると安心だとは思ったが、副反応が出たらと思うと受けたくはない。 • もし受けたいと思っても、反対されたなら、受けなくてもいいかな、となると思う。
ワクチンについての情報収集	• 何か調べたことはない。友人の子どもが受けていないので、話題にもならない。 • 自分で調べたことはない。授業でも聞いたことはない。 • 友達とは、「今日ワクチン打ちに行くねん」みたいな感じで話題になる。「痛かった？」みたいなことは聞いたが、「どんなワクチン？」とまでは聞かなかった。
公的機関からの案内	• 中3か高1で案内が届いたあと、1～2年経ってから、接種できる年齢が延長になった、というお知らせが届いたと思う。 • 市からの案内は見たことがない。

厚生労働省作成リーフレット感想	＜キャッチアップ版＞ • 表紙を見て、娘のような年齢の方を対象に書かれているな、と思った。 • 初めて子宮頸がんについて知った。結構な数の人が子宮頸がんになり、なくなる人もいると分かった。 • 無料で接種できる期間が延びた話はお母さんから聞いたので、そのことか、と思った。 ＜概要版＞ • 大まかにでも接種の効果やリスクなどが書かれていて、クラスで何人くらいががんになるのか大きく書かれているので、子どもに説明はしやすい。 • クラスでどれくらいががんになるか書かれていてわかりやすい。キャッチアップ版よりもまとまっていて理解しやすい。 • 6年の時はがんとか考えたことがなかった。読んでも深く考えていないと思う。 ＜詳細版＞ • ページは多いが一番わかりやすい。子宮のイラスト、がんの進行、リスクが表形式になっているので、一生懸命調べなくてもイメージがわきやすい。 • 詳細版はリスクが細かく表にまとめて書かれていて、接種する人にとっては良いと思う。 ＜その他感想＞ • 読んだ前後で、方針や考えに変化はないが、悩むことが増えた。 • がんになってからだと遅いので、前もって予防したら安心だと思った。もし副反応が少なくて安心して受けられるなら受けたいと思う。 • 接種後に生じた症状の報告を読んだが、周りに副反応が出た人がいるのだから、本当はもっといるのではないかと思ってしまう。
望ましい情報の受け取り方	• 紙だと何度も見返すことができるし、紙の方が好き。 • 紙の方が好き。学校で配られるほうがいい。授業で詳しく教えてもらった後なら印象には残ると思う。
ワクチン接種に対する考え （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「4」。受けておいた方がいいという思いもあるが、リスクもあるので決めがたい。 • 「5」。リスクを考えなければ接種したいと思うが、リスクを考えるとちょっと迷う。現状では少しメリットの方が上。 • 受けたいと思ったときに受けられる状況であってほしい。高校生までではなく、20歳までとか、もう少しだけ猶予が欲しいという感覚。
ワクチンについて知りたかったこと	• このワクチンに関して自分自身がよくわかっていないので、説明はできない。学校とかで対象年齢の生徒に、受けるメリットと万が一の時のデメリット、受けることの重要性をお医者さんから直接説明してもらう方が、間違いのない情報が入っていいと思う。 • 接種した人の話を聞きたいとは別に思わないが、学校の保健体育の授業で聞けたらよかったのに、とは思った。



No.1

職業（年齢）	同居家族	接種経験	接種時期
大学4年（23歳）	母、妹（2人）	あり（１回）	1回目：中学生
	居住地 近畿	今後の接種予定 なし（接種を迷っている）	家族・周囲の接種状況 妹：未接種　　周囲：不明

普段の接触媒体	• テレビ、LINEニュース、YouTubeを見る。テレビはバラエティ、ドラマ、映画、YouTubeはミュージックビデオを見る。 • 何かを調べる時はGoogle検索。 • SNSはアカウントを持っていないので見ない。新聞、雑誌などの紙媒体は見ない。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 小学校高学年か中学生の頃、母から接種するかどうか、という感じで聞かれたと思う。母から詳しい説明はなかったと思うが、病気の予防ができるということは聞いた記憶がある。 • 他の注射と比べてすごく痛いと聞いたので、痛かったら嫌だと思った。
接種した理由	• 当時は受けないといけないものみたいに思っていて、受けるのが当たり前なのかな、と思って普通に受けに行った記憶がある。 • 接種を受けたとき、医師や看護師からどんな説明があったかは覚えていない。そんなにたくさん聞いた記憶はない。
接種を中断した理由	• 1回目の接種後、接種後の症状に関するニュースが出るようになり、母から「2回目以降はやめておいたほうがいいんじゃないの」と言われた。 • 自分自身もテレビでニュースを見た。接種後に体が動かなくなった、生活に支障をきたしたという内容だった。
接種を迷っている理由	• 接種後に副反応で生活に支障をきたすようなことが起きたら怖い。 • 今なら無料で接種できる。後々お金がかかるなら無料のうちに受けておいた方が良いのかもしれない。 • 病気が予防できるなら受けておきたい。
ワクチンについての情報収集	• これまで母と会話するタイミングがなかった。母からの情報は信頼している。 • 誰かから接種を勧められたこともないし、友達との間で話題にもならない。 • 学校では授業や説明はなかったと思う。 • テレビのニュースで見た以外に、自分から検索したり調べたことはない。接種を中断してからインタビュー当日まで新たな情報も入っていない。
公的機関からの案内	• 妹宛に届いたチラシを見た記憶があるが、読んでいないので内容は分からない。 • 自分宛に送られてきた記憶はぼんやりとしている。
キャッチアップ接種の情報	• いまも無料で接種できるということは、大学からの案内メールを見て知った。メールを受け取ったのは大学4年になってから。 • それ以外の情報は覚えていない。

厚生労働省作成リーフレット感想	＜キャッチアップ版＞ • 今なら無料で接種できることを改めて知った。がんの進行について詳しく知らなかったことが理解できた。 • 理解できないところ、難しいところ、疑問はなかった。 ＜概要版＞ • 「何人くらいが子宮頸がんになるの？」はクラスで表現されておりわかりやすい。副反応が出た割合が具体的な数値で書かれているのが良い。 ＜詳細版＞ • 不明点はなかった。わかりやすいと思った。
望ましい情報の受け取り方	• リーフレットで受け取れるほうがよい。ネットで検索しようとは思わないので。 • 高校生なら学校で配布されると家で読むと思う。大学生の場合、学校に置いてあっても手に取って見ることはしないので、家に届いてほしい。 • 自分と同年代の人がワクチンの話をしていたら、ちょっと気になるかもしれない。 • テレビ、YouTubeの広告なら見るかもしれない。
ワクチン接種に対する考え （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「4」くらい。今のところ必要性は感じない。 • あまり自分ごとと思えない。自分ががんになって子宮を失うイメージがわかないので、わざわざ受けたいとは思わない。でも、全く受けたくないとも思わない。
ワクチンについて知りたかったこと	• どのくらい痛いのかは当時知りたかった。今は気にしないが。 • どの程度の人が接種しているのかはちょっと気になる。接種している人がこんなにいるということが分かったら、接種する・しないに影響する。
その他	• 中学生の頃に接種のメリットやデメリットを聞いて、しっかり判断できるのかは疑問。それよりは母からの話が最も影響していたと思う。

No.2

職業（年齢）	同居家族	接種経験	接種時期
大学4年（22歳）	父、母	なし	—
	居住地 関東	今後の接種予定 なし（接種を迷っている）	家族・周囲の接種状況 周囲：1人（高校時代の友人）

普段の接触媒体	• テレビは全く見ない。X、Instagram、LINEなどのSNSを見ている。美容系の情報がよく流れてくる。YouTubeは、おすすめに出てきたショート動画を見る。 • 何かを調べる時はGoogle検索。 • 雑誌は美容院で2～3か月に1度、ファッション誌を見るくらい。 • 情報源は100%は信じているわけではない。古い情報、フェイクもあるかもしれない。違うなら違うでいいや、という気持ちで収集している。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 小学校5～6年の頃、接種の案内が自治体から届いて、こういうものがあるのだと知った。ワクチンの存在については理解したが、内容までは理解していなかった。 • この時点でもう少し先の期間まで無料で接種できることは知っていたが、具体的な年数までは知らなかった。公費＝無料、と理解はしていた。
接種しなかった理由	• 案内が来た当時、ワクチンの安全性が確立されていないというニュースがあり、母から「まだ接種しない方が良いのでは？」という意見をもらった。 • 自分自身もそのニュースをテレビで見た。「安全性が確立されていないので怖い」という印象が強く、まだ接種しなくてもいいかなと思った。 • 小学校生だった当時は「（決めるのは）自分で判断ができる高校生くらいでいいかな」と思っていた。大人になったら忙しくなるだろうし、無料で受けられる期間が高校生くらいまでという記憶があったので。でも実際には、高校生の時は忙しくて接種に行く時間がなく、タイミングを逃してしまった。
接種を迷っている理由	• コロナやインフルエンザのワクチンでも副反応が強く出る。ワクチン接種の時期が、試験勉強や入社前研修のタイミングと重なっているので、体調を崩すと困る。 • 接種のメリットデメリット両方あるので迷っている。 • SNSのおすすめ欄や病院でも「受けましょう」という情報を見るが、「（効果については）わかっているけど怖いから受けられないんだよ」という気持ち。
ワクチンについての情報収集	• 安全性が確立されていなかった時代から、情報のアップデートができていない。 • 高校時代の友人が1人、HPVワクチンを接種していた。今年2月に会ったその日に接種していたらしい。「腕が痛い」と言っていた。 • 接種した友人から、「早く受けたほうがいい。無料で受けられるのは2025年までだから」と言われた。
公的機関からの案内	• 小学校5～6年の頃に自治体から封書が届いた。その後、めくれるタイプのはがきが来た記憶もある。
キャッチアップ接種の情報	• 2024年になってすぐ、「安全性がある程度確保されたから個別案内を再開する」ということで、自治体から案内の手紙が来た。 • 申込書や予約方法については読んだが、それ以上は読まなかった。半分くらい見て、HPVだということ以上は見なかったので、必要な情報が書いてあったのかも分からない。「またHPVか」という感じで、ポイっと捨ててしまった。

厚生労働省作成リーフレット感想	＜キャッチアップ版＞ • パッと見、空欄が少なく文字がぎっしりな印象。読むのに時間がかかる印象。 ＜概要版＞ • 3つのリーフレットの中で、最も読もうと思えた。 • 詳細版にあるリスクは概要版にも書いてほしかった。概要版にはひどいほうのリスクが書かれているが、腕の痛みとか、みんなが起こる確率の高いリスクを書いてほしい。 ＜詳細版＞ • 分厚かったので読む気にならなかったが、ちゃんと読むと最も分かりやすい。 • 「HPVワクチン接種について」と「HPVワクチンのリスク」を読んで、このリスクなら受けてもいいかなと思えた。割合が高い副反応は、日常生活にそこまで影響しないものだったので。 ＜その他感想＞ • 今回の調査でリーフレットを読んで、「1年前に受けていればよかった」と思った。大学2～3年の時のほうが時間があったから。 • 「子宮頸がんにかかるのはなぜ？」の図は、持続感染と自然に消える感染の違いが良くわからなかった。 • リスクについては「ほとんど」という表現よりも、90%など数字で書いてくれた方が、すっと理解できる。
望ましい情報の受け取り方	• どの手段で情報提供されても、HPVワクチンに興味がなかったら目に留めないと思う。 • 学校で配られるとか保健関連の授業とか、強制的な情報提供がないと興味を持たない。 • 自分だったら、小中高なら学校からもらうのが一番読む確率が高い。休み時間に「暇だし読んでみよう」と思うかも。 • 大学生だと自分で判断してしまうので、どこでもらっても本当に読まないと思う。
ワクチン接種に対する考え （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「5」。インタビューの前は「2」か「3」くらい。 • 詳細版に書かれていた接種のリスクを読み、最も苦しかったコロナワクチンよりは苦しくなさそうなので、接種する方向に気持ちが動いた。 • でも接種のための時間が取れないし、研修の途中で体調を崩したくないので「5」。
ワクチンについて知りたかったこと	• 副反応が出た人はどれくらい出たのか聞いてみたい。1週間寝込んだとか、自分と同じくらいの中程度の人について。起こりうるリスクを想定して接種できる。 • 周りの人が受けた、という情報は興味がない。友達が3日で副反応がおさまったとしても、自分は1週間かかるかもしれないので。 • 接種した人の情報については、リーフレットなどに簡潔に書いてあればいい。「1週間熱が出ました」とか短い情報でいい。わざわざネットで調べるのは面倒。同じ場所にまとめて書いてもらった方がいい。
その他	• 子宮頸がんより乳がんのほうが情報接触が多い。乳房とは違い、子宮は内臓なので自分からは見えない。その分、普及の速度も違うのではないかと思っている。



No.3

職業（年齢） 会社員（25歳）	同居家族 母	接種経験 なし	接種時期 —
	居住地 関東	今後の接種予定 なし（接種を迷っている）	家族・周囲の接種状況 母：接種経験あり（時期などは不明）

普段の接触媒体	• テレビは朝食時にニュースを見る程度。SNSの利用頻度は高くないが、ダイエットや美容、グルメ情報はInstagramから入ってくるものを眺めている。 • 何かを調べる時はGoogle検索。公式が出しているものや専門家が出ているものは信ぴょう性が高いと思う。 • 新聞や雑誌、本はほとんど見ない。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 中学生くらいの時に知った。保健の授業や市からの案内、CMも見た気がする。 • 当時は「子宮頸がんワクチン」という名称で認識していた。がんのリスクをワクチンで防げるということが衝撃だった。 • でも、周りの人が実際に受けたという話を聞いたことがないので身近に感じられないし、副反応とか怖いのかな、とも思った。受けたことで何が変わるのか、というのもイメージできなかった。
ワクチンについて学校での説明	• 保健の授業で、ワクチンがあること、案内が届いていると思う、という話はあった。接種を受ける・受けないは自由、という話だった。 • 詳しい仕組みについての説明はなかったが、がんになると妊娠のときのリスクに繋がる、という話はあった。 • 授業での説明を聞いて、友達と何か話をするようなことはなかった。友達が接種するか否かは個人の判断だし、それを深く話すのも違うなと思うので、話しにくい話題ではあったと思う。
接種を迷っている理由	• デメリットを考えて迷っているというより、「接種しなくてもいいのではないか」と思っている。子どもが欲しいという願望もないので、将来的な不安を感じていない。病気もなったらなったで仕方がない。 • 自分の価値観や人生設計と照らし合わせて、「これは本当に必要なものなのか」という考えが大きい。祖父ががんで延命せず自然になくなった姿を見て、自分もこれでいい、無理に長生きしなくていい、と思っている。
ワクチンについての情報収集	• 案内が来たときに、母からは「前向きに検討してもいいと思うよ」と言われた。 • 母は「安全性も高いから、気持ちがあるなら受けてもいいんじゃない」という考えで一貫している。母が接種したときに「どうだった？」とは聞いた気がする。そのあと重い症状が出た話は聞いていないので、個人差があるのだろうとは思っている。 • CMだったと思うが、「安全性も高くて、案内が皆さんのところに届きます」というのを見た気がする。その時に「検討してもいいかな」という気持ちになった。
公的機関からの案内	• 高校生くらいのときに、自治体から接種券と一緒に冊子が届いたのを記憶している。冊子にデータとしてワクチンの効果が書かれていた。副反応のこと、その割合なども書かれており、安心できるものだと思った。 • 今までに3回くらい案内をもらっている。

厚生労働省作成リーフレット感想	＜キャッチアップ版＞ • 「接種を逃した方」という言葉から、もう一回考えようかなと感じた。 • 「HPVワクチンの効果とリスク」は専門用語が多く、初見では「うわっ」と思ったが、数字や効果が書いてあると、効果や安全性が期待できる。 ＜概要版＞ • 病気やワクチンへの理解がない段階でもわかりやすい。 • 「一生に一度は感染する」というのが大きく書かれているので、そこで当事者意識が生まれるのかな、とは思う。 ＜詳細版＞ • しっかり理解できる冊子だった。特にリスクの記載がしっかりしていた。文字より表で数字が分かりやすく書いてある方がいい。 ＜その他感想＞ • ワクチンの種類とスケジュールはよく分からないので参考にならなかった。 • 実際接種するとなったら、ワクチンの種類や接種期間は、リーフレットだけではイメージしにくい。「相談先や接種方法については自治体からのお知らせをご覧ください」とあるが、そうした情報がもう少し載っていればいいのかなと思う。
望ましい情報の受け取り方	• 接種券と重要書類が一緒に来るのであれば、しっかりとした紙媒体でいただける方が判断材料としては安心できる。 • 日常生活でこのような情報を得る場合、冊子よりはSNSの方が使う機会は多いので、情報を短くして隙間時間にちょっとずつ情報をもらえる方がありがたい。小出しに理解できれば、身近に感じるきっかけづくりになるのかなと思う。 • 一度に大量の情報を理解するのは億劫になってしまうので、少しずつ豆知識を得られるような感じにすると、より理解しやすい気がする。
ワクチン接種に対する考え （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「4」。リーフレットを見る前は接種しなくていい感じで「3」に近かったが、ちょっと情報が増えて「もう1回検討してもいいかな」という気持ちで「4」になった。 • がんになる仕組みとリスクを確認することができたのが大きかった。
ワクチンについて知りたかったこと	• 副反応とかは気にしていない。怖いなという部分はない。 • どのくらいの人が接種しているかの実態や、接種によりどれくらいリスクを減らせたか具体的な数字があったら、効果に対して前向きな気持ちで判断ができる気がする。 • 私にとって必要かどうかが判断できていないので、接種した人はどういう思いで接種しようと思ったのかなど、いろんな人の考え方を聞いてみたい。



No.4

職業（年齢） 大学1年（19歳）	同居家族 1人暮らし	接種経験 なし	接種時期 2024年4月予定
	居住地 北陸	今後の接種予定 あり（予約済）	家族・周囲の接種状況 周囲：不明

NEO MARKETING

普段の接触媒体	• テレビは帰省した時しか見ない。一人暮らしの自宅にはない。 • SNSはX、Instagram、LINEを使用。アニメ、ゲーム、二次創作、イラストなどを見ている。YouTubeはDIYや雑学系を見る。 • 何かを調べる時はGoogle検索。新聞は読まない。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 高校生の頃、市からキャッチアップ接種の案内が届き、ワクチンのことを知った。それまでは名前を聞いたこともないし、周りで接種した人もいなかった。家族も知らない様子だった。 • 「子宮頸がんを防ぐワクチン」だと認識。受けなきゃいけないのかな、面倒くさいな、という思った。注射が嫌いなので、予防接種全般が好きじゃない。 • がんというよく分からない怖いものを防ぐために、ちょっと嫌だけど接種しなきゃ、とは思った。
接種を決めた経緯・理由	• 高校生のときは大学進学のこともあって忙しかったので、あとで考えたいな、と先延ばしにしていた。 • 年末年始のタイミングで帰省したときに、父と話して、「接種したほうがいいよね」「そうだね」という会話をした。 • 2024年1月になり、公費で接種できる期限が近づいてきたし、ちゃんと打たなければいけないと思っていた。副反応もそれほど心配なものではないと思い、接種を決めた。 • 期限を過ぎたら、嫌なものに対してお金を払わねばならない、という考えもあった。 • 2～3月は実家にいるので、自宅に戻っている4月に接種することにした。
ワクチンについての情報収集	• 2024年1月ごろ、キャッチアップ接種について調べた。公費で接種できるのか気になり、[●●市　子宮頸がんワクチン]で検索して市の公式HPを調べ、公費でいつまで接種できるかを知った。 • 同じ時期に、副反応についても調べた。[子宮頸がんワクチン　副作用]で検索した。 • 調べたのは、個人のブログではなく、医師が回答しているインタビュー記事など。女性の医師の記事で「接種後の症状は、副反応として断定できるか不確定な人の人数で、ものすごく多く出たわけではないから大丈夫」という記述があって安心した。 • たまに帰省したときにテレビでHPVワクチンのCMを見たり、YouTubeのCMを見たりすることがあった。
キャッチアップ接種の情報	• 高校生の頃に最初の案内が届いた。キャッチアップ接種についての案内。 • 大学進学で引越した時に、転居先の市から別の案内が来た。接種できる病院のリストもあったと思う。 • 住所が変わり、新しい予診票をもらわないといけなかったので、「●●市　子宮頸がんワクチン」で検索し、市のHPでキャッチアップ接種について調べた。 • その後、市に電話をして予診票を送ってもらった。

厚生労働省作成リーフレット感想	＜キャッチアップ版＞ • ネットで調べた時に見たような気がする。概要版/詳細版よりやや難しめな、とっつきにくい第一印象。簡素なので“ついで”くらいなのかと思った。 • これまで調べた知識があったので、不明点はない。 ＜概要版＞ • わかりやすい。罹患者数を数字で見ると、他人事ではないと感じられた。 • 「子宮頸がんで苦しまないためにできることが2つあります」ということが書かれていて、「あ、今できるんだな」ということがわかる。 ＜詳細版＞ • 世界で接種されているということは大事なことなのだと思った。 ＜その他感想＞ • 副反応については不確定な要素も含まれているので、確率はさらに低いと書かれていたら安心できそう。
望ましい情報の受け取り方	• リーフレットについて、学校や病院で配布されたら、大事な資料なのかなと感じる。病院なら、検診のあとに渡されたら目に留まるかもしれない。 • 学校なら、他のプリントに混ざらないよう、特別授業の後に渡されたら印象に残るし、読まなければという気持ちになる。
ワクチン接種に対する考え （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「6」。初めてHPVワクチンを知った時は「4」くらい。 • もともと注射が嫌い。すごく接種したいかというと、そうではない。でも大事かな、とは思うので。 • 公費の期限が近づいていたこと、がんを防ぐためにはちゃんと打たないといけないということ、副作用もそれほど心配ではないということから、数字は変わった。
ワクチンについて知りたかったこと	• 案内をもらったときに、「なんで今？」とは思った。「公費で受けられるのが今だから、経済的には今なのかな」というのは自分の中で落とし込んだ。 • 調べて自分の中で落とし込めたので、ワクチンについて特に聞きたいことはないが、もし接種した人のSNS投稿があったら、どこに打ったのか、どんな状態か、ちょっと見てみるかもしれない。



No.5

職業（年齢）	同居家族	接種経験	接種時期
大学1年（19歳）	1人暮らし	あり（3回）	1回目：2023年8月、2回目：2023年9月、3回目：2024年2月
	居住地	今後の接種予定	家族・周囲の接種状況
	北陸	—	妹（中学3年）：1回接種済

普段の接触媒体	• テレビは週1～2回、暇つぶしで見る程度。 • 最も多いのはSNS。Xのトレンドで目に入ったものをチェック。Instagramは食べ物やカフェの情報をよく見る。 • 何かを調べる時はGoogle検索。新聞、雑誌は読まない。 • この中だとテレビのニュースをわりあい信用している。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 高校1～2年の頃、市から接種の案内が届いた。高校の途中からコロナワクチンを接種するようになり、「そういえば他のワクチンの案内が来ていたな」と思い出して調べたときに、しっかり認識した記憶。 • HPVワクチンがどんなワクチンかまでは読んでいなかった。期限があるようだとも思ったが、具体的にいつまでかは把握していなかった。 • 案内が届いたことをきっかけに、高校の友達に「打った？」と聞いたこともあった。「打てるなら打ちたいよね」という話にはなった。
接種を決めた経緯・理由	• HPVワクチンについて調べたときに、「子宮頸がん予防」というものは認識していて、金銭的な負担なしで受けられるならぜひ受けたい、と思った。 • 母は「子宮頸がんのリスクは少ない方が良いので、打った方が良い」と言っていた。 • 接種しようと思ったのは、2022年くらい。スケジュールを合わせるのが難しくて先延ばしにしていた。大学受験もあったので。 • 大学の夏・冬休みで帰省している時にすべて接種しようと綿密に計画した。 • 自分が1回目を受ける日に、母が「妹も」と提案してくれて、妹も一緒に接種した。妹は2回で完了するが、2回目の予約はまだ。
ワクチンについての情報収集	• 予約の時に、市内のどの病院が対応しているかは自分で調べたが、ワクチンの内容については調べていない。不安はなかった。 • 市の案内ページ、子宮頸がんやHPVワクチンについてインターネットで調べた。 • 推奨されていた時期とそうじゃない時期がある、という経緯の情報と、ワクチンの種類がいくつかあるところはよく見たと思う。 • 市のHPは案内書類と同じ内容だったので、国のHPも見た。機関やクリニックが出してる情報は信ぴょう性が高いと思いながら見ていた。一般人が書いているまとめサイトも参考にはなると思い、見た。 • 帰省のタイミングに合わせて受けられるワクチンを扱っている病院で、家に近いところから電話した。9価を希望していたが、スケジュールを伝えたらまず2価を提案された。そのあと、9価でも1か月空けの希望をかなえられる、という情報をいただいて、9価を受けることにした。
公的機関からの案内	• 案内の内容は覚えていない。迷ったり嫌な気持ちになった記憶もない。 • 案内は2回来ており、2回とも高校生の時に受け取った。キャッチアップ接種の案内で、期限があることは認識していた。 • ワクチンに種類があることも書いてあった気がするが、具体的な違いはネットで調べた。

厚生労働省作成リーフレット感想	＜キャッチアップ版＞ • ネットで調べた時に見たような気がする。 • スケジュールと子宮頸がんの進行は図になっているので目が行く。 • ワクチンは接種年齢が過ぎても効果がある、というのは知っておきたい。 ＜概要版＞ • わかりやすい。クラスで何人が子宮頸がんになるか、はイメージしやすい。 ＜詳細版＞ • 子宮頸がんは40代が多いと初めて知った。リスクは表になっていて見やすい。 • 日本だけでなく世界で接種されている情報も参考になる。 ＜その他感想＞ • 読んで安心感につながった情報は、16歳を超えても効果があることと、3種類のワクチンの違い。
望ましい情報の受け取り方	• 病院で受け取ったら目に留まりそう。
ワクチンについて知りたかったこと	• 疑問が解消された状態で接種できていたので、特になし。 • もし身近に接種した人がいたら、どれくらい痛いのか、腕は痛かったか、副反応について聞きたかった。 • 文章だと参考にならないが、動画だったら本当かなとは思う。 • ワクチンについて理解はできなくても、受ける年齢が近づいていることをお知らせされるほうが、準備はしやすいと思う。

No.6

職業（年齢）	同居家族	接種経験	接種時期
大学4年（22歳）	1人暮らし	あり（3回）	1回目：2022年9月、2回目：2022年11月、3回目：2023年5月
	居住地	今後の接種予定	家族・周囲の接種状況
	関東	—	妹（大学1年）：不明　　周囲：数人（大学の友人）

普段の接触媒体	• 就職内定先が決まって引越したのを機に、テレビは持たなくなった。 • 朝、SNSのXと電車内のニュースを見る。Instagramは友達関係。何かを調べる時はGoogle検索。 • 新聞は取っていないが、日経新聞は無料会員に登録しており、メールで届くニュース記事の中から興味があるものを読んでいる。Xでも朝日、日経のアカウントはフォローしている。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 中学生か高校生の頃、市から接種の案内が届いた。母が「体が麻痺した子がいるからやめておこう」と言ったことは覚えている。 • 母の話を聞き、「HPVワクチン　副作用」で調べた気がする。多分そんなに強い副反応は出ないだろうと思いつつ、怖かった印象がある。 • 同じくらいの時期に、生理が不順になって検査に行った。名前は覚えていないが、「子宮のあれがこんな感じです」と言われた。子宮頸がんとか子宮の病気はあまり遠い物じゃないと思ったので、打った方がいいのかなと思った。 • 高校の保健の授業でHPVワクチンの話があって、「打っていないな」とは思い出した。テストにも出たのを覚えている。 • 当時、周りの友達で「打ったんだ」みたいな会話はした覚えはない。
接種を決めた経緯・理由	• 母から、キャッチアップ接種で無料で受けられることを教えてもらった。そのタイミングで一人暮らしを始めることになったので、「どうしようか」と頭の片隅にあった。 • 2022年6月頃、一人暮らしの自宅にキャッチアップ接種の案内が届いた。「ようやく届いたから接種しようと思う」と母に電話で話したら「無料で打てるときに打っておきな」と、すんなりOKが出た。「母子手帳持っていきな」ということも言われた。 • 以前は強く反対していたので拍子抜けしたが、母がOKを出したことは大きかった。 • コロナがあったのも大きい。強制ではないが、ワクチンを打たなければならない状況になった。HPVワクチンの時よりも副反応の情報が多く流れた一方で、何事もない人が多くいる。私の性格上、「なるものはなるよね」「打たないで後悔するより打って後悔する方がまだいいかな」と思った。 • 夏休みは帰省するので、自宅のほうで接種するつもりで9月に予定した。
ワクチンについての情報収集	• キャッチアップ接種のタイミングで、友達に接種したかどうか聞いた。大学で同じクラスだった友人ががん家系で、高校生の時点ですでに9価を受けていた。その友人の両親は医療関係者。問題ないということは聞いていた。 • 他の友達にも聞いて、何人か受けていた人はいた。 • どのワクチンにすべきか迷ったが、母や接種した友人とも相談して、4価を受けることにした。接種を決めた当時、9価は自費だったので。
キャッチアップ接種の情報	• 事前に母から話を聞いていたので、市から案内が来て「私のことだ」と思った。

公的機関からの案内	• 市からの案内には、各病院ごとにどのワクチンが接種できるか一覧表があって、ありがたかった。
厚生労働省作成リーフレット感想	＜キャッチアップ版＞ • 市からのキャッチアップの案内で見た。自分が該当しているとすぐにわかった。 • 3種類のワクチンのどれを選択したらよいかわからず、接種した友人に聞いた。 • 詳細版にあるワクチンのリスクの表がこちらにもあれば、母に相談しやすかったかも。 ＜概要版＞ • 小6ではHPVワクチンはわからないので、表紙のように親子で読んだと思う。「こういうものがある」という導入程度で、これで検討は難しい。 ＜詳細版＞ • 高1までに読んでいたら、かなり考えるきっかけになったと思う。 • 3種類のワクチンのメリットデメリットが表になっていたら相談がしやすかった。 ＜その他感想＞ • 母からの言葉やメディアの情報は、HPVワクチンのネガティブな情報が多かったので、読んでいてもネガティブな情報が目につきやすい。 • リーフレットを読んで背中を押されることはないが、「考えなきゃ」くらいにはなる。 • リーフレットだけでは判断は難しい。私は、周囲からの後押しがあったのが大きかったので。
望ましい情報の受け取り方	• 教育実習に行ったとき、学校からのおたよりはオンラインで生徒や保護者に送っていた。紙だと保護者に見せないお子さんもいるので。そういう場合は紙とデータの両方で見せるのがいいのかも。 • YouTubeとかでVlogとしてあっても、本当に誰かが接種しているというだけで安心材料になる。短時間に多くの情報を詰めてくれるのでわかりやすい。 • 学校の保健体育の先生からの話で、「過去にこういう生徒がいた」という実体験の話を教えてくれるのは、危機感が迫ってくるものがあった。（※子宮頸がんの話ではない）
ワクチンについて知りたかったこと	• Vlogのような動画で、予約から接種、接種後までの流れを見られたら良い。接種した経験のあるロールモデルがいると、身近な人には聞きづらいけど、安心材料になる。
その他	• 生理がきたのが小5くらいで少し早くて、子宮という器官があるのは意識していた。（対象の小6になって）突然案内されるよりは、それくらいの年齢で先に知る機会はあってもよかったとは思う。 • 友達との話で、「男性も打った方がいい」というのは初めて知った。私の大学はジェンダーに厳しくて、学内のジェンダーイクオリティーの団体のSNSアカウントをフォローしていたら、男性も打った方がいい、という情報が出てきた。 • 異性間でHPVワクチンについて話題にすることがなかったので、知人の男性で打っている人がいるかはわからない。

No.7

職業（年齢） 大学2年（20歳）	同居家族 父、母	接種経験 なし	接種時期 —
	居住地 関東	今後の接種予定 なし（接種を迷っている）	家族・周囲の接種状況 周囲：不明

普段の接触媒体	• テレビはあまり見ない。気になったドラマがあれば見逃し配信で見る。 • 一番目にするのはSNS。X、Instagram、TikTokでインフルエンサーやアイドルの投稿、美容を見る。YouTubeではゲーム配信をよく見る。 • ニュースはYahoo!ニュースの気になった記事を読む。 • 新聞は高校までは取っていたが今はない。雑誌は気になるアイドルが出ているときは買うが、習慣的には読まない。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 中学2～3年の頃、学校でポスターを見た。「接種しよう。無料で受けられます」みたいな内容だった。 • 保健体育の授業でも子宮頸がんについて勉強して、予防の方法としてワクチンがあることを聞いた。 • 子宮頸がんの怖さは理解していたので、母に「ワクチンを打った方がいいかな」と聞いたら、「やめておいた方がいい」と言われた。 • その後も、学校で貼ってあるポスターは目にする機会はあったが、母が反対していたので、接種する気にはならないまま今に至る。
接種を迷っている理由	• 最初に市から案内が届いたときは、自分で開封して中身を少し見たが、母が反対していて捨てられてしまった。 • 母の友人が接種し、下半身麻痺でずっと動くことができないと聞いた。かなり怖いと思った。 • 母に相談しても反対されるし、友達と会話するきっかけもない。もし周りの人が「接種した」と言ったら迷ってしまいそうで、怖くて聞けない。 • Webの広告とかでワクチンについて見る機会は少しあった。広告を見ると、プラス面が大きく書かれている。学校の掲示物にもリスクは書かれていなかった。副反応はない、昔は怖かったが今は大丈夫など。安全性が確実なら接種したいが、本当に大丈夫なのか不安の方が大きい。
ワクチンについての情報収集	• 市から届いた案内をぱらぱらと見ただけ。自分で調べたことはあまりない。 • 何年までなら無料で受けられる、というのは気にしたことがある。大学に貼ってあるポスターで知った。女子大なので、そういう話題のものはよく掲示されている。
公的機関からの案内	• 2回くらい案内が来たと思う。接種が無料でできるので是非受けましょう、という手紙と、ワクチンについてのリーフレットが入っていた記憶。 • ぱらぱらっと見て「打った方がいいのかな？」と思った。結局、9：1くらいで打たない、となったが。 • 身近な人で副反応があったので、ワクチンのリスクの情報を隠さずに書くことも重要なのではと思っている。市からの案内にそこまで書いてあったかは覚えていない。
キャッチアップ接種の情報	• 覚えていないが、大学に入ってから受け取ったのだと思う。このときも母が捨てた。

厚生労働省作成リーフレット感想	＜キャッチアップ版＞ • 文字が多すぎてじっくり読まないといけない気がする。 • 優しいイメージで安心できそう。接種を逃した人向けということは何となく感じる。 ＜概要版＞ • わかりやすいイメージ。キャッチアップよりも量が少なく凝縮されているので、触れるきっかけとしてよい。 ＜詳細版＞ • 3種類のワクチンごとの副反応が分かりやすい。 • 救済制度は本当？と思った。あっても審査が厳しそうなイメージ。 ＜その他感想＞ • リーフレットを読んで「打った方がいいかな」という気持ちは増えたが、身近に副反応で動けなくなった人がいるので、不安な気持ちが拭えない。 • 下半身不随とか書かれてあったのは、「あ、本当なんだな」というのは感じた。そういうことも書いてあるのはいいこと。リスクを理解していないとわからないこともあるので。
望ましい情報の受け取り方	• 紙が良い。配布や貸し出しができる。 • 学校の保健の授業で資料として配布されたら良いと思う。授業中なら半ば強制的に参加できる。 • 文字よりは動画のほうがいい。
ワクチン接種に対する考え （1:絶対に接種したくない　4:どちらともいえない　7:ぜひ接種したい）	• 「3」。調査の前は「2」。 • リーフレットを読み、子宮頸がんやワクチンの知識が深まったが、まだリスクの方が上回る。 • 自分にとってワクチンはあまり必要のないものだと思っている。母の反対が大きい。 • 自分の中で母の存在が偉大で、母の言うことが一番正しいと思っている節がある。母の言うとおりにして外れたことがない。
ワクチンについて知りたかったこと	• みんなが接種しているワクチンはどれか、各ワクチンのメリットデメリットは知りたい。みんなが接種しているということはリスクが低いと思う。 • 親しい人からの情報なら安心だが、医療関係ではない人からの本音は聞きたい。医療従事者は勧める人が多いと思うので。 • インフルエンサーは嘘をつくと思っているので、一般人の話なら聞いてみたい。



No.8

職業（年齢）	同居家族	接種経験	接種時期
新大学1年（20歳）	父、母、妹（2人）	あり（3回）	1回目：2023年夏、2回目：1回目の2か月後、3回目：2023年12月
	居住地 関東	今後の接種予定 —	家族・周囲の接種状況 妹（中学生、高校生）：接種する予定

NEO MARKETING

普段の接触媒体	• テレビは常にNHKのニュースが流れている。家族全員、ニュースはNHKで見る習慣がついている。 • 新聞は日経新聞を取っているので、朝は目を通している。子どもの頃は朝日小学校生新聞を購読していた。 • SNSはInstagram、YouTubeではメイク情報をよく見る。 • 何かを調べる時はGoogle検索。まずは公式ページを見て、次に個人的な意見を深堀りする。比較サイトも利用する。
HPVワクチンについて知ったきっかけ ワクチンの印象	• 中学か高校生くらいの頃に案内が届き、母からワクチンの存在について聞いた。 • その頃、接種推奨がストップするかもしれないという話があったので、「一度考え直そう」ということで見送りにした。 • 当時の案内の内容については覚えていない。
ワクチン学校での説明	• 保健体育の授業で、ほんの少し触れた程度。接種する・しないの意見に関わるようなことは言わないようにしていたと思うので、あまり深く触れられてはいなかった。
接種を決めた経緯・理由	• 2022年の夏くらいにキャッチアップ接種の案内と接種券が届いた。ワクチンについて調べると、唯一がん予防ができるとわかった。子宮頸がんは女性としてリスクがない病気ではないから、接種できるならしようと、母との間で気持ちが固まった。 • ワクチンの種類も調べ、医師が推奨した新しい9価のワクチンが公費で接種できるまで待つことにした。受験時期との兼ね合いもあり、2023年の夏に接種することにした。
ワクチンについての情報収集	• 母が婦人科に行った際、医師に話を聞いたり、ネットで情報収集してメリットデメリットを把握していた。 • 同時に自分でも、国のHPでどんなワクチンか、何歳まで接種できるかを調べた。その後、子宮頸がんについて病院のHPやオフィシャルなもので調べ、ワクチンを推奨する意見、推奨しない意見どちらも読んだ。 • 病院のHPにワクチンの種類について記載があったので、かかりつけの婦人科に行き、「HPVワクチンを受けたいが、新しいワクチンが出るという噂を聞いた」と相談した。 • 医師から新しいワクチンの効果について説明を聞いて、「選べるなら新しいほうがいい」と、9価ワクチンを推奨してもらった。副反応についてもこの時、説明を受けた。 • 接種を最も後押ししたのは、医師の話を聞いたこと。母も勧めてくれて既に受ける気持ちになっていたが、専門家の方からデータに基づいたリスクの話を聞き、そのうえで「推奨する」と言ってくれたのが大きかった。
キャッチアップ接種の情報	• 市から接種券とともにワクチンの案内が送られてきた。明確に書いてあったか定かではないが、子宮頸がんを予防できるとわかったのは、一つ大きかった。 • 公費で接種できる期間は書いてあったので、時期は意識した。 • 自分で調べた情報も多かったが、案内を読んで得た情報も多かった。

厚生労働省作成リーフレット感想	＜キャッチアップ版＞ • 子宮頸がんとは？と書かれているのに、病気のリスクしか書かれておらず、どんな病気か自分で調べた。 • インパクトがあったのは「対象年齢を過ぎても接種の効果はありますか？」。なんとなく知ってはいたが、「安全性の懸念は示されていない」とはっきり書かれていた。16歳くらいが一番効果が高い、というのは知らないことだった。 ＜概要版＞ • 唯一ワクチンで防げるがんだということを強調してもらえるとわかりやすいと思う。 ＜詳細版＞ • 図が多く、とても読みやすい。 • ワクチンによって副反応が違うと医師に説明を受けていたが、詳細版でもそう書かれており、分かりやすかった。非常に低い確率の重篤な症状だけにフォーカスされた情報だけ見て恐れるのは違うと思うので、この表はとても良い。 ＜その他感想＞ • 「防げるがん」だということは強調したほうが良い。そこはすごく重要で、唯一無二の良い点だと思うので。
望ましい情報の受け取り方	• 自分は紙で見た方が分かりやすいが、グラフや図が多いので、PDFや動画などでもみられると、今の世代にも手が届きやすい。 • 病院と学校で受け取れると良いが、受診しない人は見られないので、保健体育の授業で配布されると嬉しい。全員に配られる機会が平等にあって、判断は個人に任せる形が親切かと思う。
ワクチンについて知りたかったこと	• 副反応や後遺症のリスクが大きめだと認識はしていたので、それに対して他の人はどんな捉え方をして接種したのか、または接種しないという判断をしたのか、意見を聞きたかった。 • できれば保健体育の授業とか講演会とかで、それぞれの人の意見が行き渡るのがいいと思う。
その他	• がんを予防できることは大きいと思う。エビデンスがあったうえで医薬品として存在している。そのことを学校で周知しておくべきじゃないかと、当時も少し思った。これほど大事なことなのに少ししか触れていない。効果とリスクとそれぞれ話してもらったほうが、知らずに終わってしまうよりはいい。

インタビューフロー（親子ペアインタビュー）①

- 2005年度～2011年度生まれの女性（2023年度に小学校6年～高校3年相当になった女性）
- 上記女性の母親

◆「HPVワクチン」インタビューフロー（親子90分）
目的：納得・安心してＨＰＶワクチンの接種を判断できるような情報提供のあり方について検討するための示唆を得る

Time	Title	内容	検証視点・備考
3min	趣旨説明		
		●HPVワクチンに関するインタビューであること ●司会者は調査会社に所属する人間で、委託されていること ●「本インタビューはHPVワクチンに対するお考えや、情報収集方法などについてお尋ねすることが目的であり、接種をお勧めしたり、お考えを肯定、否定するものではありません。 「正しい」答えがあるものではないので、率直なご意見やお考えをお聞かせください。」 ●個人情報の取り扱いについて　●撮影、録音の許可確認	趣旨説明 ※「接種をお勧めしたり～」は、規定回数が完了している人は不要
(3/90)			
5min	自己紹介		
		●お名前（仮名/本名どちらでもOK。どのようにお呼びすればよいか尋ねる）、お住まい（市区町村まで差し支えない範囲で）、ご家族構成、お母様ご職業 お子さん学年、習い事や趣味	対象者プロフィールの把握
(8/90)			
7min	普段の情報接触		
		★インタビューの流れ説明 はじめはお母様＋お子さんで進め、最後にお母様だけ、お子さんだけにお尋ねする予定。 その時になったらお声がけをするので、お母様/お子さんは少し離れたところでお待ちください。	
	（母子）	●普段の生活における接触媒体 ・普段よく見るものはどんなものがありますか？ －テレビ、インターネット、雑誌、新聞、SNSなど　インスタなど具体的な名称が分かれば確認 ・お子さんは自分用のパソコンやスマートフォンを持っていますか？ネットの使用に制限はありますか？	普段接触している媒体
(15/90)			

30min	HPVワクチン接種検討について		
	（母子）	●HPVワクチンの接種状況確認 ・インタビュー時における、HPVワクチンの接種状況・接種意向（アンケート時と変わりがないか）	HPVワクチン接種状況 ※接種経験がある場合、接種を受けた
		・対象のお子さん以外に、ご家族の中でHPVワクチンを接種した人はいますか？ いとこや親戚、仲の良いお友達はどうですか？	年齢/時期と、その時期にした理由を聞く
		●HPVワクチンの情報接触 ※HPVワクチンに関する情報接触の際、どんな媒体で、何を知ったのか、それが十分だったのかを確認する	
	（母子）	・HPVワクチンという存在を知ったのはいつ、何で見聞きしましたか？	母子の認知タイミングは異なるか
母子別々に確認（子→母）		このワクチンはどういうものだ、と受け取りましたか？	
		・HPVワクチンのことを初めて知った時、どう感じましたか？（ポジネガ）その理由	受け止めの温度差はあるか
		・今回HPVワクチンをお子さんに接種した方が良いと思った最初のきっかけはいつ、何でしたか？	母が子供に接種させたいと思うきっかけやタイミング
		新たに情報を得て、接種に対する考え方は変わりましたか？どのような情報が加わることで変わりましたか？	
		接種を決めるまでに、医師や看護師の説明を受けましたか？あった場合どんなタイミングでどんな説明でしたか？	
	（母子）	・今現在HPVワクチンの接種を決めかねているのはどうしてですか？	※接種検討者のみ
接種検討者のみ		今の情報は、最初に知った時から何か増えましたか？何でどんな情報が追加されましたか？	
		これまでに、医師や専門家の説明を受けましたか？あった場合どんなタイミングでどんな説明でしたか？	
	（子）	・○さんは、HPVワクチンを受けたいと思いましたか？	子供は常に母からの勧めで、接種に至るのか？
		それともお母さんや誰かがおすすめするから、打った方がいいのかな、と思いましたか？それは誰？	
	（母子）	（＋"おすすめするから"以外に、周りの人が「接種した」などの"事実"が影響したかどうか、さく）	→であれば、今後母向けの情報が必要であるはず
		「接種しよう」と決めた一番のきっかけは何ですか？　（※接種検討中の人は除く）	母はどんな情報が必要なのか
	（子）	HPVワクチンについて、お母さん以外、誰かから聞いたことはありましたか？	どこで見たいのか
		自分で調べたことはありましたか？どのような方法で検索し、どのような情報が気になりますか？	
	（母）	情報が足りないとか、わかりづらいと思ったことはありますか？	子供が主体的に動くことはあるのか →であれば、どんな情報が必要なのか、どこで見たいのか

		●HPVワクチン接種を決定するまで	
	（母）	HPVワクチンを受けると決めるまでの間に、親子で相談したり、話したりしたことはありましたか？	
		具体的にどんな場面で、どんな会話がありましたか？	親子の会話はどの程度行われているのか、どんな内容か
		普段からお子さんについて何か決めるときに、親子で相談するほうですか？親御さんが決めることが多いですか？	
		例：学校の授業で出てきた、誰かが接種した、ネットの記事で見た・・・など	
	（母）	・お母様の気持ちとして、お子さんが嫌だと言ったらどうするつもりでしたか？/どうする予定ですか？	
		機が熟すのを待つ、諦める、何とか誘導する、医師など知識のある人に頼る、など　その理由	子供が拒んだ場合、どのようにするつもりだったのか
	（母子）	お子さんにはどんなふうに説明しましたか？その時にどのような情報が役に立ちましたか？	
	（母子）	・親子で接種に対する意見が違った場合、それはどのような点についてですか？	
		その点について、何か話し合ったことはありますか？	
(45/90)			
20min	厚生労働省発行物について		
		●公的機関発行物の評価	
	（母子）	・自治体から送られてきた、HPVワクチンの接種についての案内（封書、はがきなど）を見たことはありますか？	
		どんなことが書かれていたか記憶がありますか？	
		あなたにとって、HPVワクチンを受けるかどうかを決めるときに必要な情報は何ですか？	
		そのほかに、こういうことが知りたかったというものはありますか？	
		●厚生労働省発行リーフレットの評価 ※「小学校６年～高校１年相当 女の子と保護者の方へ大切なお知らせ（概要版）」 「小学校６年～高校１年相当 女の子と保護者の方へ大切なお知らせ（詳細版）」 高校2年・3年相当のお子様の場合：「平成９年度～平成18年度生まれまでの女性へ大切なお知らせ」もご用意いただく	
	（母子）	・今回配布した、厚生労働省から出ているこれらのリーフレットについてお尋ねします	リーフレットの認知度
		このリーフレットはこの調査の前から知っていましたか？	
		知っている場合は、どこで、どんな場面で知りましたか？その時中を読みましたか？（概要/詳細を明らかに）	
		印象は？	

インタビューフロー（親子ペアインタビュー）②

- 2005年度～2011年度生まれの女性（2023年度に小学校6年～高校3年相当になった女性）
- 上記女性の母親

0	（母子）	・今回インタビューのためにご覧いただいたと思いますが、第一印象はどうでしたか？（概要/詳細を明らかに	
		お母様とお子さんと一緒に読まれましたか？	リーフレットの印象、不明点、
		内容は理解できましたか？難しかったところ、わからなかったのはどこですか？	不足情報の把握
		それらについて、ご自分で調べましたか？調べた場合は何でどのように？解決しましたか？	
	（母子）	・接種前、接種を決める前にこのリーフレットを見ていた場合、このリーフレットが接種するという方針に影響を与えましたか？	
		接種をする予定の場合、このリーフレットを見ていたら、接種方針に影響を与えましたか？	
		それはどの部分がどのように影響しますか？	リーフレットが接種の判断材料に
		逆に、このリーフレットでは接種を後押しできないでしょうか？その理由	なっているか、もしくはなっていない
接種検討者のみ	（母子）	・接種を決めかねている場合、このリーフレットが接種する・しないに影響を与えましたか？	※接種検討者のみ
		それはどの部分がどのように影響しましたか？	
	（母子）	・冒頭で聞いた、不足していた情報はここには掲載されていますか？	場合、このリーフレットの役割は？
		されていない場合、このリーフレットに欲しいですか？それとも別の方法で知りたいですか？その理由	
		●リーフレット、その他ツールの置き場所	厚労省発行物の置き場所として
	（母子）	・このリーフレットはどこで配られたら目に留まると思いますか？	最適なのはどこか
(45/90)			
20min	お母様インタビュー		
		●HPVワクチン接種に対する態度	
		・今回接種した/接種する予定/接種を検討中であると伺いましたが、接種する時/今の時点で、	
		7段階の目盛りで、１絶対に接種したくない　２　３　４どちらともいえない　５　６　７ぜひ接種したい	
		そう考える理由は何ですか？	懸念点の有無、懸念の払しよく
		必要があると思うか思わないか。必要があると思うのに受けていない場合、それはなぜか。	に必要な情報と、情報提供者、
		それらはどんな方法で知ることができればよいでしょうか？その理由	提供ツールの確認
		ーHPVワクチン接種の説明に関して困ったこと	懸念がない場合、なぜないのか
		・今回接種/検討するにあたり、ご家庭で話をされたと思いますが、	母側の懸念は、自分自身の
		説明が難しかったこと、質問されて答えにくかったことはありましたか？それはどんなことですか？	情報不足に起因するのか、
		それらの説明は、もっと詳細な説明があればよかったのか、学校や医療機関が担ってくれたら	漠とした不安か
		いいのに、動画があればいいのに、と思いましたか？	これまでの親子関係による場合
		・ご自分以外の人、モノに説明をしてほしいと思う場合、そう思ったのはなぜですか？	何が代理になれるのか
		ーHPVワクチン接種の説明に関して困ったこと	
		・今回接種/検討するにあたり、ご家庭で話をされたと思いますが、	
		説明が難しかったこと、質問されて答えにくかったことはありましたか？それはどんなことですか？	
		それらの説明は、もっと詳細な説明があればよかったのか、学校や医療機関が担ってくれたら	
		いいのに、動画があればいいのに、と思いましたか？	
		・ご自分以外の人、モノに説明をしてほしいと思う場合、そう思ったのはなぜですか？	
		ーHPVワクチン接種の説明に関して困ったこと	
		・今回接種/検討するにあたり、ご家庭で話をされたと思いますが、	
		説明が難しかったこと、質問されて答えにくかったことはありましたか？それはどんなことですか？	
		それらの説明は、もっと詳細な説明があればよかったのか、学校や医療機関が担ってくれたら	
		いいのに、動画があればいいのに、と思いましたか？	
		・ご自分以外の人、モノに説明をしてほしいと思う場合、そう思ったのはなぜですか？	
		ー難しい、面倒、恥ずかしい、親だと反発する、など	
(65/90)			

20min	おこさんインタビュー		
		●HPVワクチン接種に対する態度	
		・今回接種した/接種する予定/接種を検討中であると伺いましたが、接種する時/今の時点で、	懸念点の有無、懸念の払しよく
		7段階の目盛りで、１絶対に接種したくない　２　３　４どちらともいえない　５　６　７ぜひ接種	に必要な情報と、情報提供者、
		そう考える理由は何ですか？	提供ツールの確認
		必要があると思うか思わないか。必要があると思うのに受けていない場合、それはなぜか。	懸念がない場合、なぜないのか
		受けたいと思った理由、受けたくないと思った理由を教えてください。	
		受けるかどうか決めようとするときに、何か気になることとかわからないことはありますか？	
		それらはどんな方法で知ることができればよいでしょうか？その理由	
		ー新聞、インターネット、市町村のお知らせ、手紙、医師から、学校でなど	
		●HPVワクチン接種に関する情報接触の実態把握	
		学校で、HPVワクチンのことについて聞いたことはありますか？	学校でのHPVワクチンがどのように
		先生から話があったり、授業で聞いたことはありますか？どんな風に説明されましたか？	取り扱われているか
		・HPVワクチンのことを知ってから、お友達とこのワクチンについて話したことはありますか？	
		ある場合、どんなことを話しましたか？	子供たちの間ではどんな会話が
			されているのか
		説明を読んだり聞いたりして、わからなかったところはありますか？	母側の知識不足、抵抗ある個所
		あった場合、誰かに聞きましたか。それで解決しましたか？	の把握
		→選択式で画面共有	子供側の疑問、言いにくい箇所
		1．子宮頸がんにかかる仕組み、理由 2．子宮頸がんになると、どんなデメリットがあるのか 3．HPVワクチンの種類と、それぞれのメリットデメリット 4．みんなが接種しているHPVワクチンはどれか 5．なぜHPVワクチンを打った方がいいのか 6．なぜ「今」HPVワクチンを打った方がいいのか 7．注射は痛くないのか、どこに打つのか 8．本当はHPVワクチンが嫌だ、怖い、ということ 9．その他	の把握
		・HPVワクチンの説明や、打った人のお話は聞いてみたいと思いますか？	欲しい情報と、その手法
		それは、どんな方法で聞けたら良いですか？何が聞いてみたいですか？	
		ーHPVワクチンの説明や、打った人のお話は聞いてみたいと思いますか？	
		それは、どんな方法で聞けたら良いですか？何が聞いてみたいですか？	
		ーHPVワクチンの説明や、打った人のお話は聞いてみたいと思いますか？	
		それは、どんな方法で聞けたら良いですか？何が聞いてみたいですか？	
		ー医師、先生、保健の先生、お母さん、SNSのインフルエンサー、同世代の女の子	
(85/90)			
5min	追加質問・謝礼		
		●追加質問	
		●謝辞	
(90/90)			

インタビューフロー（個別インタビュー）①

- 1997年度～2004年度生まれの女性（2023年度に19歳～26歳になった女性）

◆「HPVワクチン」インタビューフロー（単独60分）
目的：納得・安心してＨＰＶワクチンの接種を判断できるような情報提供のあり方について検討するための示唆を得る

Time	Title	内容	検証視点・備考
3min	趣旨説明		
(3/60)		●HPVワクチンに関するインタビューであること ●司会者は調査会社に所属する人間で、委託されていること ●「本インタビューはHPVワクチンに対するお考えや、情報収集方法などについてお尋ねすることが目的であり、接種をお勧めしたり、お考えを肯定、否定するものではありません。 「正しい」答えがあるものではないので、率直なご意見やお考えをお聞かせください。」 ●個人情報の取り扱いについて　●撮影、録音の許可確認	趣旨説明 ※「接種をお勧めしたり～」は、規定回数が完了している人は不要
3min	自己紹介		
(6/60)		●お名前（仮名/本名どちらでもOK。どのようにお呼びすればよいか尋ねる）、お住まい（市区町村まで差し支えない範囲で）、ご家族構成、ご職業、習い事や趣味 ※学生の場合、大学院生/大学生/専門学校生/短大生か、をきく	対象者プロフィールの把握
4min	普段の情報接触		
(10/60)		●普段の生活における接触媒体 ・普段よく見るものはどんなものがありますか？ ーテレビ、インターネット、雑誌、新聞、SNSなど　インスタなど具体的な名称が分かれば確認 ・学生の場合、自分用のパソコンやスマートフォンを持っていますか？ネットの使用に制限はありますか？	普段接触している媒体

15min	HPVワクチン接種検討について	
	●HPVワクチンの接種状況確認	HPVワクチン接種状況
	・インタビュー時における、HPVワクチンの接種状況・接種意向（アンケート時と変わりがないか）	※接種経験がある場合、接種を受けた
	・自分以外に、ご家族の中でHPVワクチンを接種した人はいますか？	年齢/時期と、その時期にした理由を聞く
	いとこや親戚、仲の良いお友達はどうですか？	
	●HPVワクチンの情報接触	
	※HPVワクチンに関する情報接触の際、どんな媒体で、何を知ったのか、それが十分だったのかを確認する	
	・HPVワクチンという存在を知ったのはいつ、何で見聞きしましたか？	認知タイミングと接種を検討する
	このワクチンはどういうものだ、と受け取りましたか？	タイミングのタイムラグはあるか
	・HPVワクチンのことを初めて知った時、どう感じましたか？（ポジネガ）その理由	
	・今回HPVワクチンを接種した方が良いと思った最初のきっかけはいつ、何でしたか？	※↓母親に関する質問を要追加？
	新たに情報を得て、接種に対する考え方は変わりましたか？どのような情報が加わることで変わりましたか？	子供は常に母からの勧めで、
	接種を決めるまでに、医師や看護師の説明を受けましたか？あった場合どんなタイミングでどんな説明でしたか？	接種に至るのか？
	・HPVワクチン打った方がいいよ、と誰かに言われたことはありますか？それは誰？	→であれば、今後母向けの情報
		が必要であるはず
接種検討者のみ	・今現在HPVワクチンの接種を決めかねているのはどうしてですか？	
	今の情報は、最初に知った時から何か増えましたか？何でどんな情報が追加されましたか？	
	これまでに、医師や看護師の説明を受けましたか？あった場合どんなタイミングでどんな説明でしたか？	
接種者のみ	「接種しよう」と決めた一番のきっかけは何ですか？　（※接種検討中の人は除く）	
	HPVワクチンについて、自分で調べたことはありましたか？どのような方法で検索し、どのような情報が気になりましたか？	
	情報が足りないとか、わかりづらいと思ったことはありますか？	
	●HPVワクチン接種を決定するまで	
接種予定者のみ	・HPVワクチンを受けると決めるまでの間に、親御さんに相談したり、話したりしたことはありましたか？	
	普段、何かを決めるときに、親御さんに相談するほうですか？	
	・誰かと相談したり会話がありましたか？具体的にどんな場面で、どんな会話がありましたか？	検討～決定に誰かと相談するのか
	例：学校の授業で出てきた、誰かが接種した、ネットの記事で見た･･･など	
	・周りの人で、ワクチンを打たない派の人はいましたか？その理由は何か話していましたか？	検討～決定で、どんなツールが利用
	あなたはその話を聞いてどう思いましたか？	されているのか、もしくは何もない
	・この会話の中で、どのような話をしましたか？そのときに何か役立った情報はありましたか？	のか？
(25/60)		

20min	厚生労働省発行物について	
	●公的機関発行物の評価	
	・自治体から送られてきた、HPVワクチンの接種についての案内（封書、はがきなど）を見たことはありますか？	
	どんなことが書かれていたか記憶がありますか？	
	あなたにとって、HPVワクチンを受けるかどうかを決めるときに必要な情報は何ですか？	
	そのほかに、こういうことが知りたかったというものはありますか？	
	●厚生労働省発行リーフレットの評価	
	※「小学校６年～高校１年相当 女の子と保護者の方へ大切なお知らせ（概要版）ピンク」 「小学校６年～高校１年相当 女の子と保護者の方へ大切なお知らせ（詳細版）水色」 「平成９年度～平成18年度生まれまでの女性へ大切なお知らせ　紫」をご用意いただく	
	・今回配布した、厚生労働省から出ているリーフレットについてお尋ねします	リーフレットの認知度
	このリーフレットはこの調査の前から知っていましたか？	
	知っている場合は、どこで、どんな場面で知りましたか？その時中を読みましたか？（概要/詳細/紫　を明らかに）	
	印象は？	
	・今回インタビューのためにご覧いただいたと思いますが、第一印象はどうでしたか？（概要/詳細/紫　を明らかに）	
	内容は理解できましたか？難しかったところ、わからなかったのはどこですか？	リーフレットの印象、不明点、
	それらについて、ご自分で調べましたか？調べた場合は何でどのように？解決しましたか？	不足情報の把握
	・接種前、接種を決める前にこのリーフレットを見ていた場合、このリーフレットが接種するという方針に影響を与えましたか？	
	接種をする予定の場合、このリーフレットを見ていたら、接種方針に影響を与えましたか？	リーフレットが接種の判断材料に
	それはどの部分がどのように影響しますか？	なっているか、もしくはなっていない
接種検討者のみ	・接種を決めかねている場合、このリーフレットが接種する･しないに影響を与えましたか？	
	それはどの部分がどのように影響しましたか？	
	・冒頭で聞いた、不足していた情報はここには掲載されていますか？	場合、このリーフレットの役割は？
	されていない場合、このリーフレットに欲しいですか？それとも別の方法で知りたいですか？その理由	
	●リーフレット、その他ツールの置き場所	厚労省発行物の置き場所として
	・このリーフレットはどこで配られたら目に留まると思いますか？	最適なのはどこか
(45/60)		

インタビューフロー（個別インタビュー）②

- 1997年度～2004年度生まれの女性（2023年度に19歳～26歳になった女性）

10min	HPVワクチンへの態度		
		●HPVワクチン接種に対する態度	
		・今回接種した/接種する予定/接種を検討中であると伺いましたが、接種する時/今の時点で、	
		7段階の目盛りで、１絶対に接種したくない　２　３　４どちらともいえない　５　６　７ぜひ接種したい	
		そう考える理由は何ですか？	懸念点の有無、懸念の払しょく
		必要があると思うか思わないか。必要があると思うのに受けていない場合、それはなぜか。	に必要な情報と、情報提供者、
		それらはどんな方法で知ることができればよいでしょうか？その理由	提供ツールの確認
		ー新聞、インターネット、市町村のお知らせ、手紙、医師から、保健師・助産師から、学校でなど	懸念がない場合、なぜないのか
		●HPVワクチン接種に関する情報接触の実態把握	
		・学校ではHPVワクチンのことについて先生から話がありましたか？	学校でのHPVワクチンがどのように
		あった場合、それはどんな時ですか？どんな風に説明されましたか？　→冒頭で回答済みの場合有	取り扱われているか
		・HPVワクチンのことを知ってから、お友達とこのワクチンについて話したことはありますか？	若年女性の間でどんな会話が
		ある場合、どんなことを話しましたか？　→冒頭で回答済みの場合有	なされているのか
		・このワクチンについて、ご家族や友達に聞いてみたいと思っても、聞きにくかった質問や、	他人に聞きにくい質問はあるか
		言い出しにくかったことはありますか？	
		必要に応じて提示 １．子宮頸がんにかかる仕組み、理由 ２．子宮頸がんになると、どんなデメリットがあるのか ３．HPVワクチンの種類と、それぞれのメリットデメリット ４．みんなが接種しているHPVワクチンはどれか ５．なぜHPVワクチンを打った方がいいのか ６．なぜ「今」HPVワクチンを打った方がいいのか ７．注射は痛くないのか、どこに打つのか ８．本当はHPVワクチンが嫌だ、怖い、ということ ９．その他	
		・HPVワクチンの説明や、打った人のお話は聞いてみたいと思いますか？	欲しい情報と、その手法
		それは、どんな方法で聞けたら良いですか？何が聞いてみたいですか？	
(55/60)		ー医師、教師、保健の先生、お母様、SNSのインフルエンサー、同世代の女性	
5min	追加質問・謝礼		
		●追加質問	
		●謝辞	
(60/60)			

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

参考資料2

（参考資料２）

HPVワクチンに関する調査３

「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」

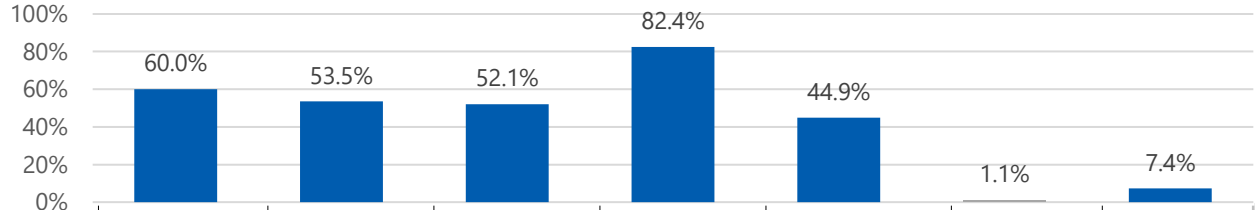
調査結果

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果①
令和５年４月時点で接種券/個別案内の送付を計画していた対象学年

【定期接種】中学校1年生に対し、80%以上の自治体が送付を計画。小学校6年生への送付を計画していた自治体は半数未満であった。
【キャッチアップ接種】高校2年相当の方に対しては、約70%の自治体が送付を計画していた。その他の学年については60%未満であった。

■ 定期接種



	n	H19年度生/高校1年相当	H20年度生/中学校3年	H21年度生/中学校2年	H22年度生/中学校1年	H23年度生/小学校6年	いずれもない	その他
自治体数	1741	1044（1420）	932（1601）	907（1413）	1435（1638）	781（756）	19（15）	128（77）

※カッコ内は前回調査結果

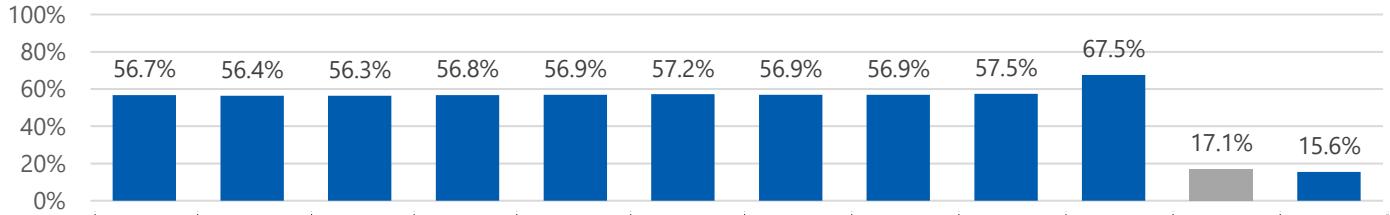
＜その他（自由記載より抜粋）＞
- 令和4年度のうちに送付済み（令和5年3月に送付済み　など）
- 対象者のうち接種未完了者のみに送付
- 対象者への通知は令和4年度に送付したため、令和5年度は9価ワクチンが追加された旨の通知を未接種者に送付
- 次年度に小学校3年生となる者に送付
- 高1に対しては郵送通知。その他は公立小中学校の電子連絡網（メール）による通知

・・・など

送付対象学年の組み合わせで多かったのは右記のとおり（単位：自治体数。カッコ内は前回調査結果）

1.	小学校6年～高校1年相当（5学年すべて）	479（692）
2.	中学校1年～高校1年相当（4学年）	387（682）
3.	中学校1年（1学年のみ）	361（44）
4.	小学校6年（1学年のみ）	218（22）
5.	中学校1年・高校1年相当（2学年）	101（178）

■ キャッチアップ接種



	n	H9年度生	H10年度生	H11年度生	H12年度生	H13年度生	H14年度生	H15年度生	H16年度生	H17年度生/高校3年相当	H18年度生/高校2年相当	いずれもない	その他
自治体数	1741	987（1662）	982（1662）	981（1665）	989（1663）	991（1661）	996（1661）	991（1658）	990（1657）	1001（1654）	1175（—）	297（27）	271（34）

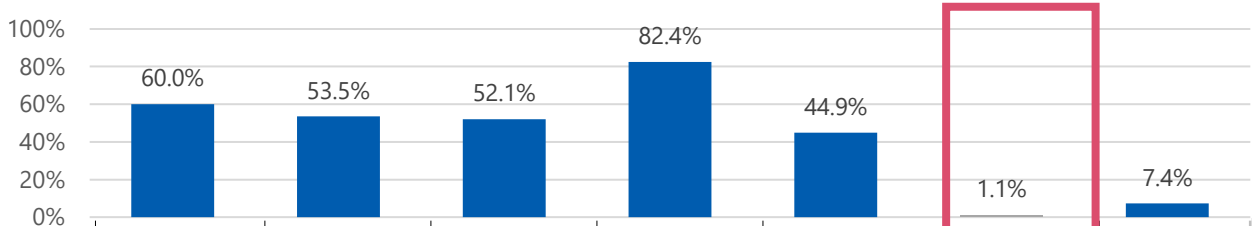
＜その他（自由記載より抜粋）＞
- 令和4年度に送付したため今年度は送付なし
- 年度途中で転入者に送付した
- 対象者のうち接種未完了者に9価開始のお知らせを送付
- 希望者に送付

・・・など

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果①
令和５年４月時点で接種券/個別案内の送付を計画していた対象学年

【定期接種】中学校1年生に対し、80%以上の自治体が送付を計画。小学校6年生への送付を計画していた自治体は半数未満であった。
【キャッチアップ接種】高校2年相当の方に対しては、約70%の自治体が送付を計画していた。その他の学年については60%未満であった。

■ 定期接種



	n	H19年度生/高校1年相当	H20年度生/中学校3年	H21年度生/中学校2年	H22年度生/中学校1年	H23年度生/小学校6年	いずれもない	その他
自治体数	1741	1044（1420）	932（1601）	907（1413）	1435（1638）	781（756）	19（15）	128（77）

※カッコ内は前回調査結果

＜「いずれもない」と回答した理由＞

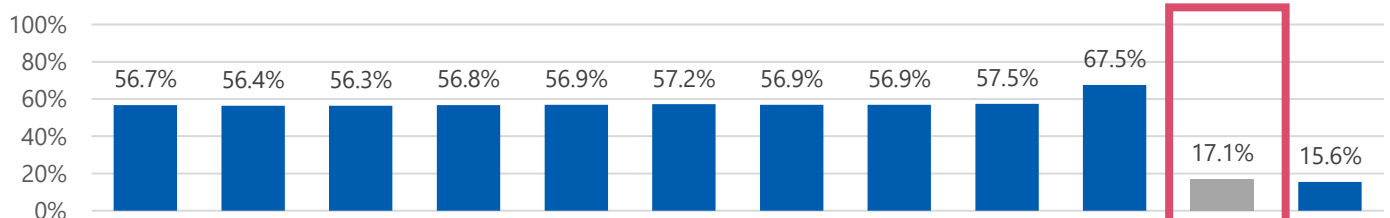
- 接種券の取り扱い自体を行っておらず、　また当年度は勧奨再開直後ではないことから、個別案内はせず、町民向けカレンダーや町HP等での周知に留めたため。
- 業務多忙のため。
- 新しく対象者となる者がいないため。
- 中学1年生に対し個別勧奨を行うが、当該対象者に対しては令和4年度に勧奨を行ったため。

・・・など

送付対象学年の組み合わせで多かったのは右記のとおり
（単位：自治体数。
カッコ内は前回調査結果）

1.	小学校6年～高校1年相当（5学年すべて）	479（692）
2.	中学校1年～高校1年相当（4学年）	387（682）
3.	中学校1年（1学年のみ）	361　（44）
4.	小学校6年（1学年のみ）	218　（22）
5.	中学校1年・高校1年相当（2学年）	101（178）

■ キャッチアップ接種



	n	H9年度生	H10年度生	H11年度生	H12年度生	H13年度生	H14年度生	H15年度生	H16年度生	H17年度生/高校3年相当	H18年度生/高校2年相当	いずれもない	その他
自治体数	1741	987（1662）	982（1662）	981（1665）	989（1663）	991（1661）	996（1661）	991（1658）	990（1657）	1001（1654）	1175（—）	297（27）	271（34）

＜「いずれもない」と回答した理由＞

- 令和４年５月に接種未完了の全対象者に送付済みで、その後の再勧奨は予定していなかったため。
- 令和4年度に3年間のキャッチアップ接種について個別通知済みのため。また、令和5年度からキャッチアップ接種対象に加わる方については、令和5年度の定期接種個別通知時、その旨を周知している。
- 過去の副反応を考慮し、接種者、保護者が接種について考えられるよう慎重に勧奨を行っているため。

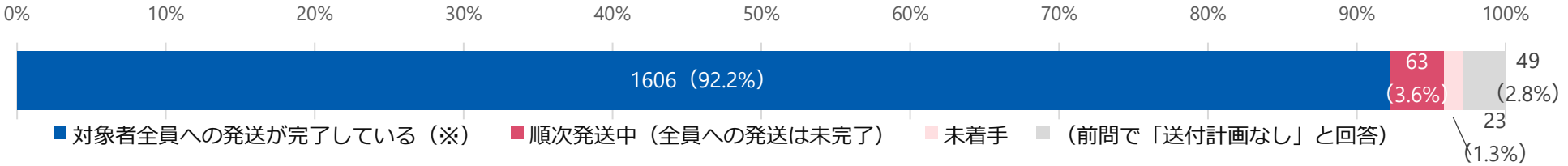
・・・など

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果②
【定期接種】接種券/個別案内の発送状況（令和５年１２月末時点）

令和5年12月末時点で90%以上の自治体が送付を完了していた。発送開始は令和5年4月上旬が最も多く、完了は同月下旬が最も多かった。

■ 接種券または個別案内の発送状況（送付計画に対する令和５年１２月末時点の実績）

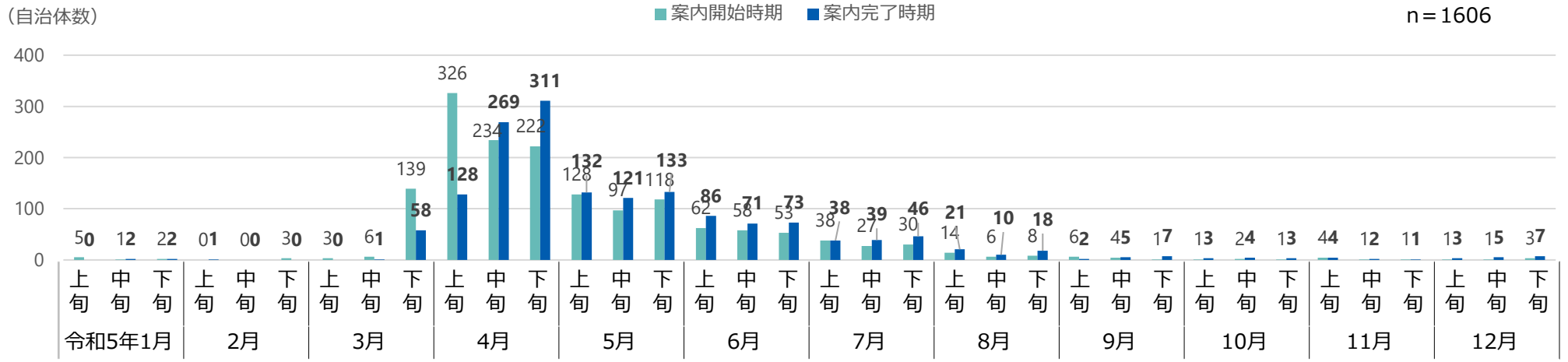
n＝1741（単位：自治体数（%））



（※）規定回数の接種が完了している方を除き発送が完了している場合も含む

■ 発送開始時期および完了時期（回答対象：前問で「対象者全員への発送が完了している」と回答した自治体）

n＝1606



■ 「順次発送中」または「未着手」と回答した理由

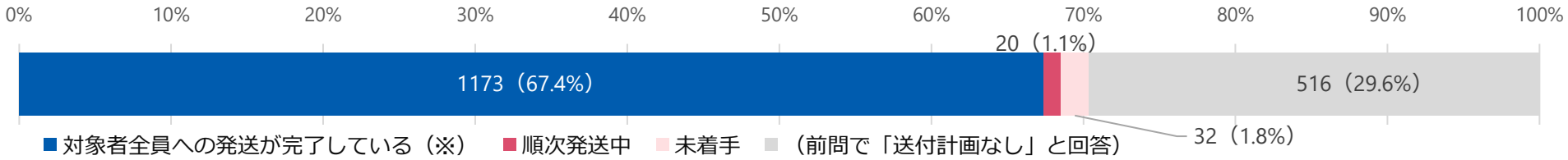
- 職員の退職によるマンパワー不足。
- 誤接種を防ぐため、月別に誕生日を迎えてから発送している。
- 小学校6年の女性については、標準的な接種時期の中学校1年になる前の令和6年2～3月頃に個別勧奨予定としている。
- 二種混合ワクチンの案内と異なる時期で、標準的な接種年齢に近い時期に案内を送付するため。
- 小学6年生の女子は希望者のみ接種券を発送　　・・・など

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果③
【キャッチアップ】接種券/個別案内の発送状況（令和5年12月末時点）

令和5年12月末時点で案内を送付した自治体は全体の70%弱。発送開始は令和5年4月上旬が最も多く、完了は同月下旬が最も多かった。

■ 接種券または個別案内の発送状況（送付計画に対する令和5年12月末時点の実績）

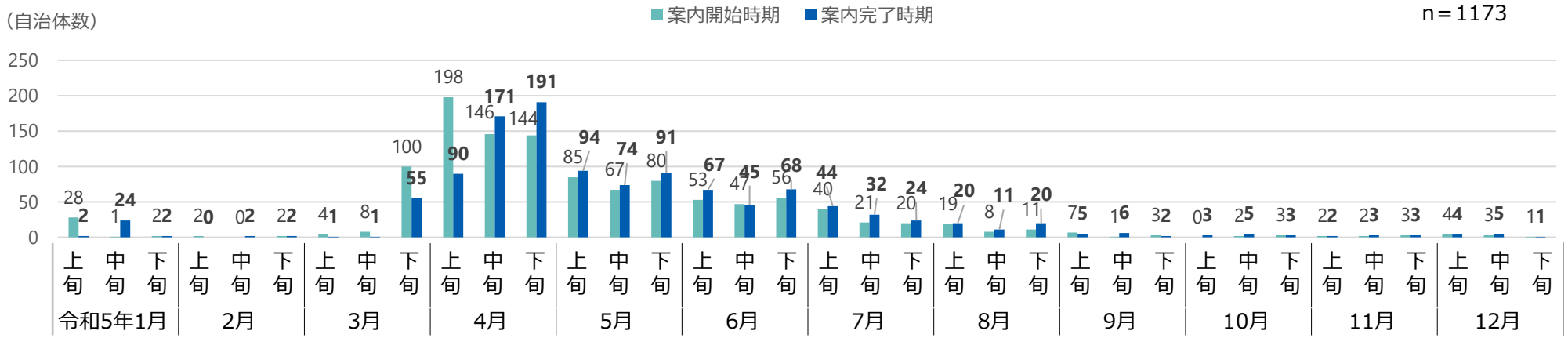
n＝1741（単位：自治体数（%））



（※）規定回数の接種が完了している方を除き発送が完了している場合も含む

■ 発送開始時期および完了時期（回答対象：前問で「対象者全員への発送が完了している」と回答した自治体）

n＝1173



■ 「順次発送中」または「未着手」と回答した理由

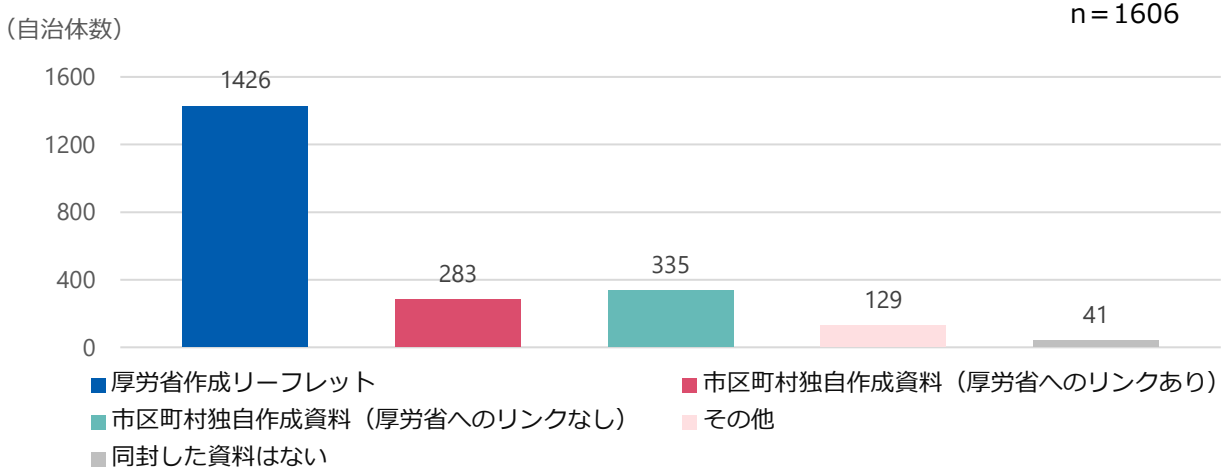
- 令和6年1～2月頃に発送予定のため（令和4年度に既に1回目の個別通知を実施済み）
- 令和4年度において対象者全員に発送が完了しており、周知が図られているため。
- キャッチアップ制度の終了する令和6年度にはがきで通知予定のため。
- マンパワー不足により、着手が遅れているため。R５年度末までには実施予定。
- 新様式予診票の準備に時間がかかったため。　　・・・など

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果④
接種券/個別案内に同封した資料
（回答対象：前問で「対象者全員への発送が完了している」と回答した自治体）

定期接種・キャッチアップ接種いずれも、接種券/個別案内に同封した資料としては厚生労働省のリーフレットが最も多かった。

■定期接種：接種券/個別案内に同封した資料

n＝1606



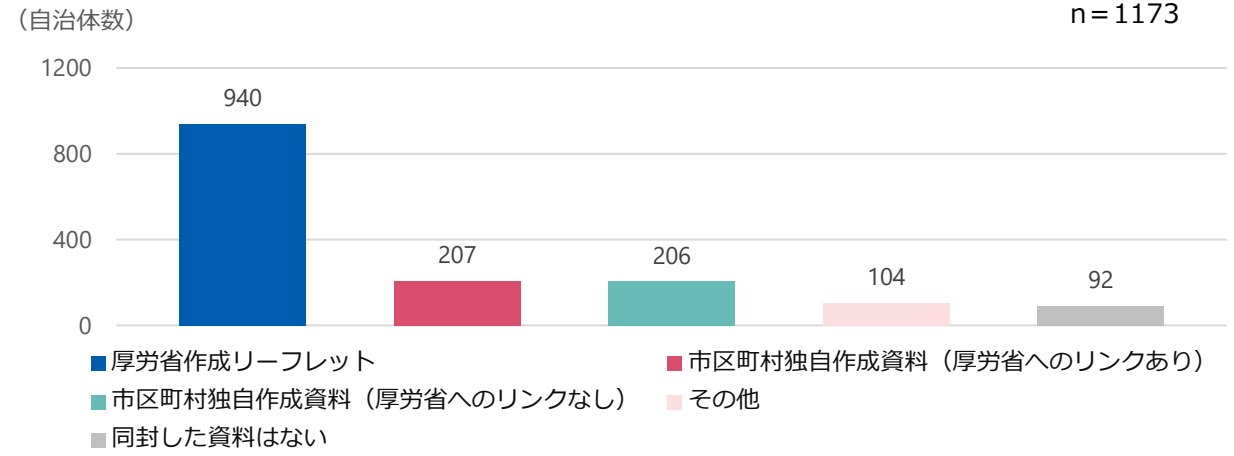
＜その他（自由記載より抜粋）＞

- 予診票
- 接種医療機関一覧表
- 都道府県が作成したリーフレット
- 都道府県の医師会が作成したリーフレット
- 一部の学年の人には、はがきで通知した
（小学校6年生：厚生労働省が作成したリーフレットを送付、中学校1年生～高校1年生の対象者：個別案内として市独自で作成した圧着ハガキを送付　など）
- HPV予防接種協力医療機関名簿

・・・など

■キャッチアップ：接種券/個別案内に同封した資料

n＝1173



＜その他（自由記載より抜粋）＞

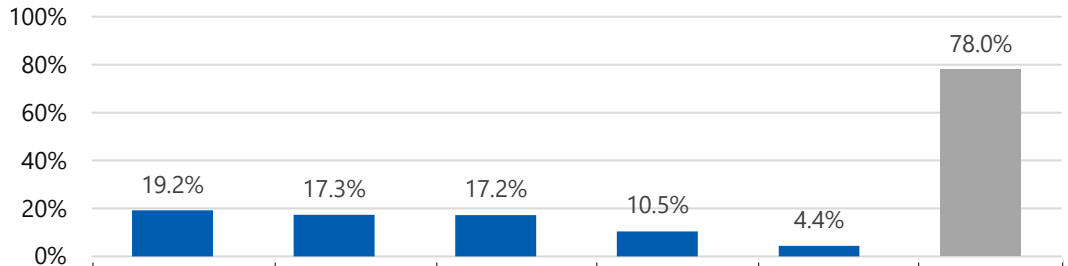
- 予診票
- 接種医療機関一覧表
- 都道府県が作成したリーフレット
- 製薬会社が作成したリーフレット
- はがきで通知
- 自費で接種した方への償還払いの案内

・・・など

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果⑤
【定期接種】再勧奨について

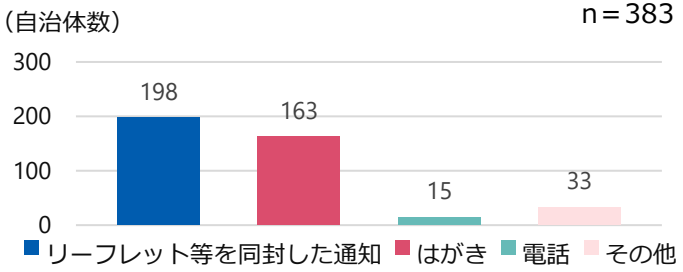
令和5年度・4年度いずれも、未接種者への再勧奨を行っていないと回答した自治体が全体の80%弱を占めた。

■令和５年度の再勧奨について



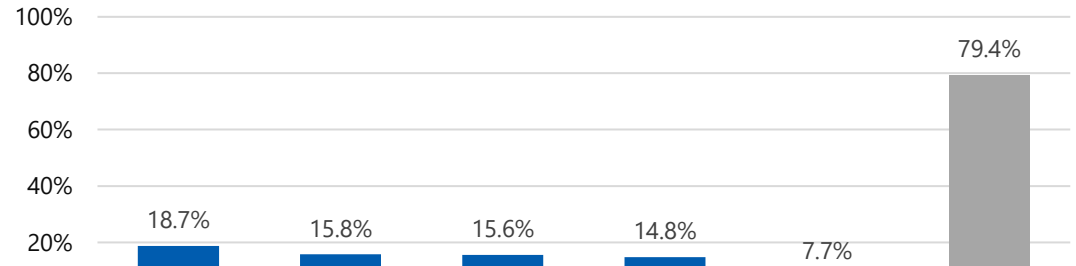
n	1741	H19年度生/高校1年相当	H20年度生/中学校3年	H21年度生/中学校2年	H22年度生/中学校1年	H23年度生/小学校6年	いずれもない
自治体数		334	302	299	182	76	1358

■再勧奨にあたり同封した資料



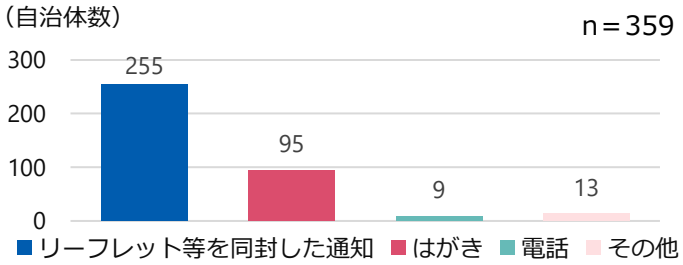
＜その他（自由記載より抜粋）＞
- 接種未完了者へ9価ワクチンの案内をした
- 学校の連絡アプリ、中学校入学説明会での講和・リーフレット配布　・・・など

■令和４年度の再勧奨について



n	1741	H18年度生/当時高1相当	H19年度生/当時中3	H20年度生/当時中2	H21年度生/当時中1	H22年度生/当時小6	いずれもない
自治体数		326	275	272	258	134	1382

■再勧奨にあたり同封した資料

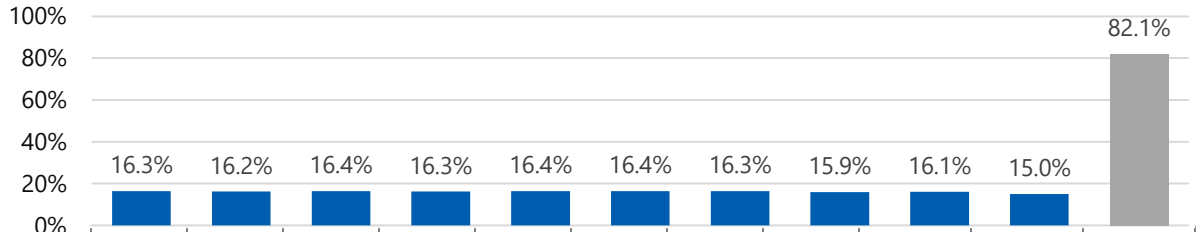


＜その他（自由記載より抜粋）＞
- 通知文のみ送付
- 未接種回数分の予診票を同封
- 規定回数未接種の方には、事業等で直接会ったときに再勧奨している　・・・など

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果⑥
【キャッチアップ】再勧奨について

令和5年度・4年度いずれも、未接種者への再勧奨を行っていないと回答した自治体が全体の80%強を占めた。

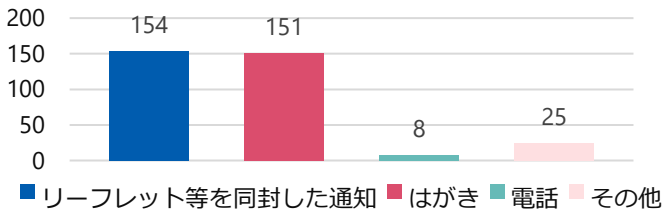
■令和５年度の再勧奨について



	n	H9年度生	H10年度生	H11年度生	H12年度生	H13年度生	H14年度生	H15年度生	H16年度生	H17年度生/高校3年相当	H18年度生/高校2年相当	いずれもない
自治体数	1741	284	282	285	283	285	285	284	277	281	261	1429

■再勧奨にあたり同封した資料

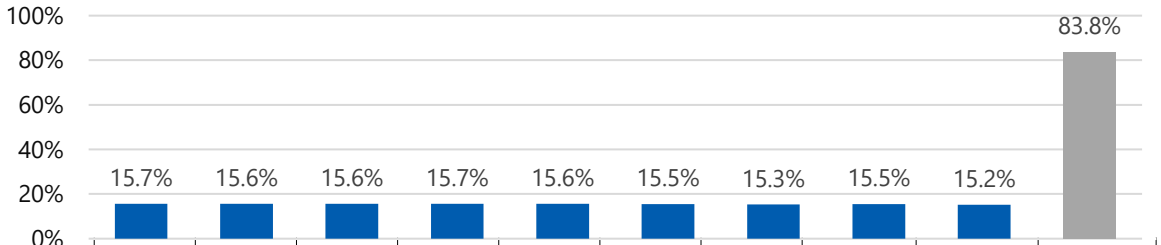
（自治体数）　n＝312



＜その他（自由記載より抜粋）＞
- 接種未完了者へ9価ワクチンの案内をした
- 高2、高3の女性に対し、高校を通じてチラシを配布

・・・など

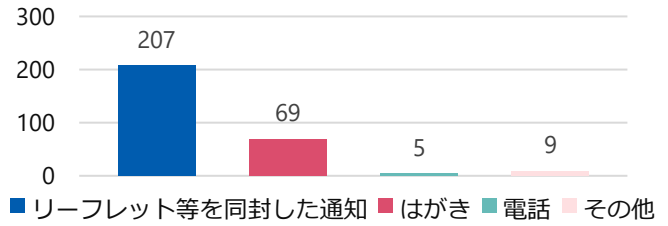
■令和４年度の再勧奨について



	n	H9年度生	H10年度生	H11年度生	H12年度生	H13年度生	H14年度生	H15年度生	H16年度生/当時高3相当	H17年度生/当時高2相当	いずれもない
自治体数	1741	273	271	272	273	271	269	267	270	265	1459

■再勧奨にあたり同封した資料

（自治体数）　n＝282



＜その他（自由記載より抜粋）＞
- 月１回全世帯へ発行している健康だよりで再勧奨
- LINE等で通知

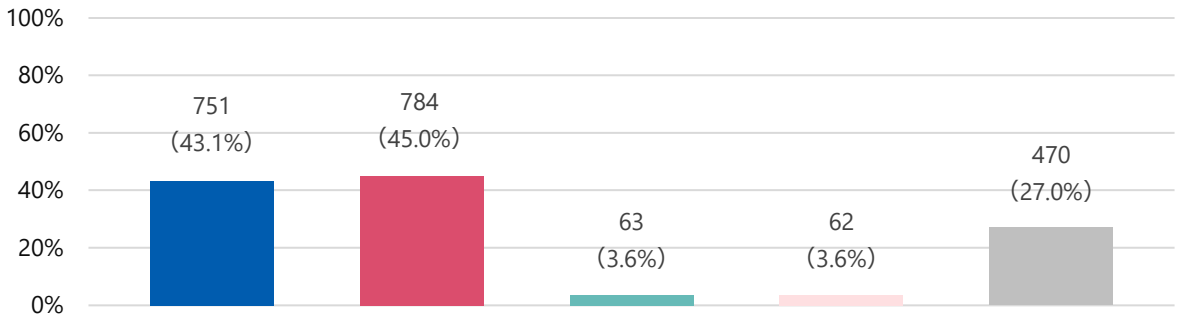
・・・など

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果⑦
自治体のHPにおけるリーフレット掲載状況

厚労省が作成したリーフレットを、自治体HPで掲載している市区町村は全体の半数程度。

■自治体HPでのリーフレット掲載状況

n＝1741（単位：自治体数（%））



- 厚生労働省が作成したリーフレットを掲載している（※）
- 厚生労働省の「HPVワクチンに関する情報提供資材」ページへのリンクを掲載
- 市区町村で独自に作成したリーフレットを掲載
- その他
- いずれも掲載していない

＜その他（自由記載より抜粋）＞

- 厚生労働省の「ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がんとHPVワクチン～」ページへのリンクを掲載
- 接種医療機関一覧表を掲載
- 都道府県が作成したリーフレットを掲載
- 地域の大学病院と都道府県が連携して作成した啓発ポスターを掲載
- 地域の産婦人科医会が作成したリーフレットを掲載
- ワクチン会社のリーフレット
- 製薬会社、またはNPOが作成したリーフレットを掲載

・・・など

（※）リーフレットのPDFファイルを市区町村ホームページにアップロードして掲載している場合、または厚生労働省ホームページに掲載されているリーフレット（PDFファイル）に直接リンクを貼っている場合にのみ該当するものとして回答

■厚生労働省作成リーフレットの掲載状況

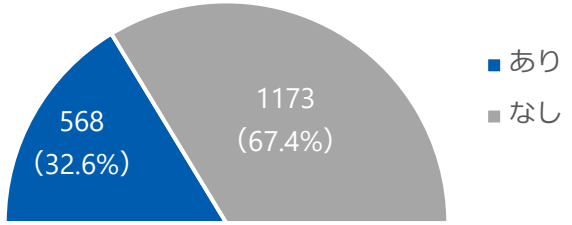
n＝1741（単位：自治体数（%））

概要版	詳細版	キャッチアップ版	9価定期版	9価キャッチアップ版	接種後注意	医療従事者版	医療従事者版参考資料	いずれも掲載なし
622 (35.7%)	623 (35.8%)	615 (35.3%)	393 (22.6%)	363 (20.9%)	312 (17.9%)	111 (6.4%)	24 (1.4%)	990 (56.9%)

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果⑧
HPVワクチンに関する情報提供の取組（1）

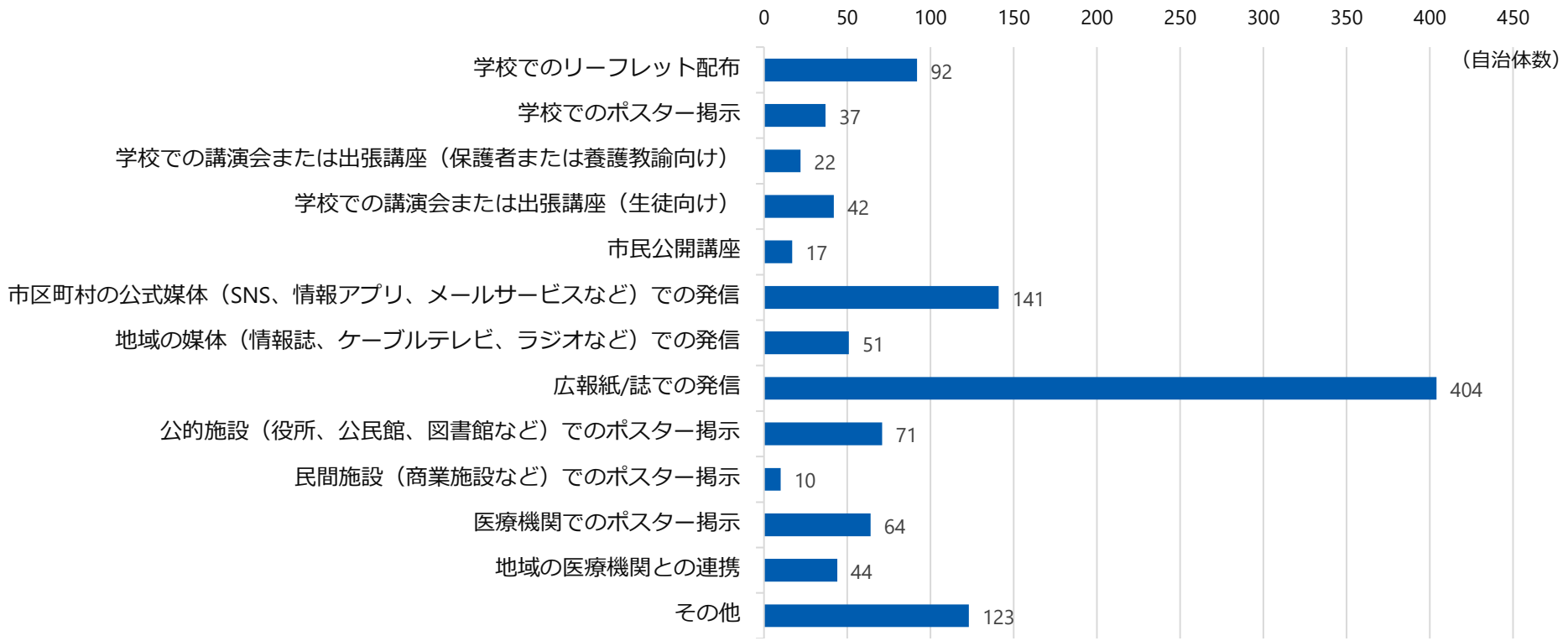
■個別の接種推奨および市区町村HP掲載以外の情報提供の取組有無

n＝1741（単位：自治体数（%））



■取組の内容について（選択肢への回答：複数回答）

n＝568（前問で「あり」と回答した自治体）



調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果⑨
HPVワクチンに関する情報提供の取組（2）（自由記載から抜粋）

n＝121（「その他」に回答のうち、記入のあった自治体数）

○接種対象者や保護者への情報提供

- 検診／健診（子宮頸がん検診、婦人科検診、乳幼児健診、就学時健診）の会場で、チラシやリーフレットを配布している。
- 「20歳のつどい」での情報提供（チラシやリーフレットの配布、動画放映、ポスター掲示、ノベルティ配布　など）
- 助産師、産婦人科医等が講師となっている中高生の思春期教育の授業にHPVワクチンの内容を盛り込んでいる。
- 県が作成した子宮頸がん予防啓発パンフレット及びポスターを、市内の小学校・中学校・高校に配布した。
- 公立小中学校の電子連絡網（メール）で通知した。
- 大学の学園祭でブースを設置し情報提供を行った。
- 市内大学と美容専門学校にチラシの配架を依頼。大学側からの提案もあり、大学生のスマホに子宮頸がん予防として、HPVワクチンと子宮頸がん検診について発信した。

○教育機関・学校関係者への情報提供

- 市の保健師と養護教諭による連絡会議にて、子宮頸がんやHPVワクチンについての説明を行った。
- 校長会での周知。

○地域の医師会・医療機関との連携

- 市医師会が行うHPVワクチン接種推進プロジェクトに参加し、講演会の開催等を行っている。
- 県民を対象に医学部附属病院が実施するイベントの共催。女性診療科の医師や看護師と相談することができるイベント。３か月に１回の間隔で、キャッチアップ接種が終了するまで実施予定。

○その他

- 産婦人科のDr.や病院に協力をいただき、行政職員・学校教職員・病院職員へのHPVワクチン普及啓発や町内での接種などに関する内容で講演会を実施予定。
- 県内に放送される民放のTVCM、市内女性を対象としたWEB広告、はたちの集いでのチラシ配布や市長メッセージ、市内全中学校長対象の講座、市職員や市内民間企業へのチラシ配布。
- 子宮頸がん予防（HPVワクチン接種・子宮頸がん検診）の勧奨活動として、協定を結んでいる民間企業より周知チラシなどを用いて、地域住民及び地元企業の従業員等に案内・周知を行ってもらっている。

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果⑩
HPVワクチンの情報周知で担当者が感じている課題（自由記載から抜粋）

○副反応・健康被害に対する不安感、接種者数の伸び悩み　　n＝318（記入のあった自治体数）

- 体調不良の理由をすべてHPVワクチンの影響ではないと説明してもなかなか理解してもらえない。迷走神経反射や痛みによる副反応の周知が難しい。
- 副反応に関してのわかりやすい内容のリーフレットの充実、国からの広報、SNS等の周知を充実していただき、市から市民への周知をしやすい環境づくりをしていただきたい。
- 副反応やワクチンの安全性に関する問い合わせが多い印象があり、リーフレットなどでは、その部分がうまく伝わっていないように感じる。「副反応が出た場合、一時的なものなのか、治るものなのか」といった質問に対する説明が悩ましい。
- 副反応の心配が大きく、接種を見合わせている人がまだ多いと感じる。しかし、９価HPVワクチンが公費になり、少し関心は高まり、接種者数は少しずつ増えている。HPVワクチンの接種に積極的なのは、外国籍の学生や社会人が多い印象がある。
- 積極的勧奨の差し控えの要因となった事柄のインパクトが未だに大きく、接種率向上につながっていない現状がある。国のほうでも啓発していただいているのは理解しているが、もっと積極的にワクチンの安全性等について周知していただきたい。
- 安全性については市民からの問い合わせも多い。厚生労働省が示す「安全性について特段の懸念が認められないことが確認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められた」という趣旨で説明しているが、具体的な数字等を用いた、より詳しい安全性に関する情報があればよいと考えている。
- 全国の副反応報告件数や症状、積極的勧奨が再開された経緯について、リーフレットの記載よりさらに詳細な情報を得るには審議会等のページへアクセスして議事録や資料を読み解くしかなく、国民が詳細な情報を得ることが難しい。
- 副反応出現率（他のワクチンとの比較）など、接種に向けて安心できる情報をまとめ、資料作成できれば、未接種者に対しリコールできると思ったが、他業務など多忙でそこまで手が回らない状況であった。
- 対象年齢の幅が広いため、ある程度1－2年間と期間接種を決めた方が接種率が高くなるのではとも思う。

○健康被害について

- HPVワクチン接種で健康被害の認定を受けられている方がおり、自治体で接種を進めないでほしい。健康被害者の声も載せてほしい。など要望が来ている。
- 接種後の健康被害を訴えている市民がいる。接種を促すことを前面に出した情報だけでは、片手間と感じられてしまうため、接種の進め方が難しい。（被害を訴えている方々からすれば、国の情報提供だけではデメリットについての説明は不十分と感じられている）

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果⑪
HPVワクチンの情報周知で担当者が感じている課題（自由記載から抜粋）

n＝318（記入のあった自治体数）

○対象者への情報の届け方（手段、伝え方）

- 対象者も保護者も、学業、部活、仕事等で、多忙な年代であると思われ、書面やホームページだけの周知では、見落とされたり、後回しになってしまうのではと感じている。
- HPVワクチンを接種する本人が、ワクチンを接種する必要性についての情報を知らない。HPVワクチンの接種対象であることを、接種する本人が理解していないこと。
- 市区町村単位での周知には限界があるため、国がCMを流すなど影響力の大きい取り組みが必要と考える。
- 接種可能なワクチンが３種類ある中で、どのようにワクチンを選択するべきか、という問い合わせが多く、ワクチンの内容について周知しきれない。
- 市が接種勧奨していても限界があるため、国がCMや電車の広告等で広報活動をしてほしい。キャラクターとのコラボなど。
- ワクチン別（2価、4価、9価）それぞれの具体的な効果が比較できる資料が欲しい。
- 接種対象者、ワクチンの種類、接種間隔、副反応についてなど伝える内容が多く、また複雑なため説明が難しい。

○教育機関との連携

- 個別通知だけではなく、子どもたちにも直接説明できるとよいと考え、中学校の担当課に相談してみたところ、”予防接種”というだけで学校側にクレームがくるとのことで積極的な協力が得られなかった。個別通知以外の働きかけが難しいと感じる。
- 定期接種対象者や、キャッチアップ接種対象者の一部は学生であるが、過去の副反応に関する報道の影響が先生方の間にも根強い印象がある。教育機関を通じたHPVワクチンの啓発が難しい。
- 教育委員会は、健康被害が起こった際の責任問題に発展しかねないとの理由で接種勧奨は行わないとの見解のため、学校を通じては情報提供としてワクチンの存在を取り上げるに留まっている。

○キャッチアップ関連

- キャッチアップ接種対象者に関して、転出入が多い世代であり接種歴の確認が難しく、未接種者に周知することが難しい。
- キャッチアップの方については、住民票はあるが、実際に住んでいない（大学等で県外などに住む）ことがあり、郵送で届けられないケースもある。県外での接種を希望される方が多くいる。
- 他自治体に居住している方も多く、情報提供が行き届かなかったり、接種の際の手続きの面倒さも接種率の伸び悩みに影響していると考える。また、既に結婚している方等、必要性をあまり感じないという方も一定数おり、そのような層に接種の効果等をどう伝えていくかが難しい。

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果⑫
HPVワクチンの情報周知で担当者が感じている課題（自由記載から抜粋）

○接種間隔について

n＝318（記入のあった自治体数）

- 国の示す接種間隔規定は、表記が分かりにくく、接種間隔間違いが非常に多い。（標準的な間隔に2回目から3回目の間隔が明示されていない。）先に添付文書上の最短の間隔を記載し、その後に標準的な間隔を記載するか、標準的な間隔にも2回目から3回目までにあけなければならない間隔を明示するなど、表記を改めてほしい。
- ワクチンの接種間隔について、医師や看護師も過誤（接種間隔の間違い）を起こすこともある。接種対象者や保護者にとってもわかりにくいと考えられる。

○外国人への対応

- 海外の方の接種希望も非常に多いため、各種外国語版の資料も用意してほしい。
- 接種対象者の年代に海外の技能実習生などが多く、外国語での説明が難しい。外国語の説明用紙があるとよい。
- 海外からの留学生や技能実習生が多いため、母国での接種歴が不明であったりレコードがない方、日本語の理解ができない方などへの対応に苦慮した。
- 就労研修等期間限定で来日している外国の転入者への周知について、転入手続きの際に案内は実施しているが、再び自国に戻ると思われる分についても積極的に接種勧奨をすべきか。権利はあるので希望があれば実施できるようにしている。

○接種歴の把握について

- 転出入の関係で自治体が対象者の正確な接種情報を把握していないことから、次のような課題がある。

  1.市が保有する履歴に基づいた未接種者に一斉通知をするため、他市町村ですでに接種が完了している者に対しても接種勧奨をしてしまう

  2.マイナポータルから確認できる接種履歴は5年程度。過去さかのぼって接種履歴を調査することが困難である。（転出入を多くしている者の調査が非常に困難）

  3.医療機関における接種履歴のチェックは、母子手帳が頼りであるが、キャッチアップ接種対象者の年代は母子手帳を手元に持っていないケースがある。（正確な接種履歴を確認するすべがない状態で医療機関が接種を進めることになる）
- キャッチアップ対象者は、本人が過去の接種歴を確認できない、転入者に関しては、市でも過去の接種歴が不明であることから接種の実施、周知に難しさを感じている。

調査３「HPVワクチンに係る情報提供の実施状況に関する調査」調査結果⑬
HPVワクチンの情報周知で担当者が感じている課題（自由記載から抜粋）

○人員・予算不足

n＝318（記入のあった自治体数）

- HPVワクチンに特化した事業に取り組んでいる自治体もあり素晴らしいと思うが、人員不足のためできない。学校への周知も検討したが、HPVワクチンだけ（小学生は二種混合や日本脳炎もあるのに）特別扱いの周知をするのも厳しい。デリケートな問題なので簡単に周知もできない。
- 定期予防接種等に係る事務業務量が多く、個別での再勧奨を行うマンパワーが不足している。
- 接種勧奨、周知を行うための財源が脆弱であること。
- 小さい自治体では担当者が色々な事務を兼務しているのが当たり前で、ひとつの事務に深く取り組むことができない。HPVワクチンの安全性などの詳しい情報について問い合わせがあっても、対応が非常に難しい。HPVワクチンがなぜ勧奨控えとなり、勧奨再開となったのか、ワクチンの安全性についてどうなのか、９価ワクチンについてどうなのかなど、専門的な知識や説明が必要なことについて、国の方できちんと広報、周知していただくのがよいと思う。こちらの自治体では帯状疱疹ワクチンについての国のCMは見かけることはあるが、HPVワクチンについては見たことがない。HPVワクチンは法定接種なので、勧奨を進めるのであれば人の目に触れやすい媒体での周知が必要なのではないか。
- 医学系の専門知識を持つ職員がいないため、周知後市民からの問い合わせに十分に対応することができない。具体的なことは医師と相談してほしいと案内するものの、委託医療機関の中には定期接種なので市に聞いてほしいと案内するところもあり、結果市民をたらい回しにしてしまうことがある。

○その他

- 他のワクチン接種と比べて気軽に打てる環境にない。小児科なのか産婦人科なのか、内科でもよいのかという入り口で迷うのと、思春期に入って親が一緒に受診するという点も受診に結びつかない理由なのかなと感じる。
- 接種の回数が多く、中学生・高校生は部活や学業のスケジュールが優先されるため、予定が立てにくい。1回で終了できるワクチンが望ましい。
- メディアへの情報提供をしても取り上げてもらえない。自治体独自の広報のみでは限界があるため、協力してもらえるとありがたいのだが。
- 自治体として、どの程度積極的に周知すべきかが分からない。そのため、周知方法として個別案内及びホームページに掲載する程度にしている。
- 学生が自発的に行った探求・啓発活動について報道で取り上げられ、インターネットでの学生個人への誹謗中傷が見られた。自治体や学校が矢面に立つ必要があると考えている。